

2 8 - A 1 1 W 統 合 簡 易 水 道 整 備 事 業 畑 川 浄 水 場 高 度 浄 水 処 理 施 設 築 造 工 事 【 図 面 目 録 そ の 1 】

1/2

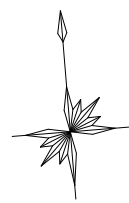
図 面 番 号	名 称	縮 尺	図 面 番 号	名 称	縮 尺
土 木 ・ 建 築 工 事			A04/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (4)	—
C01/21	畑 川 浄 水 場 一 般 平 面 図	1/500	A05/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (5)	—
C02/21	畑 川 浄 水 場 断 面 計 画 図 (1)	1/250	A06/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (6)	—
C03/21	畑 川 浄 水 場 断 面 計 画 図 (2)	1/200	A07/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (7)	—
C04/21	畑 川 浄 水 場 水 位 高 低 図	—	A08/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (8)	—
C05/21	粉 末 炭 接 触 槽 土 工 事 図	1/60	A09/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (9)	—
C06/21	粉 末 炭 接 触 槽 構 造 図 (1)	1/60	A10/21	活 性 炭 注 入 棟 設 計 概 要 書	1/200
C07/21	粉 末 炭 接 触 槽 構 造 図 (2)	1/60	A11/21	活 性 炭 注 入 棟 仕 上 表	—
C08/21	粉 末 炭 接 触 槽 階 段 詳 細 図	1/50	A12/21	活 性 炭 注 入 棟 平 面 図 ・ 屋 根 伏 図	1/100
C09/21	配 筋 図 (1)	1/50	A13/21	活 性 炭 注 入 棟 立 面 図	1/100
C10/21	配 筋 図 (2)	1/50	A14/21	活 性 炭 注 入 棟 断 面 図	1/100
C11/21	配 筋 図 (3)	1/50	A15/21	活 性 炭 注 入 棟 矩 計 図	1/30
C12/21	配 筋 図 (4)	1/50	A16/21	活 性 炭 注 入 棟 建 具 図	1/50
C13/21	配 筋 図 (5)	1/50	A17/21	活 性 炭 注 入 棟 平 面 詳 細 図	1/50
C14/21	配 筋 図 (6)	1/50	A18/21	活 性 炭 注 入 棟 各 部 詳 細 図 (1)	1/5, 10
C15/21	配 筋 図 (7)	1/50	A19/21	活 性 炭 注 入 棟 各 部 詳 細 図 (2)	1/5, 10, 30
C16/21	配 筋 図 (8)	—	A20/21	活 性 炭 注 入 棟 各 部 詳 細 図 (3)	1/10, 20
C17/21	粉 末 炭 接 触 槽 部 分 詳 細 図	1/10, 20	A21/21	活 性 炭 注 入 棟 建 具 枠 廻 り 詳 細 図	1/10
C18/21	粉 末 炭 接 触 槽 内 配 管 図	1/50	S01/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 設 計 標 準 仕 様 書	—
C19/21	粉 末 炭 接 触 槽 廻 り 配 管 図	1/60	S02/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 関 係 共 通 図 (配 筋 標 準 図) (1)	—
C20/21	土 工 掘 削 断 面 図	1/20	S03/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 関 係 共 通 図 (配 筋 標 準 図) (2)	—
C21/21	畑 川 浄 水 場 付 帯 工 事 図	図 示	S04/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 関 係 共 通 図 (配 筋 標 準 図) (3)	—
A01/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (1)	—	S05/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 関 係 共 通 図 (配 筋 標 準 図) (4)	—
A02/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (2)	—	S06/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 関 係 共 通 図 (配 筋 標 準 図) (5)	—
A03/21	活 性 炭 注 入 棟 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (3)	—	S07/18	活 性 炭 注 入 棟 構 造 関 係 共 通 図 (鉄 骨 標 準 図) (1)	—

2 8 - A 1 1 W 統 合 簡 易 水 道 整 備 事 業 畑 川 浄 水 場 高 度 浄 水 処 理 施 設 築 造 工 事 【 図 面 目 録 そ の 2 】

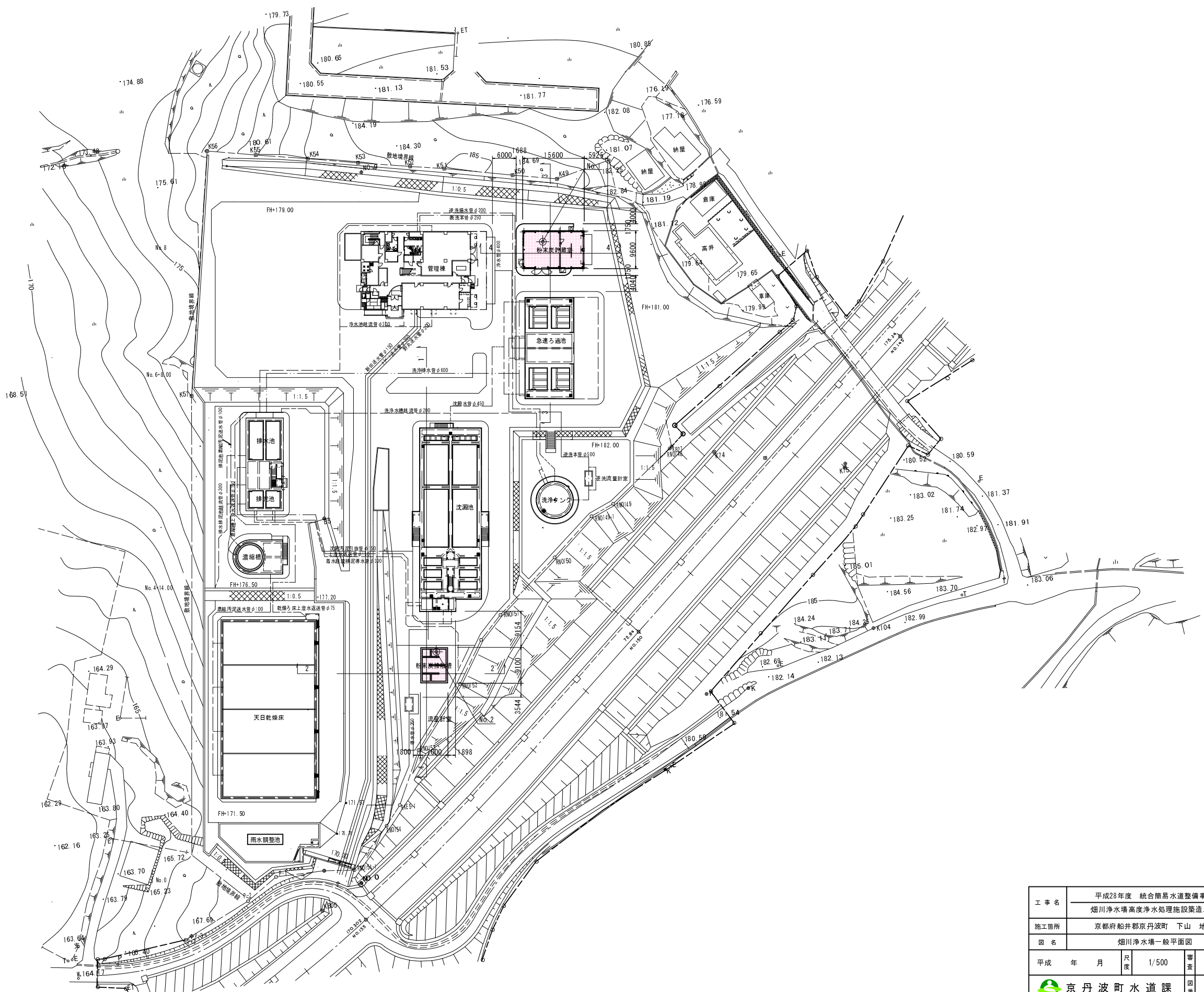
2/2

図 面 番 号	名 称	縮 尺	図 面 番 号	名 称	縮 尺
S08/18	活性炭注入棟 構造関係共通図（鉄骨標準図）（2）	—	M11/12	粉末炭接触槽注入点配管ルート図	1/40
S09/18	活性炭注入棟 ハイパースNEO工法設計施工標準図（1）	—	M12/12	畑 川 浄 水 場 一 般 平 面 図	1/500
S10/18	活性炭注入棟 ハイパースNEO工法設計施工標準図（2）	—	ME01/6	計 装 フ ロ ー シ ー ト	—
S11/18	活 性 炭 注 入 棟 杭 図	1/100	ME02/6	制 御 盤 外 形 図 ・ 単 線 結 線 図	1/10
S12/18	活 性 炭 注 入 棟 梁 伏 図	1/100	ME03/6	配 線 リ ス ト	—
S13/18	活 性 炭 注 入 棟 軸 組 図	1/100	ME04/6	配 置 配 線 図 （ 1 ）	1/30
S14/18	活性炭注入棟 基礎・基礎梁・スラブリスト	1/40	ME05/6	配 置 配 線 図 （ 2 ）	1/30
S15/18	活 性 炭 注 入 棟 各 部 配 筋 詳 細 図	1/30	ME06/6	受 入 操 作 盤 ・ 電 磁 弁 箱 外 形 図	1/5
S16/18	活 性 炭 注 入 棟 鉄 骨 部 材 リ ス ト	1/20	E01/5	計 装 フ ロ ー 図	—
S17/18	活 性 炭 注 入 棟 鉄 骨 架 構 詳 細 図 （ 1 ）	1/30	E02/5	単 線 結 線 図	—
S18/18	活 性 炭 注 入 棟 鉄 骨 架 構 詳 細 図 （ 2 ）	1/30	E03/5	シ ス テ ム 構 成 図	—
AE01/2	活 性 炭 注 入 棟 動 力 ・ 電 灯 設 備 平 面 図	1/50	E04/5	畑 川 浄 水 場 管 理 棟 2 階 平 面 図	1/100
AE02/2	活 性 炭 注 入 棟 結 線 図 ・ 照 明 器 具 姿 図	—	E05/5	畑 川 浄 水 場 場 内 配 線 図	1/100
AM01/1	活性炭注入棟 換気設備 平面図・機器仕様表	1/100			
機 械 ・ 電 気 工 事					
M01/12	粉末炭貯蔵室 計画フローシート	—			
M02/12	粉末炭貯蔵室 1階上部平面配置図	1/30			
M03/12	粉末炭貯蔵室 1階平面配置図	1/30			
M04/12	粉末炭貯蔵室 立面配置図	1/30			
M05/12	粉末炭貯蔵室 断面配置図	1/30			
M06/12	急速スラリ一形成器 参考図	1/10			
M07/12	粉末炭貯蔵室 1階上部配管平面図	1/30			
M08/12	粉末炭貯蔵室 1階配管平面図	1/30			
M09/12	粉末炭貯蔵室 A-A 断面図	1/30			
M10/12	粉末炭貯蔵室 B-B 断面図	1/30			

畑川浄水場一般平面図



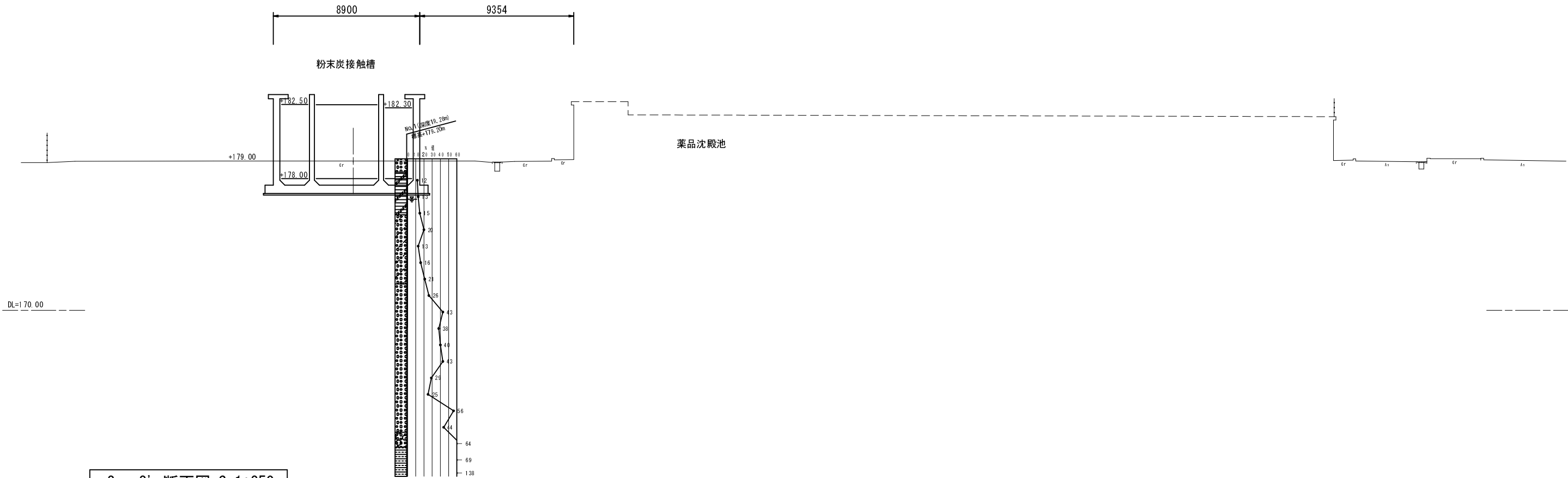
S=1:500



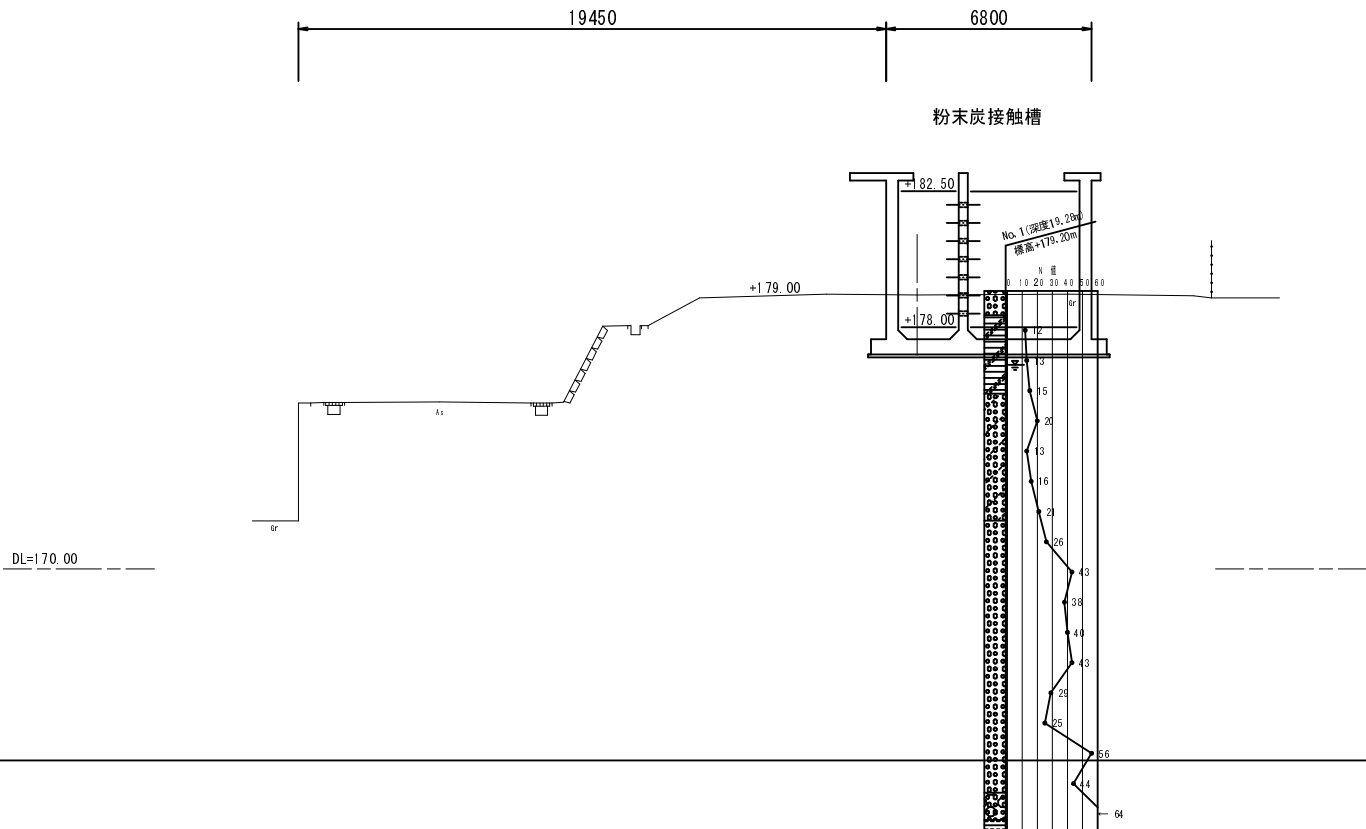
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図名	畑川浄水場一般平面図									
平成	年	月	尺 法	1/500	審査					
京丹波町水道課					図書	C1	21			

畑川浄水場断面計画図（１）

1 - 1' 断面図 S=1:250



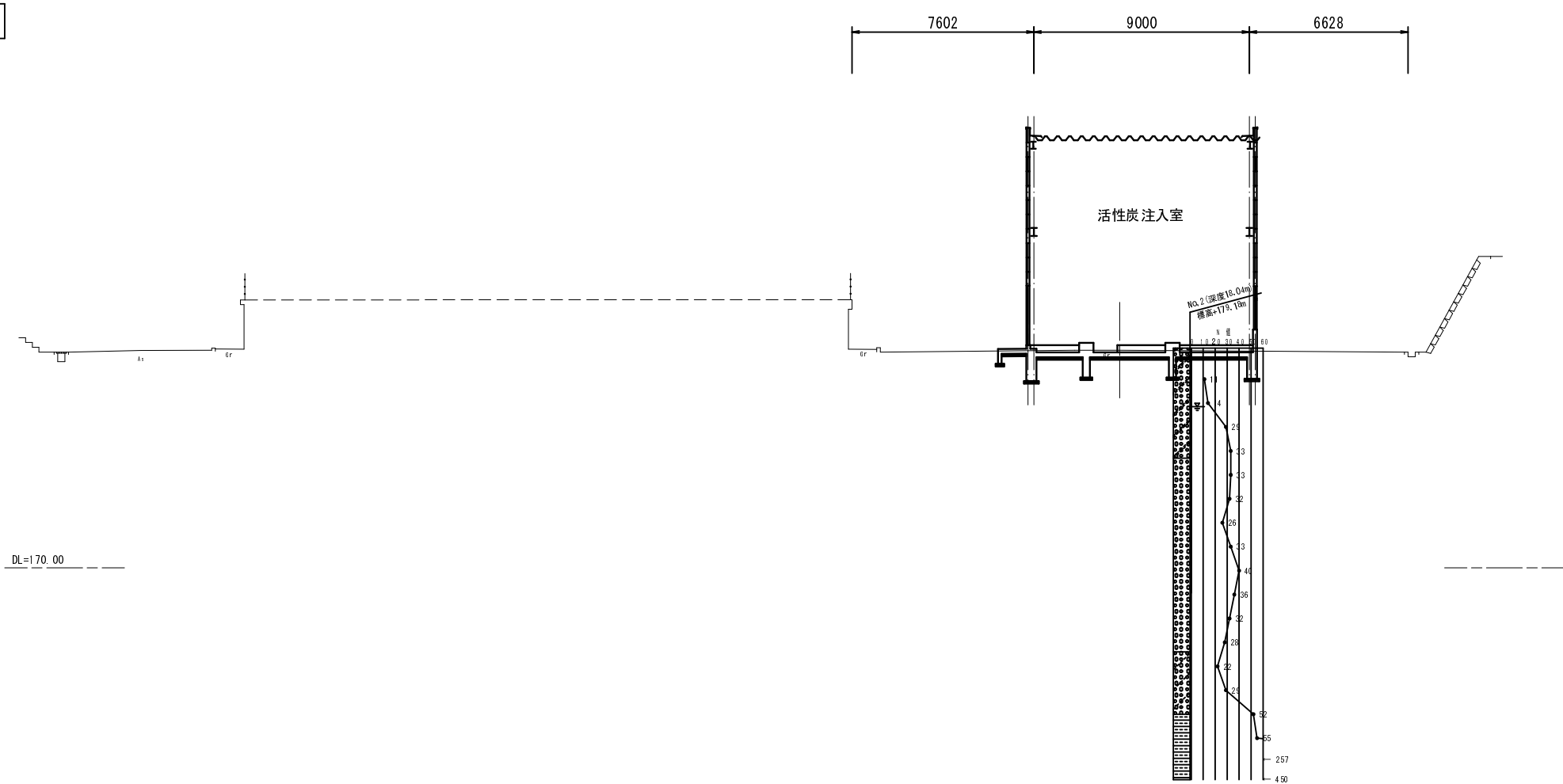
2 - 2' 断面図 S=1:250



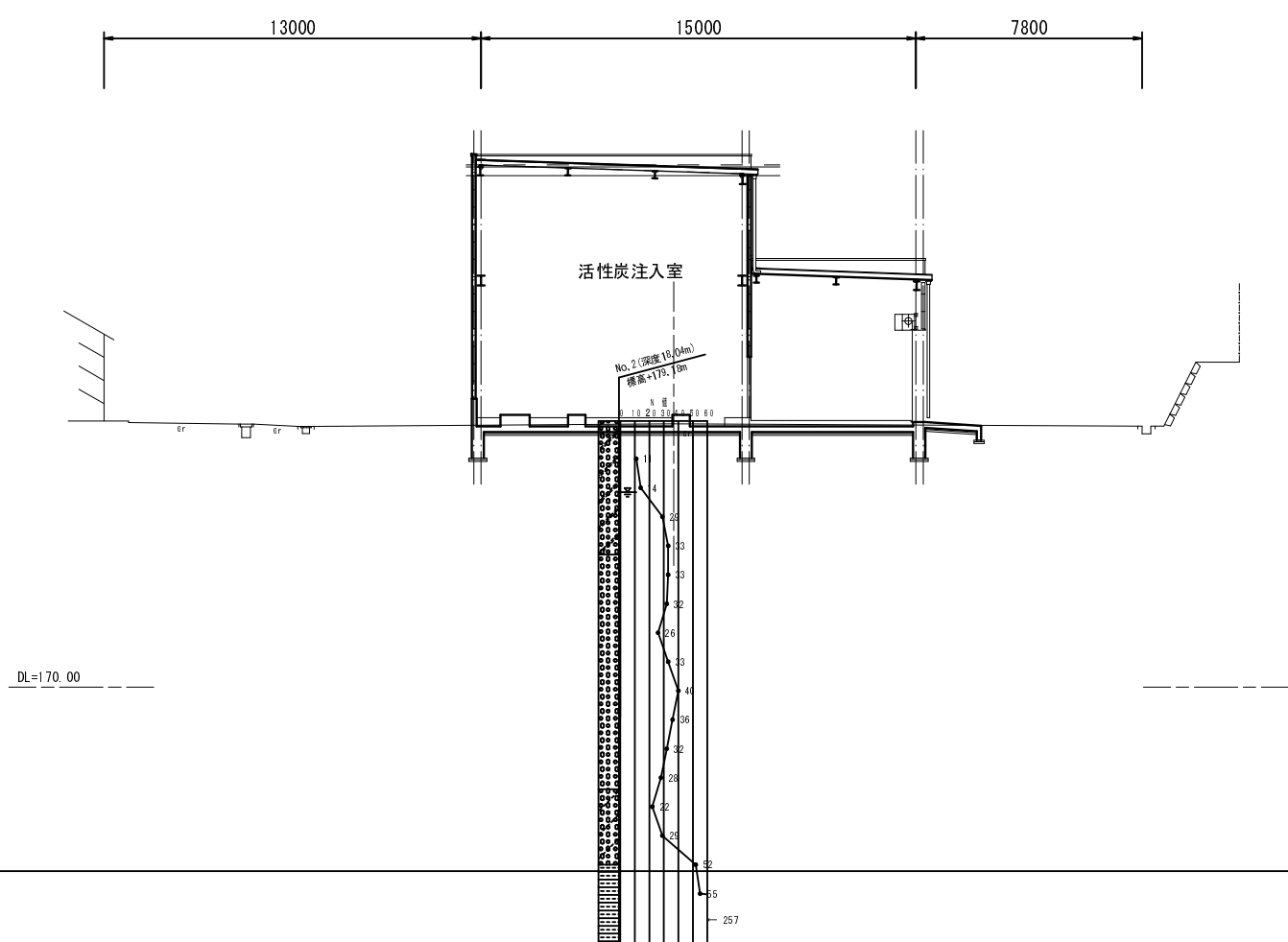
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業					
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事					
施工箇所	京都府 船井郡 京丹波町 下山 地内					
図 名	畑川浄水場断面計画図（１）					
平成	年	月	尺 度	1/250	審 査	
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	C2 / 21

畑川浄水場断面計画図（2）

3 - 3' 断面図 S=1:250

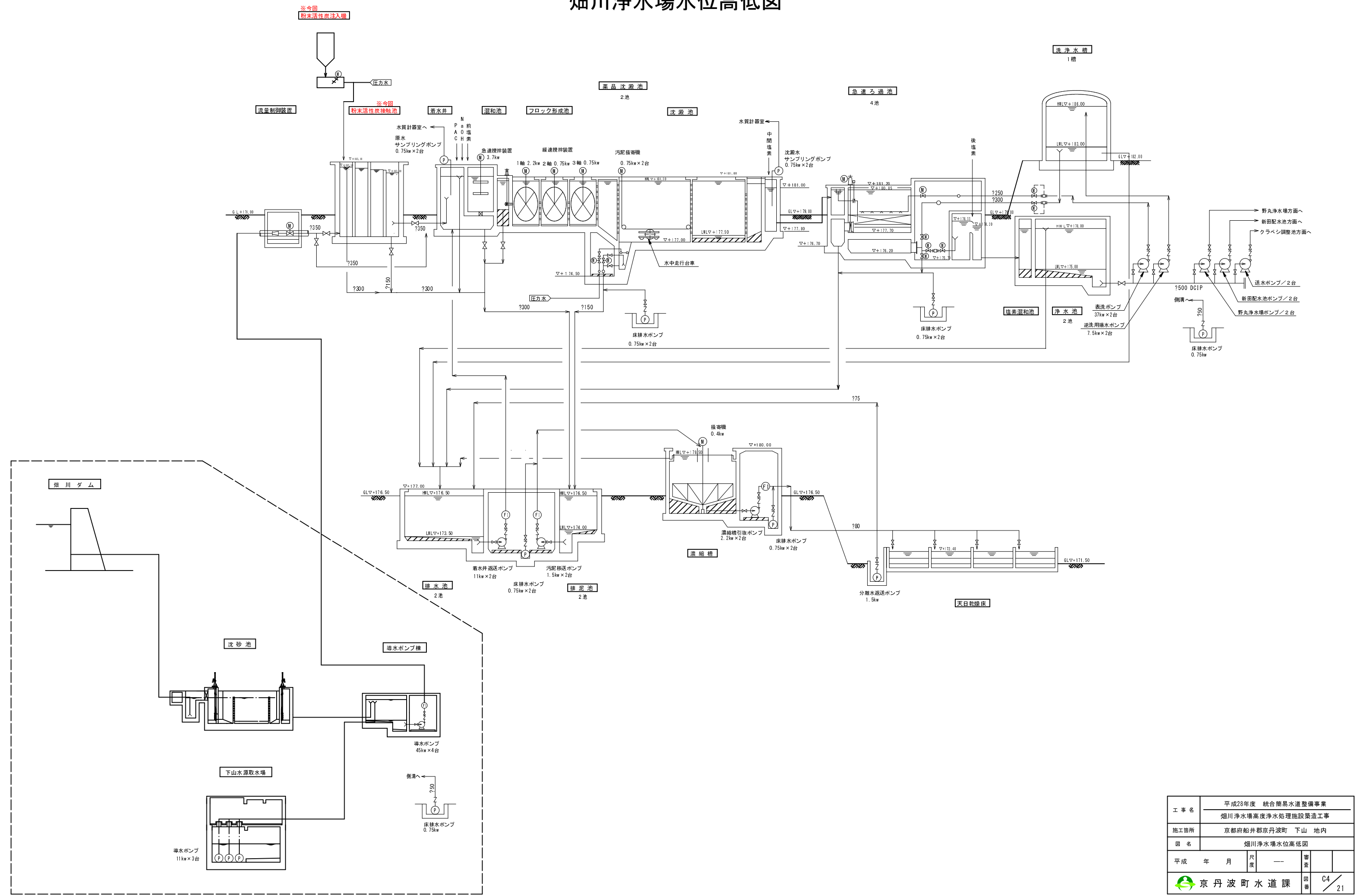


4 - 4' 断面図 S=1:250



工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	畑川浄水場断面計画図（2）				
平成	年	月	尺度	1/250	審査
京丹波町水道課			図書	C3	21

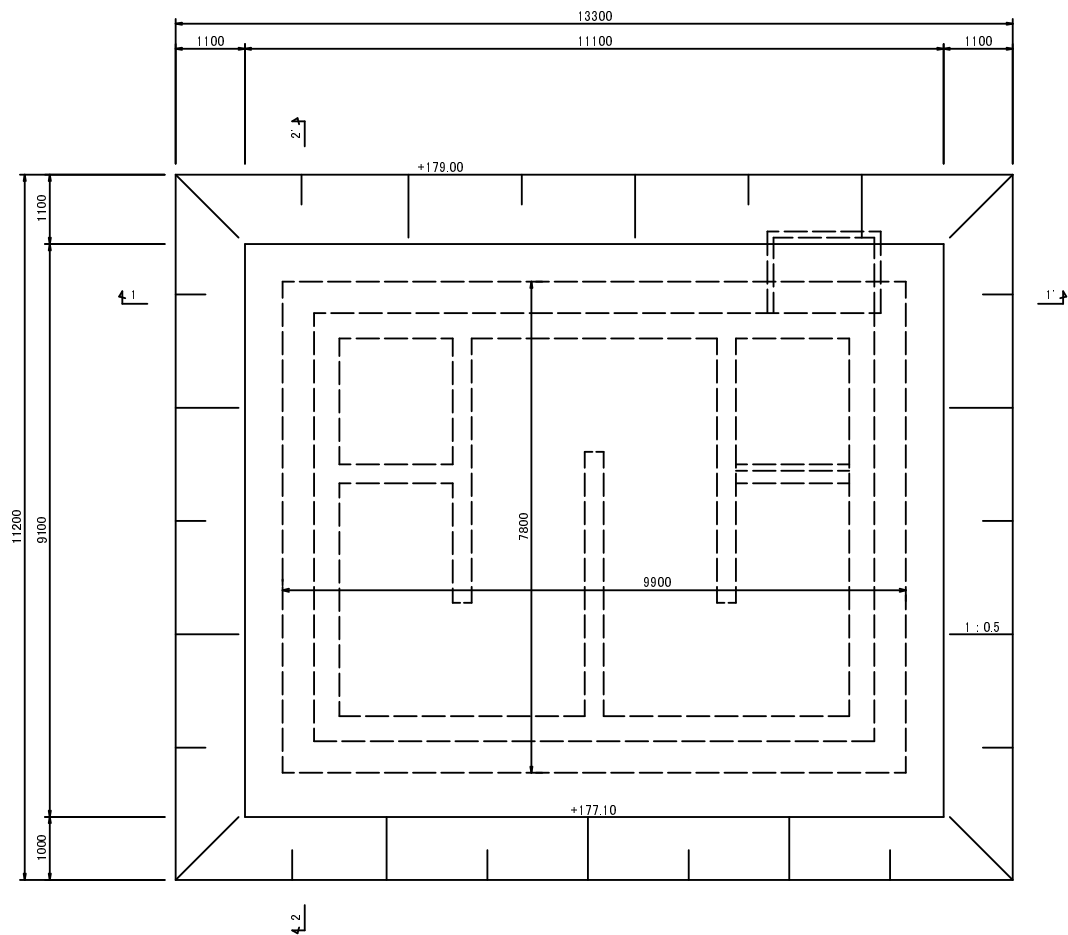
畑川浄水場水位高低図



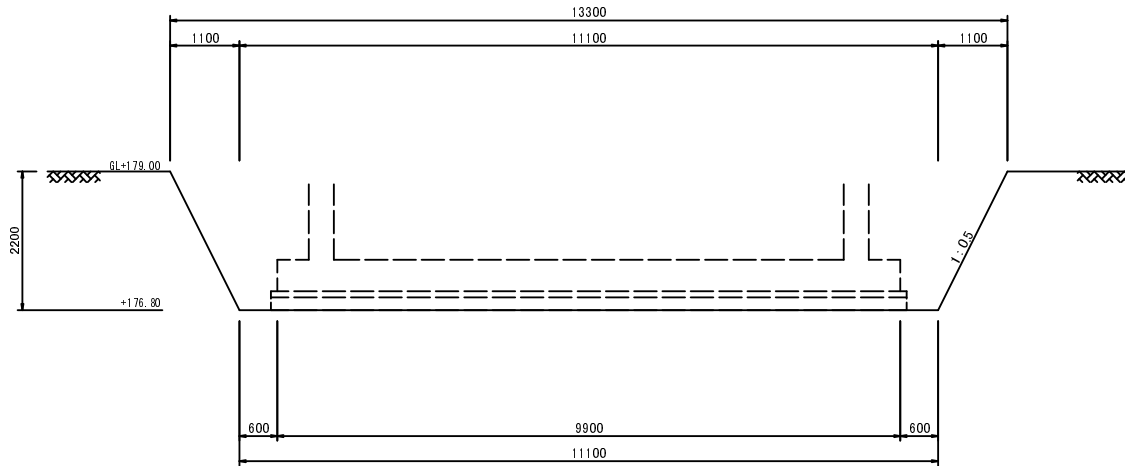
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図名	畑川浄水場水位高低図									
平成	年	月	尺	度	—	—	—	—	—	—
京丹波町水道課							図番	C4	21	

粉末炭接触槽土工事図

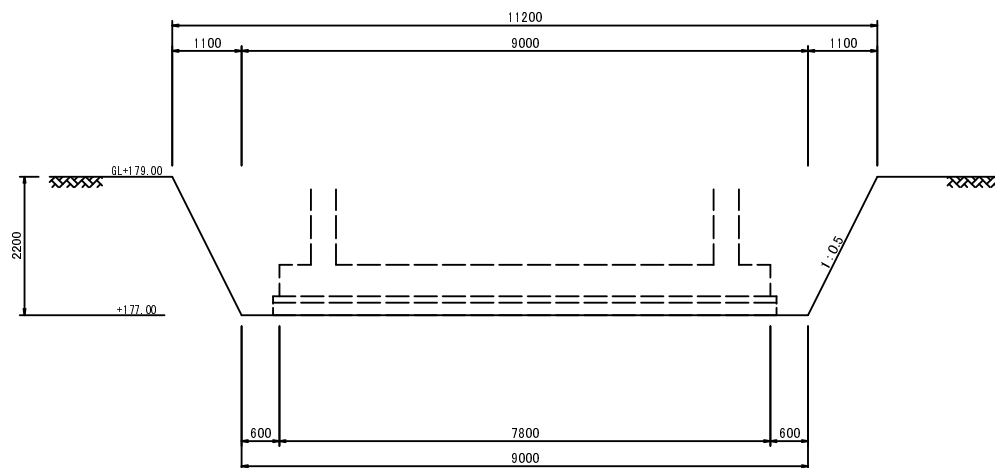
平面図



1 - 1' 断面図



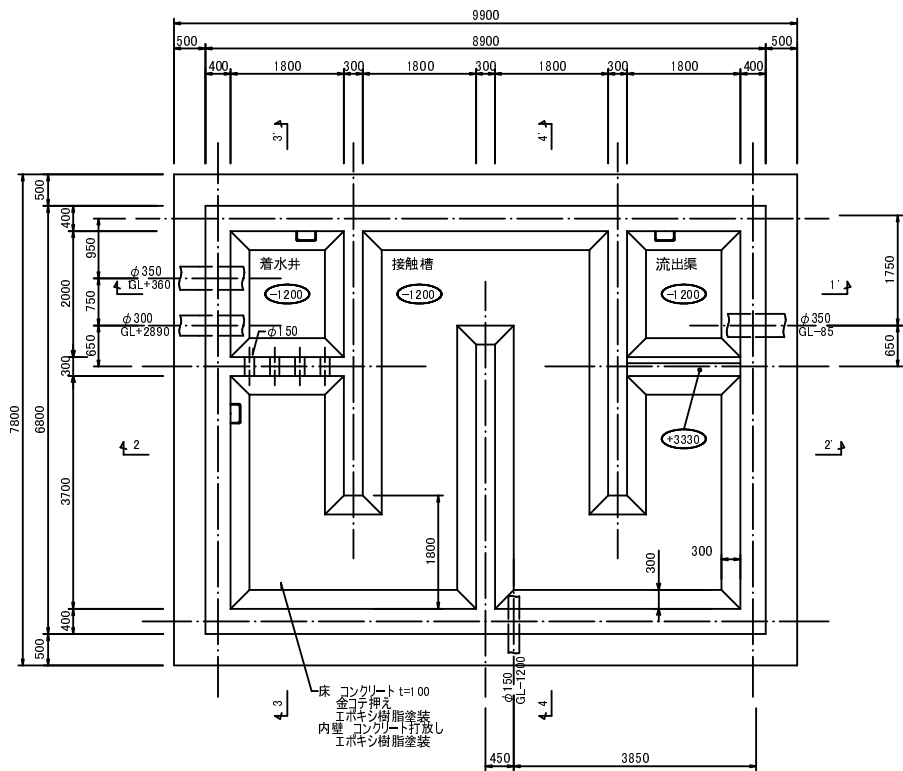
2 - 2' 断面図



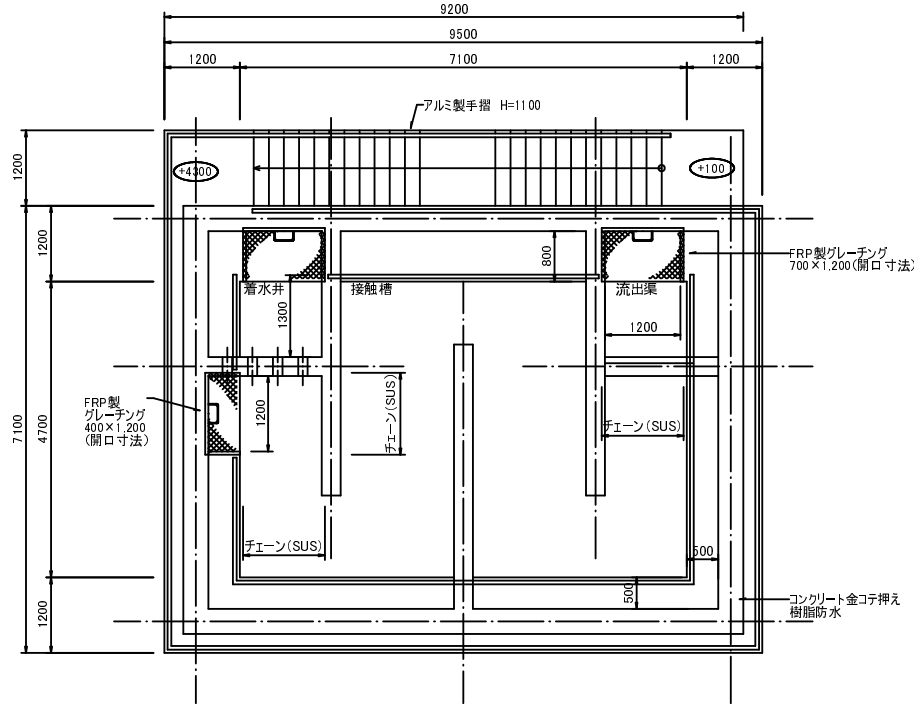
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽土工事図				
平成	年	月	尺度	1/60	審査
京丹波町水道課			図番	C5	21

粉末炭接触槽構造図（１）

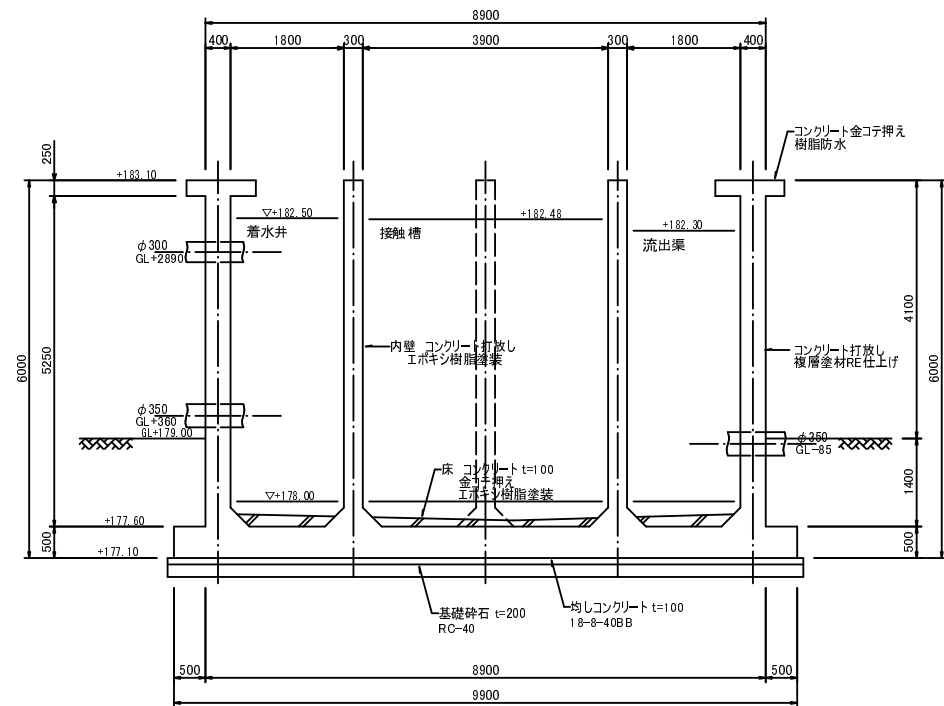
平面図



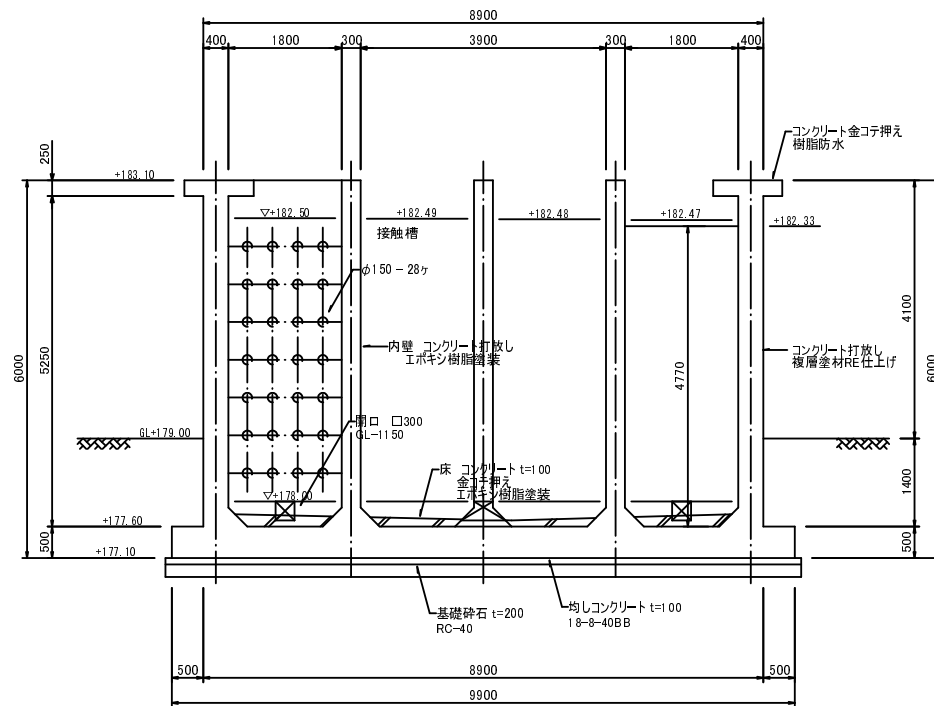
平面図



1 - 1' 断面図



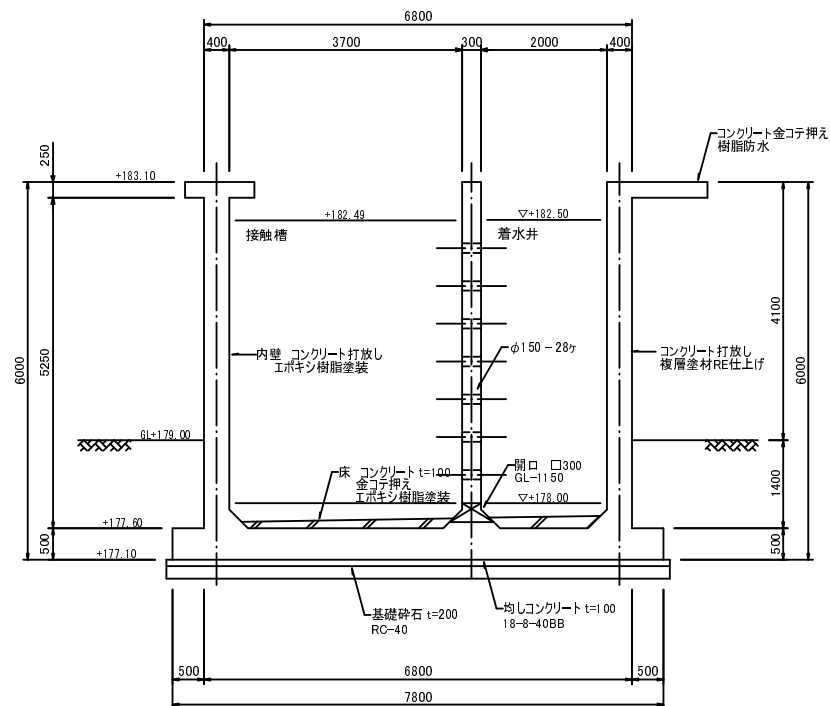
2 - 2' 断面図



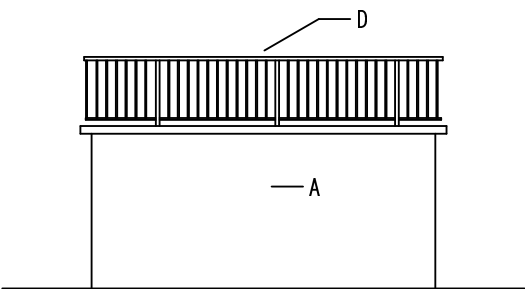
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽構造図（１）				
平成	年	月	尺度	1/60	審査
京丹波町水道課			図番	C6	21

粉末炭接触槽構造図（2）

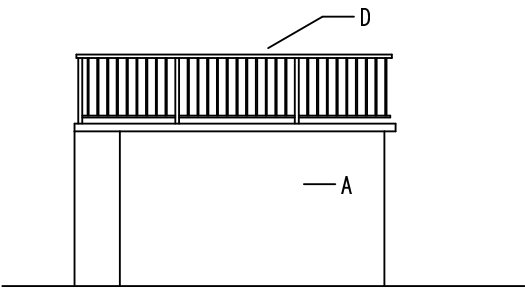
3－3' 断面図



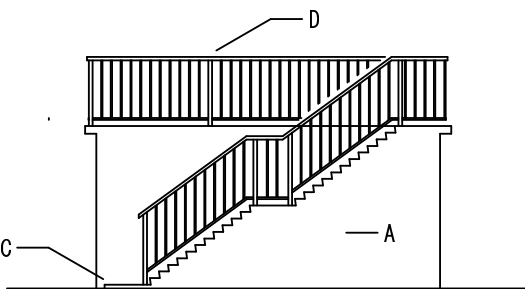
立面図



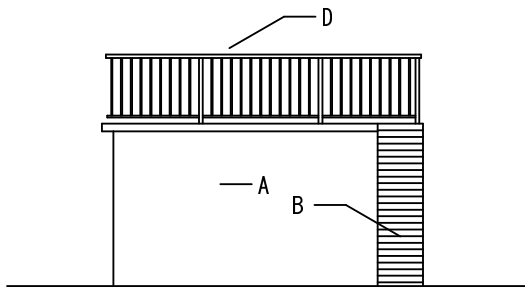
東側



南側

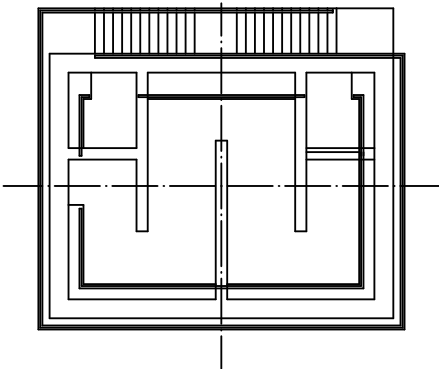
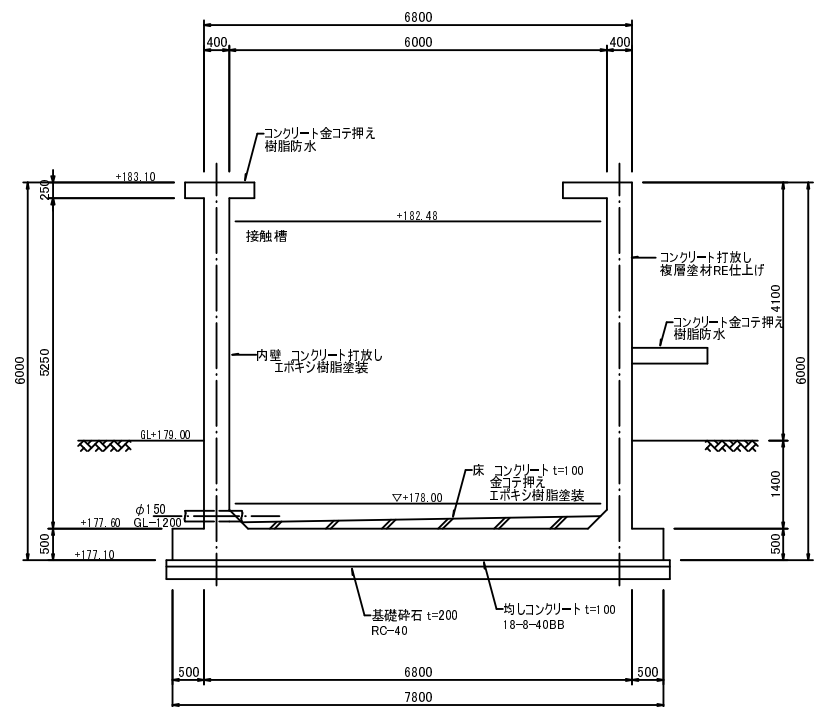


西側



北側

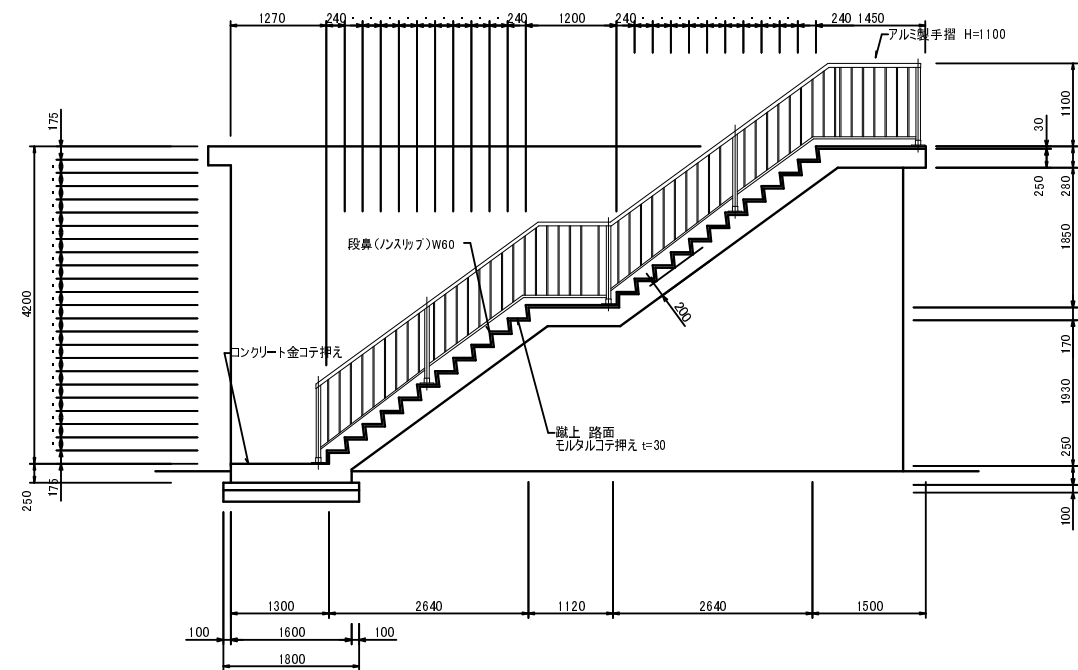
4－4' 断面図



記号	仕上げ・仕様
A	外壁：コンクリート打放し（増打ち20mm）複層塗材RE吹付
B	階段：モルタル金コテ（t=30mm）
C	外壁：コンクリート打放し補修
D	アルミ手摺り

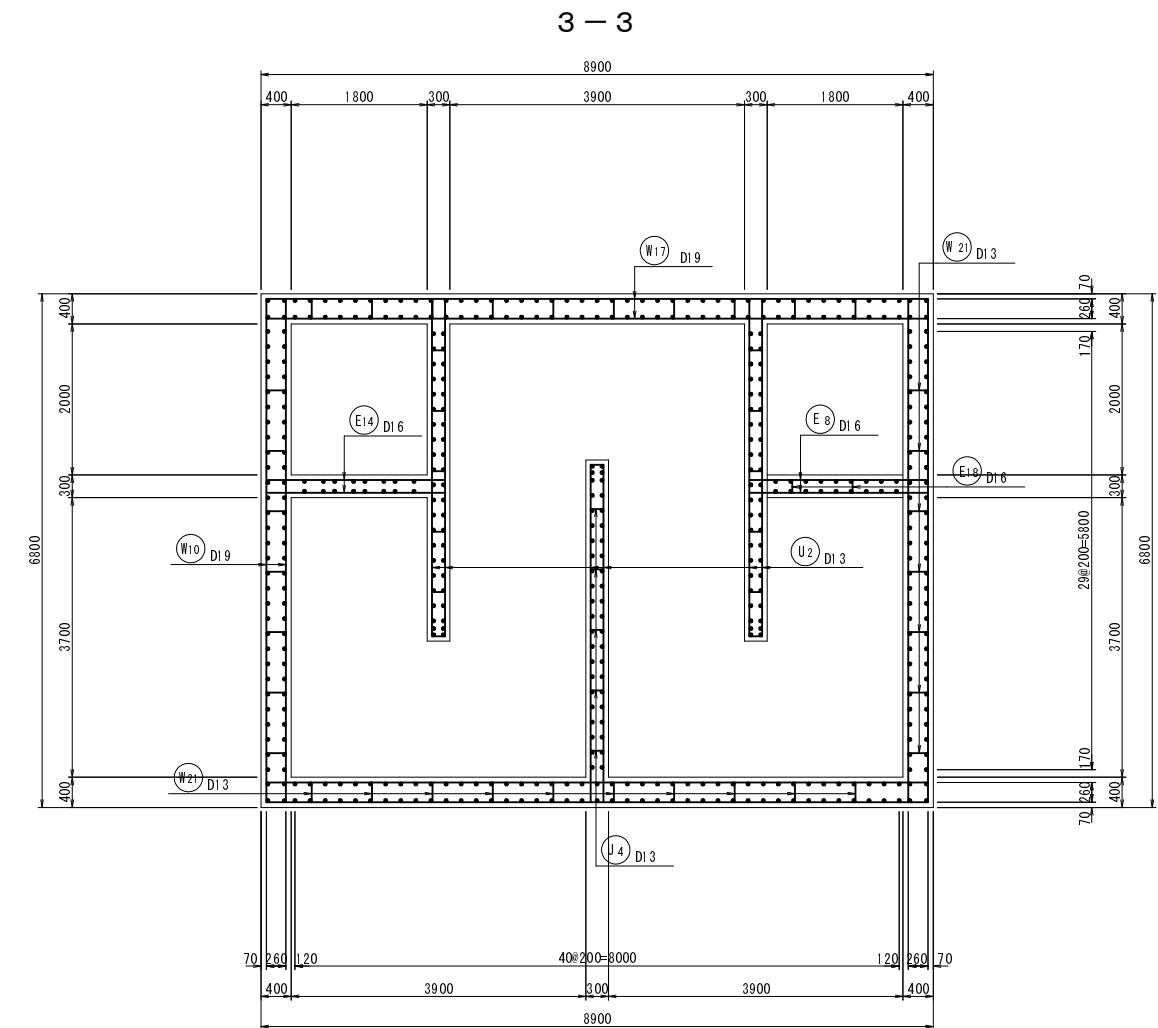
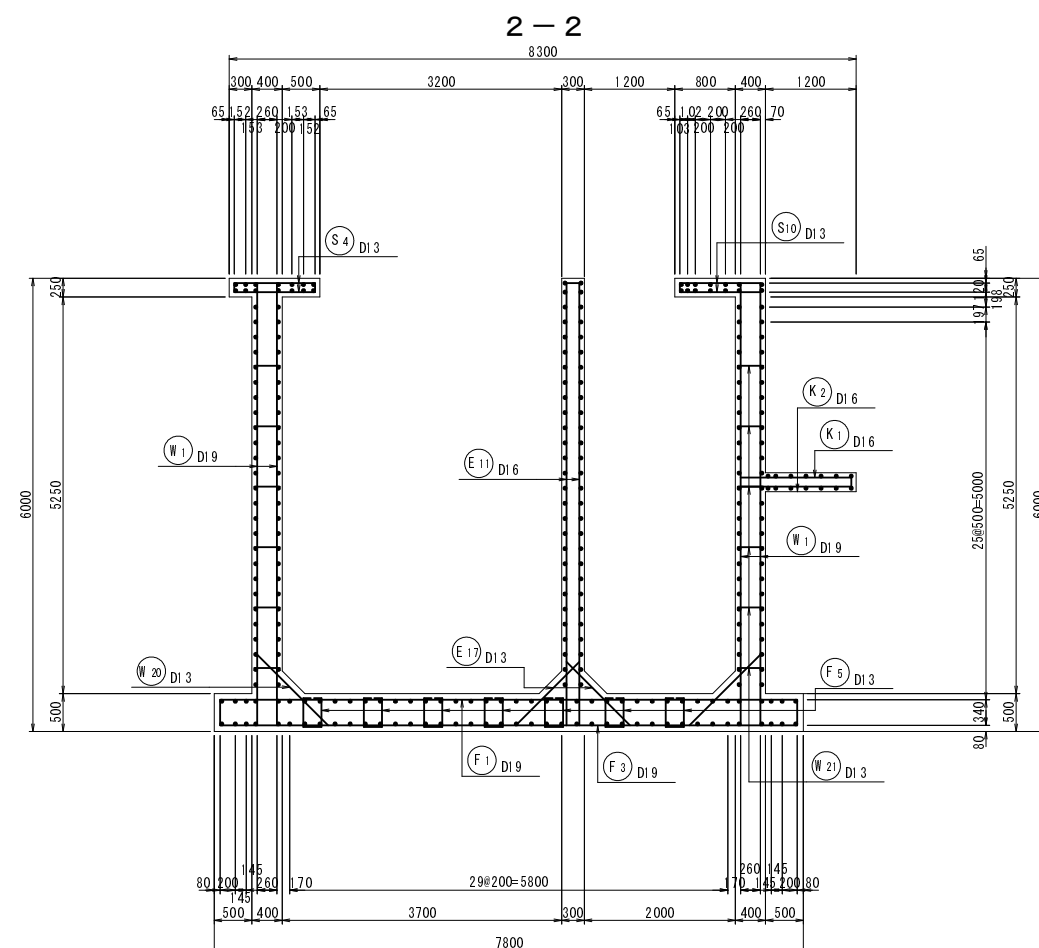
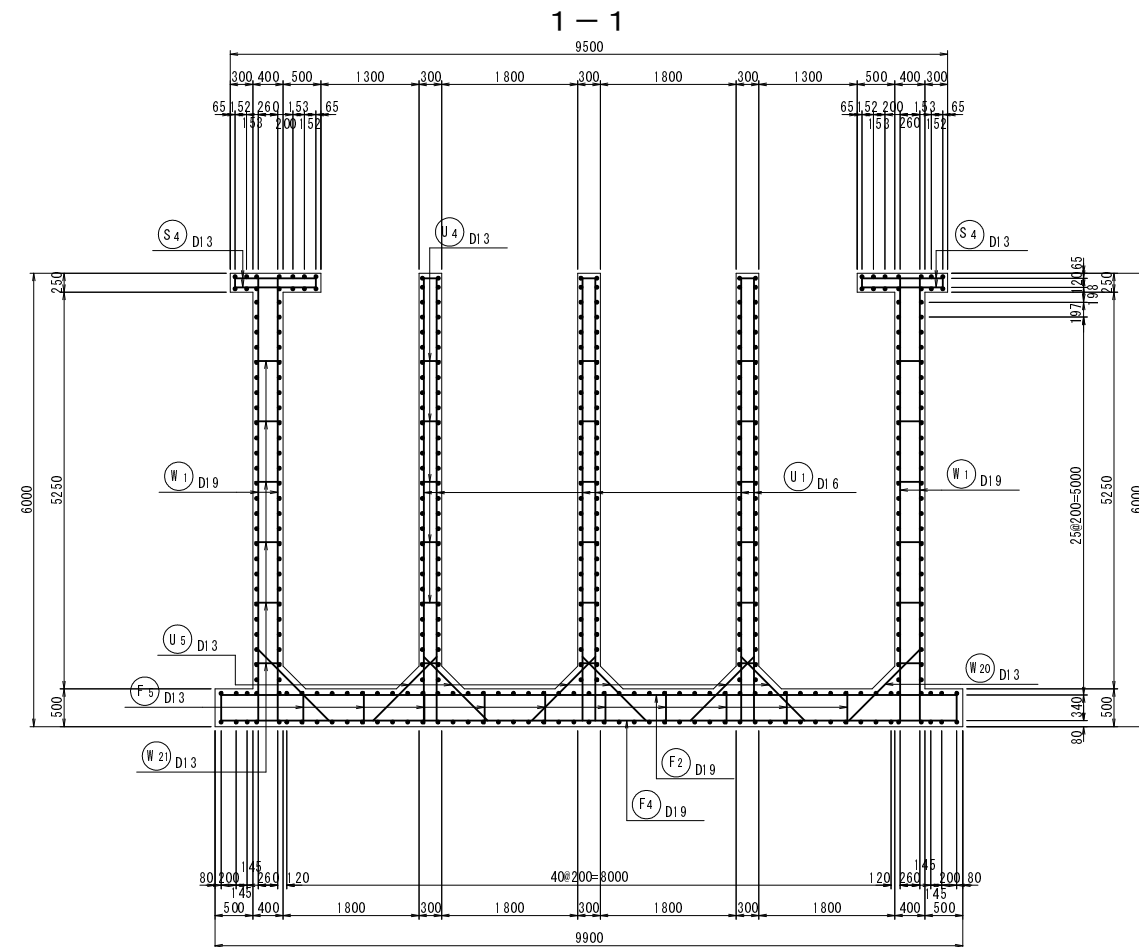
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図名	粉末炭接触槽構造図（2）			
平成 年 月	尺度	1/60	審査	
京丹波町水道課			図番	C7 / 21

粉末炭接触槽階段詳細図

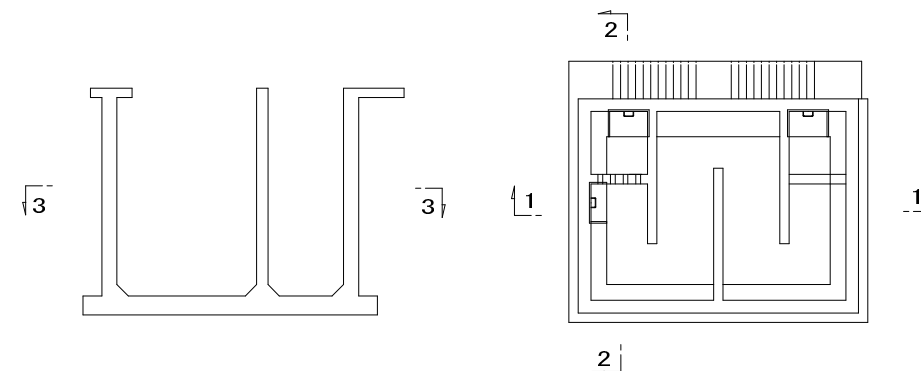


工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業					
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事					
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内					
図 名	粉末炭接触槽階段詳細図					
平成	年	月	尺 度	1/50	番 号	
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	C8 / 21

粉末炭接触槽配筋図 (1)



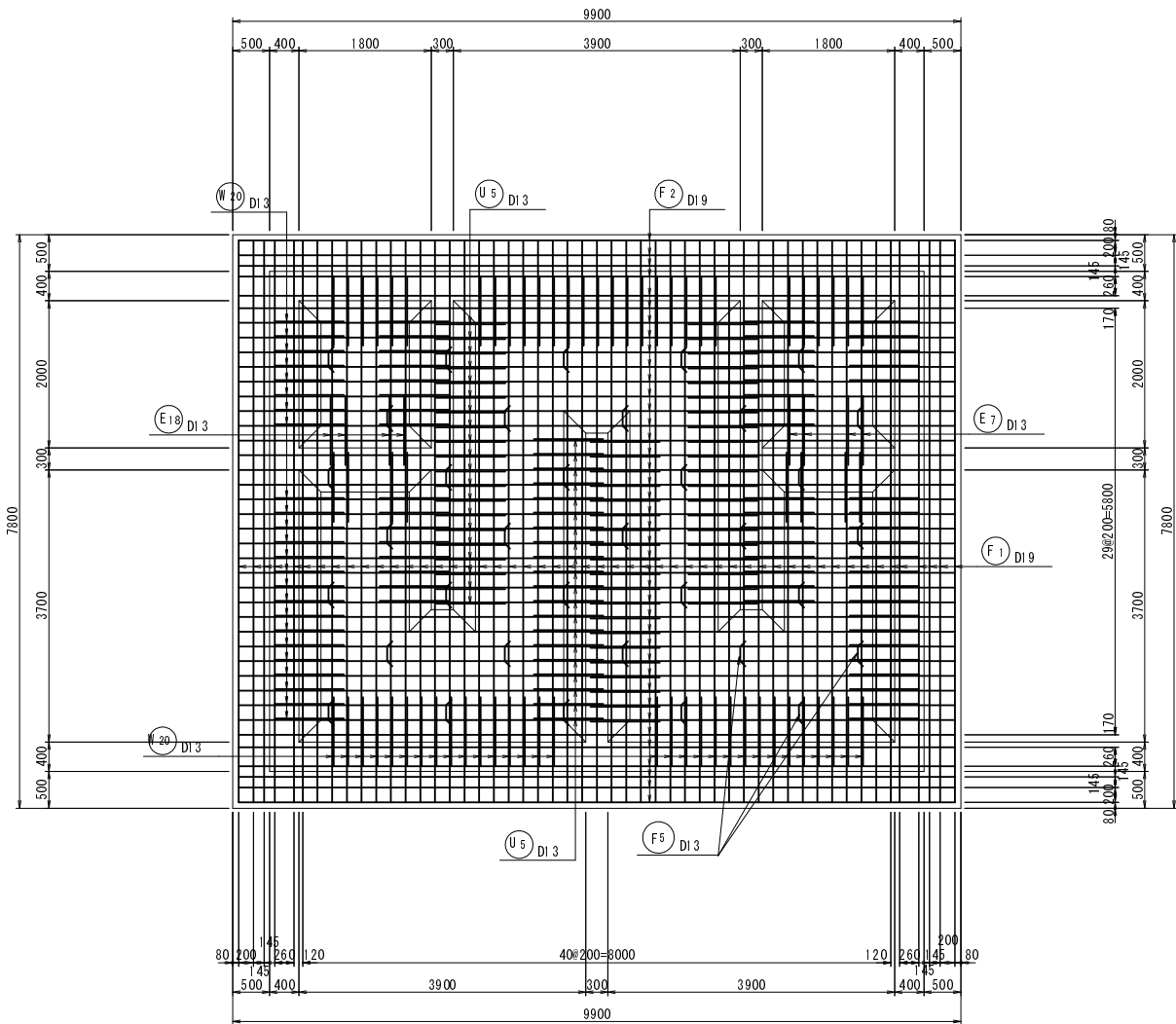
KEY PLAN



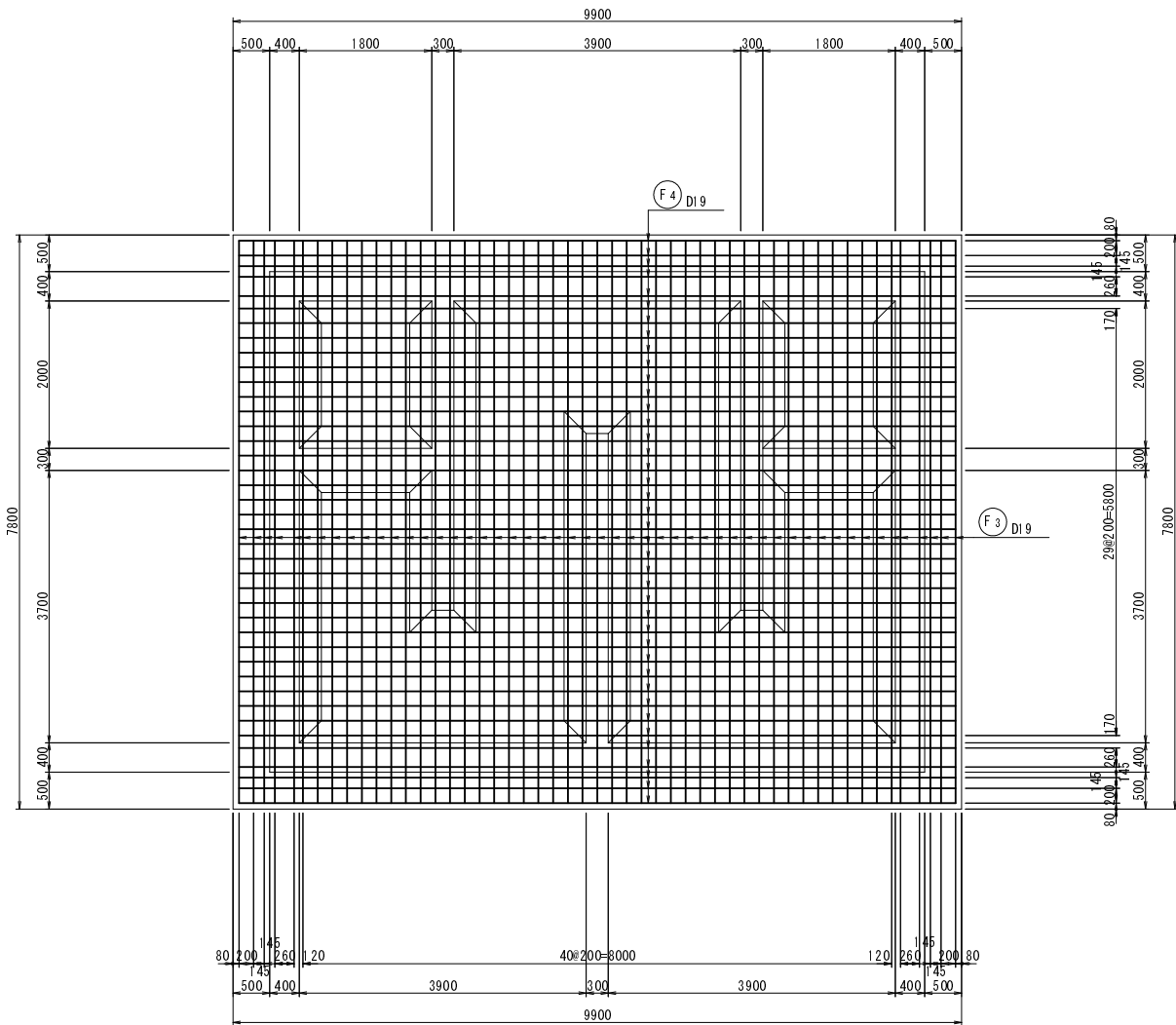
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業						
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事						
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内						
図 名	粉末炭接触槽配筋図 (1)						
平成	年	月	尺 度	1/50	審 査		
 京 丹 波 町 水 道 課					図 番	C9 / 21	

粉末炭接触槽配筋図（2）

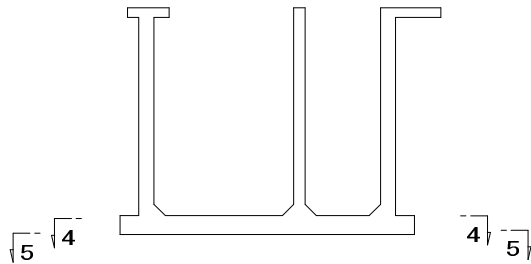
4－4



5－5

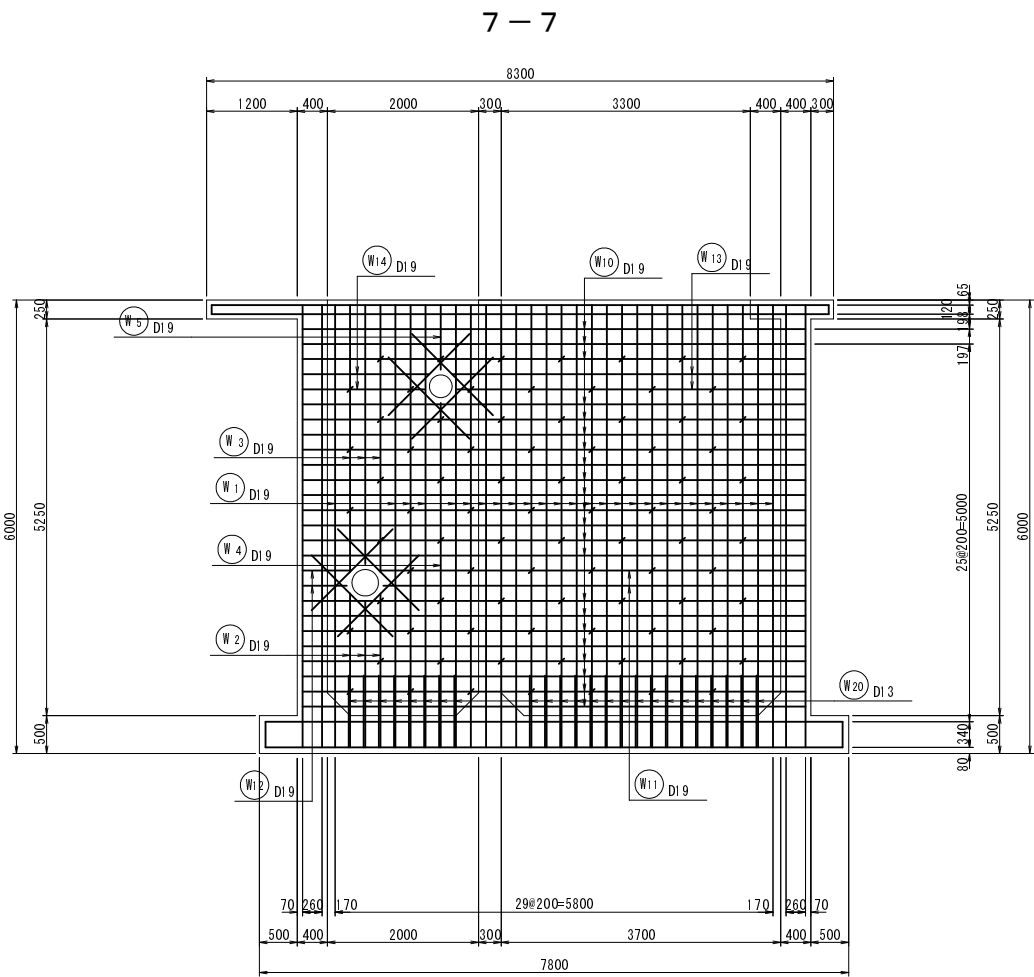
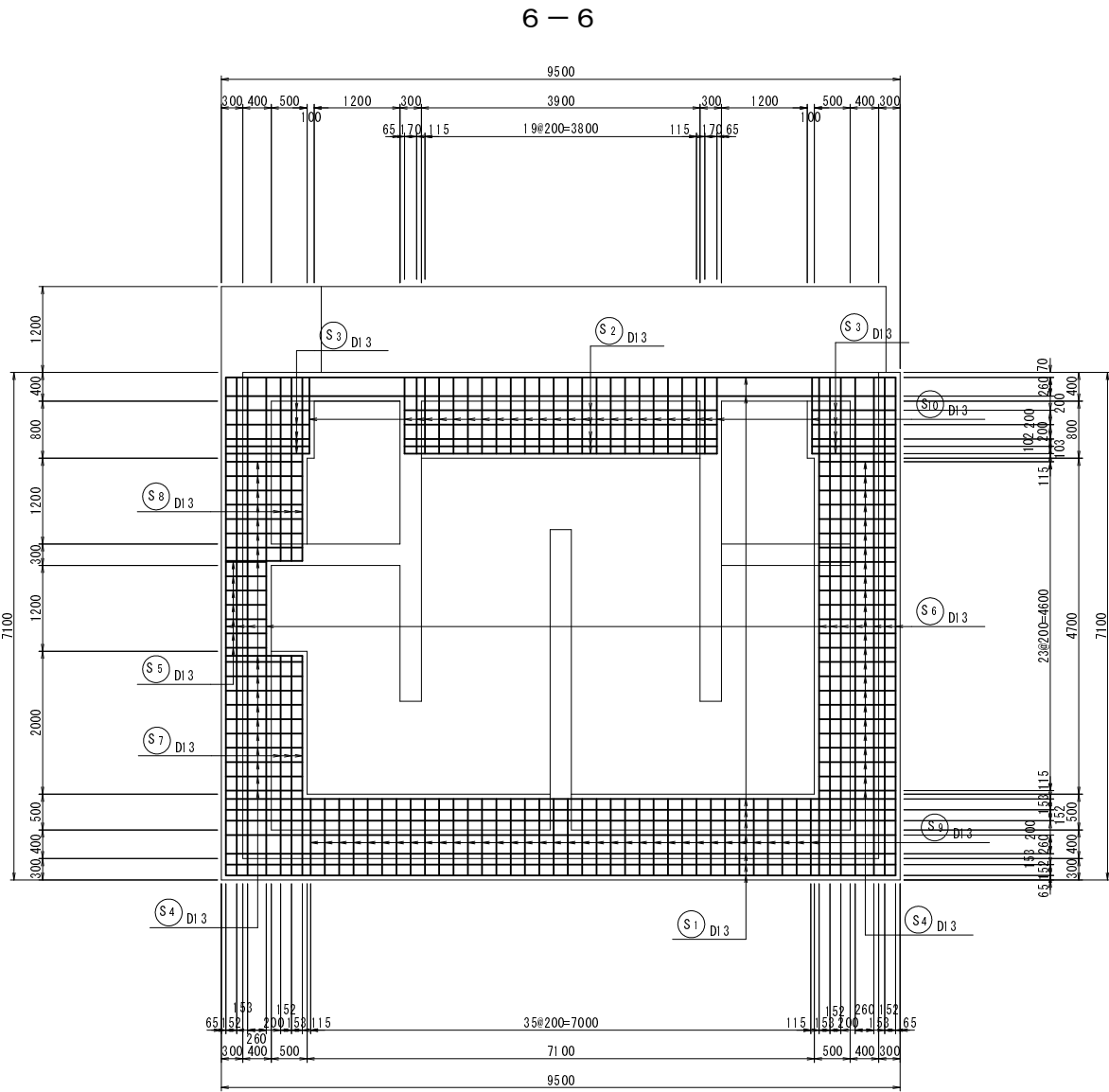


KEY PLAN

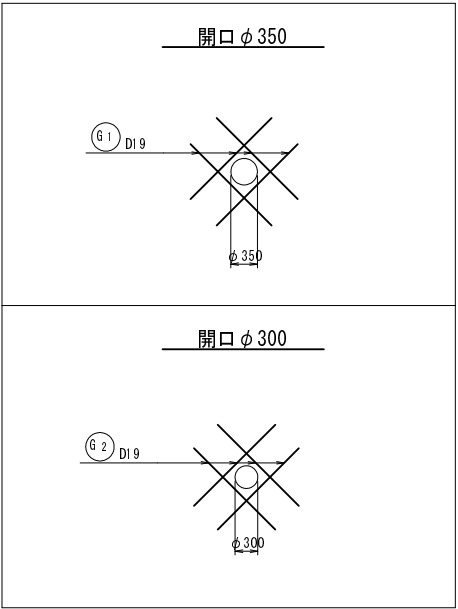


工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽配筋図（2）				
平成	年	月	尺度	1/50	審査
京丹波町水道課			図番	C10	21

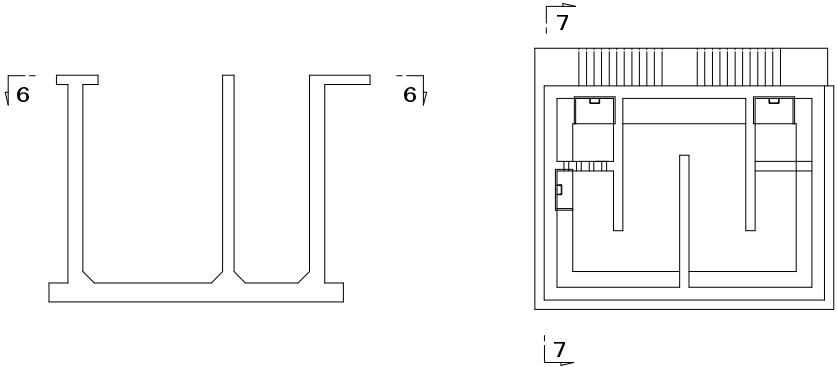
粉末炭接触槽配筋図（3）



開口補強筋詳細図

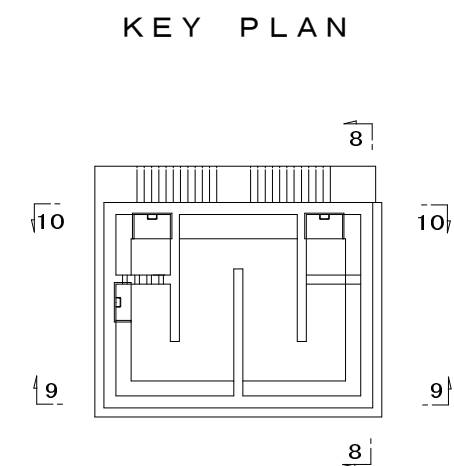
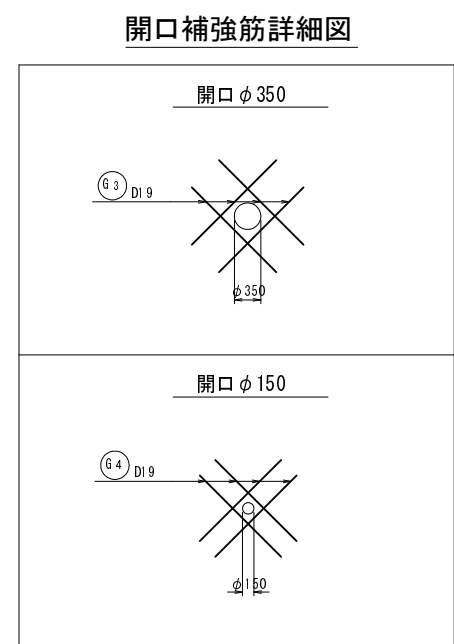
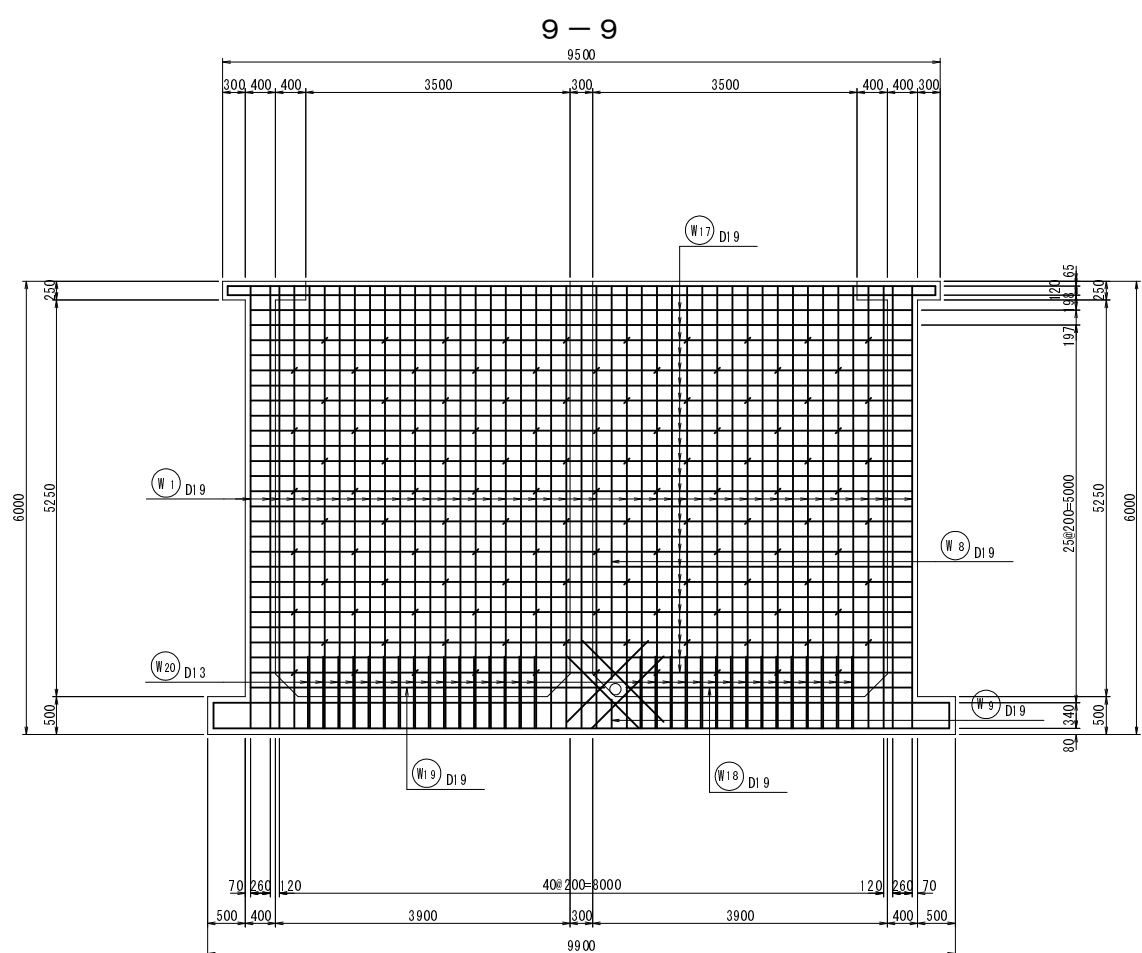
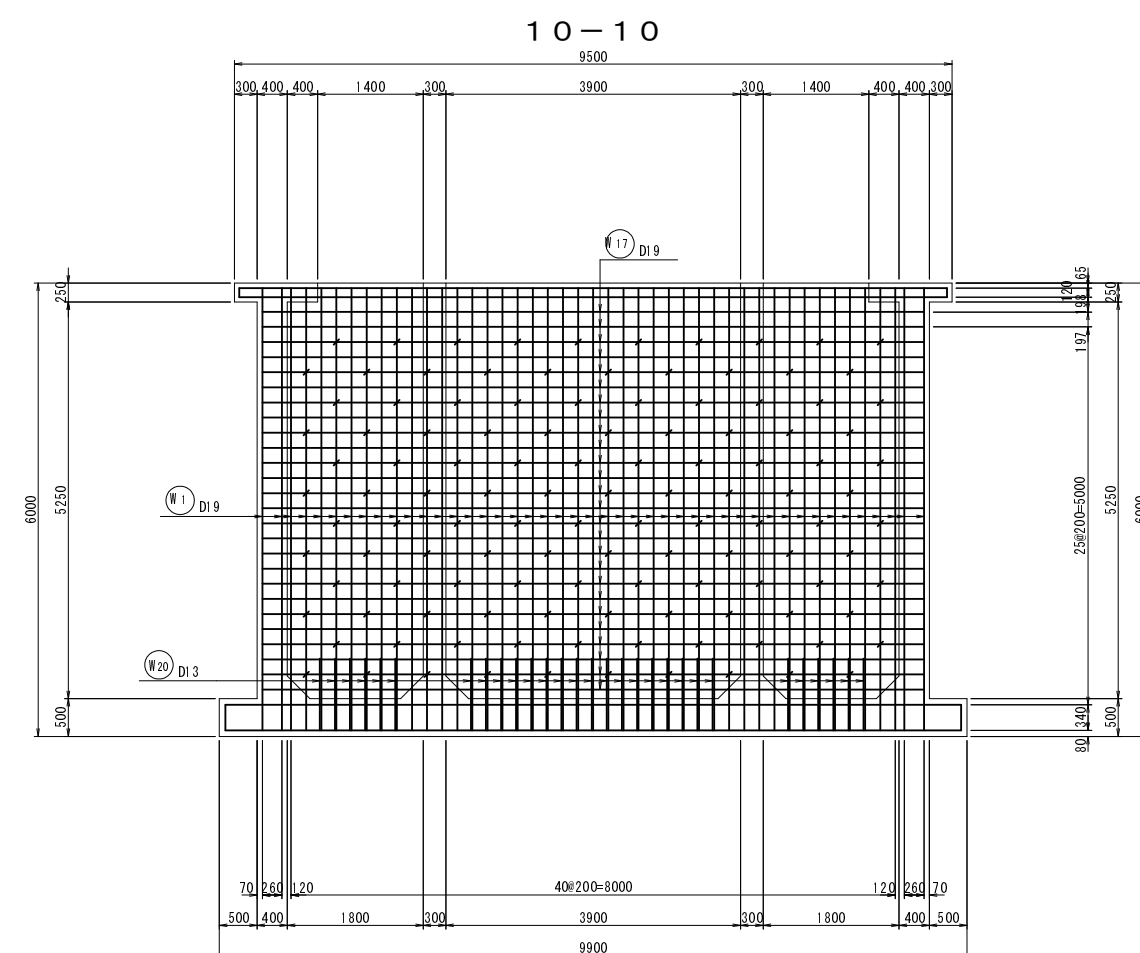
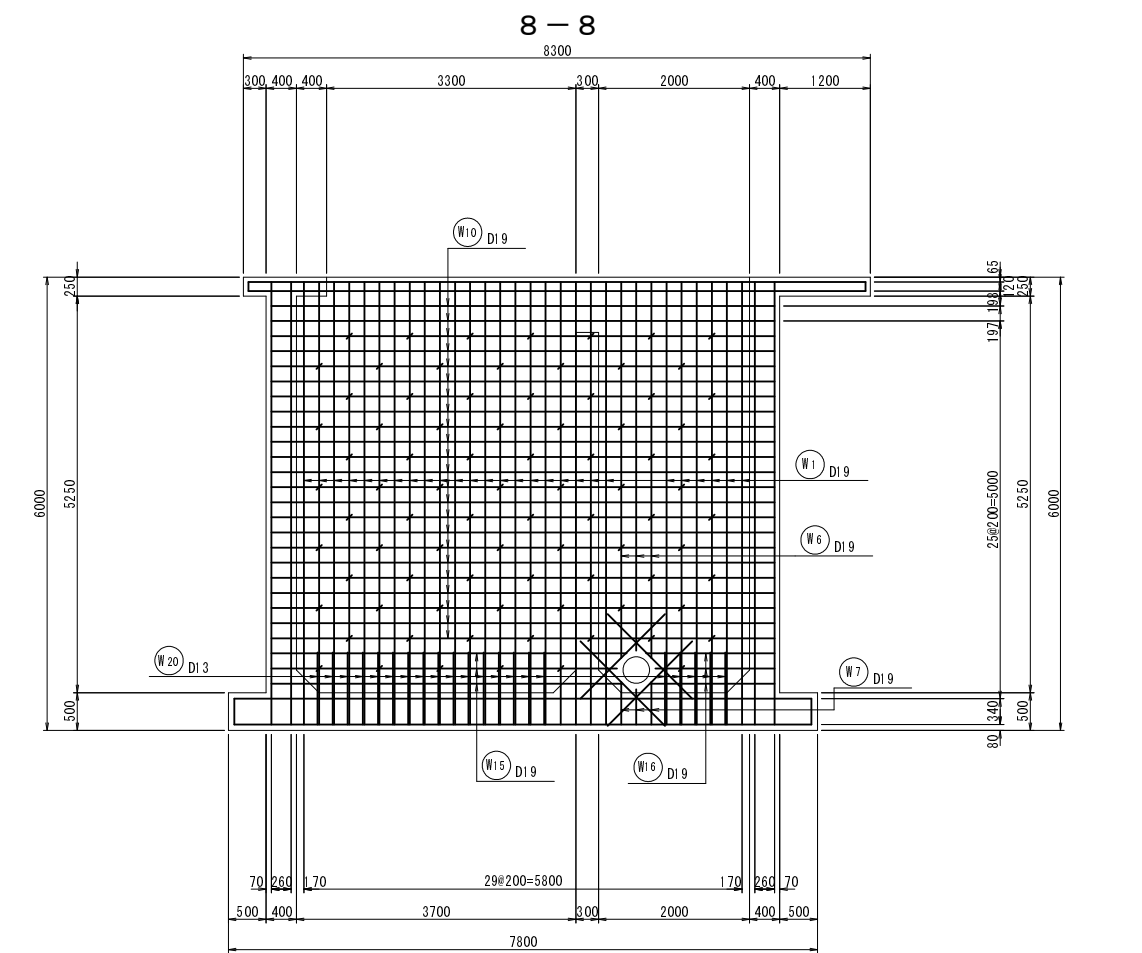


KEY PLAN



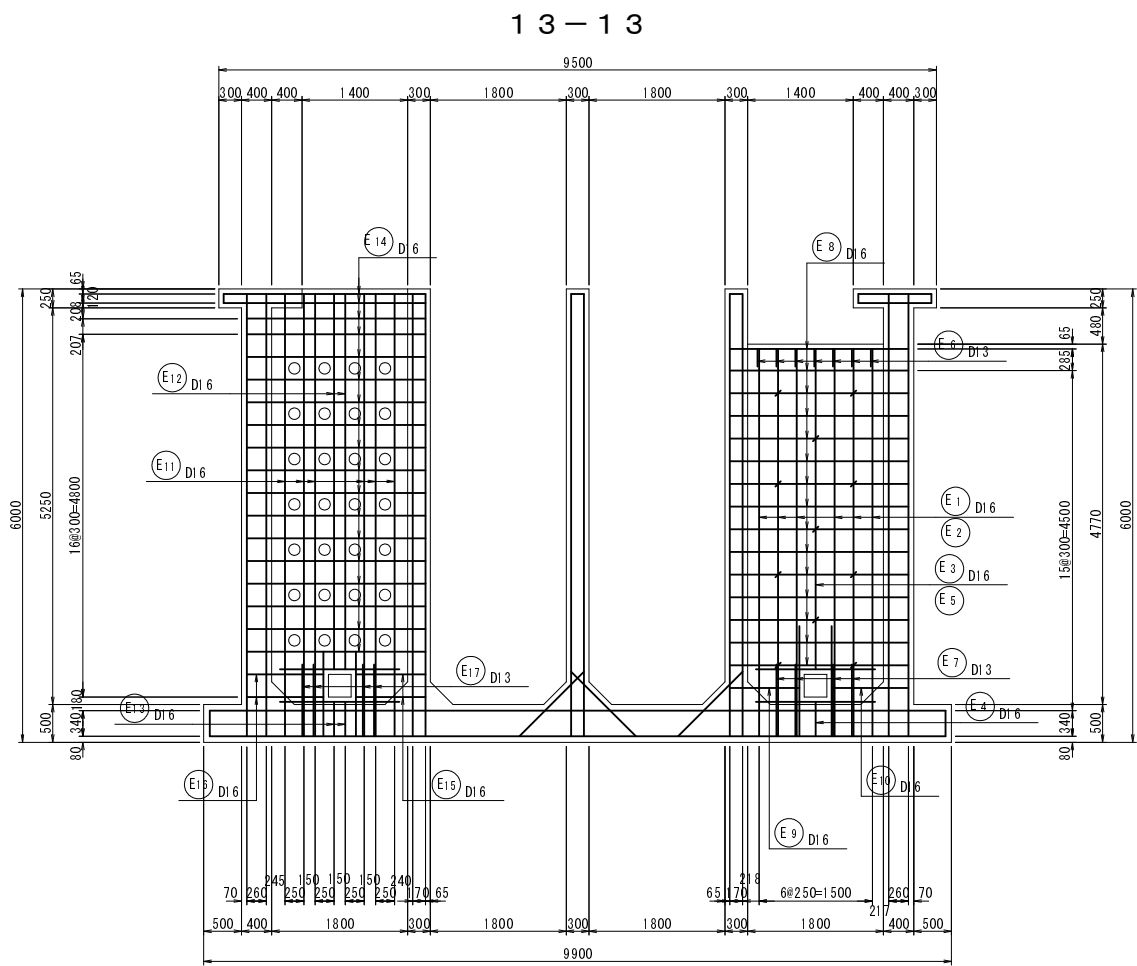
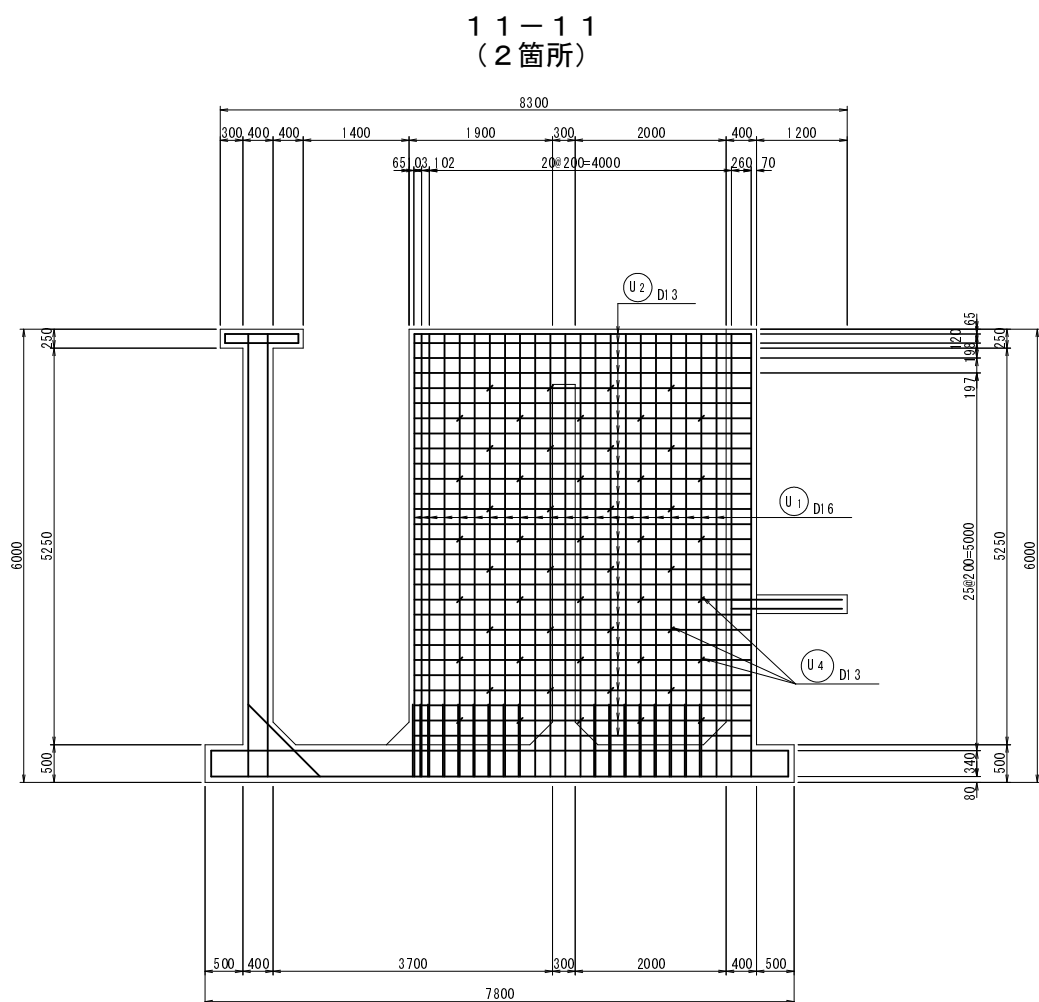
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽配筋図（3）				
平成	年	月	尺度	1/50	審査
京丹波町水道課			図番	C11	21

粉末炭接触槽配筋図（４）

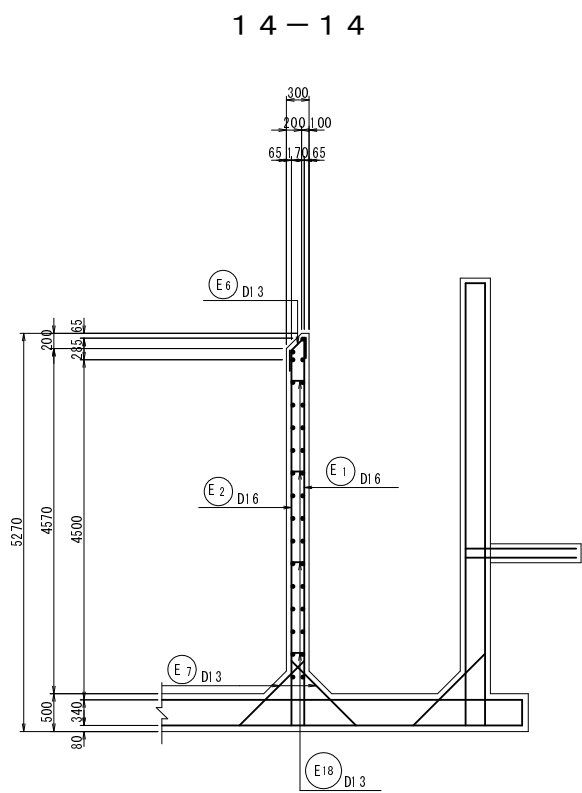
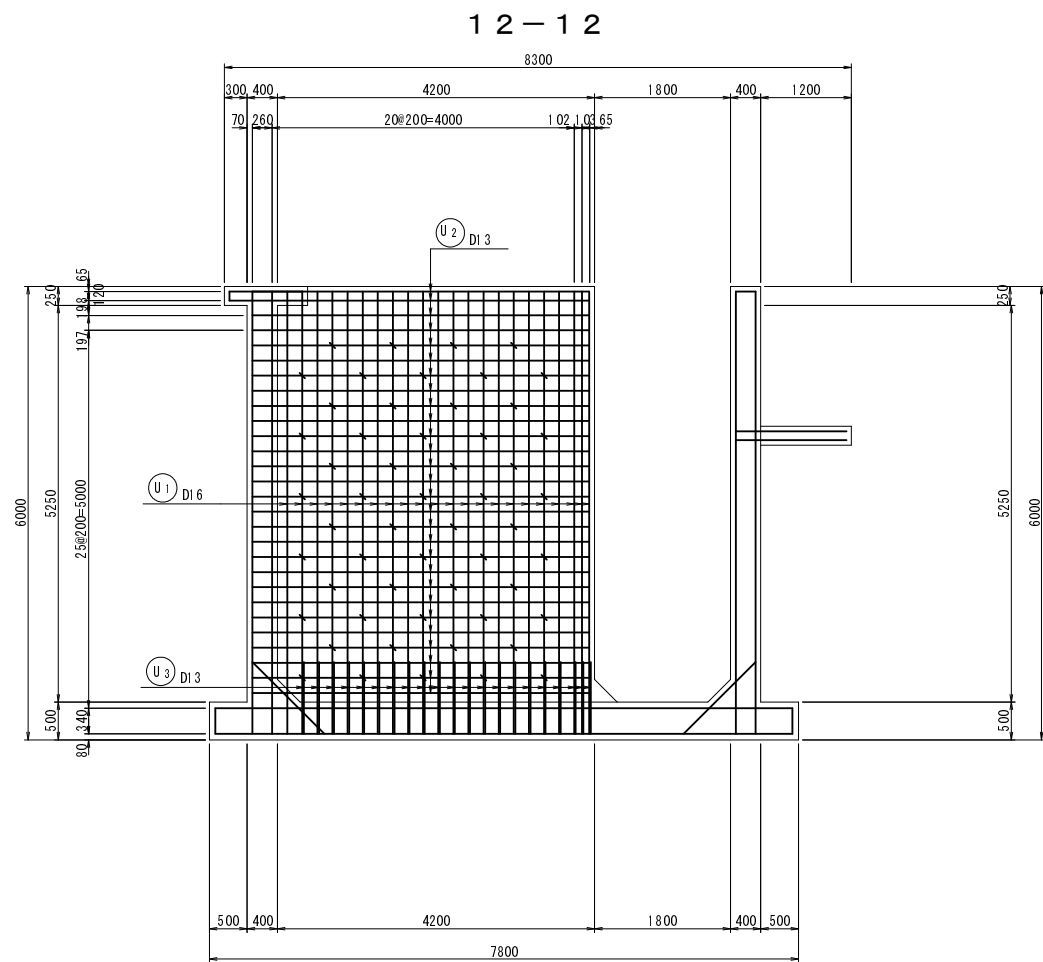
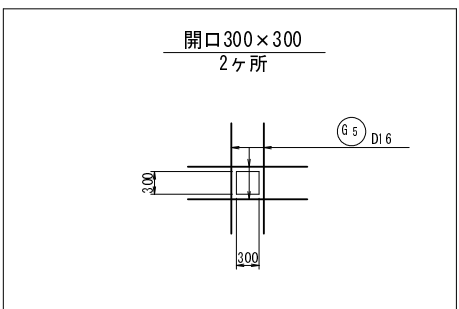


工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽配筋図（４）				
平成	年	月	尺度	1/50	審査
京丹波町水道課			図番	C12	21

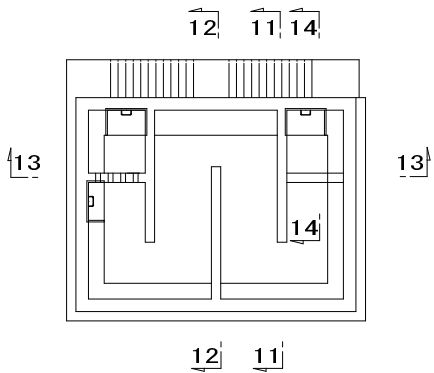
粉末炭接触槽配筋図（５）



開口補強筋詳細図

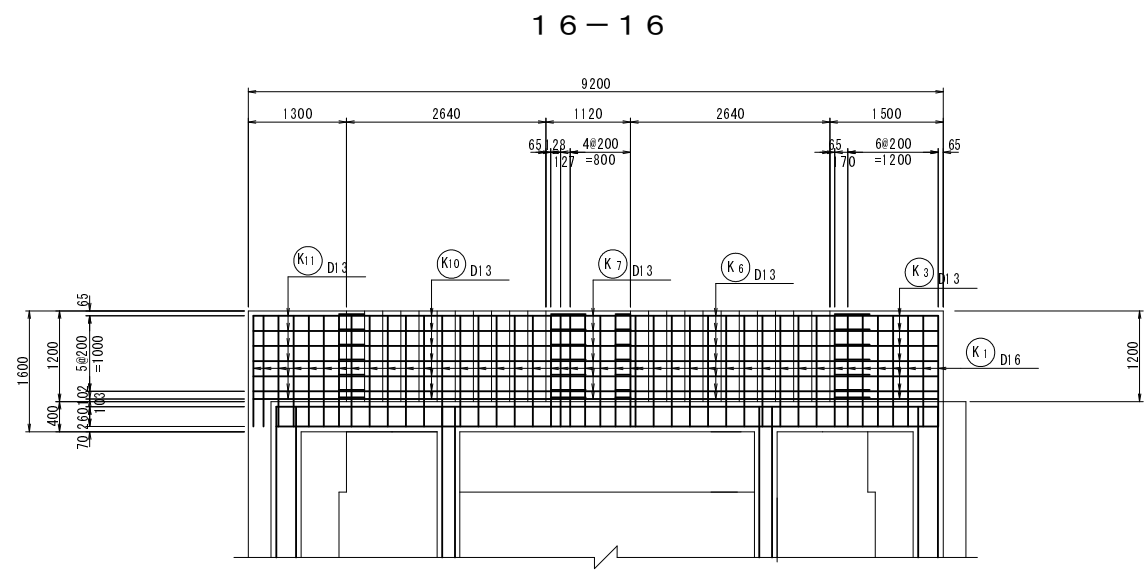
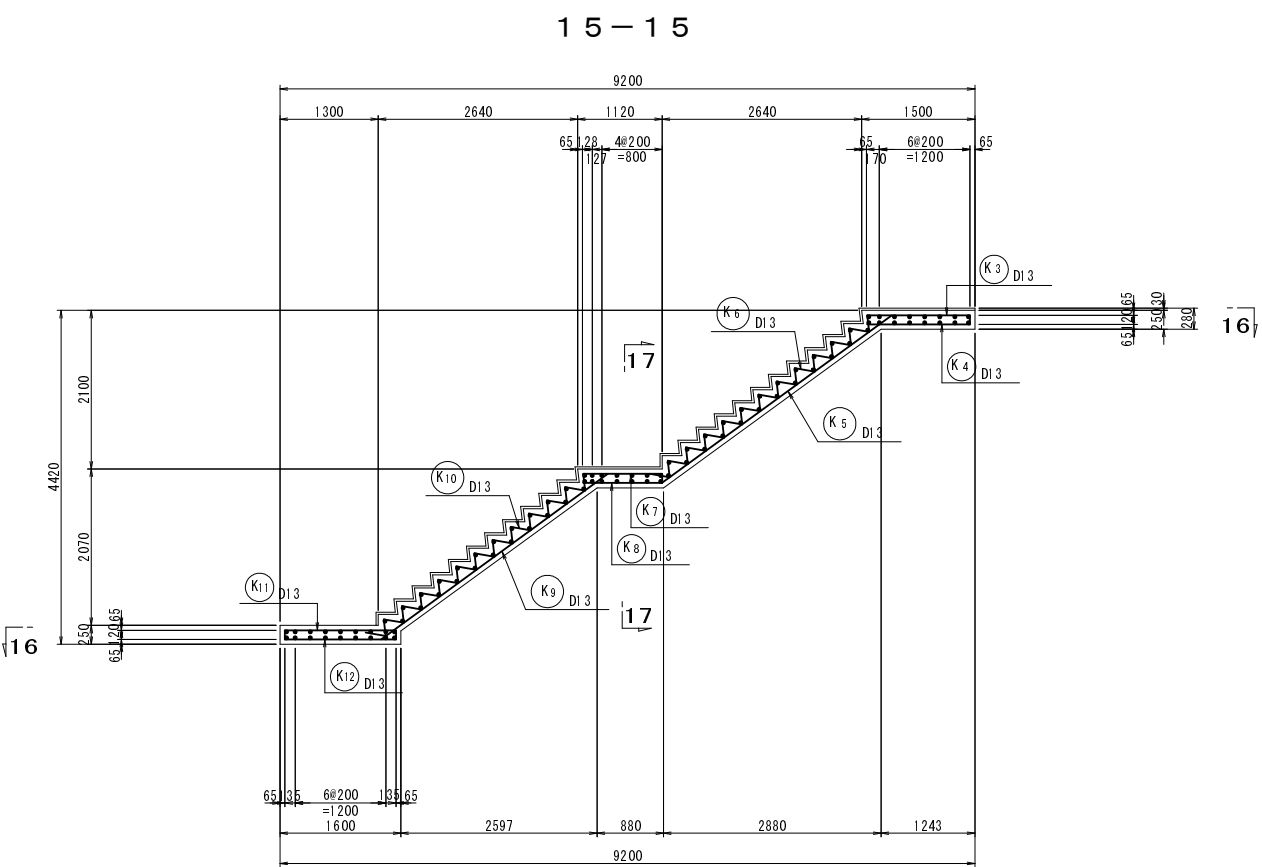


KEY PLAN

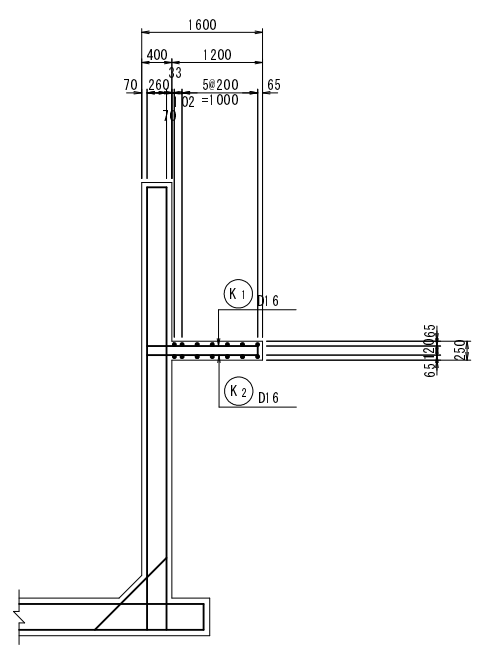


工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽配筋図（５）				
平成	年	月	尺度	1/50	審査
京丹波町水道課			図番	C13	21

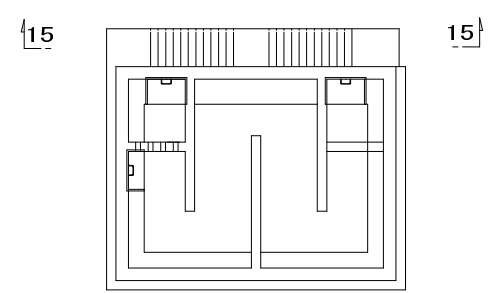
粉末炭接触槽配筋図（6）



17-17

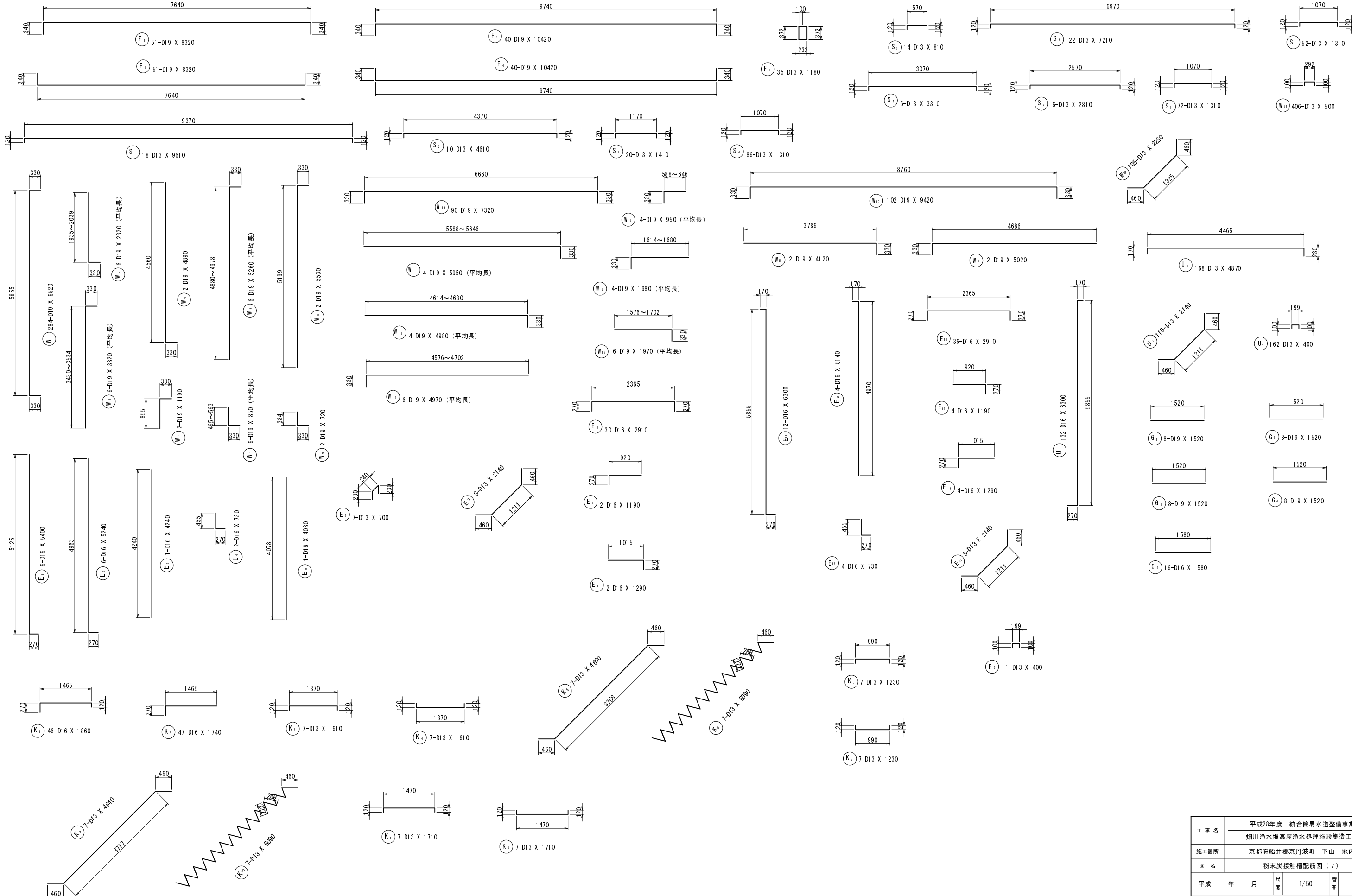


KEY PLAN



工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭接触槽配筋図（6）				
平成	年	月	尺度	1/50	審査
京丹波町水道課			図番	C14	21

粉末炭接触槽配筋図 (7)



工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高圧浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	粉末炭接触槽配筋図 (7)				
平成	年	月	日	1/50	審 査
 京 丹 波 町 水 道 課					図 章
					C15 / 21

粉末炭接触槽配筋図 (8)

鉄筋重量表

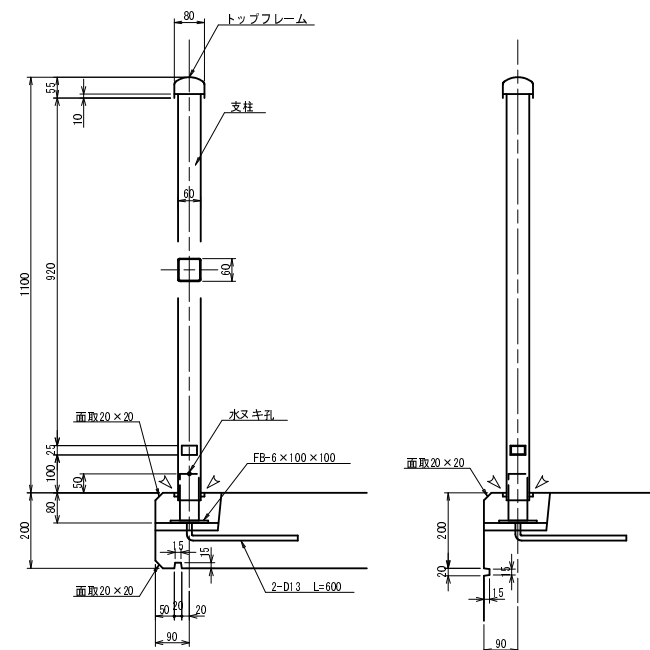
記号	径	長さ	本数	単位重量	1本当り重量	重	量	摘	要
F ₁	D19	8320	51	2.25	18.720	954.7		┌	
F ₂	D19	10420	40	2.25	23.445	937.8		┌┌	
F ₃	D19	8320	51	2.25	18.720	954.7		┌┌	
F ₄	D19	10420	40	2.25	23.445	937.8		┌┌	
F ₆	D13	1180	35	0.995	1.174	41.1		┌	
							3826.1	Kg	
S ₁	D13	9610	18	0.995	9.562	172.1		┌	
S ₂	D13	4610	10	0.995	4.587	45.9		┌┌	
S ₃	D13	1410	20	0.995	1.403	28.1		┌┌	
S ₄	D13	1310	86	0.995	1.303	112.1		┌┌	
S ₅	D13	810	14	0.995	0.806	11.3		┌┌	
S ₆	D13	7210	22	0.995	7.174	157.8		┌┌	
S ₇	D13	3310	6	0.995	3.293	19.8		┌┌	
S ₈	D13	2810	6	0.995	2.796	16.8		┌┌	
S ₉	D13	1310	72	0.995	1.303	93.8		┌┌	
S ₁₀	D13	1310	52	0.995	1.303	67.8		┌	
							725.5	Kg	
W ₁	D19	6520	284	2.25	14.670	4166.3		┌	
W ₂	D19	2320	6	2.25	5.220	31.3		┌	平均長
W ₃	D19	3820	6	2.25	8.595	51.6		┌	平均長
W ₄	D19	4890	2	2.25	11.003	22.0		┌	
W ₅	D19	1190	2	2.25	2.678	5.4		┌	
W ₆	D19	5260	6	2.25	11.835	71.0		┌	平均長
W ₇	D19	850	6	2.25	1.913	11.5		┌	平均長
W ₈	D19	5530	2	2.25	12.443	24.9		┌	
W ₉	D19	720	2	2.25	1.620	3.2		┌	
W ₁₀	D19	7320	90	2.25	16.470	1482.3		┌	
W ₁₁	D19	5950	4	2.25	13.388	53.6		┌	平均長
W ₁₂	D19	950	4	2.25	2.138	8.6		┌	平均長
W ₁₃	D19	4980	4	2.25	11.205	44.8		┌	平均長
W ₁₄	D19	1980	4	2.25	4.455	17.8		┌	平均長
W ₁₅	D19	4970	6	2.25	11.183	67.1		┌	平均長
W ₁₆	D19	1970	6	2.25	4.433	26.6		┌	平均長
W ₁₇	D19	9420	102	2.25	21.195	2161.9		┌	
W ₁₈	D19	4120	2	2.25	9.270	18.5		┌	
W ₁₉	D19	5020	2	2.25	11.295	22.6		┌	
W ₂₀	D13	2250	105	0.995	2.239	235.1		┌	
W ₂₁	D13	500	406	0.995	0.498	202.2		┌	
							8728.3	Kg	
E ₁	D16	5400	6	1.56	8.424	50.5		┌	
E ₂	D16	5240	6	1.56	8.174	49.0		┌	
E ₃	D16	4240	1	1.56	6.614	6.6		┌	
E ₄	D16	730	2	1.56	1.139	2.3		┌	
E ₅	D16	4080	1	1.56	6.365	6.4		┌	
E ₆	D13	700	7	0.995	0.697	4.9		┌	
E ₇	D13	2140	8	0.995	2.129	17.0		┌	
E ₈	D16	2910	30	1.56	4.540	136.2		┌	
E ₉	D16	1190	2	1.56	1.856	3.7		┌	
E ₁₀	D16	1290	2	1.56	2.012	4.0		┌	
E ₁₁	D16	6300	12	1.56	9.828	117.9		┌	
E ₁₂	D16	5140	4	1.56	8.018	32.1		┌	
E ₁₃	D16	730	4	1.56	1.139	4.6		┌	
E ₁₄	D16	2910	36	1.56	4.540	163.4		┌	
E ₁₅	D16	1190	4	1.56	1.856	7.4		┌	
E ₁₆	D16	1290	4	1.56	2.012	8.0		┌	
E ₁₇	D13	2140	8	0.995	2.129	17.0		┌	
E ₁₈	D13	400	11	0.995	0.398	4.4		┌	
							635.4	Kg	

鉄筋重量表

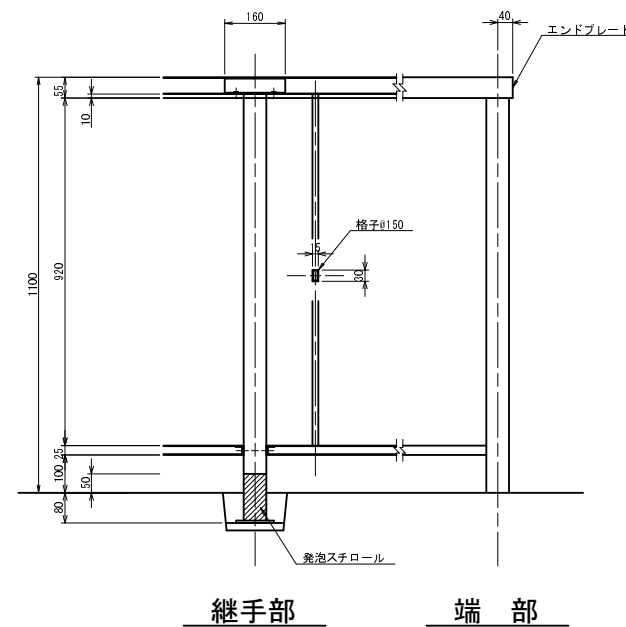
記号	径	長　さ	本数	単位重量	1本当り重量	重　量	摘　要
U ₁	D16	6300	132	1.56	9.828	1297.3	[
U ₂	D13	4870	168	0.995	4.846	814.1	]
U ₃	D13	2140	110	0.995	2.129	234.2	/
U ₄	D13	400	162	0.995	0.398	64.5	]
						2410.1	Kg
G ₁	D19	1520	8	2.25	3.420	27.4	—
G ₂	D19	1520	8	2.25	3.420	27.4	—
G ₃	D19	1520	8	2.25	3.420	27.4	—
G ₄	D19	1520	8	2.25	3.420	27.4	—
G ₅	D16	1580	16	1.56	2.465	39.4	—
						149.0	Kg
K ₁	D16	1860	46	1.56	2.902	133.5	[
K ₂	D16	1740	47	1.56	2.714	127.6	]
K ₃	D13	1610	7	0.995	1.602	11.2	]
K ₄	D13	1610	7	0.995	1.602	11.2	]
K ₅	D13	4690	7	0.995	4.667	32.7	/
K ₆	D13	6090	7	0.995	6.060	42.4	/
K ₇	D13	1230	7	0.995	1.224	8.6	]
K ₈	D13	1230	7	0.995	1.224	8.6	]
K ₉	D13	4640	7	0.995	4.617	32.3	/
K ₁₀	D13	6090	7	0.995	6.060	42.4	/
K ₁₁	D13	1710	7	0.995	1.701	11.9	]
K ₁₂	D13	1710	7	0.995	1.701	11.9	]
						474.3	Kg
合　計		D19	12185.6 Kg				
		D16	2189.9 Kg				
		D13	2573.2 Kg				
総重量		16948.7 Kg					

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高澄浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図 名	粉末炭接触槽配筋図 (8)			
平成	年	月	日	番
	京 丹 波 町 水 道 課			番
				C16 / 21

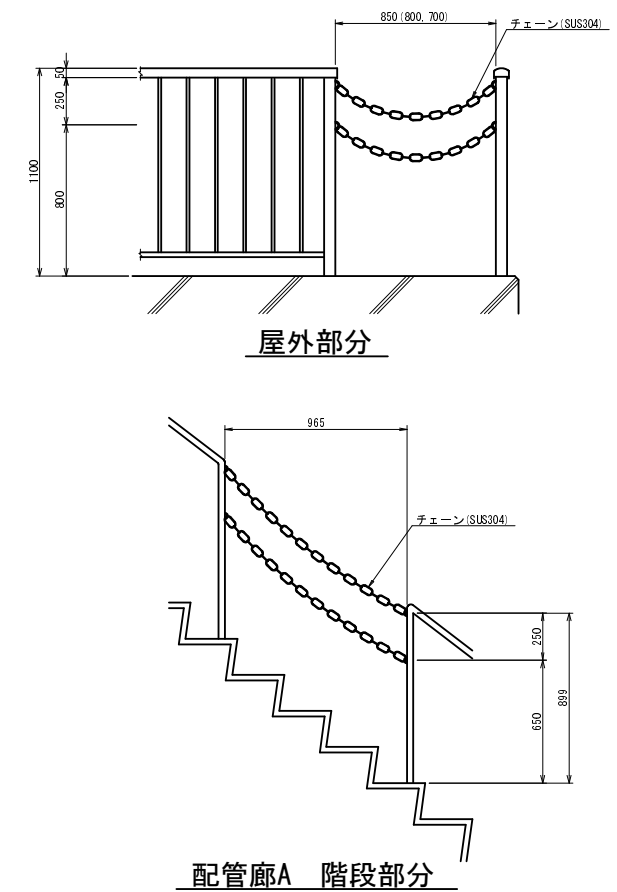
アルミ製手摺詳細図

$$S=1/10$$


アルミ製手摺詳細図

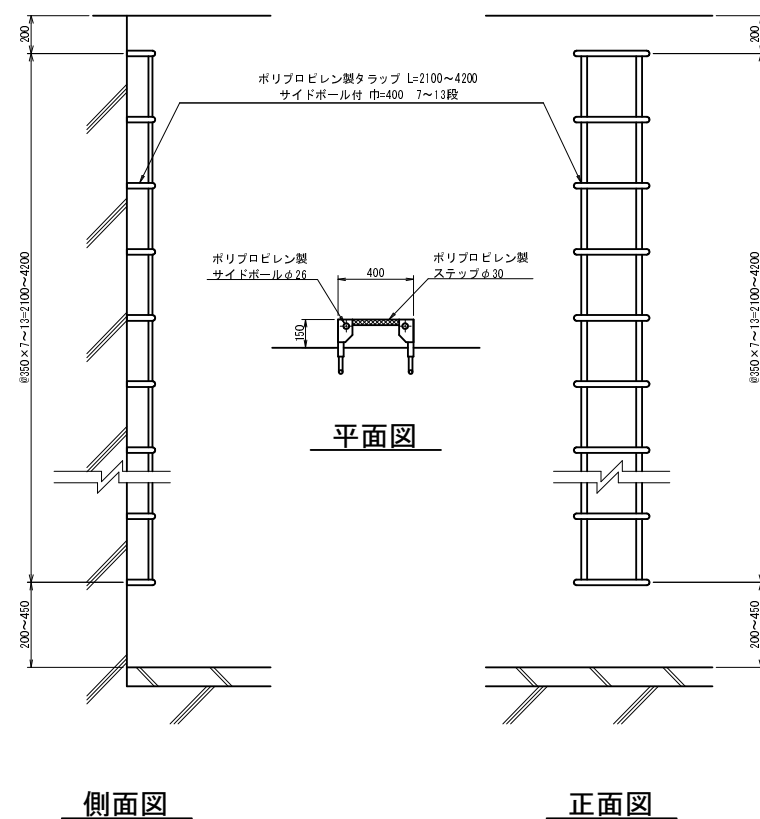
$$S=1/10$$


チェーン詳細図

 $\delta=1/20$ 

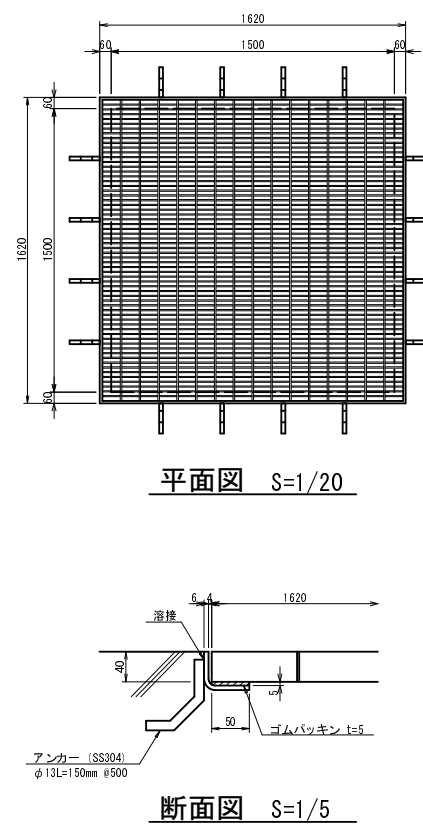
ポリプロピレン製タラップ詳細図

S=1/20

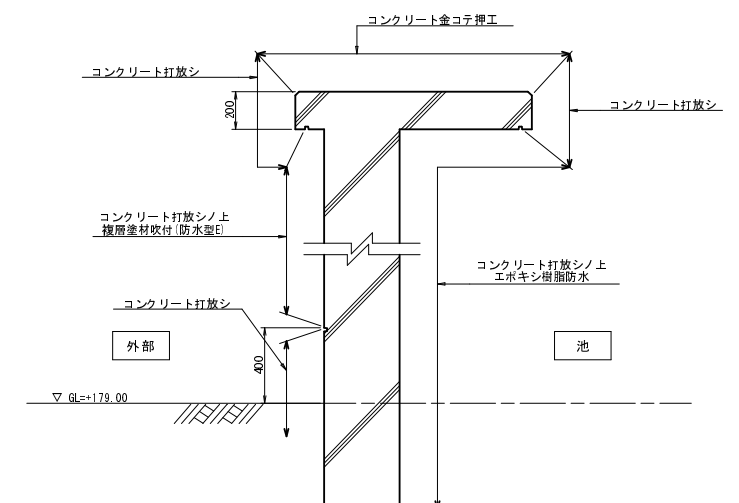


FRP製グレーチング詳細図

S=1/20



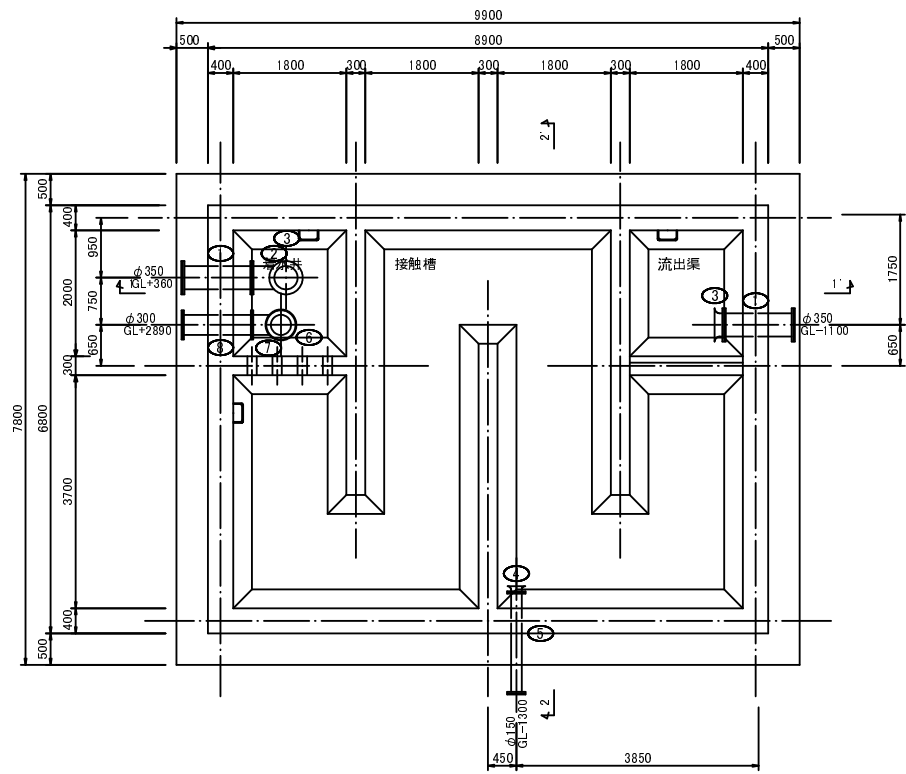
仕上標準詳細図

 $\delta=1/20$ 

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	粉末炭接触槽部分詳細図				
平 成	年	月	尺 度	1/10, 20	審 査
 京 丹 波 町 水 道 課					回 査
					C17 21

粉末炭接触槽内配管図

平面図

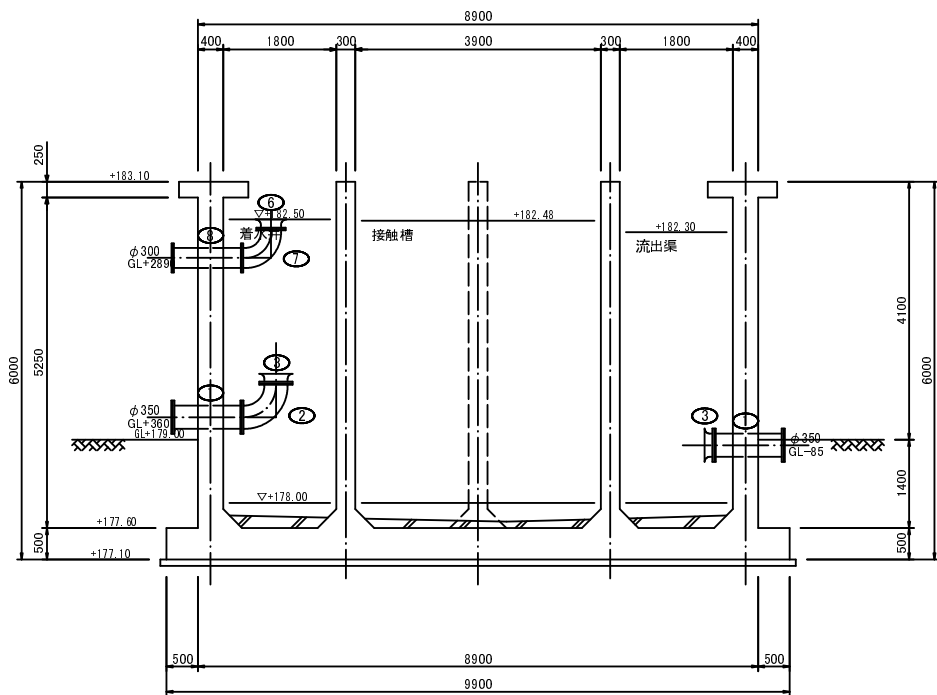


管財リスト

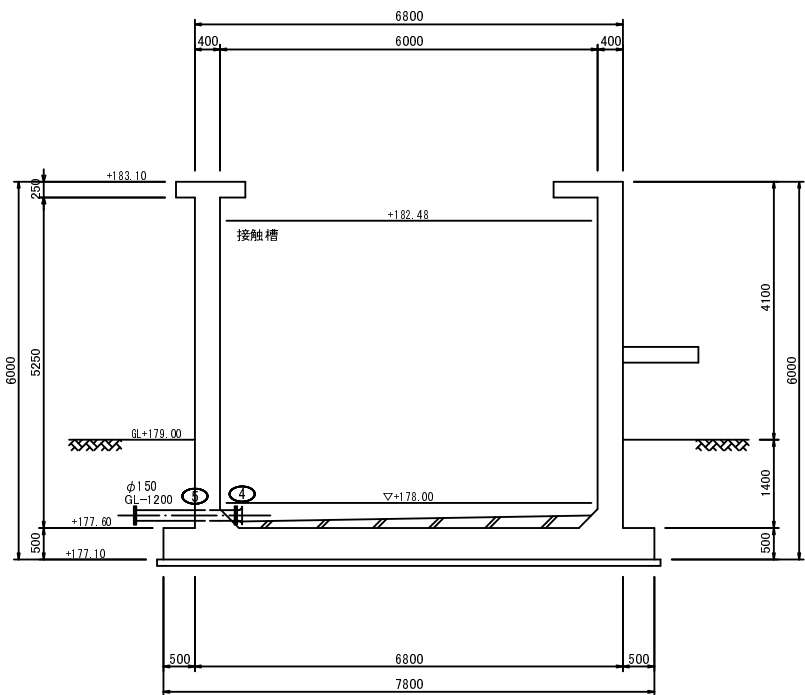
	材質	形状・寸法	名 称	数量	備 考
1	PL	350A×1,100L	両フランジ短管	2	7.5k
2	PL	350A×90°×540L×540L	両フランジエルボ	1	7.5k
3	PL	350A	フランジラップ口	2	7.5k
4	PL	150A	フランジラップ口	1	7.5k
5	PL	150A×1,600L	両フランジ短管	1	7.5k
6	PL	300A	フランジラップ口	1	7.5k
7	PL	300A×90°×460L×460L	両フランジエルボ	1	7.5k
8	PL	300A×1,100L	両フランジ短管	1	7.5k

※施工時には、各部間の寸法を確認の上、墨出し等を行ってから資材の発注および配管施工を行うこと。

1－1'断面図

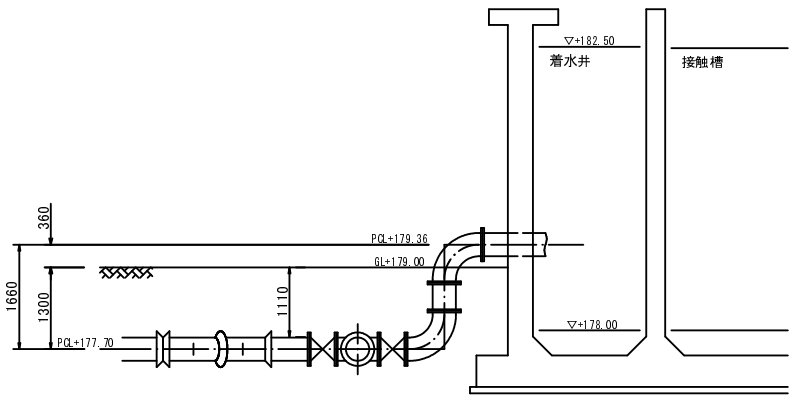


2－2'断面図

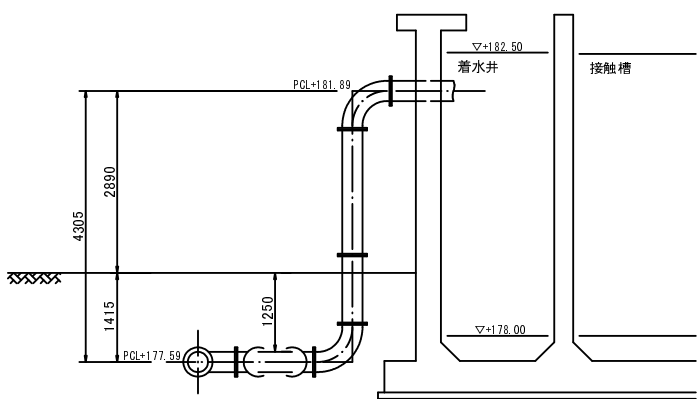


粉末炭接触槽廻り配管図

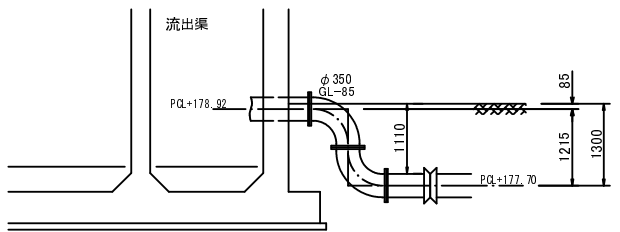
1-1' 断面図



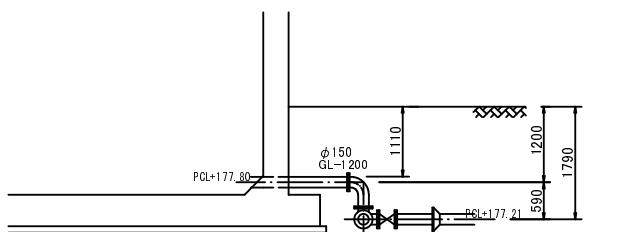
2-2' 断面図



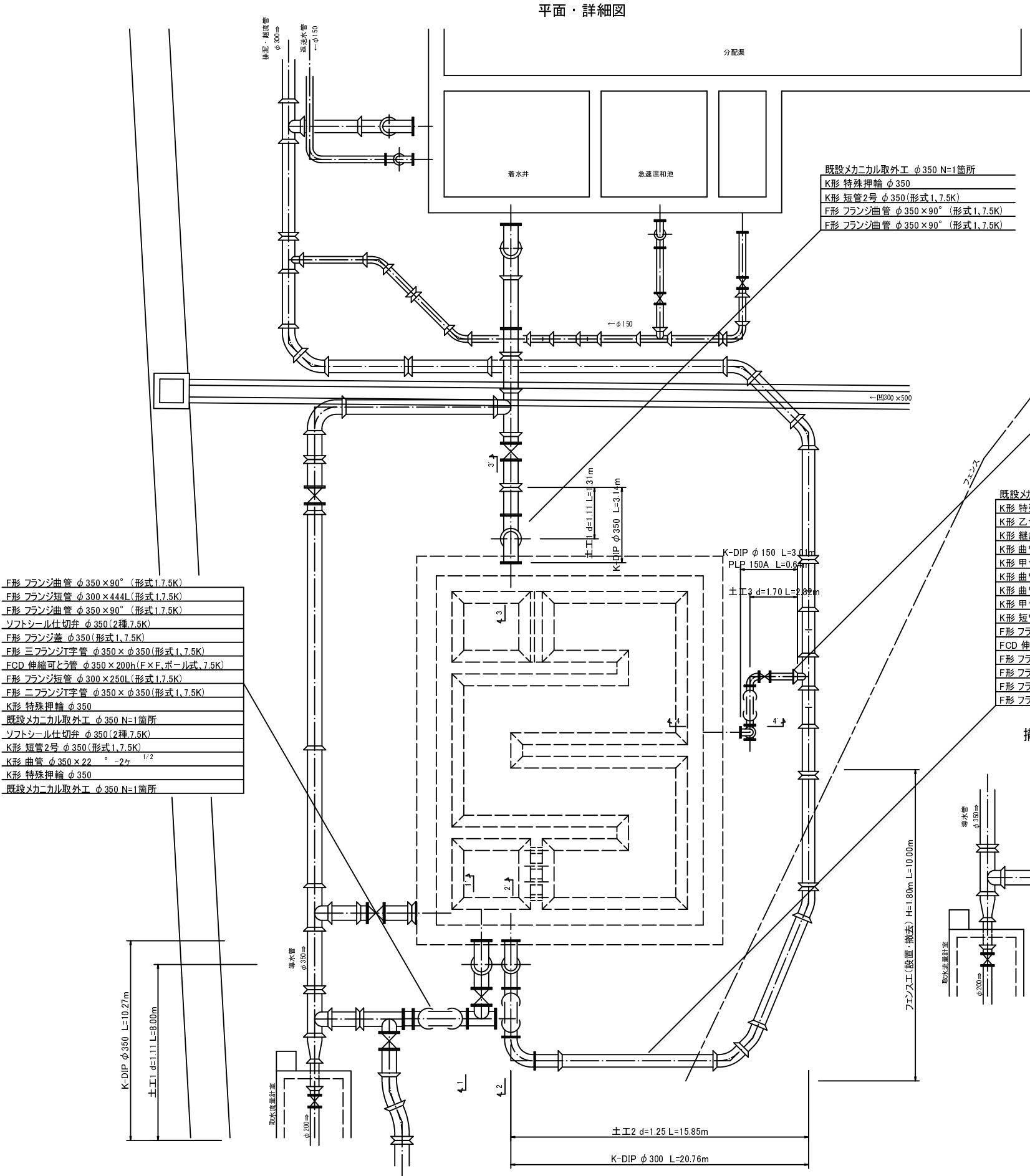
3-3' 断面図



4-4' 断面図



平面・詳細図



既設メカニカル取外工 φ350 N=1箇所

K形 特殊押輪 φ350
K形 短管2号 φ350(形式1,7.5K)
F形 フランジ曲管 φ350×90° (形式1,7.5K)
F形 フランジ曲管 φ350×90° (形式1,7.5K)

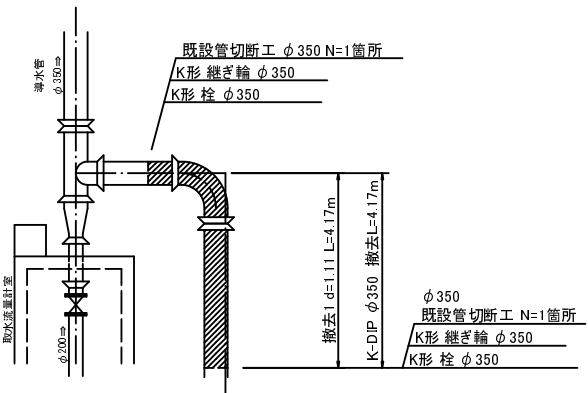
既設メカニカル取外工 φ150 N=1箇所

K形 特殊押輪 φ150
K形 短管2号 φ150(形式1,7.5K)
ソフトシール仕切弁 φ150(2種7.5K)
F形 フランジ曲管 φ150×90° (形式1,7.5K)
FCD 伸縮可とう管 φ150×200h(F×F,ボール式,7.5K)
F形 三フランジT字管 φ150×φ150(形式1,7.5K)
F形 フランジ蓋 φ150(形式1,7.5K)
PLP フランジ曲管 150×90° ×600L×240L(7.5K)

既設メカニカル取外工 φ300 N=1箇所

K形 特殊押輪 φ300
K形 乙切管 φ300×2,843L
K形 継ぎ輪 φ300
K形 曲管 φ300×22 1/2
K形 甲切管 φ300×2,960L
K形 曲管 φ300×22 1/2
K形 曲管 φ300×45°
K形 甲切管 φ300×3,943L
K形 短管2号 φ300(形式1,7.5K)
F形 フランジ曲管 φ300×90° (形式1,7.5K)
FCD 伸縮可とう管 φ300×200h(F×F,ボール式,7.5K)
F形 フランジ曲管 φ300×90° (形式1,7.5K)
F形 フランジ短管 φ300×1,091L(形式1,7.5K)
F形 フランジ短管 φ300×2,000L(形式1,7.5K)
F形 フランジ曲管 φ300×90° (形式1,7.5K)

撤去図



既設管切断工 φ350 N=1箇所

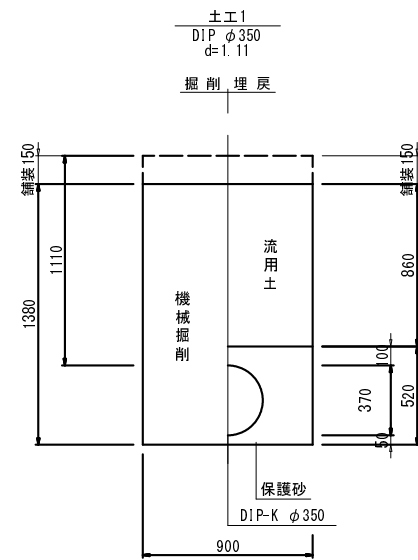
K形 継ぎ輪 φ350
K形 栓 φ350

φ350 既設管切断工 N=1箇所

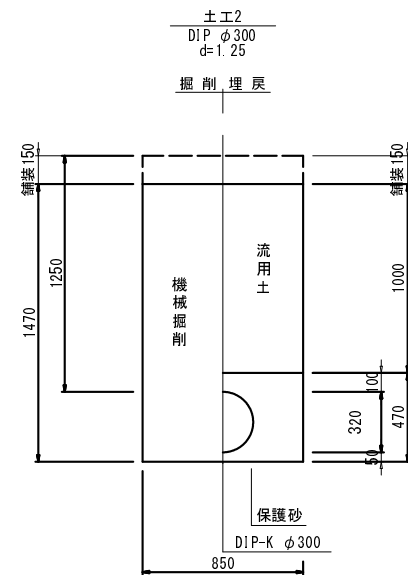
K形 継ぎ輪 φ350
K形 栓 φ350

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
回 名	粉末炭接触槽廻り配管図			
平成 年 月 尺 度	1/60	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課	同 書	C19		21

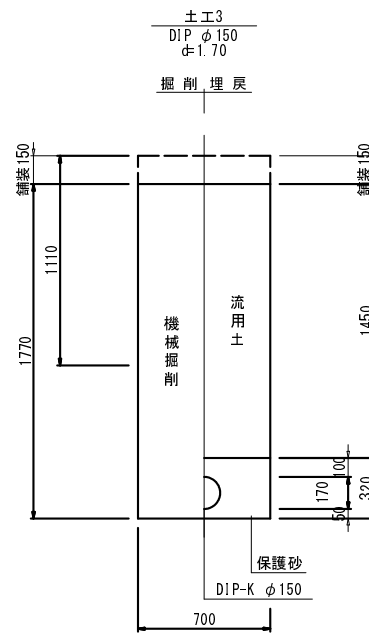
土工掘削断面図 S=1:20



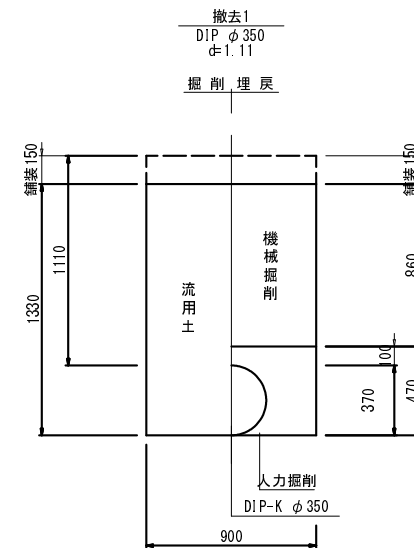
	掘削機	機械掘	1.242	m ³ /m
	不陸整正		—	m ² /m
	保護砂		0.360	m ³ /m
埋 戻	路盤工 (RC-40)		—	m ² /m
	路盤工 (R-30)		—	m ² /m
	発生土		0.774	m ³ /m
鋪 装	基層工 (As)		—	m ² /m
	表層工 (As)		—	m ² /m
残土処理	土砂		0.468	m ³ /m
	Asガラ		—	m ³ /m



	掘削	機械掘	1.250 m ³ /m
	不陸整正	—	m ² /m
	保護砂	0.319 m ³ /m	
埋戻	路盤工 (RC-40)	—	m ² /m
	路盤工 (M-30)	—	m ² /m
	発生土	0.850 m ³ /m	
鋪装	基層工 (As)	—	m ² /m
	表層工 (As)	—	m ² /m
残土処理	土砂	0.400 m ³ /m	
	Asガラ	—	m ³ /m

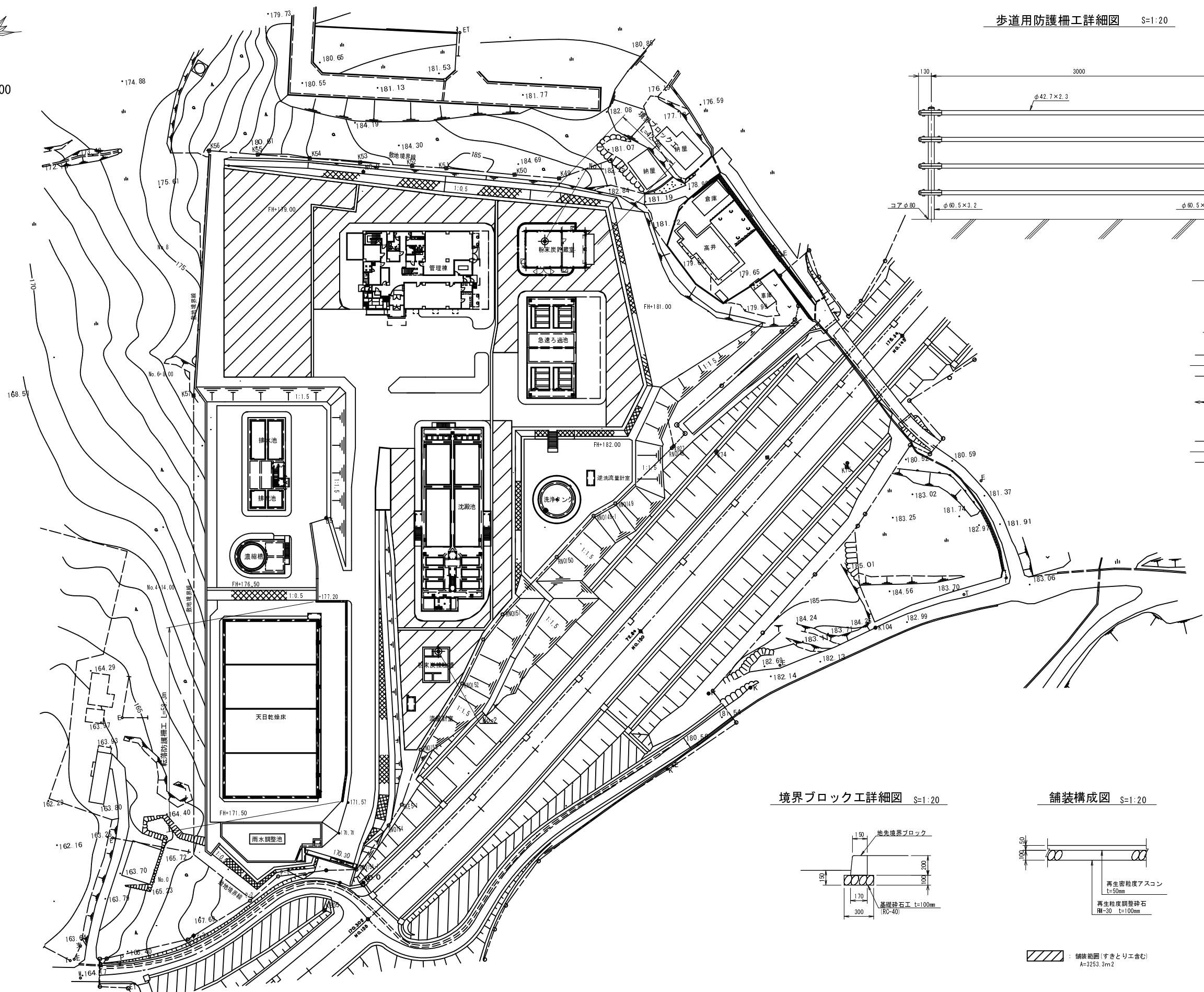


	密削	機械掘	1.239	m ³ /m
	不陸整正		—	m ² /m
	保護砂		0.201	m ³ /m
埋 戻	路盤工 (RC-40)		—	m ² /m
	路盤工 (M-30)		—	m ² /m
	養生土		1.015	m ³ /m
鋪 装	基層工 (As)		—	m ² /m
	表層工 (As)		—	m ² /m
残土処理	土砂		0.224	m ³ /m
	Asガラ		—	m ³ /m

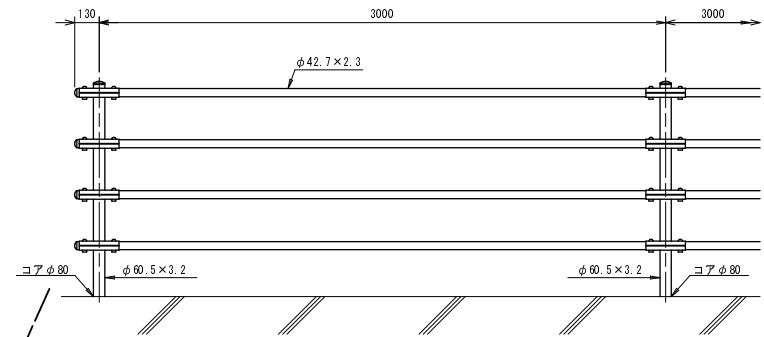


掘削	機械掘	0.774	m ³ /m
	人力掘	0.315	m ³ /m
埋 戻	不陸整正	—	m ² /m
	保護砂	—	m ³ /m
	路盤工 (RC-40)	—	m ² /m
	路盤工 (M-30)	—	m ² /m
	発生土	1.197	m ³ /m
鋪 装	基層工 (As)	—	m ² /m
	表層工	—	m ² /m
残土処理	土砂	—	m ³ /m
	Asガラ	—	m ³ /m

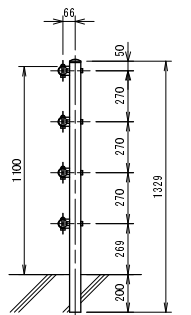
畑川浄水場場内付帯工



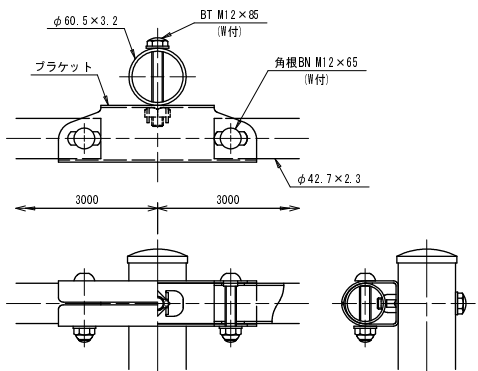
歩道用防護柵工詳細図 S=1:20



コンクリート建込用 (W)



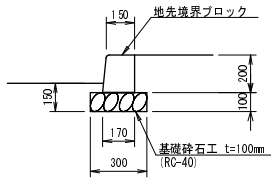
ブラケット取付図 S=1:4



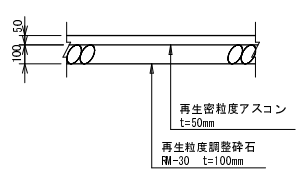
設計条件
設計荷重・・・防護柵の設置基準・同解説のP 種に基づく。

備考
1. 外装は亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐腐性樹脂粉体塗装とする。但し、ボルト・ナットは溶融亜鉛めっきのみとする。

境界ブロック工詳細図 S=1:20



舗装構成図 S=1:20



： 舗装範囲 (すきとり工含む)
A=3253.3m²

工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図名	畑川浄水場付帯工事図			
平成 年 月	尺 度	図 示	審 査	
京 丹 波 町 水 道 課			図 番	C21 21

簡易水道統合整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事

工事設計図

平成 年 月 (金 秋)

特 記 仕 様 書

I 工事概要

簡易水道統合整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事

1. 工事場所

京都府船井郡京丹波町 下山 地内

2. 敷地面積

15,452.30m2

3. 工事種目

(1) 管理棟

構造・規模 : 鉄骨造・地上1階建て

建築面積 : 147.25㎡

延床面積 : 147.25㎡

最高高さ : 9.40m (設計GLより)

軒の高さ : 8.95m (設計GLより)

4. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。

・「3. 工事種目」のうち の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2 仮設工事

工事範囲すべて

3 土工事

4 地業工事

5 鉄筋工事

6 コンクリート工事

7 鉄骨工事

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

9 防水工事

10 石工事

11 タイル工事

12 木工事

13 屋根及びとい工事

14 金属工事

15 左官工事

16 建具工事

17 カーテンウォール工事

18 塗装工事

19 内装工事

20 ユニット及びその他の工事

II 建築工事仕様

1. 標準仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制度の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成25年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。

2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（ ）図、機械設備工事の特記仕様書は（ ）図による。

3. 特記仕様書の表記

(1) 項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と ○印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) [G]印は「国等による環境物品等の調達推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成25年2月閣議決定）」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

(5) 本仕様書に記載されている監督職員は監督員と読み替える。

章 項 目 特 記 事 項

1 設計図書

1 適用基準等

図面、本特記仕様書、標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。

・建築物解体工事共通仕様書（平成24年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部

本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。

○建築工事標準詳細図（平成22年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課

その他

○工事写真の振り方 建築編 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

2 工事実績情報の登録

※適用する

3 適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

○風圧力

風速 (Vc= 30 m/s)

地表面粗度区分（・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ ）

○積雪荷重

建設省告示第1455号における区域 別表（ 26）

4 電気保安技術者

※適用する

5 施工条件

下記以外は現場説明書による。

・工事用車両の駐車場 ※図示

・資機材置場 ※図示

・建設発生土仮置場 ※図示

・ ※図示

6 発生材の処理等

※現場説明書による ○構外搬出適切処理

7 環境への配慮

(1.4.1)

8 材料の品質等

(1.4.2)

（1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。

① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、経衛材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。

② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。

③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性を除く）が添加されていない材料を使用する。

④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

（2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三种」とは次の③又は④に該当する材料を指す。

① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三种ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料

② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三种ホルムアルデヒド発散建築材料

④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

（3）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

（4）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同 等品を使用するものとし、同 等品を使用する場合は監督職員の承認を受ける。

（5）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

（6）本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関〔一社〕公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価事業」の評価書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。

① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。

② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。

③ 安定的な供給が可能であること。

④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

（7）製造業者等に関する資料の提出を求める材料

床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、押出し成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材、陶磁器質タイル、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフトレン、吸水調整材、アルミニウム製建具、樹脂製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類、クローザ類、自動扉機構、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス、防水剤、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、エポキシ樹脂、タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、

技能士

(1.5.2)

適用工事種類 技能検定作業

仮設工事 ○とび作業

鉄筋工事 ○鉄筋組立て作業

コンクリート工事 ○型枠工事作業 ○コンクリート圧送工事作業

鉄骨工事 ○構造物鉄工作業 ○とび作業

コンクリートブロック ○LCパネル

・エーメルシーパネル工事作業

・押出成形セメント板工事

防水工事

・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業

・アクリルゴム系塗膜防水工事作業

・合成ゴム系シート防水工事作業

・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業

○シーリング防水工事作業

・改質アスファルトシートーテ工法防水工事作業

・FRP防水工事作業

・石張り作業

石工事 ○タイル張り作業

タイル工事 ○大工工事作業

木工事 ○内外装板金作業 ・スレート工事作業

屋根及びとい工事 ○鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業

金属工事 ○左官作業

左官工事 ○ビル用サッシ施工作業 ○ガラス工事作業

建具工事 ○自動ドア地工作業

カーテンウォール工事

・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ施工作業

・ガラス工事作業

塗装工事 ○建築塗装作業

内装工事 ○プラスチック系床仕上げ工事作業 ○カーペット系床仕上げ作業

○ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業

排水工事

・建築配管作業

舗装工事

・溶融ペイントハンドマーカ―工事作業

・加熱ペイントマシンマーカ―工事作業

・造園工事作業

10 化学物質の濃度測定

(1.5.9)

(1) 屋内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、測定結果を監督員に報告する。

(2) 測定対象室及び測定箇所は仕上表による。

(3) 測定は、バッシン監視採取機器により行う。

(4) 測定方法及び測定結果の報告は、現場説明書による。

1 完成時の提出図書

(1.7.1~3) (表1.7.1)

※完成図書 提出部数 ※(A3版 原図及び複写図(2部)) ・ 部

CAデータ ※提出する ・提出しない

※保全に関する資料 提出部数 ※2部 ・ 部

2 完成写真

工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。

分類・規格 撮影箇所数 提出部数 原板の大きさ (mm)

カラー ※キャビネ版 外部 () 内部 () ※2 ※100×125以上

外観正面 (※1・) ※5 ・

・カラー四切木製パネル 外部 () 内部 () ※2

・カラー半切木製パネル 外部 () 内部 () ※2

電子データ 外部 () 内部 () ※2 ※500万画素以上

電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形最高画像とし、CD-Rに提出する。

・建築写真の撮影実績があるもので、監督職員が承諾する撮影業者

・任意

3 他工事又は他工種との取合い

監督職員と協議する。

4 設計GL

※図示 ・ ()

5 足場その他

(2.2.4)

・「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の手すり据置き方式又は3手すり先行専用足場方式により行う。

6 監督職員事務所

(2.3.1)

※設ける ○設けない

規模及び仕上げの程度は現場説明書による。

7 工事用水

構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる (※有償 ・無償)

8 工事用電力

構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる (※有償 ・無償)

9 埋戻し及び盛土

(3.2.3)

埋戻し及び盛土の種類

・A種 適用場所 ()

○B種 適用場所 ()

・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 ()

・D種 (細粒分 (75μm以下) の含有率 (重量百分率) の上限を50%未満とする。) 適用場所 ()

10 建設発生土の処理

(3.2.5)

※現場説明書による ・構外搬出適切処理

○構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に均均し

11 山留めの存置

(3.3.3)

存置範囲 (※図示 ・)

12 支持地盤

(4.3.4~4.3.5) (4.5.4~4.5.5)

○杭基礎

支持地盤の位置及び種類 (基礎ぐいの先端位置含む)

○図示による ()

・直接基礎

支持地盤の位置及び種類 (基礎底部の位置含む)

○図示による ()

試験掘り (根切り底の状況の確認等)

・行わない

・行う

位置等 ・図示による () ・現場指示

13 地盤の載荷試験

(4.2.4)

試験の位置、方法等

・図示による ()

2 既製コンクリート杭地業

(4.3.2)

種類

・適心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭)

・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)

・外鉄鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)

SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490 ・

・

寸法、継手、性能等 (種別：種類、性能及び曲げ強度区分) (4.2.2) (4.3.2) (4.3.3)

種類 コンクリート強度 (N/mm²) 杭径 (mm) 厚さ (mm) 杭長 (mm) 継手 径 セット数 長期設計支持力 (kN/本) 備考

試験杭 上杭 中杭 下杭

本 杭 上杭 中杭 下杭

杭先端部形状 (4.3.2)

・開放形 ・半開放形 ・閉そく形

施工方法 (4.3.3~4.3.5)

・打込み工法 (・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ・)

・プレボーリングの併用

・行わない

・行う

掘削深さ及び径

・図示による ()

杭の精度

水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下

杭の傾斜 ・1/100以内

試験杭 (4.2.2) (4.3.3)

試験杭の位置

・図示による ()

打込杭の推定支持力の算定方法

・図示による ()

・セメントミルク工法 (4.2.2) (4.3.4)

アースオーガーの支持地盤への掘削深さ

・1.5m程度

杭の支持地盤への掘入れ深さ

・1.0m以上

杭の精度

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100mm以下

・杭の傾斜

・1/100以内

試験杭

試験杭の位置

・図示による ()

・特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.3.5)

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが以下の値を採用できる工法

α= ()、β= ()、γ= ()

工法

・プレボーリング拡大根固め工法

・中掘り拡大根固め工法

杭周固定液

・使用する ・使用しない

杭の精度 (4.3.5)

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100mm以下

・杭の傾斜

・1/100以内

試験杭

試験杭の位置

・図示による ()

杭継手工法 (4.3.2) (4.3.6) (7.2.5)

・アーク溶接継手

溶接材料

・標準仕様書7.2.5 (a) (b) による

・図示による ()

・無溶接継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法

※審査 (評定又は大臣認定) を受けた工法

検査

※審査 (評定又は大臣認定) により定められた項目

施工

※審査 (評定又は大臣認定) された施工管理基準による

杭頭の処理 (4.3.7)

・処理しない

・処理する

処理方法 (切断に伴う補強方法含む)

・図示による ()

杭頭の中詰め材料

・基礎のコンクリートと同調合のもの

工事名

平成28年度 統合簡易水道整備事業

畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事

施工箇所

京都府船井郡京丹波町 下山 地内

図名

活性化炭入床 建築工事特記仕様書 (1)

平成 年 月 尺度

――

審査

図番

A1

21

種類の記号
 ・ SKK400 ・ SKK490 ○ STK490

(4.4.2)

寸法、継手等 ※別図に記載

(4.2.2) (4.4.2)

		種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手数	セッ ト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本 杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

杭先端部形状 (4.4.2)

・開放形 ・半開放形 ○閉そく形

先端部の補強 (4.4.2)

・標準仕様書 図4.4.1、表4.4.2による

先端部の補強(補強バンド等) 及びその他付属品の材質

○S400と同等又はそれ以上

施工方法 (4.4.1)

・打込み工法 (・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー) (4.2.2) (4.4.3)

 プレローリングの併用

 ・行わない

 ・行う

 掘削深さ及び径

 ・図示による ()

杭の精度

・水平方向の位置ずれ

 ・杭径の1/4かつ100mm以下

・杭の傾斜

 ・1/100以内

試験杭

 試験杭の位置

 ・図示による ()

 打込杭推定支持力の算定

 ・図示による ()

・特定埋込杭工法 (4.4.4)

 ・平13国交省第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法

○平13国交省第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α 、 β 、 γ が下記の値を採用できる工法

$\alpha=()$ 、 $\beta=()$ 、 $\gamma=()$

工法

・回転圧入鋼管杭工法

杭の精度 (4.4.3)

・水平方向の位置ずれ

 ・杭径の1/4かつ100mm以下

・杭の傾斜

 ・1/100以内

試験杭

 試験杭の位置

 ・図示による ()

杭の現場継手 (4.4.5)

○溶接継手

形状

・JIS A 5525による

溶接材料 (4.4.2)

・標準 J.2.5(a) (b) による

・図示による ()

・溶接継手(継手部に接合金具を用いた方式のもの)

工法

 ※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法

検査

 ※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目

施工

 ※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による

杭頭の処理 (4.3.7) (4.4.6)

・処理しない

○処理する

 処理方法(切断にともなう補強方法を含む)

 ○図示による ()

 杭頭の中詰め材料

 ・基礎のコンクリートと同調合のもの

掘削工法 (4.5.1) (4.5.4)

・アースドリル工法(安定液 ・使用する ・使用しない)

・リバース工法

・オールケーシング工法(孔内の水張り ・行う ・行わない)

併用する工法 (4.5.1) (4.5.5)

・場所打ち鋼管コンクリート杭工法

・掘削杭工法(安定液 ・使用する ・使用しない)

・

寸法等

(4.2.2)

	軸径 (mm)	掘底径 (mm)	杭長 (mm)	セッ ト数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考
試験杭						
本 杭						

鉄筋の種類 (4.5.3)

種類の記号	呼び径 (mm)	備 考
・ SD295A		
・ SD345		

帯筋 (4.5.3)

・図示による ()

鉄筋かごの補強

・ 杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。

・

鉄筋の最小かぶり厚さ

・ 100mm

鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ

・ 図示による（ ）

セメントの種類

・ 高炉セメントB種 [G]

コンクリートの種別

・ A種 ・ B種 ・ 審査（評定又は大臣認定）された内容による

コンクリートの設計基準強度

・ 図示による（ ）

構造体強度補正値

・ 3N/mm

・ 図示による（ ）

・ 審査（評定又は大臣認定）された内容による

鋼管巻き材料

・ SKK400 ・ SKK490

試験杭

試験杭の位置

・ 図示による（ ）

孔壁測定

測定箇所

・ 試験杭（ ）箇所及び本杭（ ）箇所

杭の精度

水平方向の位置ずれ

・ 杭径の1/4かつ100mm以下

杭の傾斜

・ 1/100以内

材料

○再生クラッシャー[G] ・ 切込砂利及び切込碎石

砂利厚さ

※60mm

適用箇所

・ 基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下

○図示による（ ）

指コンクリートの厚さ

※50mm

施工範囲

・ 基礎梁下、土に接するスラブ下

○図示による（ ）

設計基準強度

※18N/mm

スラブ

※15cm又は18cm

材料

・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上

施工範囲

・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピットを除く）

・

種類及び施工方法等

・ 図示による（ ）

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径(mm)	備 考
○SD295A	○D16以下	・
○SD345	○D19以上	・
・		
・		

形状等

種 類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
・ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

継手方法等

部 位	継手方法	呼び径(mm)
柱・梁の主筋	○ガス圧接(D19以上) ・ 機械式継手 ・ 溶接継手	
耐力壁の鉄筋	○重ね継手	
その他の鉄筋	○重ね継手	
()		

耐力壁の重ね継手の長さ

○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a)(2)）

○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a)(3)）

継手位置図

○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）

・

鉄筋の定着方法

○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b)）

・

鉄筋の定着の長さ

○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b)）

・

最小かぶり厚さ			(5.3.5)
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）			
・			
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無			
・無し			
・有り 適用箇所（ ）			
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する			
軽量コンクリートで土に接する部分			
・無し			
・有り 適用箇所（ ）			
・最小かぶり厚さに加える厚さ（ ）mm			
耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）			
・無し			
・有り 適用箇所（ ）			
・最小かぶり厚さに加える厚さ（ ）mm			
鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継手を除く）			(5.3.5)
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）			
・			
使用箇所			
・図示による（ ）			
H12建告第1463号に適合する性能			(5.5.2)
・A級			
機械式継手の種類及び工法（ ）			(5.5.2)
鉄筋相互のあき			(5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）			
・			
品質の確認方法			(5.5.2)
・図示による（ ）			
不良となった継手の修正方法等			(5.5.2)
・図示による（ ）			
使用箇所			
・図示による（ ）			
H12建告第1463号に適合する性能			(5.5.3)
・A級			
鉄筋相互のあき			(5.3.5)
・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）			
・			
継手の工法			(5.5.3)
・図示による（ ）			
品質の確認方法			(5.5.3)
・図示による（ ）			
不良となった継手の修正方法等			(5.5.3)
・図示による（ ）			
各部配筋			(5.3.7)
○図示による（構造関係共通図（配筋標準図））			
・			
外観試験			(5.4.9) (5.4.10)
※行う（全数）			
抜取試験			(5.4.9) (5.4.10)
※超音波探傷試験			
・引張試験			
試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする			
・普通コンクリート			(6.2.1～6.2.4)
設計基準強度（N/mm ² ）	スラブ	適用箇所	
○4	○8	建物躯体	
・			
・			
・軽量コンクリート			(6.2.1～6.2.3) (6.10.1～6.10.2)
設計基準強度（N/mm ² ）	スラブ	適用箇所	
・			
・			
類別			(6.2.1)
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）			
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）			
種類			(6.3.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする）			
・高炉セメントB種 [㊦]	使用部位（ ）		
・フライアッシュセメントB種 [㊧]	使用部位（ ）		
・			
アルカリシリカ反応性による区分			(6.3.1)
※A	・B		
○混和剤			(6.3.1)
混和剤の種類			
※標準仕様書6.3.1(d)(i)による			
・混和材			(6.3.1)
混和材の種類			
※標準仕様書6.3.1(d)(ii)による			

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 内地				
図 名	活性汚染土埋 埋置工事特仕様書 (2)				
平成 年 月 日	年度	—	図番		
	京丹波町水道課			図番	A2 / 21

鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力
(7.1.1)(7.1.3)
※建築基準法 第77条の5(6)に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(M)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する工場 (標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)

②施工管理技術者

適用する
・適用しない

③鋼材

材質等
(7.2.1)

種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格
B C R 2 9 5	柱主材	○大臣認定品
S N 4 0 0 B	梁主材	○JIS規格による
S N 4 9 0 C	ダイヤフラム・ベースプレート	○JIS規格による
S S 4 0 0	間柱・小梁・ブレース	○JIS規格による
		・JIS規格による

有効細長比 (圧縮材に限る)
・図示による ()

ボルトの区分
(7.2.2)
○トルシア形高力ボルト
セットの種類
・2種 (SIOT)
・JIS形高力ボルト
セットの種類
・2種 (FIOT)

高力ボルトの径
(7.2.2)
○図示による ()
ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等
(7.3.2)
○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1線端距離、ボルト間隔)
・

すべり係数試験
(7.4.2)
※行わない
・行う
試験方法等
・図示による ()

④普通ボルト

ボルト及びナットの材料
(7.2.3)
○標準仕様書表7.2.3による

座金
(7.2.3)
○標準仕様書7.2.3(d)による

ボルトの径
(7.2.3)
○図示による ()

ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等
(7.3.2)
○図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1線端距離、ボルト間隔)
・

ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等
(7.3.2)
・図示による (構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1-1線端距離、ボルト間隔)

座金
(7.12.4)
・ブラスト処理 (表面粗度50μmRz 以上)
・ブラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による ()

すべり耐力等の確認方法
※すべり耐力試験
試験方法等
・図示による ()

⑤溶接材料

溶接材料
(7.2.5)
○標準仕様書 7.2.5(a) (b) による
・図示による ()
・

種類
(7.2.6)
建築用ターンバックル胴
※割棒式
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト

ねじの呼び
(7.2.6)
○図示による ()

10デッキプレート

材質、形状及び寸法
(6.8.3)(7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構造			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構造			
・床型使用			

開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む)
・図示による ()
鉄骨部材への溶接方法
・図示による ()
耐火認定
・有り
耐火時間
・図示による ()
・無し

11 レール及びその付属品

12 スタッド

③柱底均しモルタル

14 工作図

⑤製作精度

16 鉄骨の仮組

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

17 溶接作業者の技量付加試験

③溶接接合

3 造作用集成材	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材	(12.2.1)	6 接着剤	接着剤に含まれる可塑剤は、揮発性のものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外	(12.2.2.3)	④ 除菌 H 剤	①ステンレスの表面 仕上げ	<table><tr><td colspan="2">(14.2.1)</td></tr><tr><td>種 別</td><td>施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）</td></tr><tr><td>※HL程度</td><td></td></tr><tr><td>・鏡面仕上 程度</td><td></td></tr><tr><td>・No.2B 程度</td><td></td></tr></table>	(14.2.1)		種 別	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）	※HL程度		・鏡面仕上 程度		・No.2B 程度		⑤ 耐 時 候 耐 熱	2 アルミニウム及び アルミニウム合金 の表面処理	<table><tr><td colspan="3">(14.2.2) (表14.2.1)</td></tr><tr><td>種 別</td><td>皮膜又は複合 皮膜の種類</td><td>施工箇所 (成形板、塗木、建具以外)</td></tr><tr><td>・A-1種</td><td>※AA15</td><td></td></tr><tr><td>・A-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）</td><td>※AA15</td><td></td></tr><tr><td>・B-1種</td><td>※B</td><td></td></tr><tr><td>・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）</td><td>※B</td><td></td></tr><tr><td>・C-1種</td><td>※AA6</td><td></td></tr><tr><td>・C-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）</td><td>※AA6</td><td></td></tr><tr><td>・D種</td><td></td><td></td></tr></table> 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色	(14.2.2) (表14.2.1)			種 別	皮膜又は複合 皮膜の種類	施工箇所 (成形板、塗木、建具以外)	・A-1種	※AA15		・A-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※AA15		・B-1種	※B		・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※B		・C-1種	※AA6		・C-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※AA6		・D種			3 鉄鋼の亜鉛めっき	<table><tr><td colspan="3">(14.2.3)</td></tr><tr><td>表面処理方法</td><td>種 別</td><td>施工箇所（手すり、タラップ以外）</td></tr><tr><td rowspan="4">溶融亜鉛めっき</td><td>・A種</td><td></td></tr><tr><td>・B種</td><td></td></tr><tr><td>・C種</td><td></td></tr><tr><td>・D種</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">電気亜鉛めっき</td><td>・E種</td><td></td></tr><tr><td>・F種</td><td></td></tr></table>	(14.2.3)			表面処理方法	種 別	施工箇所（手すり、タラップ以外）	溶融亜鉛めっき	・A種		・B種		・C種		・D種		電気亜鉛めっき	・E種		・F種		4 軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 屋外 ※25型 ・19型 屋内 ※19型 ・25型 (14.4.2～4) (表14.4.1) ・屋外の軒天井、ピロティ天井等 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法） ・適用しない 野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※図示 周辺部の端からの間隔 ・図示 野縁の間隔 ・図示 ・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※図示 ・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合 補強方法 ※標準仕様書14.4.4(h) (1)～(2)による ・図示 ・天井のふところ3.0mを超える場合 補強方法 ※図示 ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ・図示 補強方法 ※図示	5 軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーの種類 (14.5.3) (表14.5.1) ※標準仕様書14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示 スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示	6 金属成形板張り	<table><tr><td colspan="6">(14.6.2.3) (表14.2.1)</td></tr><tr><td rowspan="2">種別</td><td rowspan="2">製法</td><td rowspan="2">形状</td><td rowspan="2">板幅 (mm)</td><td rowspan="2">板厚 (mm)</td><td>表面処理</td></tr><tr><td>種別</td><td>皮膜等の種類</td></tr><tr><td rowspan="4">・73mm</td><td rowspan="4">・押出し ・ロール ・プレス ・ハナ形</td><td rowspan="4">21mm ハナ形</td><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td>・B-1種 ※B</td></tr><tr><td>・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー） ※B</td></tr><tr><td>・B-1種 ※AA6</td></tr><tr><td>・C-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー） ※AA6</td></tr><tr><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>・D種</td></tr><tr><td>・</td></tr></table> 取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・図示 伸縮調整継手 ・設ける（施工箇所 ・図示 ・） ・設けない (14.7.2.3) (表14.2.1) (表14.7.1) 種類 ・250形 ・300形 ・350形 ・200形 表面処理 種別（ ）種 皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による ・） 着色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー） 塗木の固定金具の工法等 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法） ・適用しない (14.8.2.3)	(14.6.2.3) (表14.2.1)						種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理	種別	皮膜等の種類	・73mm	・押出し ・ロール ・プレス ・ハナ形	21mm ハナ形			・B-1種 ※B	・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー） ※B	・B-1種 ※AA6	・C-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー） ※AA6	・					・D種	・	⑦手すり及びタラップ	手すり ・ステンレス製 SUS 304（表面処理 ※HL程度 ・No.2B程度 ・） ・鋼製（表面処理 ・溶融亜鉛めっきC種 ・） タラップ ○ステンレス製 SUS 304（表面処理 ※研磨なし ・） ・鋼製（表面処理 ・溶融亜鉛めっきC種 ・）	⑥ 耐 時 候 耐 熱	1 モルタル塗り	既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ） 形状（※図示 ・） (15.2.5) ・設けない 床目地 ・設ける（工法※押し目地 ・） ・設けない 外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験 ・適用する ・適用しない ・防水剤
	(14.2.1)																																																																																																														
	種 別	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）																																																																																																													
	※HL程度																																																																																																														
	・鏡面仕上 程度																																																																																																														
	・No.2B 程度																																																																																																														
	(14.2.2) (表14.2.1)																																																																																																														
	種 別	皮膜又は複合 皮膜の種類	施工箇所 (成形板、塗木、建具以外)																																																																																																												
	・A-1種	※AA15																																																																																																													
	・A-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※AA15																																																																																																													
・B-1種	※B																																																																																																														
・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※B																																																																																																														
・C-1種	※AA6																																																																																																														
・C-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※AA6																																																																																																														
・D種																																																																																																															
(14.2.3)																																																																																																															
表面処理方法	種 別	施工箇所（手すり、タラップ以外）																																																																																																													
溶融亜鉛めっき	・A種																																																																																																														
	・B種																																																																																																														
	・C種																																																																																																														
	・D種																																																																																																														
電気亜鉛めっき	・E種																																																																																																														
	・F種																																																																																																														
	(14.6.2.3) (表14.2.1)																																																																																																														
種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理																																																																																																										
					種別	皮膜等の種類																																																																																																									
・73mm	・押出し ・ロール ・プレス ・ハナ形	21mm ハナ形			・B-1種 ※B																																																																																																										
					・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー） ※B																																																																																																										
					・B-1種 ※AA6																																																																																																										
					・C-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー） ※AA6																																																																																																										
・					・D種																																																																																																										
					・																																																																																																										
4 造作用単板積層材	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材	(12.2.1)	②折板葺	<table><tr><td colspan="6">(13.2.2) (13.3.2.3) (表13.2.1)</td></tr><tr><td>施工箇所</td><td>形式</td><td>山高、山びつちによる区分</td><td>耐力による区分</td><td>材料による区分</td><td>厚さ (mm)</td><td>軒先 面戸 板</td><td>耐火 性能</td></tr><tr><td rowspan="2">屋根</td><td rowspan="2">・重ね形 ○はせ納め形 ・かん合形 ・</td><td rowspan="2">166 500</td><td rowspan="2">() 種</td><td>※鋼板製 ・73mm合 合板板製</td><td>1.0</td><td>○有り ○0分</td><td>○無し</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> 材料 板及びコイルの種類（ ） 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（ ） 断熱材 ○有り（種別：断熱材裏打（不燃材）厚さ（mm）： 4mm 防火性能： 時間） ・無し 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法） ・適用しない (13.4.2.3)	(13.2.2) (13.3.2.3) (表13.2.1)						施工箇所	形式	山高、山びつちによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先 面戸 板	耐火 性能	屋根	・重ね形 ○はせ納め形 ・かん合形 ・	166 500	() 種	※鋼板製 ・73mm合 合板板製	1.0	○有り ○0分	○無し	・	・	・	・	3 粘土瓦葺	瓦葺木 材質 ※杉又はひのき 寸法 ※幅21×高さ15(mm) 横補強用心材 材質 ※杉又はひのき 寸法 ※幅40×高さ30(mm) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法） ・適用しない 瓦葺木の留付け工法 ※図示 棟の工法 ・7寸丸伏せ棟 ・のし一体棟 ・のし積み棟 といの材種 ・配管用鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ・ステンレス (13.5.2.3) (表13.5.5) ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 鋼管製といの防露巻き ・適用する（工法：※標準仕様書表13.5.5による ・） ・適用しない ルーフトレンド 種 別 施工箇所 ・ろく屋根用（・縦型 ・横型） ・バルコニー用 ・バルコニー中継用	⑦とい	1 モルタル塗り	既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ） 形状（※図示 ・） (15.2.5) ・設けない 床目地 ・設ける（工法※押し目地 ・） ・設けない 外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験 ・適用する ・適用しない ・防水剤																																																																												
(13.2.2) (13.3.2.3) (表13.2.1)																																																																																																															
施工箇所	形式	山高、山びつちによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先 面戸 板	耐火 性能																																																																																																								
屋根	・重ね形 ○はせ納め形 ・かん合形 ・	166 500	() 種	※鋼板製 ・73mm合 合板板製	1.0	○有り ○0分	○無し																																																																																																								
				・	・	・	・																																																																																																								
5 床張り用合板等	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 普通合板	(12.2.1)	3 粘土瓦葺	瓦葺木 材質 ※杉又はひのき 寸法 ※幅21×高さ15(mm) 横補強用心材 材質 ※杉又はひのき 寸法 ※幅40×高さ30(mm) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法） ・適用しない 瓦葺木の留付け工法 ※図示 棟の工法 ・7寸丸伏せ棟 ・のし一体棟 ・のし積み棟 といの材種 ・配管用鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ・ステンレス (13.5.2.3) (表13.5.5) ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 鋼管製といの防露巻き ・適用する（工法：※標準仕様書表13.5.5による ・） ・適用しない ルーフトレンド 種 別 施工箇所 ・ろく屋根用（・縦型 ・横型） ・バルコニー用 ・バルコニー中継用	⑦とい	1 モルタル塗り	既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ） 形状（※図示 ・） (15.2.5) ・設けない 床目地 ・設ける（工法※押し目地 ・） ・設けない 外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験 ・適用する ・適用しない ・防水剤																																																																																																								
3 造作用集成材	ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材	(12.2.1)	6 接着剤	接着剤に含まれる可塑剤は、揮発性のものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外	(12.2.2.3)	④ 除菌 H 剤	①ステンレスの表面 仕上げ	<table><tr><td colspan="2">(14.2.1)</td></tr><tr><td>種 別</td><td>施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）</td></tr><tr><td>※HL程度</td><td></td></tr><tr><td>・鏡面仕上 程度</td><td></td></tr><tr><td>・No.2B 程度</td><td></td></tr></table>	(14.2.1)		種 別	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）	※HL程度		・鏡面仕上 程度		・No.2B 程度		⑤ 耐 時 候 耐 熱	2 アルミニウム及び アルミニウム合金 の表面処理	<table><tr><td colspan="3">(14.2.2) (表14.2.1)</td></tr><tr><td>種 別</td><td>皮膜又は複合 皮膜の種類</td><td>施工箇所 (成形板、塗木、建具以外)</td></tr><tr><td>・A-1種</td><td>※AA15</td><td></td></tr><tr><td>・A-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）</td><td>※AA15</td><td></td></tr><tr><td>・B-1種</td><td>※B</td><td></td></tr><tr><td>・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）</td><</tr></table>	(14.2.2) (表14.2.1)			種 別	皮膜又は複合 皮膜の種類	施工箇所 (成形板、塗木、建具以外)	・A-1種	※AA15		・A-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※AA15		・B-1種	※B		・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）																																																																										
(14.2.1)																																																																																																															
種 別	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）																																																																																																														
※HL程度																																																																																																															
・鏡面仕上 程度																																																																																																															
・No.2B 程度																																																																																																															
(14.2.2) (表14.2.1)																																																																																																															
種 別	皮膜又は複合 皮膜の種類	施工箇所 (成形板、塗木、建具以外)																																																																																																													
・A-1種	※AA15																																																																																																														
・A-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）	※AA15																																																																																																														
・B-1種	※B																																																																																																														
・B-2種（・アンバー ・ブロンズ・ブラック系 ・ステンカラー）																																																																																																															

部加計部

⑤ 網戸等

(16.2.3)

種 類	材 種	線 径	網 目
○防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス(SUS 316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS 304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具

性能等級 (16.3.2～5)

外部に面する建具
・A種(建具符号：※建具表による ・)
・B種(建具符号：※建具表による ・)
・C種(建具符号：※建具表による ・)

防音ドアセット・防音サッシ
・適用する 遮音性の等級(・T-1 ・T-2)
(建具符号：・建具表による ・)
・適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ ㊦
・適用する 断熱性の等級(・H-4 ・H-5 ・)
(建具符号：・建具表による ・)
・適用しない

枠の見込み寸法 ・建具表による

表面色 ※標準色 ・特注色

水切り板、ぜん板 ※図示

ガラス ※複層ガラス

性能等級 (16.2.2) (16.4.2～4) (表16.4.2)

簡易気密型
・適用する
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

外部に面する建具の耐風圧性
・S-4(建具符号：・建具表による ・)
○S-5(建具符号：・建具表による ・)
・S-6(建具符号：・建具表による ・)

防音ドアセット・防音サッシ
・適用する 遮音性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

断熱ドアセット・断熱サッシ ㊦
・適用する 断熱性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

耐震ドアセット
・適用する 面内変形追随性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

鋼板

材 料	めっき付着量	厚 さ
○JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12又はF12	○標準仕様書表16.4.2による
・JIS G 3317(溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)	※Y08	・

8 鋼製軽量建具

性能等級 (16.2.2) (16.5.2～4)

簡易気密型
・適用する
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

防音ドアセット・防音サッシ
・適用する 遮音性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

断熱ドアセット・断熱サッシ ㊦
・適用する 断熱性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

耐震ドアセット
・適用する 面内変形追随性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被膜鋼板 ・カラー鋼板

鋼板の厚さ ・標準仕様書表16.5.1による

召合せ、縦小口包み板の材質 ※鋼板

9 ステンレス製建具

性能等級 (16.2.2) (16.4.2) (16.6.2～4)

簡易気密型
・適用する
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

外部に面する建具の耐風圧性
・S-4(建具符号：・建具表による ・)
・S-5(建具符号：・建具表による ・)
・S-6(建具符号：・建具表による ・)

防音ドアセット・防音サッシ
・適用する 遮音性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

断熱ドアセット・断熱サッシ ㊦
・適用する 断熱性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

耐震ドアセット
・適用する 面内変形追随性の等級()
(建具符号：・建具表による ・)
○適用しない

鋼板(屋外)

鋼板(屋内) ※SUS 430J1L、SUS 443J1 SUS 304

表面仕上げ ※H.L.仕上げ ・鏡面仕上げ

ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ

10 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 (16.7.2～4)

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外

・フラッシュ戸

表面材の合板の種類

合板の種類	規 格 等	備 考
・普通合板 ㊦	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※1/3合板程度 ・) 不透明塗料塗り (※しな合板程度 ・)	
・天然木化粧合板 ㊦	板面の品質() 接着の程度(・Ⅰ種 ・2種)	
・特殊加工化粧合板 ㊦	樹種名() 接着の程度(・Ⅰ種 ・2種)	
	化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装)	
	表面性能()タイプ	
	接着の程度(・Ⅰ種 ・2種)	

表面板の厚さ ※表16.7.6による

・かまち戸
かまち掛種() 鋳板掛種()
見込み寸法 ※35mm ・建具表による

・ふすま
張りの種別(・Ⅰ型 ・Ⅱ型)
上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 押入等の裏側は雲花紙程度
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁(素地) ・生地縁(ウレタンクリアー塗装)
見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による

・戸ぶすま
見込み寸法 ※30mm ・建具表による

・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による

枠、くつずりの材料 ・建具表による

⑩ 建具用金物

(16.8.2.3)

金物の種類・見え掛り部の材質等
※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による ・
樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.3による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置
○建具表による

錠前類
○建具表による
クローザ類
○建具表による

⑪ 錠

(16.8.4)

マスターキー ○製作する ・製作しない
その他の錠 ※各室3本1組
鍵箱 ※有り ・無し

13 自動ドア開閉装置

(16.9.2.3)

自動ドア	性 能	防 錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL1-1 ・DSL1-2 ・SWD-1 ・SWD-1	※標準仕様書表16.9.1による ・ ・ ・ ・ ・	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線(反射)スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能使用スイッチ	・行方 (適用箇所は ・行わない
・図示	※標準仕様書表16.9.2による ・		・	

14 自閉式上吊り引戸装置

(16.10.3)

性能 ※標準仕様書表16.10.1による

建具表による

⑬ 重量シャッター

(16.11.2.3)

シャッターの種類 ○一般重量シャッター 耐風圧強度() N/m²
・外壁用防火シャッター 耐風圧強度() N/m²
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター

開閉機能による種類 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式
一般重量シャッターのシャッターケース ○設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ○JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量 ※Z12又はF12

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式(手動併用)
耐風圧強度() N/m²
スラットの材質
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっき付着量 ※Z06又はF06 ・
・JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板)
めっき付着量 ※AZ90 ・

スラットの形状 ・インターロック形 ・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア

(16.13.2.3)

セクション材料による区分	耐風圧区分Pa	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ	・125	※バランスタイプ	・スタンダード形	※溶融亜鉛めっき鋼板
・アルミニウムタイプ	・100	・チェーン式	・ローヘッド形	・ステンレス鋼板
・ファイバーグラスタイプ	・75	・電動式	・ハイルフト形	・
・	・50	・	・パーチカル形	・

⑭ ガラス

(9.7) (16.14.2～4) (表16.14.1)

・合わせガラス		
品 種	構成種類	性 能
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収合わせガラス	・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類

・強化ガラス
材料板ガラスによる種類 種 類 性 能
・フロートガラス ・フロート強化ガラス
・熱線吸収強化ガラス ・Ⅰ類 ・Ⅲ類
・聖板ガラス ・聖板強化ガラス

・熱線吸収強化ガラス

品 種	性 能	色 調
・熱線吸収フロート板ガラス	1 種 ・ 2 種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ
・熱線吸収網入磨きガラス		

・複層ガラス

品 類	断熱性	日射熱達へい性
・断熱複層ガラス	・1 種	U1
	・2 種	U2
	・3 種	・U-3-1 ・U-3-2
・日射熱達へい複層ガラス	・4 種	E4
	・5 種	E5
	・6 種	E5

⑮ 熱線反射ガラス

品 類		日射達へい性	耐久性
・熱線反射ガラス	・1 種	A種	・A種 ・B種 ・A種 ・B種
・色調(・ブルー ・グレー)	・2 種	・A種 ・B種	
・高性能熱線反射ガラス	・3 種	B種	
色調(・ブロンズ ・シルバー)			

反射被膜面 ・内面 ・外面
映像調整 ・行わない ・行う

・倍強度ガラス
材料板ガラスによる種類の名称 色 調
・フロート倍強度ガラス —
・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	○シーリング材 ・ガasket ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示
鋼製及び鋼製軽量	○シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示
ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示

19 ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色 調		目地幅(mm)		伸縮調整目地(mm)	防火性能
			クリア	乳白	平積み	曲面積み		
・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15	外側	※15以下	※無し ・有り
	・160×160	95	・	・	・15～25	※15以下	※6m以下	
	・200×200	125	・	・	・	・	ごとに10～25	
・長方形	・320×320	95	・	・	・	内側	・	※無し ・有り
	・250×125	80	・	・	・	・	・	
	・320×160	95	・	・	・	・	・	

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材 ・設ける(形状 ※図示)
・ 設けない

カ骨 材質 ※ステンレス鋼(SUS 304)
寸法 ※径5.5mm
形状 ※はしこ形状筋筋及び単筋

化粧目地モルタルの色()
金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製
寸法 ※図示
形状 ※図示

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・Ⅰ ・Ⅰ.15 ・Ⅰ.3) 倍の風圧力に対応した工法)

・適用しない

目地部のカ骨の補強方法
※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示

⑯ 取付方法、性能等

(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)

取付方法 ・扉間方式 ・柱・梁方式 ・方立方式 ・スパンデル方式						
性能						
耐震性能		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能
水平方向[kN]	垂直方向[kN]					
・1.0	・0.5					・30分 ・1時間 ・80 ・3.2～5 ・60

耐風圧性能
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・Ⅰ ・Ⅰ.15 ・Ⅰ.3) 倍の風圧力に対応した工法)

・適用しない

主要部材の耐風圧性能(ガラスを除く)

支点間距離(h)	耐風圧性能	状 態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落、ガラスの破損及び 主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える	・	

扉間変位追従性

建築物の構造種別	扉間変位量(h=支点間距離)	変位後の状態
鉄骨造	・±(1/200)×h以上 ・	部材の脱落、ガラスの破損及び 主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
鉄筋コンクリート造	・±(1/300)×h以上	シーリングは補修程度の損傷であること。
鉄骨鉄筋コンクリート造		

シーリング材
下表以外は標準仕様書表9.7.1による

被着体の組合せ	シーリング材の種類
ガラス	主成分による区分
金属	
ガラス/ガラス	
カーテンウォール板間目地	

構造用ガasket
・適用する(施工箇所 ・図示 ・)
材質 ・クロロプレン系 ・EPDM系 ・シリコーン系
形状 ・H型 ・Y型 ・C型
寸法(mm) ガラス板厚() ・支持棒の厚さ() ・ウェブの寸法()
・適用しない
断熱材 ㊦
種類()
厚さ(mm)()
施工箇所 ・図示

耐火材料

施工部位	種 別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・扉間ふさぎ		

カーテンウォールの材料 (17.2.2.3.5)

材 料	規格等	表面処理	映像調整
※アルミニウム製	※標準仕様書表16.2.3による ・	・A-1種 ・A-2種 皮膜等の種類(※標準仕様書表14.2.1による ・) 着色(・アンバー ・ブロンズ ・ブラックス ・ステーク)	・行う ・行わない
・			

製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.1～3による
ガラス溝の寸法、形状 ※製造所の仕様による

3 PCカーテンウォール

カーテンウォールの材料
コンクリート ※標準仕様書表17.3.2(a)(i)～(iv)による
鉄筋 ※SD295A(・D13 ・D10)
補強鉄線の径(mm) ※3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0
配筋 ※図示
先付けの材料 ・サッシ枠 ・ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上材 ・磁器質タイル
・石材(・花崗岩 ・大理石 ・)

ガasketを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・h=1～2、W1及びW2±1
製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.1～2による

⑰ 材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする(箇所：)

⑱ 系地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種 別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・B種
	透明塗りの場合	※B種 ・A種
鉄鋼面		※C種 ・A種 ・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種 ・B種 ・C種
モルタル面及びプラスター面		※B種 ・A種
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※B種 ・A種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種 ・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種 ・A種

⑲ 網止め塗料塗り

(18.3.2.3)

下地面等		工程の種類	塗料の種類
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種 ・B種	／
	見え隠れ部分	※B種 ・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種 ・B種 ・C種	・A種 ・B種
	鋼製建具以外	※C種 ・A種 ・B種	・C種

⑳ 塗装

(18.4.1～18.4.2)

塗 装	種 別	塗料の種類
・合成樹脂顔合	木部屋外	※A種 ・B種 ※Ⅰ種 ・2種
ペイント塗り(SOP)	木部屋内	※B種 ・A種
	鉄鋼面	※B種 ・A種 ※Ⅰ種 ・2種
亜鉛めっき鋼面	—	※Ⅰ種 ・2種
	—	—
・クリヤラッカー塗り(OL)	—	※B種 ・A種 —
・アクリル樹脂系多水分散型塗料塗り(NAO)	—	※B種 ・A種 —
○耐熱性塗料塗り(OP)	鉄鋼面	—
	亜鉛めっき鋼面	—
・つや有合成樹脂エマルジョン	コンクリート面及び押出成形セメント板面	※A種 ・B種 ・C種
	—	—
ペイント塗り[EP-G]	—	—
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り[EP]	屋内の鉄鋼面	※B種 ・A種
	—	—
・合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り[EP-T]	—	※B種 ・A種
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)	—	※B種 ・A種
・ラッカーエナメル塗り[LE]	—	※B種 ・A種
・オイルステイン塗り(OS)	—	—
・木材保護塗料塗り(WP)	—	※B種 ・A種

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日反射率塗装 ㊦とする。

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図 名	活性炭注入棟 建築工事特記仕様書(6)			
平成 年 月	尺 度	—	審 査	
 京丹波町水道課	回 番	A6	—	21

⑨ 資料 冊	1 接着剤	接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外					8 フローリング張り				
	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。					単層フローリング					
	(19.2.2.3)					(19.5.2～7) (表19.5.1～6)					
	2 ビニル床シート					天然木化粧複合フローリング					
	種 類 JIS記号 施工箇所 色 柄 特殊機能 厚さ (mm) 備考					種 類 工 法 樹 種 厚さ (mm) 種別 防湿処理 仕上塗装 間伐材等の適用					
	発泡層のないもの ※FS (複層) ・ 無地 ・ マーブル柄 ・ 帯電防止 ※2.0 ・ 耐動荷重性 ・					・フローリングボード ・釘留め工法 (根太張り) ・ 15 幅 75 板長さ 500以上 ・ 塗装品 ・ 無塗装品 ・釘留め工法 (直張り) ・ 12以上 幅 75 板長さ 300以上 ・ 塗装品 ・ 無塗装品 ・接着工法 ・ 12以上 幅 75 板長さ 300以上 ・ 塗装品 ・ 無塗装品					
	発泡層のあるもの ・ 無地 ・ 耐滑性 ・ 耐薬品性					・フローリングブロック ・接着工法 ・ 15 303×303 ・ 塗装品 ・ 無塗装品 ・モルタル埋込み工法 ・ 15 303×303 ・ 塗装品 ・ 無塗装品 ・モザイクバレークット ・ 15 303×303 ・ 塗装品 ・ 無塗装品					
	工法 ※熱溶接工法 ・ 突付け (施工箇所:)					複合フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外					
	特殊機能 帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上～3.2未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10 ¹⁰ ～10 ¹² 程度					接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・ 行う (施工箇所:) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地そのままワックス塗り ・ 行わない					
	(19.2.2)					(19.6.2) (表19.6.1)					
3 ビニル床タイル					複合フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外						
JIS記号 施工箇所 色柄 寸法 (mm) 特殊機能 厚さ (mm) 備考					接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上 ・ 行う (施工箇所:) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地そのままワックス塗り ・ 行わない						
・ FT (複層)					・複合1種フローリング ・釘留め工法 (根太張り) ・ 15mm ・ A種 ・ 適用する ・ 塗装品 ・複合2種フローリング ・釘留め工法 (直張り) ・ 12以上 幅 75 板長さ 300以上 ・ B種 ※C種 ・ 適用しない ・ 無塗装品						
・ KT (コンポジション)					・複合3種フローリング ・接着工法 ※なら ・ 板厚 8以上 ・ 板幅 75以上 ・ 板長さ 900以上						
・ FOA (直敷き)											
4 ビニル幅木					材質 ・ 軟質 ・ 硬質 高さ (mm) ※60 ・ 70 ・ 100 厚さ (mm) ※1.5以上						
5 ゴム床タイル					色柄 () 厚さ (mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0 寸法 (mm) ()						
6 カーペット敷き					・織じゅうたん (19.3.3) (表19.3.1)						
種 別 バイル形状 織り方 色柄等 帯電性 備 考					種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (畳床: ・ KT-I ・ KT-II ・ KT-III ・ KT-K ・ KT-N) 下地の種類 ・ 標準仕様書 表12.6.1による床組 ・ ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロロ) 畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。						
下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm											
・タフテッドカーペット (19.3.3～4)											
バイル形状 バイル長さ (mm) 工 法 帯電性 備 考											
・カットバイル ・ 5～7 ※全面接着工法 ・ 適用する (性能: ※人体帯電圧3kV以下 ・ 適用しない)											
・ループバイル ・ 4～6 ・ グリッパエ工法											
・レペループバイル ・ 4											
・カット、ループ併用 ・											
下敷き材 (グリッパエ工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ8mm											
・ ニードルパンチカーペット (19.3.3)											
厚さ (mm) ()											
帯電性 ・ 適用する (性能: ※人体帯電圧3kV 以下 ・ 適用しない)											
備考 ()											
・ タイルカーペット (19.3.3.4)											
バイル形状 種 類 施工箇所 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 備 考											
※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑩ 合成樹脂塗床 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑪ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑫ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑬ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑭ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑮ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑯ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑰ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑱ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑲ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
⑳ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉑ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉒ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉓ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉔ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉕ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉖ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉗ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉘ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉙ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉚ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉛ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カット、ループ併用 ・第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・ 模様流し											
階段部分 ※模様流し ・ 市松敷き											
見切り、押え金物 ・ 適用する (材質、形状等 ※図示 ・)											
・ 適用しない											
㉜ 断熱材現場発泡工法 (19.4.2.3) (表19.4.1～7)											
種 類 施工箇所 工 法 仕上 げの種 類											
・ 厚膜型塗床材 弾性カル樹脂系塗床材											
※第一種 ※500×500 ※6.5 ・											
・第二種 ・											
・ カットバイル ・第一種 ※											

20 ユニット及びその他の工事	7 手すり	<table><tr><th>材 種</th><th>表面仕上げ</th><th>直径 (mm)</th><th>取付箇所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※集成材</td><td>・クリヤラッカー ・</td><td>・ 35 ・ 45 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ステンレスパイプ</td><td>・ HL ・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・鋼製パイプ</td><td>・ EP-G ・ S O P ・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ビニル製ハンドレール</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	材 種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備 考	※集成材	・クリヤラッカー ・	・ 35 ・ 45 ・			・ステンレスパイプ	・ HL ・				・鋼製パイプ	・ EP-G ・ S O P ・				・ビニル製ハンドレール					17 天井点検口	<table><tr><th>材 種</th><th>寸 法</th><th>形 式</th><th>外 枠</th><th>内 枠</th></tr><tr><td>・アルミニウム製 ・</td><td>・ 450×450 ・ 600×600 ・</td><td>・一般形 ・密閉形</td><td>・屋内外用 ・屋内用</td><td>・顔縁タイプ ・目地タイプ</td></tr></table>	材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠	・アルミニウム製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・顔縁タイプ ・目地タイプ	29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み積み	<table><tr><th colspan="5">(20.4.2.3)</th></tr><tr><th>材 種</th><th>材 種</th><th>種 類</th><th>質量区分</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・間知石</td><td>・花こう岩 ・凝灰岩</td><td>—</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>・コンクリート間知ブロック</td><td>・</td><td></td><td>・ A ・ B</td><td></td></tr></table> 積み方 目塗り 伸縮目地 厚さ ※谷積み ・図示 ・図示 ・図示 ・布積み	(20.4.2.3)					材 種	材 種	種 類	質量区分	備 考	・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—		・コンクリート間知ブロック	・		・ A ・ B		21 排水口	1 排水管	<table><tr><th colspan="5">(21.2.1) (表21.2.1) (21.2.3)</th></tr><tr><th>材 種</th><th>管の種類</th><th>形 状</th><th>呼び径</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・遠心力鉄筋コンクリート管</td><td>外圧管 (1種)</td><td>・ B 形管 ・</td><td>・ 図示</td><td></td></tr><tr><td>・硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>・ VP ・ VU ・ RS-VU [a]</td><td></td><td>・ 図示</td><td></td></tr></table> 基礎の厚さ及び種類 図示 砂地案に用いる材料 ※標準仕様書 (21.2.3) (a) (1) 図示 砂利地案に用いる材料 ※標準仕様書 (21.2.3) (a) (2) 図示 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 コンクリート基礎等に用いる材料 ※標準仕様書 (6.14) 設計基準強度18N/mm2 とする。 ただし、コンクリートが簡易な場合の調査 (容積比) セメント1：砂2：砂利4程度とする。 ・図示	(21.2.1) (表21.2.1) (21.2.3)					材 種	管の種類	形 状	呼び径	備 考	・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・ B 形管 ・	・ 図示		・硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP ・ VU ・ RS-VU [a]		・ 図示																	
	材 種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備 考																																																																																															
	※集成材	・クリヤラッカー ・	・ 35 ・ 45 ・																																																																																																	
	・ステンレスパイプ	・ HL ・																																																																																																		
	・鋼製パイプ	・ EP-G ・ S O P ・																																																																																																		
	・ビニル製ハンドレール																																																																																																			
	材 種	寸 法	形 式	外 枠	内 枠																																																																																															
	・アルミニウム製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・顔縁タイプ ・目地タイプ																																																																																															
	(20.4.2.3)																																																																																																			
	材 種	材 種	種 類	質量区分	備 考																																																																																															
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—																																																																																																	
・コンクリート間知ブロック	・		・ A ・ B																																																																																																	
(21.2.1) (表21.2.1) (21.2.3)																																																																																																				
材 種	管の種類	形 状	呼び径	備 考																																																																																																
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・ B 形管 ・	・ 図示																																																																																																	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP ・ VU ・ RS-VU [a]		・ 図示																																																																																																	
8 黒板及びホワイトボード [a]	<table><tr><th colspan="4">(20.2.8)</th></tr><tr><th>種 類</th><th>寸法 (mm)</th><th>色 彩</th><th>形 式</th></tr><tr><td>・黒板 ・ ※焼付け ・</td><td></td><td>※緑 ・黒</td><td>・平面 ・スクリーン付き引分け ・</td></tr><tr><td>・ホワイトボード ・ ※ほうろう ボード</td><td></td><td>白</td><td>・スクリーン付き引分け ・平面 ・</td></tr></table>	(20.2.8)				種 類	寸法 (mm)	色 彩	形 式	・黒板 ・ ※焼付け ・		※緑 ・黒	・平面 ・スクリーン付き引分け ・	・ホワイトボード ・ ※ほうろう ボード		白	・スクリーン付き引分け ・平面 ・	9 鏡	取付箇所 () 寸法 (mm) 図示 厚さ (mm) ※5	18 床点検口	<table><tr><th>材 種</th><th>寸 法</th><th>形 式</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・FRP製</td><td>・ 450×450 ・ 600×600 ・</td><td>・一般形 ・密閉形 ・結露防止形</td><td>・鍵付き ・屋内外用 ・屋内用</td></tr></table>	材 種	寸 法	形 式	備 考	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・FRP製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・鍵付き ・屋内外用 ・屋内用	30 鋼製書架及び物品棚	<table><tr><th>種 類</th><th>規格等</th><th>耐荷量による種類</th></tr><tr><td>・鋼製書架 ・ 鋼製物品棚</td><td>JIS S 1039による</td><td>・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 4種 ・ 5種 ・ 6種</td></tr></table>	種 類	規格等	耐荷量による種類	・鋼製書架 ・ 鋼製物品棚	JIS S 1039による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 4種 ・ 5種 ・ 6種	31 屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り	2 側塊、排水斜等	側塊、排水斜等 形状及び寸法 図示 砂地案に用いる材料 ※標準仕様書 (21.2.3) (a) (1) 図示 砂利地案に用いる材料 ※標準仕様書 (21.2.3) (a) (2) 図示 コンクリート基礎等に用いる材料 ※標準仕様書 (6.14) 設計基準強度18N/mm2 とする。 ただし、コンクリートが簡易な場合の調査 (容積比) セメント1：砂2：砂利4程度とする。 ・図示																																																											
(20.2.8)																																																																																																				
種 類	寸法 (mm)	色 彩	形 式																																																																																																	
・黒板 ・ ※焼付け ・		※緑 ・黒	・平面 ・スクリーン付き引分け ・																																																																																																	
・ホワイトボード ・ ※ほうろう ボード		白	・スクリーン付き引分け ・平面 ・																																																																																																	
材 種	寸 法	形 式	備 考																																																																																																	
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・FRP製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・鍵付き ・屋内外用 ・屋内用																																																																																																	
種 類	規格等	耐荷量による種類																																																																																																		
・鋼製書架 ・ 鋼製物品棚	JIS S 1039による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 ・ 4種 ・ 5種 ・ 6種																																																																																																		
10 表示	<table><tr><th colspan="6">(20.2.10)</th></tr><tr><th>区 分</th><th>材 質</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>取付高さ (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・衝突防止表示 (・ 両面 ・ 片面)</td><td>・ステンレス製 ・ 図示</td><td>・ 30φ ・</td><td>・ 市販品 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr><tr><td>・署名札</td><td>・アクリル板 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ 5 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr><tr><td>・ピクトグラフ</td><td>・アクリル板 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ 5 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr><tr><td>・とびら番号</td><td>・アクリル板 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ 5 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr><tr><td>・庁舎案内板</td><td>・アクリル板 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ 5 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr><tr><td>・各階案内板</td><td>・アクリル板 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ 5 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr></table>	(20.2.10)						区 分	材 質	寸法 (mm)	厚さ (mm)	取付高さ (mm)	備 考	・衝突防止表示 (・ 両面 ・ 片面)	・ステンレス製 ・ 図示	・ 30φ ・	・ 市販品 ・	・ 図示 ・		・署名札	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・		・ピクトグラフ	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・		・とびら番号	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・		・庁舎案内板	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・		・各階案内板	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・		11 煙突ライニング	煙突用成形ライニング材 適用安全使用温度 キャスタブル耐火材 煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする (20.2.11)	20 止水板	形式 施工箇所 ・差込式 ・ 図示 ・据置式 ・ 壁張り式	32 洗面カウンター	材質 奥行き (mm) ・メラミン樹脂化粧板張り (心材：集成材) 人工大理石 ・ 約450 約600	3 鉄鉄製ふた	<table><tr><th>名 称</th><th>種 類</th><th>適用荷重</th><th>鍵</th><th>備 考</th></tr><tr><td>鉄鉄製マンホールふた</td><td>・水封形 ・簡易密閉形 (バッキン式) ・密閉形 (テーパー・バッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパー・バッキン式)</td><td>・ T-2用 ・ T-6用 ・ T-20用 ・</td><td>・有り ・無し</td><td>左記以外の品等等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHA SE-S209 による ・ハンドホール点検用</td></tr></table>	名 称	種 類	適用荷重	鍵	備 考	鉄鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 (バッキン式) ・密閉形 (テーパー・バッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパー・バッキン式)	・ T-2用 ・ T-6用 ・ T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品等等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHA SE-S209 による ・ハンドホール点検用																																	
(20.2.10)																																																																																																				
区 分	材 質	寸法 (mm)	厚さ (mm)	取付高さ (mm)	備 考																																																																																															
・衝突防止表示 (・ 両面 ・ 片面)	・ステンレス製 ・ 図示	・ 30φ ・	・ 市販品 ・	・ 図示 ・																																																																																																
・署名札	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・																																																																																																
・ピクトグラフ	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・																																																																																																
・とびら番号	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・																																																																																																
・庁舎案内板	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・																																																																																																
・各階案内板	・アクリル板 ・	・ 図示 ・	・ 5 ・	・ 図示 ・																																																																																																
名 称	種 類	適用荷重	鍵	備 考																																																																																																
鉄鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 (バッキン式) ・密閉形 (テーパー・バッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパー・バッキン式)	・ T-2用 ・ T-6用 ・ T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品等等は (公社) 空気調和衛生工学会 SHA SE-S209 による ・ハンドホール点検用																																																																																																
12 ブラインド	<table><tr><th colspan="6">(20.2.12)</th></tr><tr><th>形 式</th><th>操作方法</th><th>種 類</th><th>スラットの材質</th><th>スラット幅 (mm)</th><th>ボックスレールの材質</th><th>寸法 取付箇所</th></tr><tr><td>・横型 ・</td><td>・手動 ・ ※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式 ・電動 —</td><td>・</td><td>※アルミニウム合金製 ・</td><td>※25 ・</td><td>※鋼製 ・</td><td>・ 図示 ・</td></tr><tr><td>・縦型 ・</td><td>・手動 ・ ※2本操作コード ・1本操作コード式 ・電動 —</td><td>・</td><td>・アルミスラット ・クロススラット</td><td>・ 80 ・ 100</td><td>アルミニウム合金製 ・</td><td>・ 図示 ・</td></tr></table>	(20.2.12)						形 式	操作方法	種 類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	寸法 取付箇所	・横型 ・	・手動 ・ ※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式 ・電動 —	・	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・ 図示 ・	・縦型 ・	・手動 ・ ※2本操作コード ・1本操作コード式 ・電動 —	・	・アルミスラット ・クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製 ・	・ 図示 ・	13 ロールスクリーン [a]	<table><tr><th colspan="6">(20.2.13)</th></tr><tr><th>材 種</th><th>操作方式</th><th>遮光性能</th><th>寸法 (mm)</th><th>取付箇所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・ポリエステル ・</td><td>・電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式 ・</td><td>・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr></table> 巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。	(20.2.13)						材 種	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	取付箇所	備 考	・ポリエステル ・	・電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式 ・	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・	・ 図示 ・	・ 図示 ・		22 エキスパンションジョイント金物	<table><tr><th>材 種</th><th>クリアランス</th><th>耐火性能</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・アルミニウム製 ・ステンレス製</td><td>・ 50 ・ 150</td><td>・有り () ・無し</td><td></td></tr></table> 外部は防水型とする	材 種	クリアランス	耐火性能	備 考	・アルミニウム製 ・ステンレス製	・ 50 ・ 150	・有り () ・無し		33 防煙垂れ壁	<table><tr><th>材 質</th><th>厚さ (mm)</th><th>高さ (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※網入り磨き板ガラス ・</td><td>※6.8 ・</td><td>※500 ・</td><td>アルミ製枠付き</td></tr></table> ・可動式 <table><tr><th>種 類</th><th>材 質</th><th>高さ (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・垂直降下式 (巻取り型)</td><td>※不燃布 (不燃認定品)</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>ガイドレール ※固定式 (壁埋込み型) ・可動式 (天井収納型)</td></tr><tr><td>・回転降下式</td><td>鋼板製又はアルミ製</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>表面仕上げ ※天井材張り ・</td></tr></table> 降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込み型)	材 質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備 考	※網入り磨き板ガラス ・	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き	種 類	材 質	高さ (mm)	備 考	・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式 (壁埋込み型) ・可動式 (天井収納型)	・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・	34 収納家具	材質 形状・寸法 ※図示 合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 第三種	4 グレーチング	材質 形状・寸法 ※図示 照明器具 ※有り 施設 ※有り ・無し ・無し 種類 ※コンクリートブロック製 (市販品) ・花こう石類 (文字記号等入り) 設置方法 根切り底を突き締めたうえ、厚さ60mmの砂利地案を行い、コンクリートで根巻きて建て込む。建込みは監督職員の立会いのもと行う。 コンクリートの調査 (容積比) セメント1：砂2：砂利4程度	5 街きょ、緑石、側溝	街きょ、緑石、側溝 (21.4.1) (表21.4.1) <table><tr><th>種 類</th><th>形状、寸法</th></tr><tr><td>・緑石</td><td>・ 図示</td></tr><tr><td>・ L 形側溝</td><td>・ 図示</td></tr><tr><td>・ U 形側溝</td><td>・ 図示</td></tr><tr><td>・ U 形側溝ふた</td><td>・ 図示</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 図示</td></tr></table> 地案の材料 ※標準仕様書 (4.6.2) (a) による 図示 砂利地案の厚さ ※100 (mm) 図示 コンクリート基礎等に用いる材料 ※標準仕様書 (6.14) 設計基準強度18N/mm2 とする。 ただし、コンクリートが簡易な場合の調査 (容積比) セメント1：砂2：砂利4程度とする。 ・図示	種 類	形状、寸法	・緑石	・ 図示	・ L 形側溝	・ 図示	・ U 形側溝	・ 図示	・ U 形側溝ふた	・ 図示	・	・ 図示	6 埋戻し土	※B種 (21.2.3)
(20.2.12)																																																																																																				
形 式	操作方法	種 類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックスレールの材質	寸法 取付箇所																																																																																														
・横型 ・	・手動 ・ ※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式 ・電動 —	・	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・ 図示 ・																																																																																														
・縦型 ・	・手動 ・ ※2本操作コード ・1本操作コード式 ・電動 —	・	・アルミスラット ・クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製 ・	・ 図示 ・																																																																																														
(20.2.13)																																																																																																				
材 種	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	取付箇所	備 考																																																																																															
・ポリエステル ・	・電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式 ・	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・	・ 図示 ・	・ 図示 ・																																																																																																
材 種	クリアランス	耐火性能	備 考																																																																																																	
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・ 50 ・ 150	・有り () ・無し																																																																																																		
材 質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備 考																																																																																																	
※網入り磨き板ガラス ・	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き																																																																																																	
種 類	材 質	高さ (mm)	備 考																																																																																																	
・垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式 (壁埋込み型) ・可動式 (天井収納型)																																																																																																	
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・																																																																																																	
種 類	形状、寸法																																																																																																			
・緑石	・ 図示																																																																																																			
・ L 形側溝	・ 図示																																																																																																			
・ U 形側溝	・ 図示																																																																																																			
・ U 形側溝ふた	・ 図示																																																																																																			
・	・ 図示																																																																																																			
14 カーテン	<table><tr><th colspan="6">(20.2.14)</th></tr><tr><th>形 式</th><th>開閉操作</th><th>ひだの種類</th><th>きれ地の種類、品質、特殊加工等</th><th>取付箇所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・シングル ・ダブル</td><td>・片引き ・引分け ・電動</td><td>・手引き ・ひも引き ・電動</td><td>・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ</td><td>・ 図示 ・</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(贈答)</td></tr></table> 使用される繊維のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については [a] とする 贈答カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上	(20.2.14)						形 式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備 考	・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け ・電動	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ	・ 図示 ・							(贈答)	24 旗竿	<table><tr><th>材 質</th><th>形 式</th><th>高さ (m)</th><th>操作方法</th><th>固定方法</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・アルミニウム合金製 ・</td><td>・テーパー型 ・同一断面型</td><td></td><td>・ハンドル式 ・ロープ式</td><td>・埋込み式 ・ベース式 ・バンド式</td><td></td></tr></table>	材 質	形 式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備 考	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー型 ・同一断面型		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込み式 ・ベース式 ・バンド式		25 旗竿受金物	材質 ・ステンレス製 (SUS 304)	26 車止めさく	<table><tr><th>形 式</th><th>材 種</th><th>柱径・肉厚 (mm)</th><th>高さ (mm)</th></tr><tr><td>・上下式鎮内蔵型 ・</td><td>・標準品 ・スプリング式 ・</td><td>・ステンレス製 ・</td><td>・ ・</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	形 式	材 種	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)	・上下式鎮内蔵型 ・	・標準品 ・スプリング式 ・	・ステンレス製 ・	・ ・	・				27 フェンス	フェンスの種類 高さ ・ビニル被覆エキスパンドフェンス ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 図示	28 プレキャストコンクリート	コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/㎡を満足する調査強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。 ・図示 取付け方法 ※図示 ・																																									
(20.2.14)																																																																																																				
形 式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備 考																																																																																															
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け ・電動	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ	・ 図示 ・																																																																																																
					(贈答)																																																																																															
材 質	形 式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備 考																																																																																															
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー型 ・同一断面型		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込み式 ・ベース式 ・バンド式																																																																																																
形 式	材 種	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)																																																																																																	
・上下式鎮内蔵型 ・	・標準品 ・スプリング式 ・	・ステンレス製 ・	・ ・																																																																																																	
・																																																																																																				
15 カーテンレール	材質 ※アルミニウム製 形式 強さによる区分 仕上げ 形状 (20.2.14)	26 車止めさく	<table><tr><th>形 式</th><th>材 種</th><th>柱径・肉厚 (mm)</th><th>高さ (mm)</th></tr><tr><td>・上下式鎮内蔵型 ・</td><td>・標準品 ・スプリング式 ・</td><td>・ステンレス製 ・</td><td>・ ・</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	形 式	材 種	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)	・上下式鎮内蔵型 ・	・標準品 ・スプリング式 ・	・ステンレス製 ・	・ ・	・				27 フェンス	フェンスの種類 高さ ・ビニル被覆エキスパンドフェンス ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 図示	28 プレキャストコンクリート	コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/㎡を満足する調査強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。 ・図示 取付け方法 ※図示 ・																																																																																	
形 式	材 種	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)																																																																																																	
・上下式鎮内蔵型 ・	・標準品 ・スプリング式 ・	・ステンレス製 ・	・ ・																																																																																																	
・																																																																																																				
16 ブラインドボックス及びカーテンボックス	溝幅×深さ (mm) 材質 表面処理 色 皮膜等の種類 鋼製 (仕上げ) (20.2.14)	27 フェンス	フェンスの種類 高さ ・ビニル被覆エキスパンドフェンス ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 図示	28 プレキャストコンクリート	コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/㎡を満足する調査強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。 ・図示 取付け方法 ※図示 ・																																																																																															

平成 年 月 日		尺 度	—	審 査	
京 丹 波 町 水 道 課		図 番	A8	21	

設計概要

一般事項

工事名称	簡易水道統合整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事	事業主体	京丹波町水道課
建設地	京都府船井郡京丹波町 下山 地内		
主要用途	水道用機械室		
工事種別	新築	工期	着工平成 年 月 日 竣工平成 年 月 日

敷地状況

敷地面積	15,452.30㎡		
都市計画	都市計画区域内		
用途地域	指定なし	防火地域	指定なし
その他の地域地区			
建ぺい率	基準建ぺい率	%	日影規制 平均地盤からの高さ 敷地境界線より 5mを越え10m以内の範囲 : 時間以内 " 10mを越える範囲 : "
容積率	" 容積率	%	

構造

構造	S造	形式	ラーメン構造
基礎	杭基礎		
増築予定	無		

高さ

階数	地上1階		
最高高	9 ^m .400	最高軒高	8 ^m .950

面積

	申請部分	申請以外の部分	合計	建ぺい率・容積率	
建築面積	147.25 [㎡]	㎡	147.25 [㎡]	% ≤ 許容	%
延床面積	147.25 [㎡]	㎡	147.25 [㎡]	% ≤ 許容	%

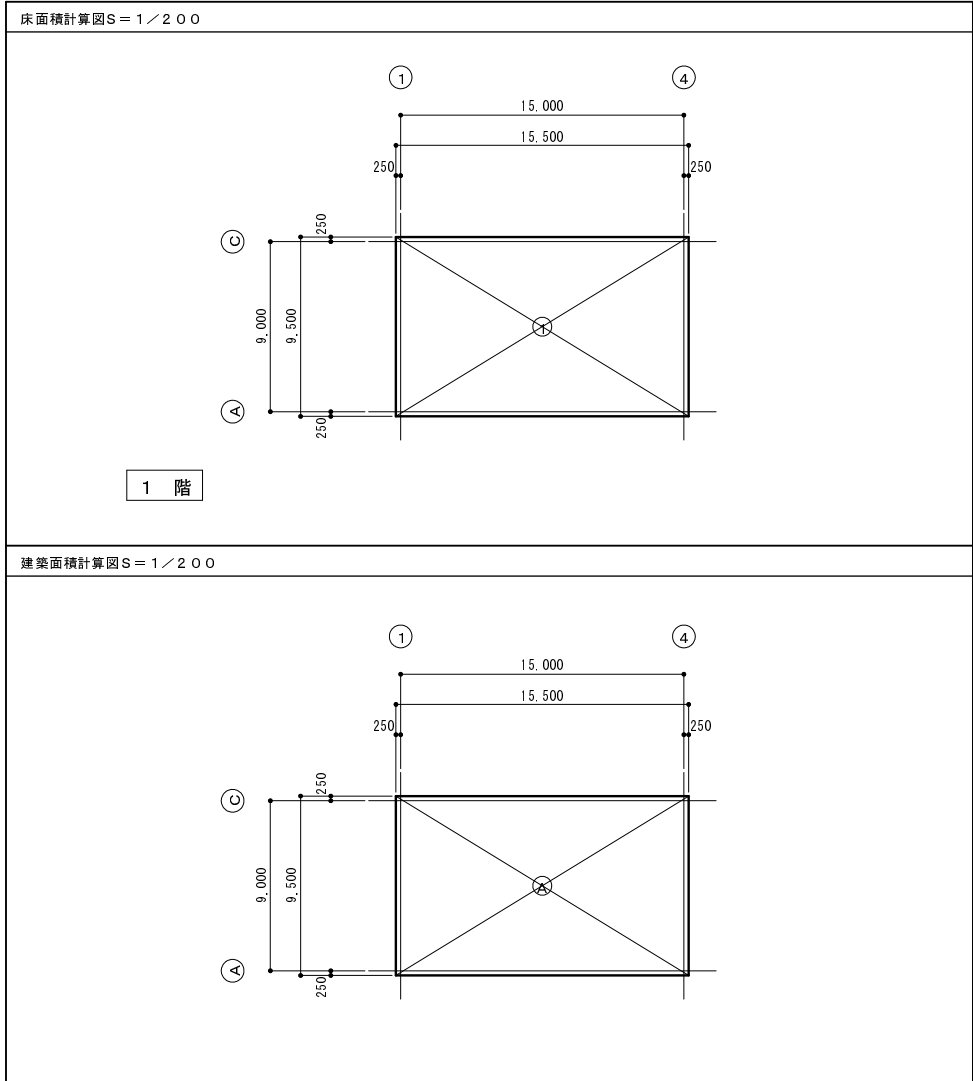
階別概要

水道用機械室									
階	申請部分	申請以外の部分	階高	主要用途	階	申請部分	申請以外の部分	階高	主要用途
1階	147.25 [㎡]	0.00 [㎡]	m	水道用機械室					

外観仕上

屋根			
仕上	折板 はせ締め形 500タイプ ふっ素樹脂塗装		
	カラーガルバリウム鋼板 ア) 1.0 ロックウールフェルト ア)4 貼り		
勾配	(3) / 100		
外壁	ALCパネル横張 複層仕上塗材 E		
腰壁	コンクリート打放し(B) 複層仕上塗材 RE		
軒種	カラー角種 120型 カーボンシート芯塩ビ		
	共通：SUS製取付金物 枯葉避けネット		
開口部			
出入口	鋼製戸、アルミ戸		
窓	アルミ窓		

面積計算



面積計算表

床面積 ㎡			建築面積 ㎡		
①	15,500 × 9,500	147.25	②	15,500 × 9,500	147.25
計		147.25	計		147.25
延床面積		147.25	計		147.25

消防法の無窓階検討

階	床面積 ㎡ (A)	必要開口面積 ㎡ (A/30)	有効開口面積 ㎡			判定
			建具符号	開口面積 ㎡/ヶ所	ヶ所数 開口面積	
1 階	147.25	4.91	AD-2	1.200×2.000=2.400	1 2.400	有窓階
			AD-3	1.200×2.000=2.400	1 2.400	
			AW-1	1.700×1.250=2.125	2 4.250	
			計		9.050	

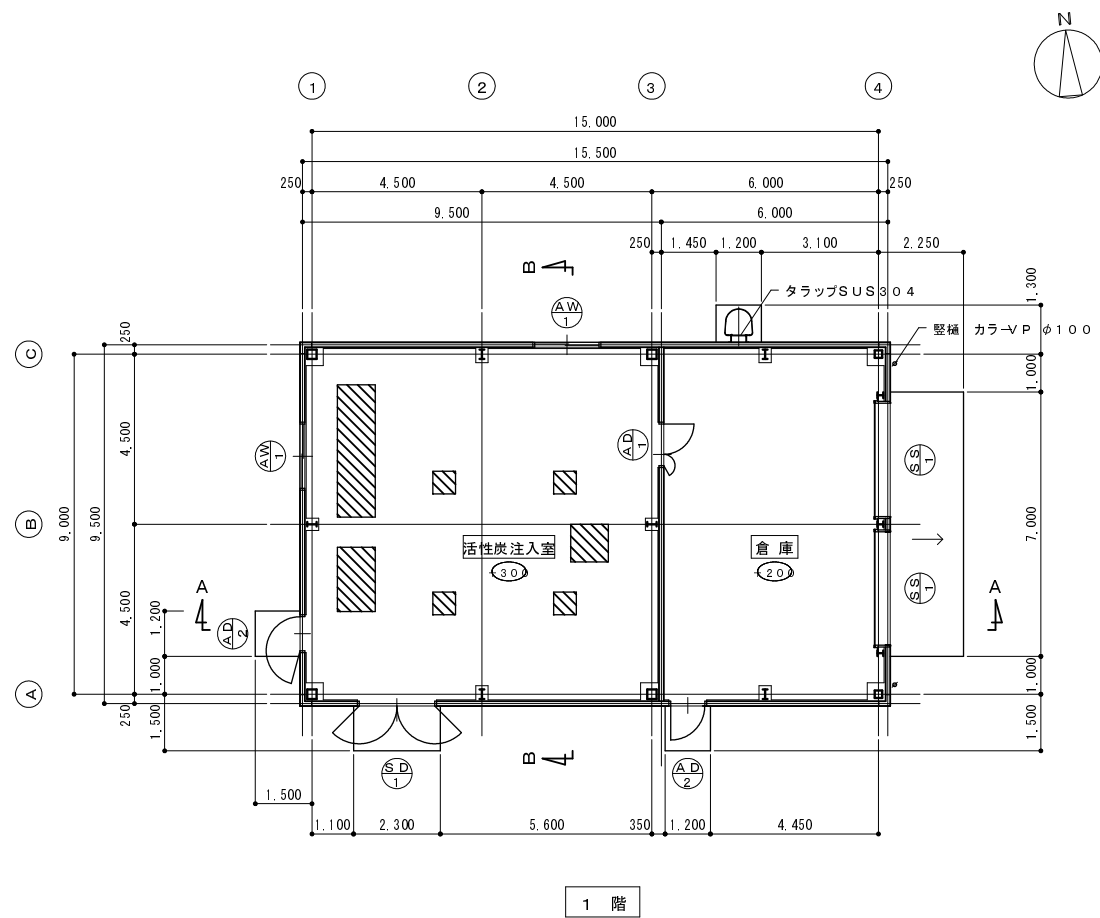
外部仕上表

屋根	折板 はせ締め形 500タイプ ふっ素樹脂塗装 カラーガルバリウム鋼板 ア) 1.0 ロックウールフェルト ア) 4 貼り	化粧・電気誘発目地	ポリウレタン系シーリング 20×10
笠木	W=175カラーアルミ	庇	アルミバイザー D800 アクリル積付塗装（既製品）貫通ボルト止め方式
軒 端	カラー角種 120型 カラーシート芯塩ビ 共通：SU S製 取付金物 結露避けネット	出入口外部床	コンクリート直均し
壁 種	カラーVP φ100		
外 壁	AL O(ネル張張 複層仕上塗材 E	建 具	アルミカラーサッシ、軽量スチールバランスシャッター、アルミ製ドア、鋼製ドア（メッキ鋼板）
腰 壁	コンクリート打放し(B) 複層仕上塗材 RE		
外 巾 木	コンクリート打放し(B)		

内部仕上表

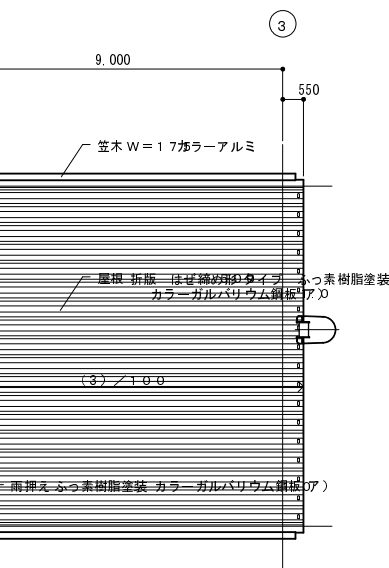
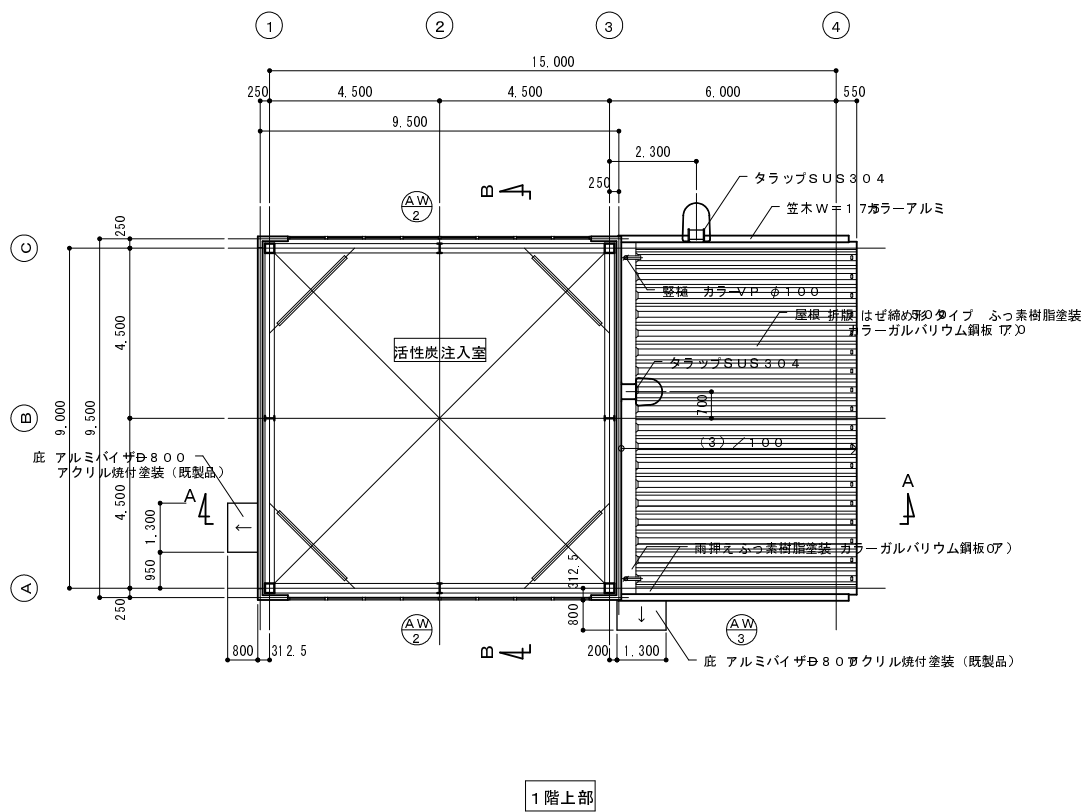
階	室 名	床	巾 木		腰 壁		壁	柱型	廻り縁	C H	天 井	梁型	備 考
			仕 上	H	仕 上	H							
1 階	活性炭注入室	無筋コンクリート ア) 300直均し エポキシ樹脂塗床	コンクリート打放し(B) エポキシ樹脂塗床立上げ	100	コンクリート打放し(B)	F L+650	AL O(ネルあらわし 素地	SOP	－	直 天	折板 屋根用断熱材あらわし	SOP	機械基礎
	倉 庫	無筋コンクリート直均し	－	－	コンクリート打放し(B)	F L+750	AL O(ネルあらわし 素地	SOP	－	直 天	折板 屋根用断熱材あらわし	SOP	

活性炭注入棟 平面図・屋根伏図



平面図 S=1/100

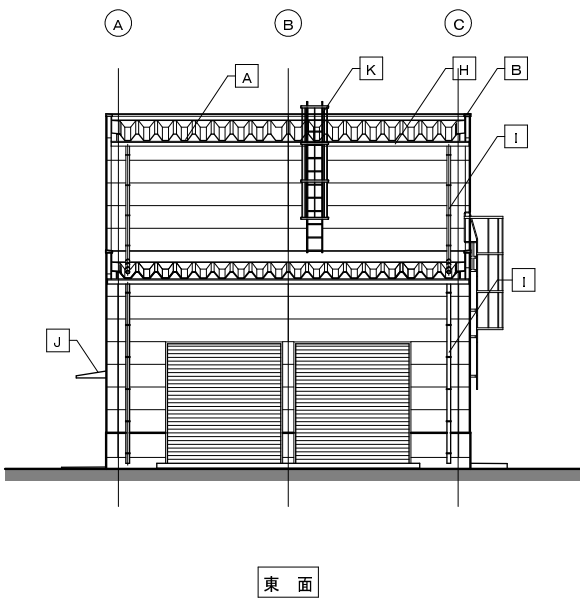
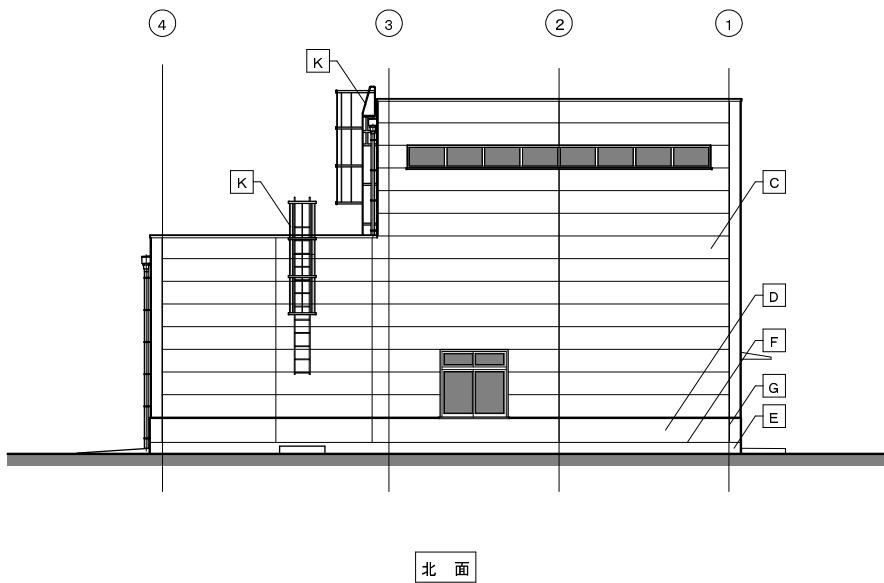
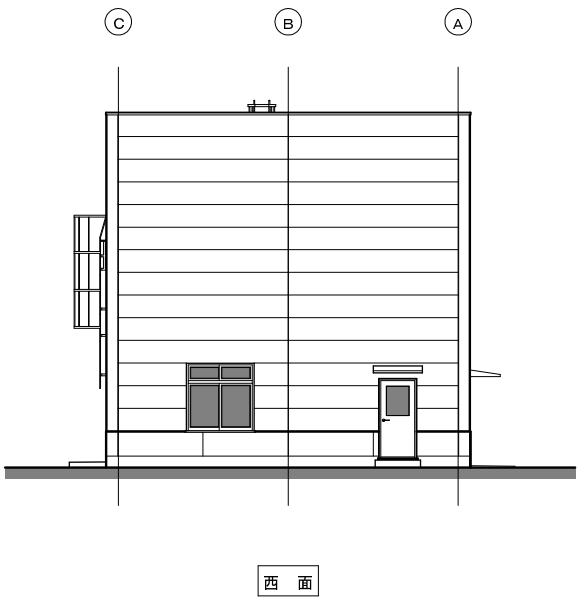
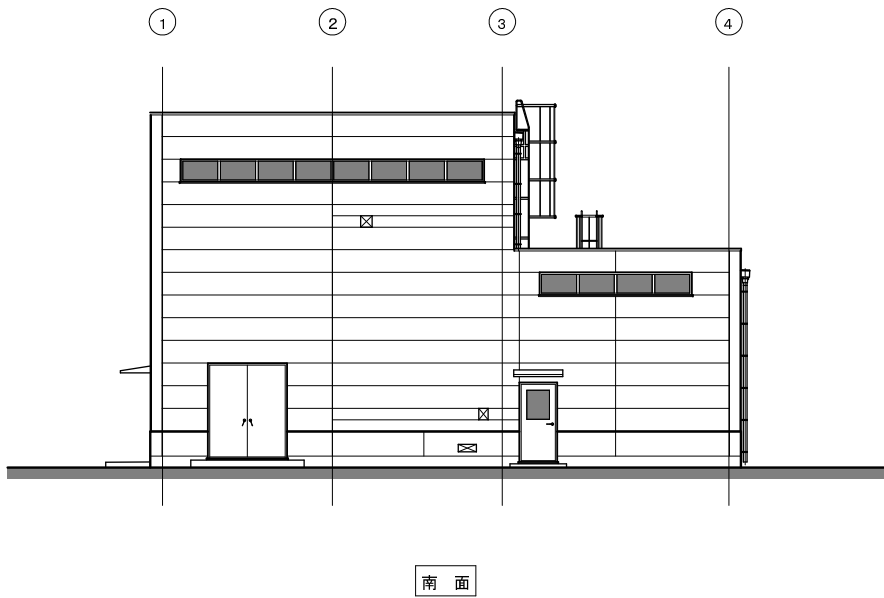
凡例 1 設計の床高を示す
2 コンクリート機器架台



屋根伏図 S=1/100

工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	活性炭注入棟 平面図・屋根伏図				
平成 年 月	尺度	1/100	審査		
京丹波町水道課			図番	A12	21

活性炭注入棟 立面図

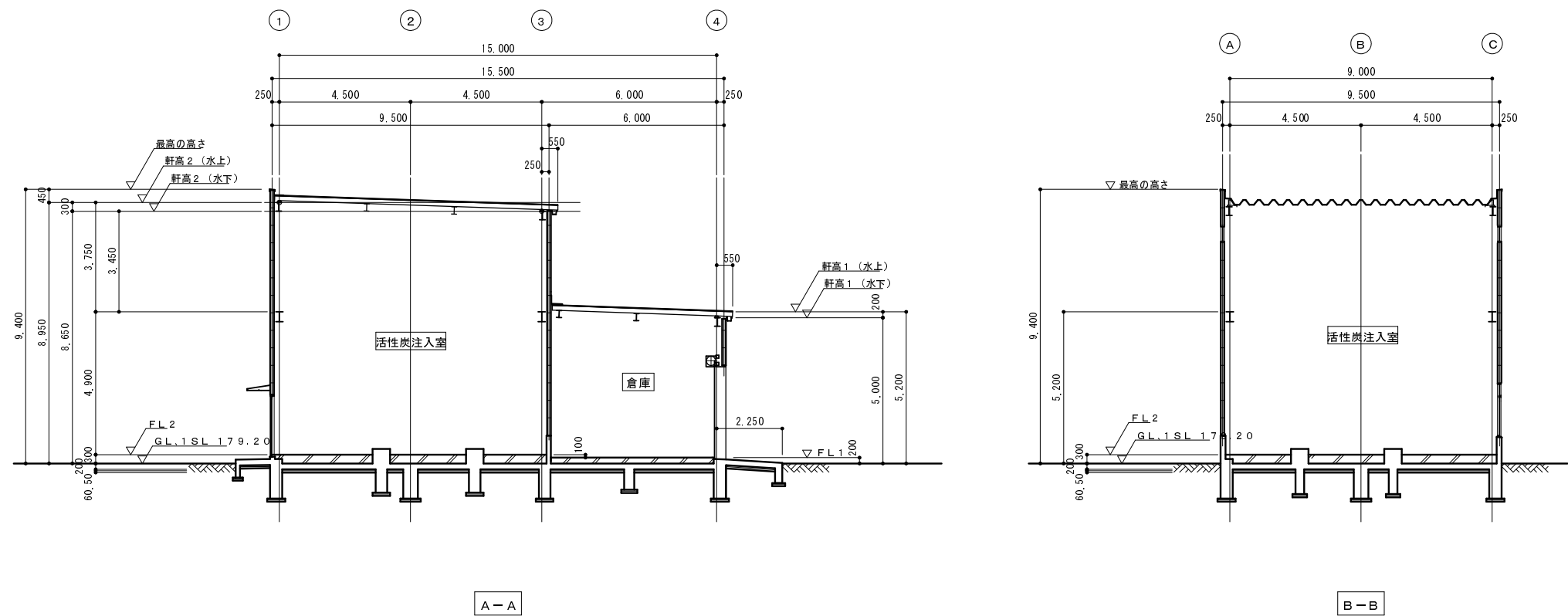


外 部 仕 上 表		
符 号	部 位	仕 上
A	屋 根	折板 はせ締め形 S O Oタイプ ふっ素樹脂塗装 カラーガルバリウム鋼板 ア) 1.0
B	笠 木	W=175カラーアルミ
C	外 壁	A L Oパネル横張 複層仕上塗材 E
D	腰 壁	コンクリート打放し(B) 複層仕上塗材 RE
E	外 巾 木	コンクリート打放し(B)
F	化粧目地	ポリウレタン系シーリング 20×10
G	亀裂誘発目地	ポリウレタン系シーリング 15×10
H	軒 樋	カラー角樋 120型 カーボンシート芯増ビ 共通: S U S製取付金物 枯葉避けネット
I	壁 樋	カラーVP φ100
J	庇	アルミバイザー D800アクリル横付塗装(既製品)貫通ボルト止め方式
K	タラップ	S U S304 安全ガード(後付) H Gタイプ

立面図 S=1/100

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図 名	活性炭注入棟 立面図			
平成 年 月	尺 度	1/100	審 査	
京 丹 波 町 水 道 課			図 番	A13 / 21

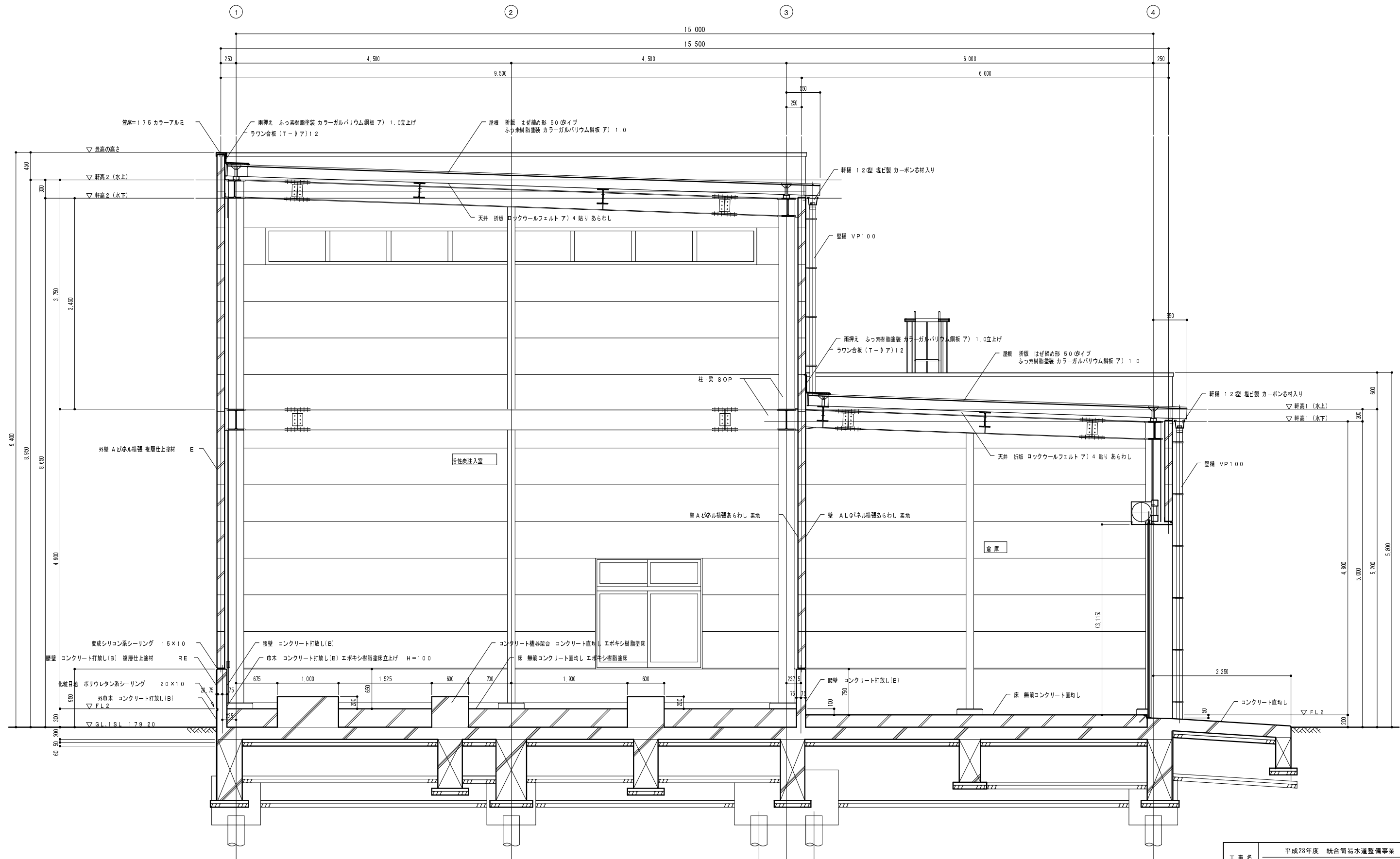
活性炭注入棟 断面図



断面図 S=1/100

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	活性炭注入棟 断面図				
平成 年 月	尺 度	1/100	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課			図 番	A14	21

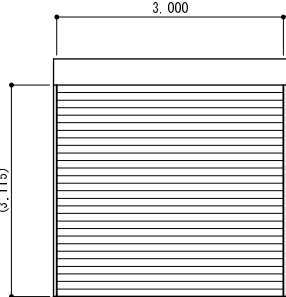
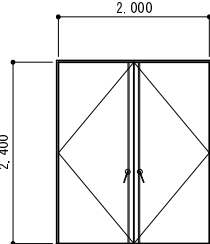
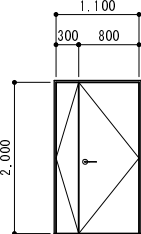
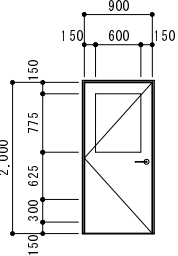
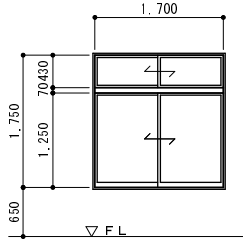
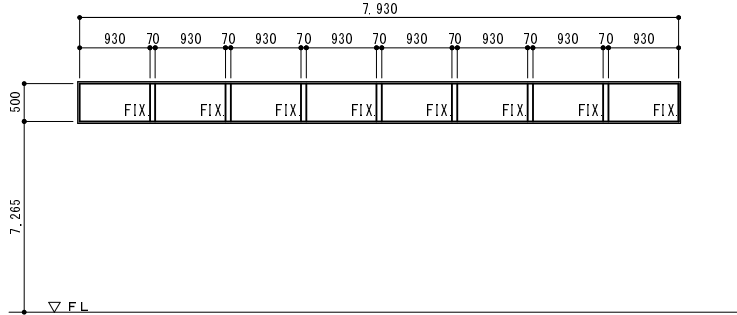
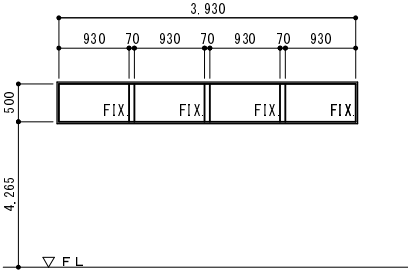
活性炭注入棟 矩計図



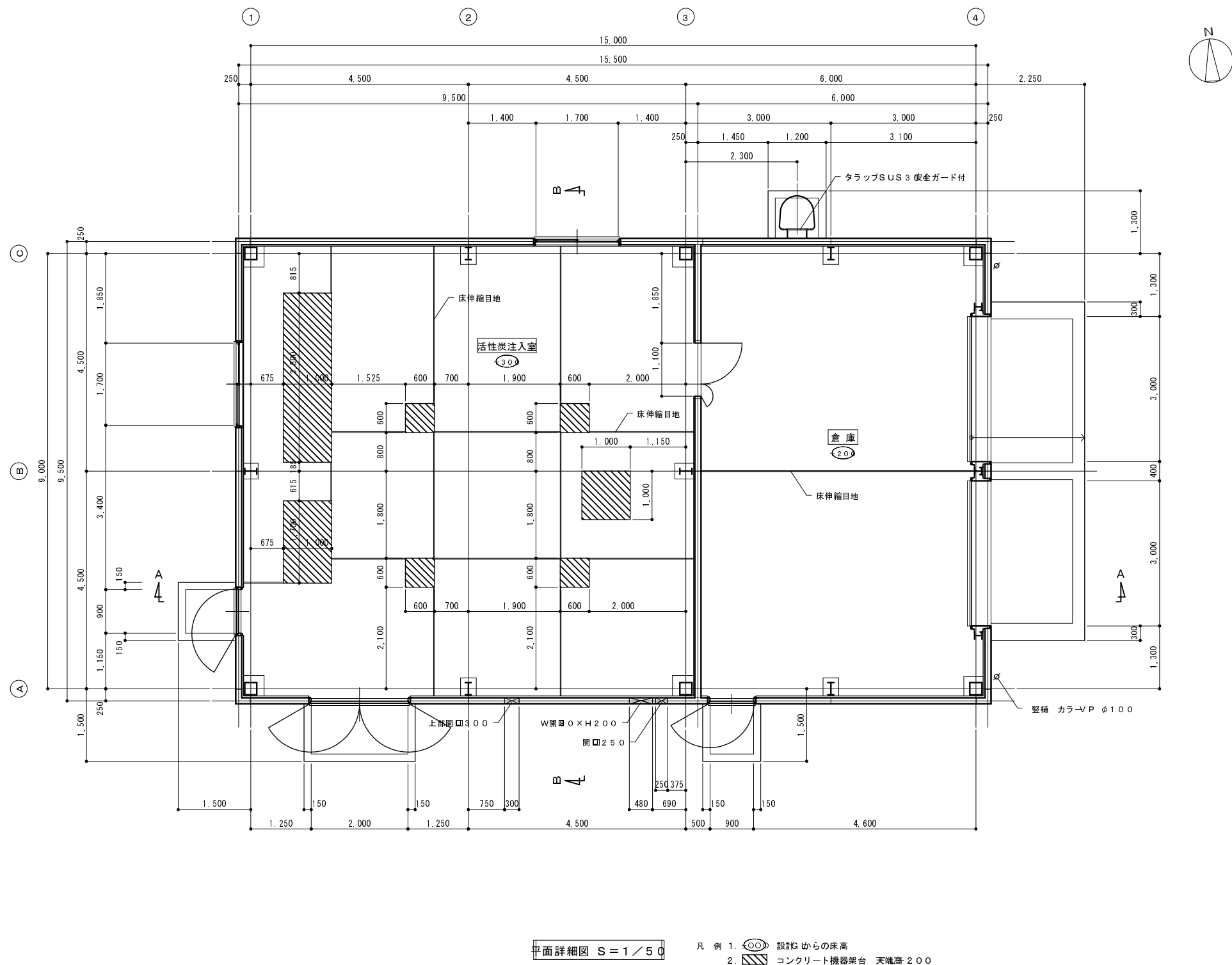
矩計図 S=1/30

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図 名	活性炭注入棟 矩計図			
平成 年 月 日	尺 寸	1/30	番 号	
京 丹 波 町 水 道 課			図 番	A15/21

建具表 S = 1 / 5 0

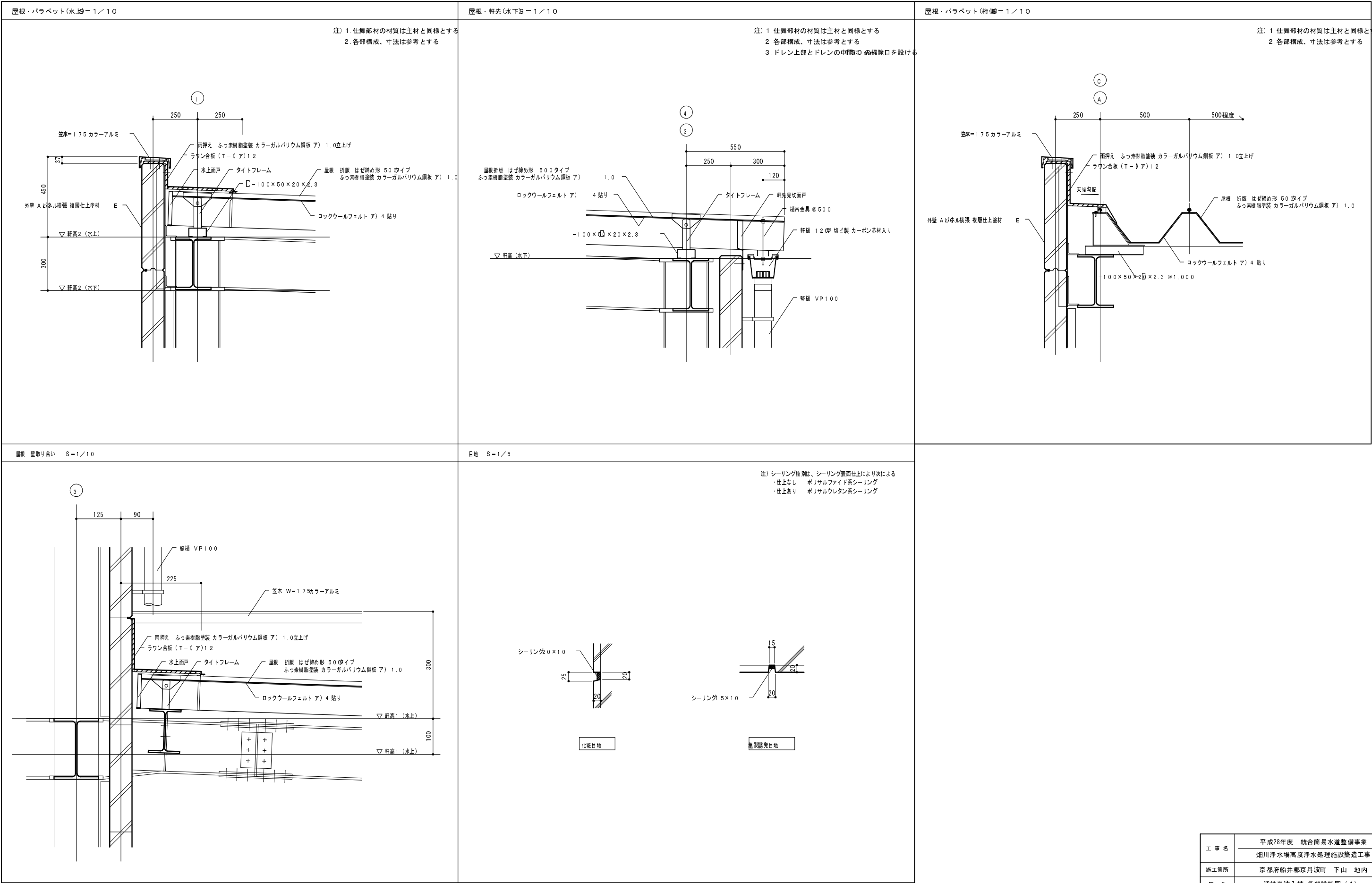
符号・名称・個数			SS-1	軽量手動バランスシャッター	2ヶ所	SD-1	大型鋼製両開きフラッシュ戸（外船用）	1ヶ所	AD-1	アルミ親子開きフラッシュ戸	1ヶ所	AD-2	アルミ片開きフラッシュ戸	2ヶ所		
場 所			倉庫			活性炭注入室			活性炭注入室・倉庫			活性炭注入室・倉庫				
仕 上（格状）			スラット A） 0.5 ,カラー鋼板			垂鉛メッキ鋼板 DP			アルミ（カラー）			アルミ（カラー）				
硝 子			－			－			－			型板ガラス A） 4				
枠見込	障子見込	下 枠	－	－	－	100	40	SUS304	70	－	SUS304	70	－	SUS304		
格記号 下枠（水切）記号			－			－			－							
建具金物			ガイドレール アルミ、座板、角型シャッターケース スチール			大型丁番（片割 3枚） SUS304両蔵型上げ落し、シリンダー本締め錠、大型戸当り、ドアクローザ（ストッパー付）			丁番 SUS304レバーハンドル、シリンダー本締め錠、上げ落し、ドアクローザ（ストッパー付）、その他付属金物一式			丁番 SUS304レバーハンドル、シリンダー本締め錠、ドアクローザ（ストッパー付）、その他付属金物一式				
その他			建具高さは、ALOWネル割付けによる													
形 状 寸 法																
符号・名称・個数			AW-1	アルミランマ付引違い窓	2ヶ所	AW-2	アルミFIX窓	2ヶ所				AW-3	アルミFIX窓	1ヶ所		
場 所			活性炭注入室			活性炭注入室						倉庫				
仕 上（格状）			アルミ（カラー）			アルミ（カラー）						アルミ（カラー）				
硝 子			型板ガラス A） 4			型板ガラス A） 4						型板ガラス A） 4				
枠見込	障子見込	下 枠	70	－	－	70	－	－				70	－	－		
格記号 下枠（水切）記号			－			－						－				
建具金物			水切、クレセント、額縁アルミ、その他付属金物一式			水切、額縁アルミ、その他付属金物一式						水切、額縁アルミ、その他付属金物一式				
その他			網戸（SUS）													
形 状 寸 法																

活性炭注入棟 平面詳細図



工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図 名	活性炭注入棟 平面詳細図									
平成	年	月	尺 度	1/50	審 査					
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	A17	21			

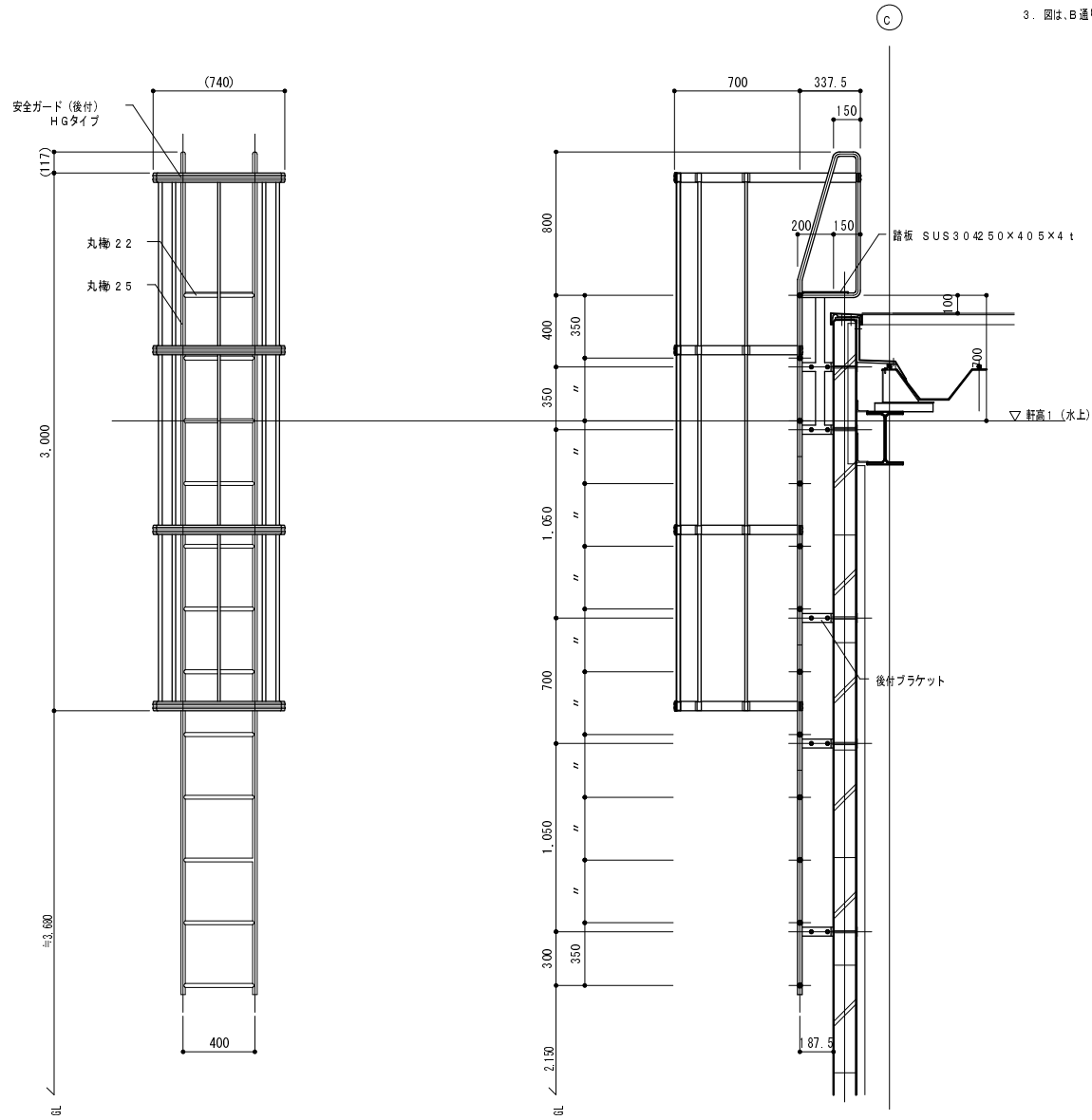
各部詳細図（１）



各部詳細図 (3)

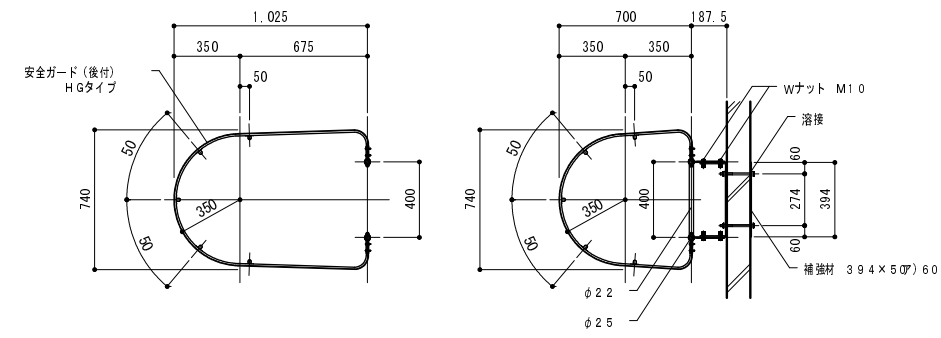
タラップ S=1/20

- 注) 1. 材質は全て SUS304とする
2. 各部寸法、部材寸法は参考とする
3. 図は、B通りのタラップを示す



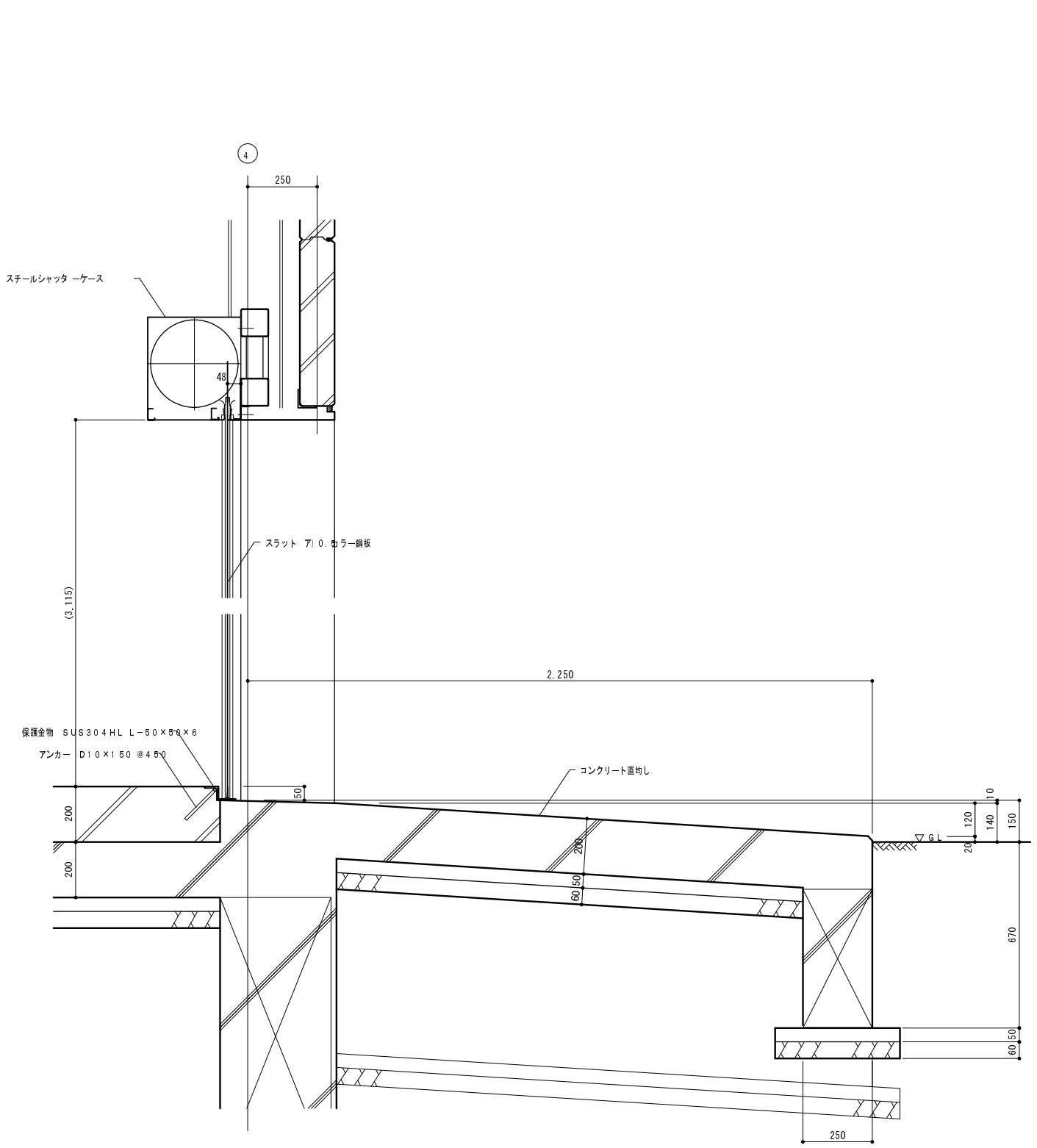
正面図 S=1/20

側面図 S=1/20

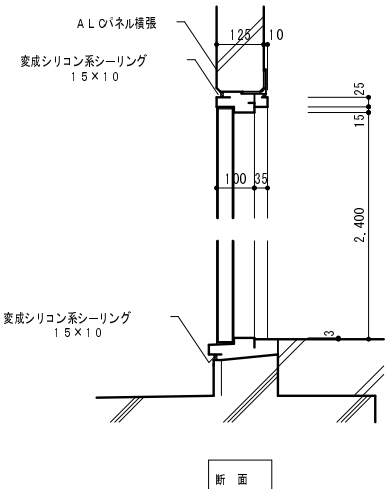
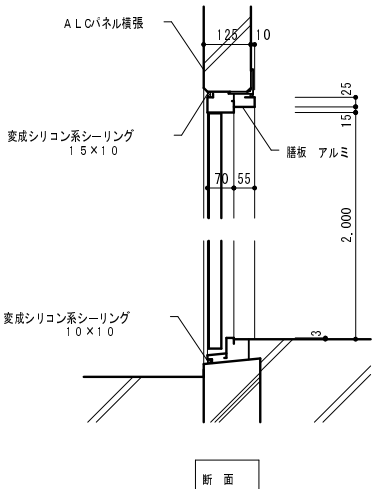
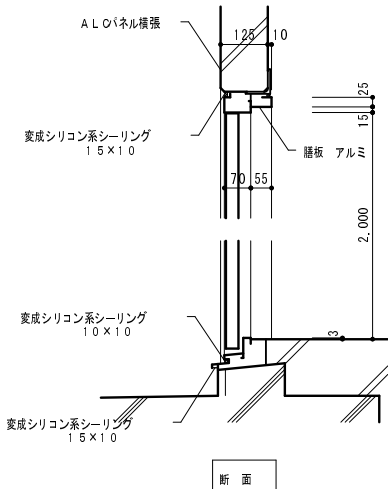
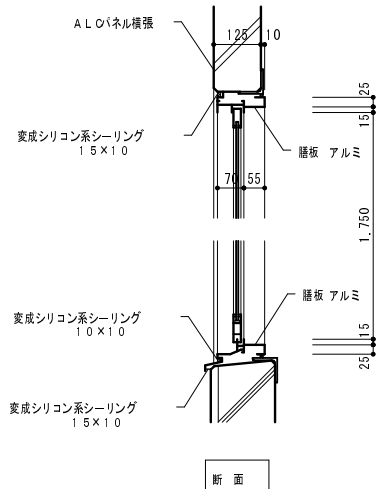
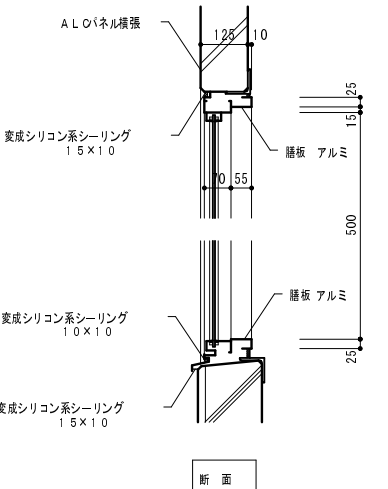


取付詳細図 S=1/20

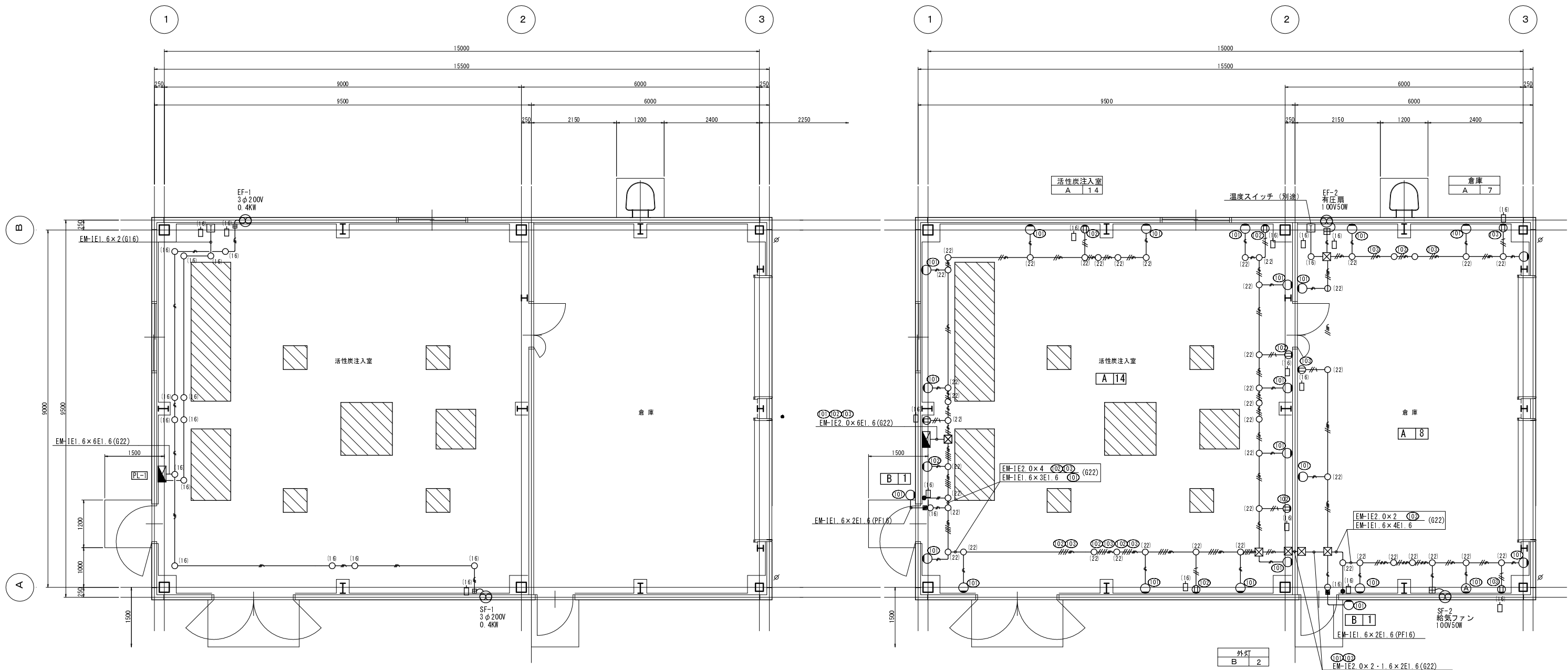
軽量手動バランスシャッター廻り S=1/10



工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
施工箇所	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
図名	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
平成	年	月	日	1/10/20
図番	A20			
京丹波町水道課	21			

SD-1 大型鋼製両開きフラッシュ戸（外部用）	AD-1 アルミ親子開きフラッシュ戸	AD-2、-3 アルミ片開きフラッシュ戸	AW-1 アルミランマ付引違い窓	AW-2、-3アルミFIX窓
 断面 平面	 断面 平面	 断面 平面	 断面 平面	 断面 平面

活性炭注入棟 動力・電灯設備平面図



凡例

EM-1E1. 6×2 (G16)	露出配管
EM-1E1. 6×3E1. 6 (G16)	露出配管
○ (16)	丸形露出ボックス (大きさ)
□ (16)	角型露出スイッチボックス (大きさ)
□	1ヶ用スイッチボックス入線プレート付
⌈	サーモスイッチ (支給品)

凡例

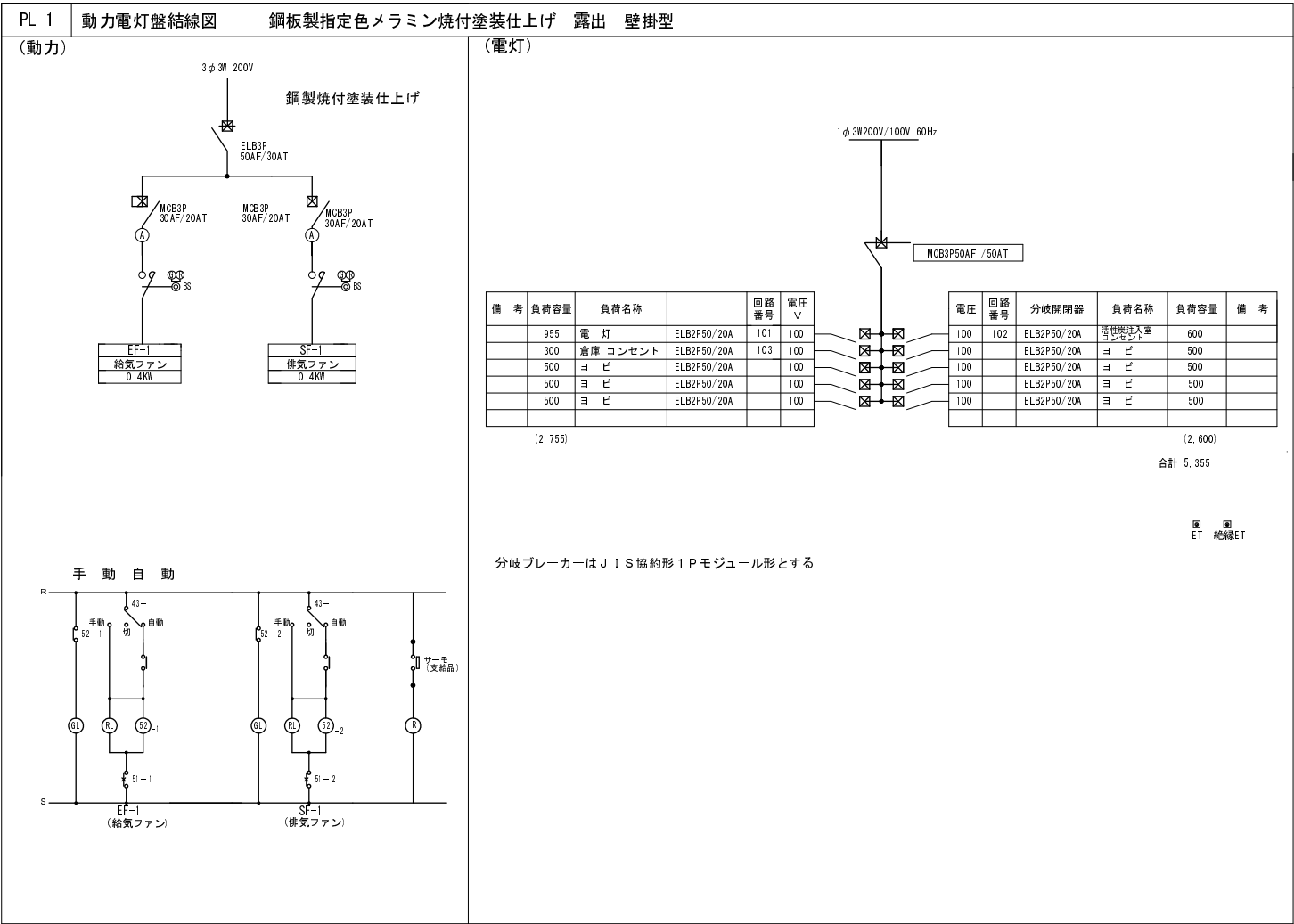
EM-1E1. 6×2	(G16)	露出配管
EM-1E1. 6×3	(G16)	露出配管
EM-1E1. 6×2	E1. 6 (G16)	露出配管
EM-1E2. 0×21. 6×2	E1. 6 (G22)	露出配管
EM-1E2. 0×21. 6×3	E1. 6 (G22)	露出配管
EM-1E2. 0×21. 6×4	E1. 6 (G22)	露出配管
EM-1E2. 0×41. 6×2	E1. 6 (G22)	露出配管
EM-1E2. 0×41. 6×3	E1. 6 (G22)	露出配管
EM-1E2. 0×4	E1. 6 (G22)	露出配管
○ (22)	丸形露出ボックス (大きさ)	
⊠	ブルボックスSS200×200×100	
□ (16)	角型露出スイッチボックス (大きさ)	
⊠	アウトレットボックスカバー付	
○	LED照明器具姿図参照	
⊕	埋込コンセント接地2P15A×2	金属プレート
●	埋込スイッチ1P10A	金属プレート
□	1ヶ用スイッチボックス入線プレート付	
⌈	サーモスイッチ (支給品)	

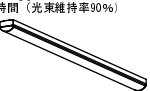
平面図 S=1/5

- 凡例
- ±000 設計GLからの床高を示す
 - コンクリート機器架台

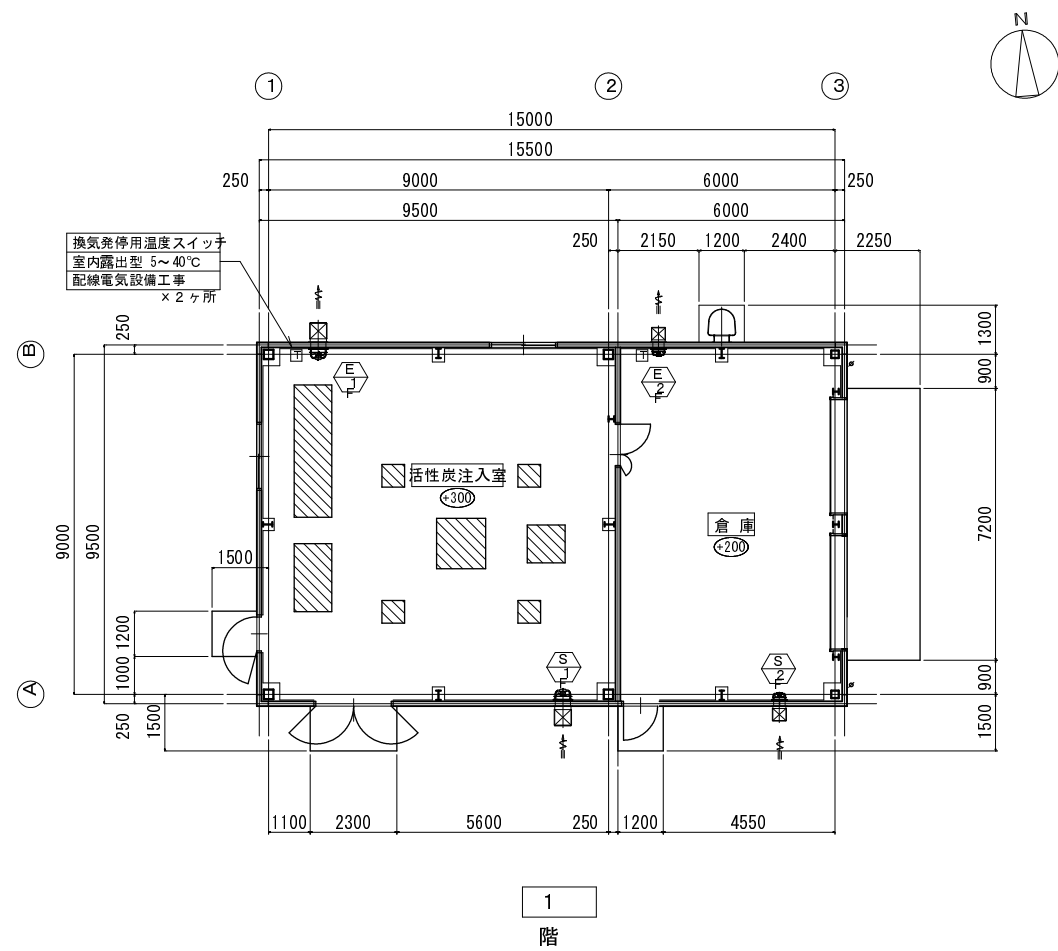
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図名	活性炭注入棟 動力・電灯設備平面図			
平成 年 月 日	尺 寸	1/50	審 査	
京丹波町水道課			図 番	AE1/2

活性炭注入棟 結線図・照明器具姿図



A	LEDベースライト 直付形 (昼白色)	B	LED防水形ブラケット (昼白色)
LEDバー：ポリカーボネート 乳白 定格電圧：AC100V～242V 消費電力：44.5W (AC200V時) 器具光束：6,900 lm 固有エネルギー消費効率：155.0 lm/ワ 寿命：40,000時間 (光束維持率90%)		定格電圧：AC100V 消費電力：10.0W 入力電流：130mA 器具光束：490 lm 消費効率：49.0 lm/ワ 寿命：40,000h センサー付	
			

活性炭注入棟 換気設備 平面図・機器仕様表



平面図 S=1/100 凡例 1(±000)設計GLからの床高を示す 2(斜線)コンクリート機器架台

機器仕様表

記 号	名 称 及 仕 様	数 量	備 考
S F -	活性炭注入室給気ファン 給気用有圧換気扇 400φ×4,000m ³ /h×120pa×0.4kw 3φ200V 60Hz	1	
	電動シャッター、防虫網付ステンレス製給気用ウェザーカバー 共 EF-1と連動運転(連動電気設備工事)		
1 E F -	活性炭注入室排気ファン 有圧換気扇 400φ×4,000m ³ /h×90pa×0.4kw 3φ200V 60Hz	1	
	電動シャッター、防虫網付ステンレス製ウェザーカバー、温度スイッチ 共 温度スイッチにてON-OFF(配線：電気設備工事)		
1 S F -	倉庫給気ファン 給気用有圧換気扇 300φ×1,500m ³ /h×40pa×50W 1φ100V 60Hz	1	
	電動シャッター、防虫網付ステンレス製給気用ウェザーカバー 共 EF-2と連動運転(連動電気設備工事)		
2 E F -	倉庫排気ファン 有圧換気扇 300φ×1,500m ³ /h×40pa×50W 1φ100V 60Hz	1	
	電動シャッター、防虫網付ステンレス製ウェザーカバー、温度スイッチ 共 温度スイッチにてON-OFF(配線：電気設備工事)		

5.1 基礎梁

(a) 一般事項

(1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。

(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。

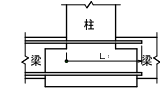


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。

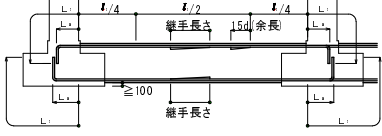


図5.2 主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

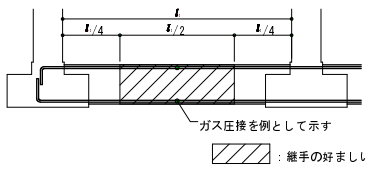


図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d)による。

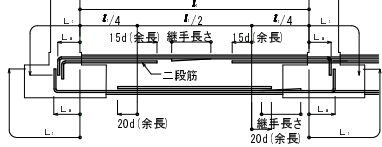


図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

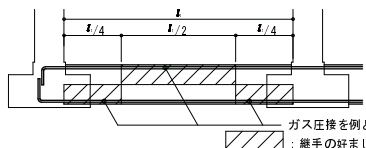


図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。

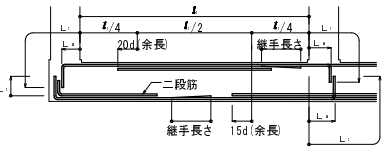


図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

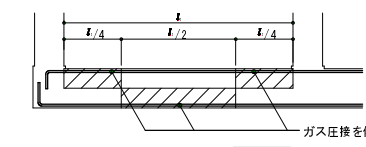


図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

5.2 基礎梁のあばら筋

(a) 一般事項

(1) あばら筋の径及び間隔は、特記による。

(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。

ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

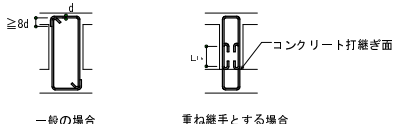


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(b) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。

ただし、梁せいが1.5m以上の場合は特記による。

(c) あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

(a) 一般事項

(1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_o/4$ (h は柱の内法高さ) 以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は図6.1による。

ただし、柱頭定着長さ L_c を確保できない場合は、特記による。

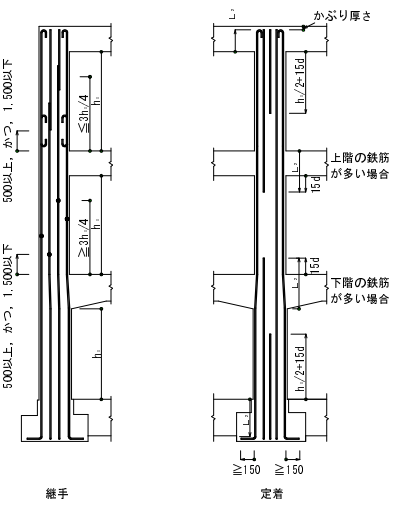


図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

(注) 1. 柱の隅隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隅り合う継手の位置は、表3.2「隅り合う継手の位置」による。
3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

(b) 柱打ち増し部

(a) 打増し部分に、壁、梁、スラブ筋等が取り付く場合は、壁、梁、スラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

(b) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

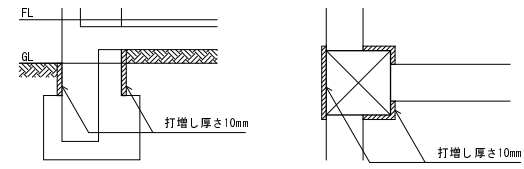


図6.2 柱打ち増し部

6.2 帯筋

(a) 帯筋の種類及び間隔は、特記による。

(b) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は特記による。

(1) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。

(2) 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フラア溶接の場合は5d以上、片面フラア溶接の場合は10d以上とする。

(3) S P形において、柱頭及び注開の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。

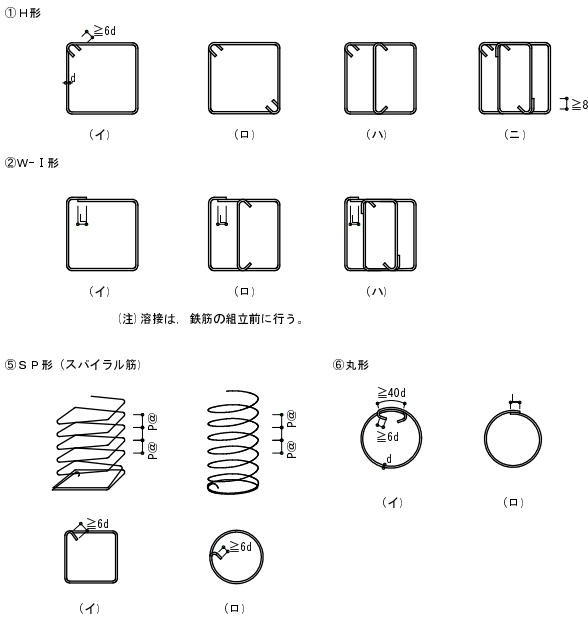


図6.3 帯筋組立の形

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは、図6.4とし、それ以外の場合は特記による。

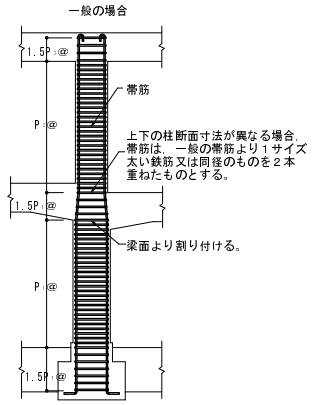


図6.4 帯筋の割付け

(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P @または1.5P @とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P @、P @は、特記された帯筋の間隔を示す。

7.1 大梁

- (a) 一般事項
- (1) 梁の上がり下がり、F.L.を基準とした寸法値とする。
 - (2) 地中梁下の砂利地層厚さ及び給コンクリート地層厚さは、特記による。
 - (3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
- (b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
- (1) 継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 $l/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $l/4$ を加えた範囲以内
 - (2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、図7.3及び図7.4による。
 - (3) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では折り曲げて定着する。

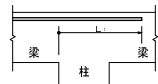


図7.1 梁主筋の梁内定着

- (4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、3.1 (b) (2) による。

上端筋：曲げ降ろす。
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

- (5) 梁にハンチを付ける場合、その傾斜は特記による。
(6) 段違い梁は、図7.2による。

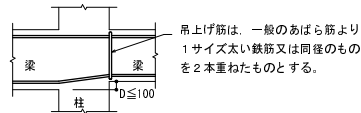
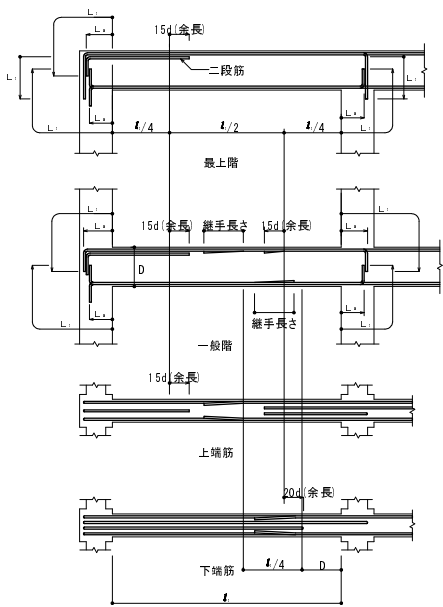


図7.2 段違い梁

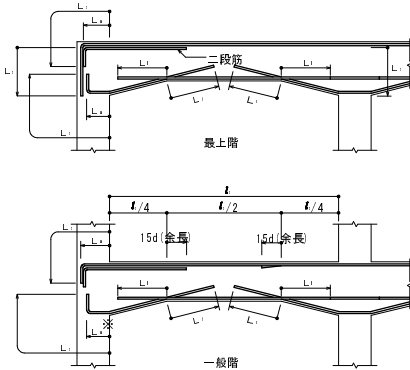
- (c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

- (d) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.4による。



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋等

- (a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
 - (2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ及び定着長さは、特記による。
 - (3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000程度とする。
- (b) あばら筋組立の形及びフックの位置
- (1) 形は、図7.5(イ)とする。
ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
 - (2) フックの位置
Ⅰ. (イ)の場合は、交互とする。
Ⅱ. (ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
Ⅲ. (ハ)の場合は、床板の付く側を90°折曲げとする。

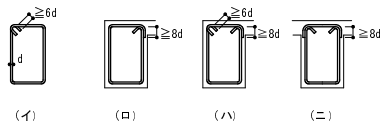
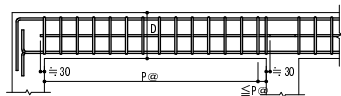


図7.5 あばら筋組立の形

- (c) あばら筋の割付け

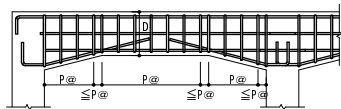
- (1) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

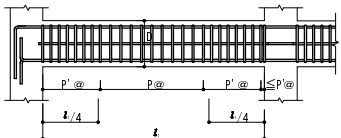
- (2) 間隔が一樣でハンチがある場合は、図7.7による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

- (3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

- (d) 腹筋及び幅止め筋

- (1) 一般の梁は、図7.9による。

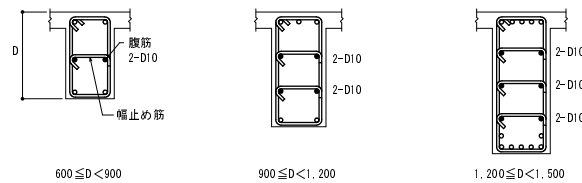
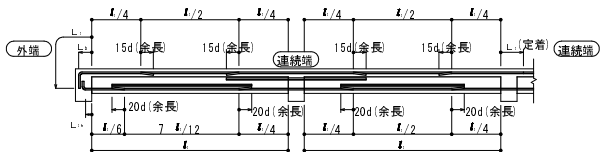


図7.9 腹筋及び幅止め筋

7.3 小梁

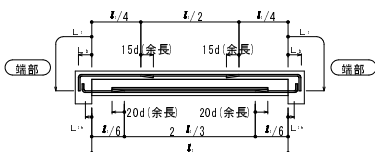
- (a) 連続小梁の場合は、図7.10による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

- (b) 単独小梁の場合は、図7.11による。



- (注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。

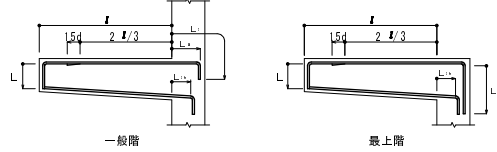
図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

- (c) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

- (a) 片持梁主筋の定着及び余長

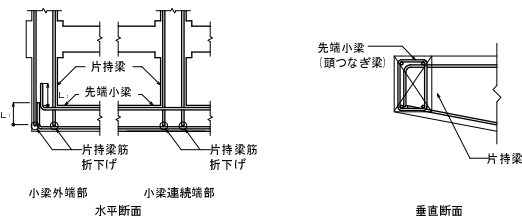
- (1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、余長位置を示す。
3. 先端の折曲げの長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

- (2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



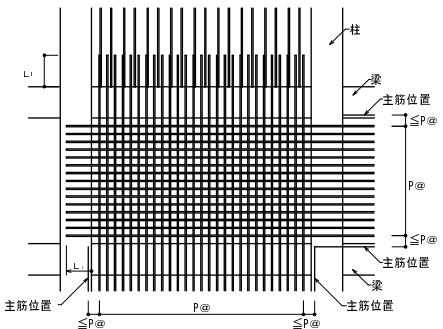
- (注) 1. 図示のない事項は、(1)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

- (b) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

- (a) 一般事項
- (1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さを l_v 、定着長さを l_d とする。
 - (2) 幅止め筋は、縦横ともD10～1,000程度とする。
 - (3) EW〇〇、EKW〇〇、ERW〇〇の配筋は、W〇〇、KW〇〇、RW〇〇に同じで、かぶり厚さ、定着長さ及び継手長さは、3.1、4.1による。
 - (4) 打増し部分に、壁及びスラブ筋等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分を含まない。



- (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

図8.1 壁の配筋

- (b) 壁の配筋は表8.1により、種別は特記による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

- (注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

- (c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は特記による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	縦筋の配筋種別 (表10.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	KA1
	横筋	D13-200@ダブル	KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	KA2
	横筋	D13-200@ダブル	KA4

- (注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

- (d) 壁の交差部及び端部の配筋は図8.2による。

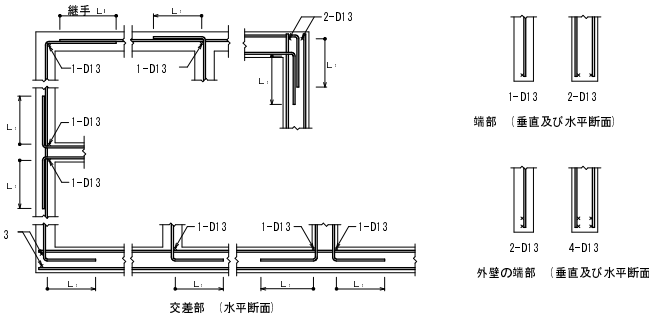


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内
図 名	活性炭注入機 構造関係共通図（配筋標準図）（3）
平成 年 月 尺 度	—
審 査	S4
京 丹 波 町 水 道 課	18

8.2 壁の補強

- (a) 壁開口部の補強
- (1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は特記による。
なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

- (2) 壁開口部補強筋の定着長さは図8.3による。

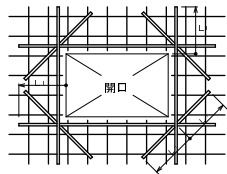


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

- (3) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、は、FLを基準とした寸法値とする。
- (2) 土間スラブ下の砂利地床厚さ及び捨てコンクリート厚は、特記による。
- (3) 土間コンクリート補強筋 (Do) の配筋及びコンクリート厚さは、特記による。
- (4) スラブの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10、D13-150@	D10-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上	D10-200@
S 3	同上	D10、D13-150@	S10	D10、D13-200@	D10、D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同上	D10-200@
S 5	同上	D10、D13-150@	S12	同上	D10-250@
S 6	同上	D13-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10、D13-150@	D10、D13-150@	S14	同上	D10-250@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

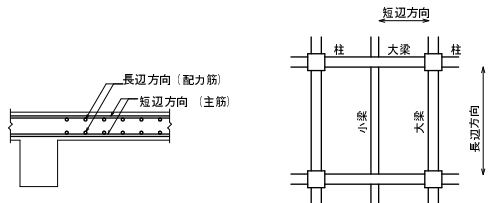


図9.1 スラブの配筋

- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- (6) 鉄筋の重ね継手長さは、Lとする。

- (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

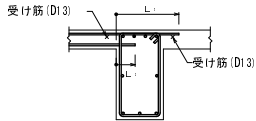
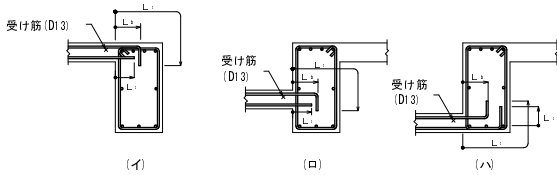


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)



一般スラブの場合

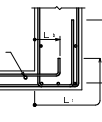


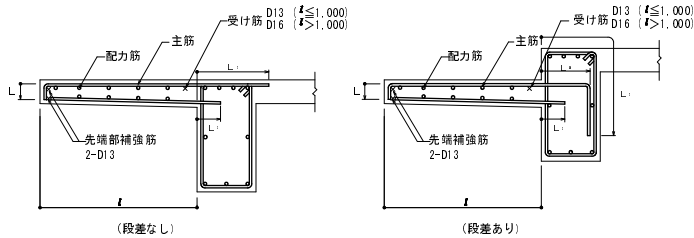
図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

9.2 片持スラブ

- 片持スラブの配筋は、次による。
- (1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

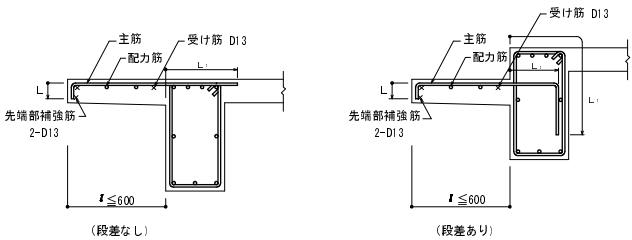
表9.2 CS形配筋

配筋種別		主筋	配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100@	CS5	上	D10-200@
	下	D13-200@		下	D10-400@
CS2	上	D13-150@	CS6	上	D10、D13-200@
	下	D13-300@		下	————
CS3	上	D10、D13-150@	CS7	上	D10-200@
	下	D10、D13-300@		下	————
CS4	上	D10、D13-200@			
	下	D10-200@			



(注) 1. 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブの配筋 (CS1 から CS5)



(注) 1. 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS6 及び CS7)

- (2) 先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

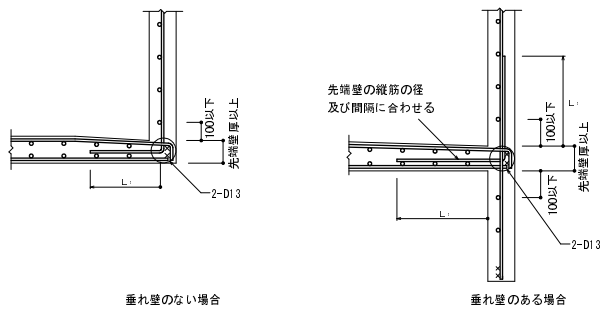


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

- (3) 出隅部

- (i) 補強の配筋は特記により、配筋方法は、図9.7による。
- (ii) 出隅受け部分 (図9.9の斜線部分) の補強筋は特記による。

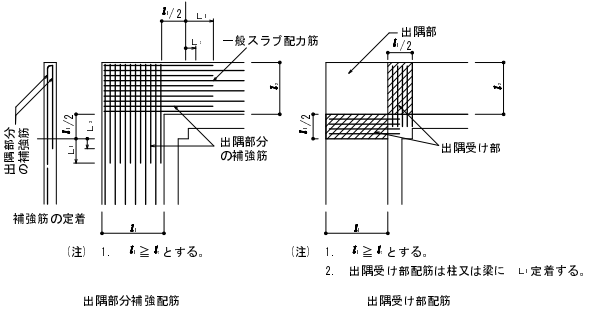


図9.7 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

- (a) スラブ開口部の補強
- スラブ開口部の補強は、特記による。
- (i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (L=2L) シングルを上下筋の内側に配筋する。

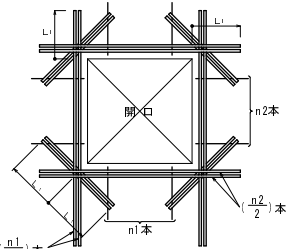


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (ii) スラブの開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (b) 屋根スラブの補強
- 屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

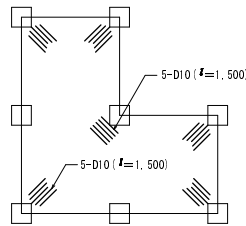


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

- (c) 土間スラブの打継ぎ補強

- 基礎梁とスラブを一体打ちしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

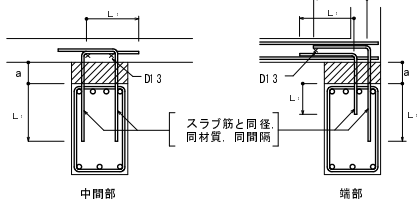


図9.10 打継ぎ補強配筋

- (d) 土間コンクリート補強
- 土間コンクリートの補強筋は、特記による。
なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

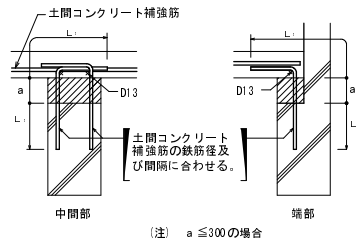


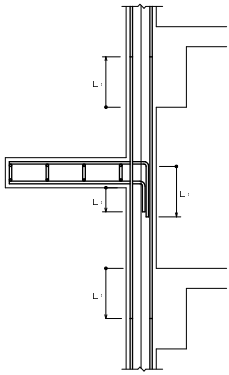
図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

- 片持スラブ形階段の基準配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		



- (注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、8.1(c)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3「鉄筋の定着長さ」のLとする。

図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、特記による。

表10.2 二辺固定スラブ形配筋	
配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D1 3~200φ
KB2	D1 3~150φ
KB3	D1 3~100φ
KB4	D1 3, D1 6~150φ
KB5	D1 6~150φ
KB6	D1 6~125φ
KB7	D1 6~100φ

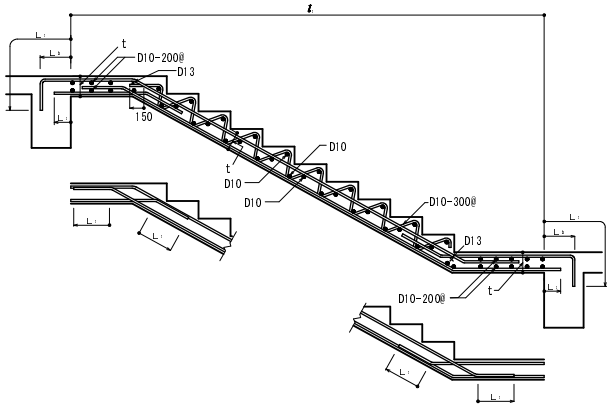
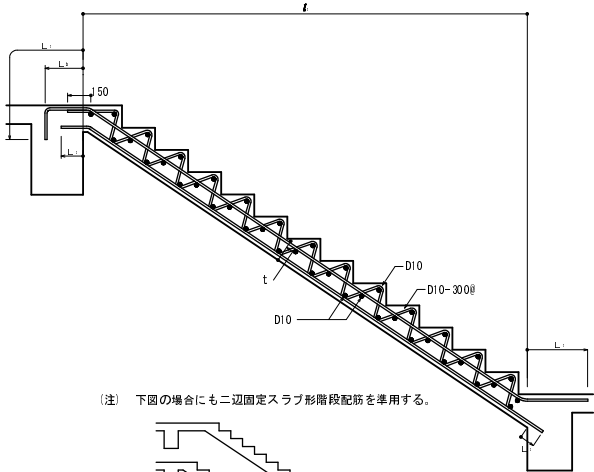


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

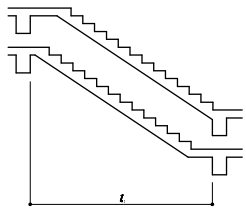


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 梁貫通孔

- (a) 梁貫通孔は、次による。
- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
 - (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
 - (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には設けてはならない。
 - (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
 - (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
 - (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 - (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
 - (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 - (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
 - (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1~13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
 - (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であれば筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

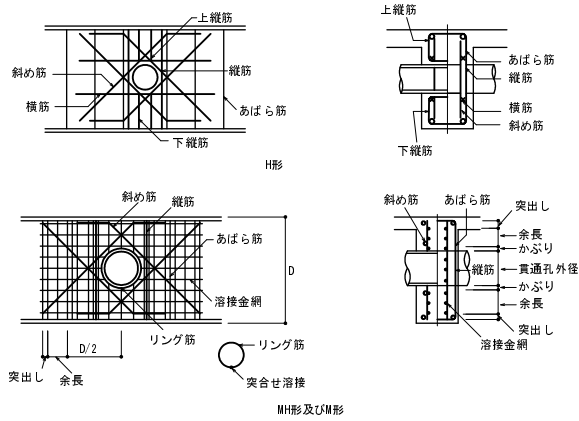


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

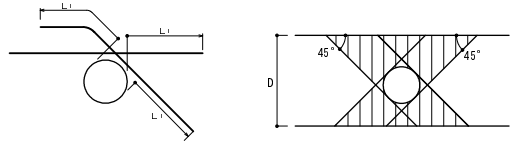


図11.2 補強筋の定着長さ

図11.3 他の開孔を設けない範囲

(b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は特記による。

表11.1 H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋			
配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	
M4	6-2-D13		

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 MH形配筋				
配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	
MH7	4-2-D19			

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック横壁との取合い

- (a) 控壁は、次による。
- (1) 控壁の配筋図、特記による。
 - (2) 配筋は、図11.4による。

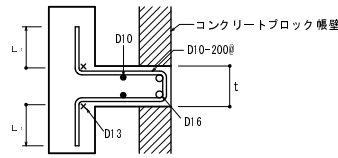


図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

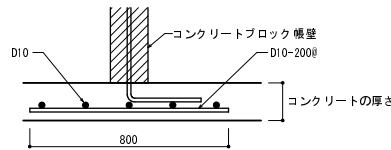


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラベット

パラベットの配筋は図11.6による。
コンクリート厚さ、縦筋は特記による。

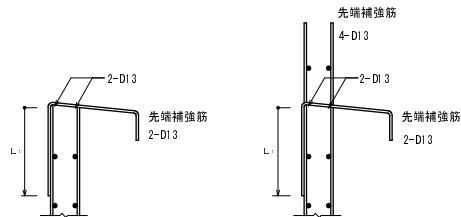


図11.6 パラベットの配筋

構造関係共通図（鉄骨標準図）

1. 1 縁端距離及びボルト間隔等

(a) 縁端距離及びボルト間隔

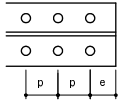
縁端距離及びボルト間隔は、表1. 1による。

ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2. 5倍以上とする。

また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1. 1 縁端距離及びボルト間隔 (単位：mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

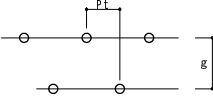


(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1. 2による。

表1. 2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位：mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40



(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1. 3による。

表1. 3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位：mm)

A又はB		E1	E2	最大軸径	B			最大軸径	B			最大軸径
					B	E1	E2		B	E1	E2	
45	25		12	100	56		16	50	30		12	
50	28		16	125	75		16	65	35		20	
60	35		16	150	90		22	70	40		20	
65	35		20	175	105		22	75	40		22	
70	40		20	200	120		24	80	45		22	
75	40		22	250	150		24	90	50		24	
80	45		22	300	150	40 ¹⁾	24	100	55		24	
90	50		24	350	140	70	24					
100	55		24	400	140	90	24					
125	50	35	24	※1 千鳥打ちとした場合								
130	50	40	24									
150	55	55	24									
175	60	70	24									
200	60	90	24									

1. 2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準

(単位：mm)

被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 H (及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$G = t$		$G = t$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
$D1 = 2(t-2) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-2) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$		$D1 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$	

T型継手の開先標準

(単位：mm)

被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 及びセルフシールドアーク溶接		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$		$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$		$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$		$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$	
$D1 = 2(t-2) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-2) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$		$D1 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$	

部材が直交しない場合の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$	
$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$	

かど継手の開先標準

(単位：mm)

被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 及びセルフシールドアーク溶接		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$S = t$		$S = t$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$		$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	
$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$		$\frac{1}{4}t \leq S \leq 10$	
$D1 = 2(t-2) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-2) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$		$D1 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$	

隅肉溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 16$	
$t \leq 16$	
$16 < t \leq 40$	

隅肉溶接のサイズ

(単位：mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

(単位：mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	
$16 \leq t \leq 40$	
$D1 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$ $D2 = (t-6) \text{ } \swarrow \text{ } \searrow$	

フレア溶接の開先標準

(単位：mm)

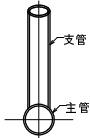
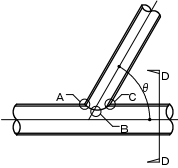
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)
$d/2$ $d/2$	$d/2$ $d/2$	$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$	$t \geq 3$ のとき $S = t$ $t < 3$ のとき $S = 3$

1. 3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。

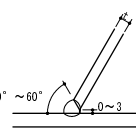
(単位：mm)

適用管厚 3. 2mm ≤ t ≤ 12mm
交角 30° ≤ θ ≤ 150°

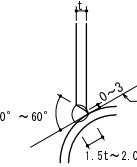


D→D断面図

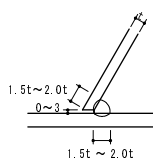
主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。



A部断面



B部断面



C部断面

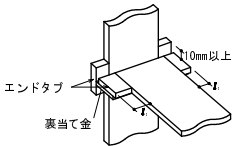
1. 4 鉄骨溶接施工

(a) フィラープレートの鋼材種別は、SS400とする。

(b) エンドタブ

(1) エンドタブの形状は母材と同厚、同開先のものとする。

(2) エンドタブ・雲当て金・スプライスプレートの鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。



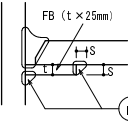
エンドタブの長さ (単位：mm)	
溶接方法	長さ
手 溶 接	35以上
半自動溶接	38以上
自 動 溶 接	70以上

(c) 裏当て金

裏当て金の溶接

(1) 裏当て金の組立溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。

(2) 完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ (単位：mm)	
溶接方法	厚さ
手 溶 接	6以上
半自動溶接	9以上
自 動 溶 接	12以上

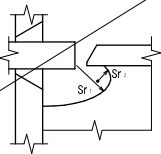
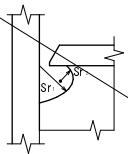
溶接のサイズ (単位：mm)	
裏当て金の厚さ	サイズ
t ≤ 9	5
t > 9	9

(d) スカラップ

改良型スカラップ

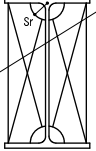
(1) スカラップ半径 Sr は35mmとする。Sr は10mmとする。

(2) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



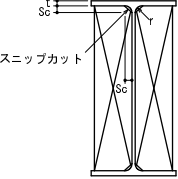
従来型スカラップ

スカラップ半径Srは35mmとする。



(e) スニップカット

(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

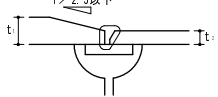


スニップカットの寸法 (単位：mm)	
t	寸法
6	9
12	12
16以上	15

ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $S_o = r + 2$ により求めるものとする。

(f) 溶接部分の段差

(1) 完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合



工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内
図 名	活性炭注入機 構造関係共通図（鉄骨標準図）（1）
平成 年 月 尺 度	—
審 査	—
図 番	S7 / 18



京丹波町水道課

(g) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-I1, 15 YGW-I8, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
			30以下	450以下
			40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570Mpa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-I1, 15 YGW-I8, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
			40以下	350以下
			40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW-I8, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
400N級鋼STKR BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW-I1, 15 YGW-I8, 19	30以下	250以下
			40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
			40以下	350以下
490N級鋼STKR 及びBCP	JIS Z 3312	YGW-I8, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下

1.5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

- (a) 鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下記による。
(b) 有効溶接長さ(L)は、ビートの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた長さとする。

L：片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
La及びLb=1S (鉄筋については1d)
d：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S：溶接のサイズ

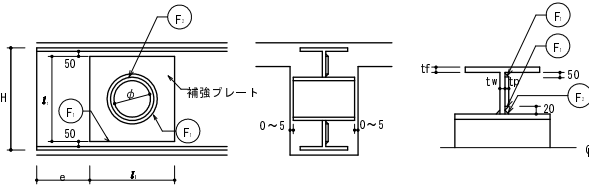


1.6 梁貫通孔補強

- (a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。
(b) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下、かつ、鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(c) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

補強プレート法

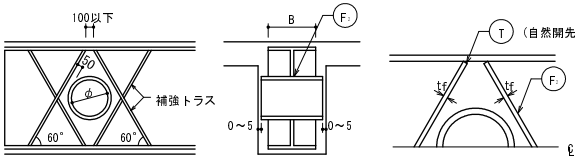
- (1) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



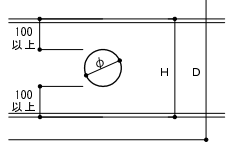
t は 3φ又は t のうち小さい方とする。(a ≧ Hとする)

補強トラス法

- (1) スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



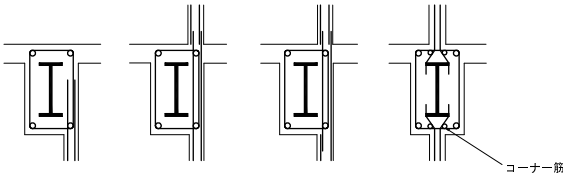
梁貫通孔の位置の限度 (単位: mm)



H: 鉄骨せい
D: 梁せい
φ: 貫通孔内径寸法
(φ ≦ H/2, かつ, φ ≦ D/3)

1.7 壁筋の周辺部材への定着

鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。



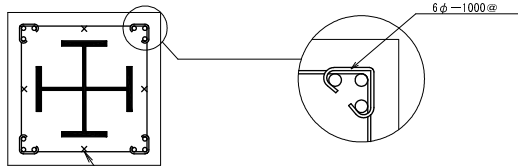
梁への定着方法



柱への定着方法

1.8 柱組立筋

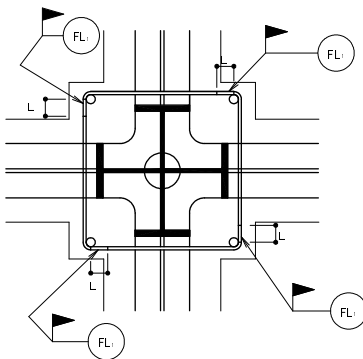
柱組立筋



D/3以上の組立筋(柱幅≧700mm)

1.9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ(L)は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。



1.10 鉄筋貫通孔の径及び位置

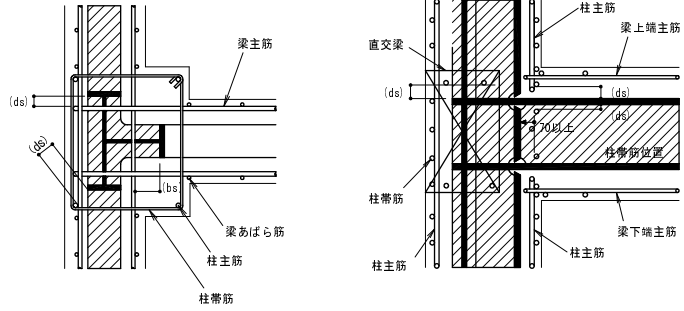
鉄筋貫通孔の径

鉄筋の貫通孔径の最大は、下表による。

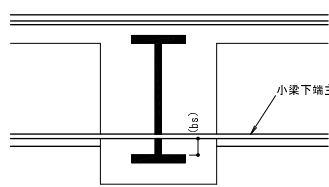
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)

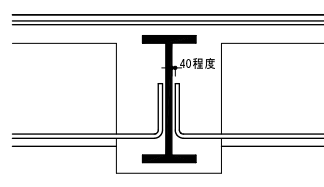
鉄骨フランジは、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)



(bs): 主筋と平行する鉄骨とのあき

1.11 広幅平鋼の取扱い

- (1) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
(2) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ									
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○
	500					○	○	○	○	○	○

1.12 普通ボルト接合

もや、胴縁頭の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は、二重ナットとする。

ハイベースNEO工法設計施工標準

大臣認定
BCJ評定

(ハイベースNEO工法 Gタイプ は、S造及びCFT造に適用)
(ハイベースNEO工法 エコタイプ は、S造に適用)

2015/4-2

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S S 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書
同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質
(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (EB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B118 (六角ナット)	JIS G3106 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B、SN490C 板厚40mm以下板厚40mm超	降伏比 70%以下	-	強度区分	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート 第1	アンカーボルト 第2	ナット 第2	座 金 第2	定着板
規 格	HCW490b (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目 第3	メートル並目 第3	-	-
備 考	SN490B同等	降伏比 70%以下 強度区分 Ⅱ 引張強度 490N/mm²以上	強度区分 Ⅱ 引張強度 490N/mm²以上	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0404) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042-0046)
※3 M72は極目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

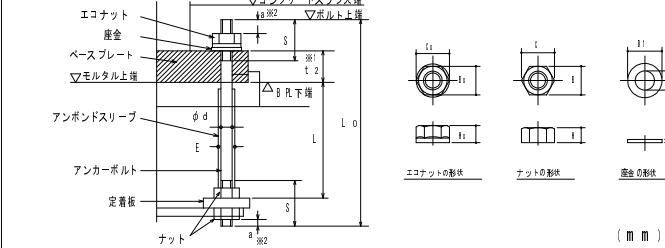
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルN X 2 0 0 0、又はクイック3
中心塗部分モルタル	○無収縮性モルタルパッド用 (固練り) 又は普通モルタル (N X 2 0 0 0 及びクイック3 は使用不可。専用のモルタルを使用のこと。) ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	JIS G 3 1 1 2 「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト					アンボンド	エコナット			ナット			座 金			
	軸	ねじ	余	定着	全	外	高	二	対角	高	二	対角	厚	内	外	
	径	ピッチ	長さ	長さ	長さ	径	さ	面	距離	さ	面	距離	さ	径	径	
	φd	P	S	※2	L	LO	E	H	B	C	H	B	C	t _w	φd _i	φd _o
M24	24	3	105	10	480	550	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
			110		480	580										
M30	30	3.1	130	13	600	680	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
			130		600	720										
M36	36	4	130	16	600	680	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
			130		600	720										
M42	42	4.1	155	18	840	1080	49	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1 t: はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※2 a 寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
※3 上段はGB型式及びGH型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。



・エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますので日立機材にご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

日立機材株式会社

URL http://www.hitachi-kizai.co.jp/

本社 TEL 03-3615-5432
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411
横浜 TEL 045-548-9881
中部 TEL 052-582-3356

北陸 TEL 076-233-5260
関西 TEL 06-6395-2133
中国国 TEL 082-240-1630

九州 TEL 092-452-0341



- アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、日立機材が定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
- アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
- 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちすぎやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
- 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
- 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

工場加工

1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系 4 9 0 N / m m 2 級高張力鋼用 (JIS Z3212 D5016相当以上)
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び 4 9 0 N / m m 2 級高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312 YGM11相当)

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-B1、GC-TL-B1による ※開先形状は参考

	ベースプレート形状	開先形状
エコタイプ	角形鋼管柱用 (GB型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ アンカーボルト 12本タイプ	円形鋼管柱用 (GB型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ 円形柱用 (GH型式) アンカーボルト 12本タイプ
Gタイプ	角形鋼管柱用 (GB型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ アンカーボルト 12本タイプ	円形鋼管柱用 (GB型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ 円形柱用 (GH型式) アンカーボルト 12本タイプ

3. 組立溶接	4. 本溶接の手順
角形鋼管 組立溶接 柱フランジ	角形鋼管 組立溶接 1 対辺ごとに溶接を行う。 (自動ロボット溶接の場合はこれによらない)
円形鋼管 組立溶接	円形鋼管 組立溶接 1 パスごとに全周溶接を行う。
H形 組立溶接	H形 組立溶接 (1) ウェブの両面すみ肉溶接 (曲げ負担の場合は、完全溶込み溶接とする) (2) 開先部の溶接

5. 溶接施工一般

予熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

△注意 柱の溶接時にベークシートとの組合せによってはベークシートが溶接熱室によって曲がる場合があります。

6. 検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から 5 0 m m 以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

(注: 日立機材の担当範囲)

- 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)

アンカーボルト設置	アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

平面	レベル
アンカーボルト設置精度の目標値 	基準高さよりの誤差eh - 3 m m ≤ e ≤ 1 0 m m

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

7. 中心塗り部分モルタル施工

ベースプレート	中心塗り部分モルタル N X 2 0 0 0、クイック3 は使用不可。専用のモルタルを使用のこと
後詰めモルタル (*)	ハイベース工法無収縮モルタルN X 2 0 0 0、又はクイック3 注入方法はヘッド圧法による。
(イ) □ 7 0 0 以下、φ 7 0 0 以下、H形柱の場合	1 5 0 m m ≤ a ≤ 3 0 0 m m かつ柱寸法 D 以下
(ロ) □ 7 5 0 ~ □ 1 2 0 0、φ 7 5 0 ~ φ 1 0 0 0 の場合	3 0 0 m m ≤ a ≤ 5 0 0 m m

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, GH型式	GH型式
8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	8. 鉄骨建方 9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)
9 ~ 1 0. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金が密着していることを確認。	1 0. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30° 回転、許容差: $\pm 10^{\circ}$)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	活性炭注入機 4バレー NEO工法設計施工標準図 (1)				
平成 年 月	尺 度	—	審 査		
 京 丹 波 町 水 道 課	回 番	S9		18	

ハイベースNE0工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合)
〈角形鋼管柱用 □150～□500〉

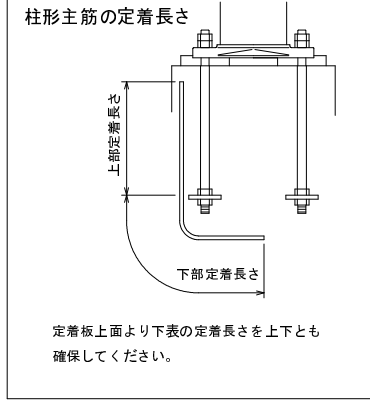
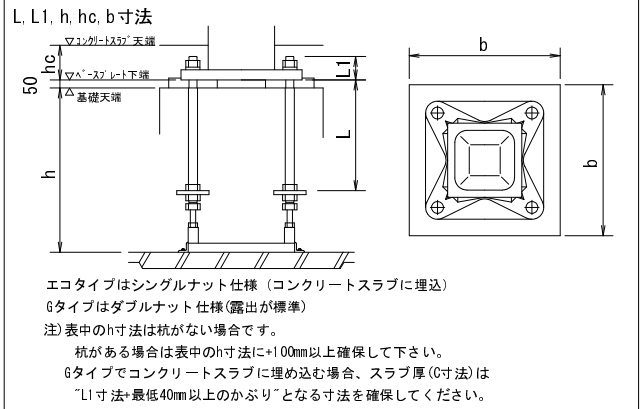
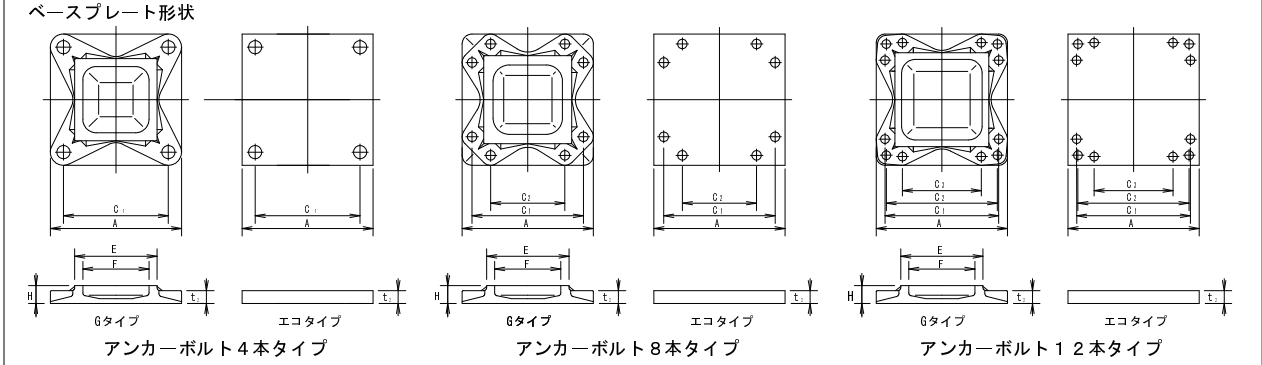
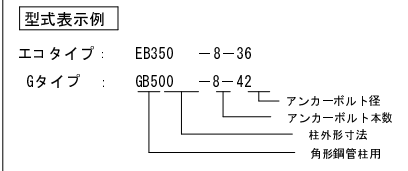
(ハイベースNE0工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
(ハイベースNE0工法エコタイプは、S造に適用)

大臣認定
BCJ評価

MSTL-0404 (Gタイプ用ベースプレート)
MBLT-0042～0046 (アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書
同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNE0工法：スーパーハイベース工法偏心タイプ設計ハンドブックに準拠する。

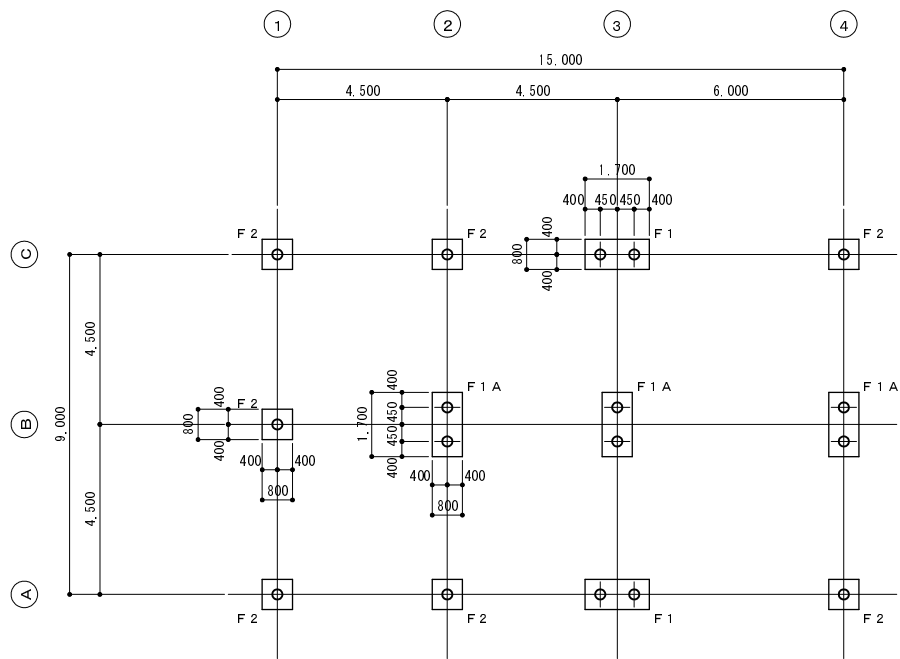
2015/5



・ハイベースNE0工法 (角形鋼管柱用□150～□500)

採用		適用柱		ハイベースNE0型式		アンカ ーボ ルト	回転ハネ 定数 X10 ³ kN・m/rad	寸法 (mm)								質量 (kg)				L (mm)	L1 (mm)	基礎柱形の設計例 (Fc24) < 側・隅柱用 >										基礎柱形の設計例 (Fc24) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>									
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t ₂	ベースプレ 部品	セツト 質量	基礎天端～ 捨てコン天端					ベースプレート下底～ スラブ上底/天端					基礎柱形の設計例 (Fc24) < 側・隅柱用 >					基礎柱形の設計例 (Fc24) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>								
						h (mm)	hc (mm)											柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	鉄筋の定着 長さ (mm)	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	鉄筋の定着 長さ (mm)										
		□150	4.5～12	EB150-4-24		4-M24	14.0	290	210	—	—	—	—	25	17	14	31	400	80	550以上	120	500	8-D16	D13φ150	500	16-D16	D13φ150	210	500	8-D16	D13φ150	500	16-D16	D13φ150	210						
		□175	4.5～12	EB175-4-24		4-M24	17.9	310	230	—	—	—	—	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13φ150	520	16-D16	D13φ150	200	520	8-D16	D13φ150	520	16-D16	D13φ150	200						
						4-M24	21.9	340	260	—	—	—	—	25	23	14	37	400	80	600以上	120	550	8-D16	D13φ150	550	16-D16	D13φ150	190	550	8-D16	D13φ150	550	16-D16	D13φ150	190						
		□200	6～12	EB200-4	—24	4-M30	35.4	360	270	—	—	—	—	32	33	23	56	400	102	600以上	150	570	8-D19	D13φ150	570	16-D19	D13φ150	300	570	8-D19	D13φ150	570	16-D19	D13φ150	300						
					—30	4-M36	41.4	360	270	—	—	—	—	—	—	40	41	36	77	480	117	700以上	160	580	12-D19	D13φ150	580	20-D19	D13φ100	340	580	12-D19	D13φ150	580	20-D19	D13φ100	340				
					—36	4-M30	51.1	450	360	190	—	—	—	—	—	40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13φ150	640	20-D22	D13φ100	450	640	12-D22	D13φ150	640	20-D22	D13φ100	450				
C2 2		C1 4	□250	6～16	EB250-4	—24	4-M24	32.2	390	310	—	—	—	25	30	15	45	400	80	600以上	120	600	8-D19	D13φ150	600	12-D19	D13φ150	190	600	8-D19	D13φ150	600	12-D19	D13φ150	190						
						—30	4-M30	51.3	410	320	—	—	—	—	—	—	32	43	23	66	400	102	600以上	150	※610	8-D19	D13φ150	610	16-D19	D13φ150	280	610	8-D19	D13φ150	610	16-D19	D13φ150	280			
						—36	4-M36	59.7	410	320	—	—	—	—	—	—	40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13φ150	610	20-D19	D13φ100	330	610	12-D19	D13φ150	610	20-D19	D13φ100	330			
					EB250-8-30	8-M30	51.1	450	360	190	—	—	—	40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13φ150	640	20-D22	D13φ100	450	640	12-D22	D13φ150	640	20-D22	D13φ100	450						
		□300	6～19	EB300-4	—30	4-M30	70.1	460	370	—	—	—	—	32	54	24	78	400	102	600以上	150	660	8-D19	D13φ150	660	16-D19	D13φ150	270	660	8-D19	D13φ150	660	16-D19	D13φ150	270						
					—36	4-M36	82.9	460	370	—	—	—	—	—	—	40	67	37	104	480	117	700以上	160	660	12-D19	D13φ100	660	20-D19	D13φ100	330	660	12-D19	D13φ100	660	20-D19	D13φ100	330				
					—30	8-M30	69.4	500	410	240	—	—	—	—	—	36	71	51	122	600	106	800以上	150	700	16-D22	D13φ150	700	20-D22	D13φ100	430	700	16-D22	D13φ150	700	20-D22	D13φ100	430				
					EB300-8	—36	8-M36	84.0	510	420	220	—	—	44	90	82	172	720	121	900以上	170	720	16-D25	D13φ150	720	24-D25	D13φ100	590	720	16-D25	D13φ150	720	24-D25	D13φ100	590						
		□350	9～22	EB350-4-30	—30	4-M30	93.1	510	420	—	—	—	—	32	66	24	90	400	102	600以上	150	710	8-D19	D13φ100	710	16-D19	D13φ100	240	710	8-D19	D13φ100	710	16-D19	D13φ100	240						
					—36	8-M30	89.5	550	460	290	—	—	—	—	—	36	86	52	138	600	106	800以上	150	750	16-D22	D13φ150	750	20-D22	D13φ150	470	750	16-D22	D13φ150	750	20-D22	D13φ150	470				
					—36	8-M36	105	560	470	270	—	—	—	—	—	40	99	83	182	720	117	900以上	160	770	16-D25	D13φ150	770	24-D25	D13φ100	560	770	16-D25	D13φ150	770	24-D25	D13φ100	560				
					—42	8-M42	133	590	480	260	—	—	—	48	132	131	263	840	138	1100以上	180	790	20-D25	D13φ150	790	32-D25	D13φ100	700	790	20-D25	D13φ150	790	32-D25	D13φ100	700						
					GB350-4	—42	4-M42	128	550	440	—	—	—	75	50	107	72	179	840	145	1100以上	—	750	12-D25	D13φ150	750	16-D25	D13φ150	480	750	12-D25	D13φ150	750	16-D25	D13φ150	480					
						—48	4-M48	156	590	460	—	—	—	—	90	61	142	113	255	960	168	1200以上	—	790	12-D25	D13φ150	790	20-D25	D13φ150	580	790	12-D25	D13φ150	790	20-D25	D13φ150	580				
						—30	8-M30	150	540	450	280	—	—	—	55	28	77	52	129	600	95	800以上	—	740	16-D22	D13φ150	740	20-D22	D13φ150	470	740	16-D22	D13φ150	740	20-D22	D13φ150	470				
					GB350-8	—36	8-M36	188	560	470	270	—	—	65	36	95	83	178	720	116	900以上	—	770	16-D25	D13φ150	770	24-D25	D13φ100	560	770	16-D25	D13φ150	770	24-D25	D13φ100	560					
						—42	8-M42	216	590	480	260	—	—	—	70	45	118	131	249	840	140	1100以上	—	790	20-D25	D13φ100	800	32-D25	D13φ100	610	790	20-D25	D13φ100	800	32-D25	D13φ100	610				
						—30	8-M30	111	600	510	340	—	—	—	36	102	52	154	600	106	800以上	150	800	16-D22	D13φ150	800	20-D22	D13φ150	450	800	12-D22	D13φ150	800	20-D22	D13φ150	450					
		□400	9～25	EB400-8	—36	8-M36	127	610	520	320	—	—	—	40	117	83	200	720	117	900以上	160	820	16-D25	D13φ100	820	24-D25	D13φ100	540	820	12-D25	D13φ100	820	24-D25	D13φ100	540						
					—42	8-M42	175	640	530	310	—	—	—	—	—	48	155	131	286	840	138	1100以上	180	840	20-D25	D13φ100	840	32-D25	D13φ100	700	840	20-D25	D13φ100	840	32-D25	D13φ100	700				
								—42	4-M42	163	600	490	—	—	—	—	75	49	129	73	202	840	144	1100以上	—	810	12-D25	D13φ100	810	16-D25	D13φ100	400	810	12-D25	D13φ100	810	16-D25	D13φ100	400		
					GB400-4	—48	4-M48	194	640	510	—	—	—	85	59	165	114	279	960	166	1200以上	—	840	12-D25	D13φ100	840	20-D25	D13φ100	500	840	12-D25	D13φ100	840	20-D25	D13φ100	500					
						—36	8-M36	234	610	520	320	—	—	—	60	34	110	83	193	720	114	900以上	—	820	16-D25	D13φ100	820	24-D25	D13φ100	540	820	16-D25	D13φ100	820	24-D25	D13φ100	540				
						—42	8-M42	282	640	530	310	—	—	—	70	42	136	131	267	840	137	1100以上	—	840	20-D25	D13φ100	850	32-D25	D13φ100	600	840	20-D25	D13φ100	850	32-D25	D13φ100	600				
					GB400-8	—48	8-M48	321	680	550	300	—	—	80	52	176	211	387	960	159	1300以上	—	880	20-D29	D13φ100	890	28-D29	D13φ100	790	880	20-D29	D13φ100	890	28-D29	D13φ100	790					
						—36	8-M36	169	660	570	370	—	—	—	44	150	84	234	720	121	900以上	170	870	16-D25	D13φ100	870	24-D25	D13φ100	520	870	16-D25	D13φ100	870	24-D25	D13φ100	520					
						—42	8-M42	199	690	580	360	—	—	—	48	180	132	312	840	138	1100以上	180	890	24-D25	D13φ100	890	32-D25	D13φ100	680	890	20-D25	D13φ100	890	32-D25	D13φ100	680					
		□450	9～36	EB450-8	—42	4-M42	199	650	540	—	—	—	—	75	48	153	73	226	840	143	1100以上	—	860	12-D25	D13φ100	860	16-D25	D13φ100	390	860	12-D25	D13φ100	860	16-D25</							

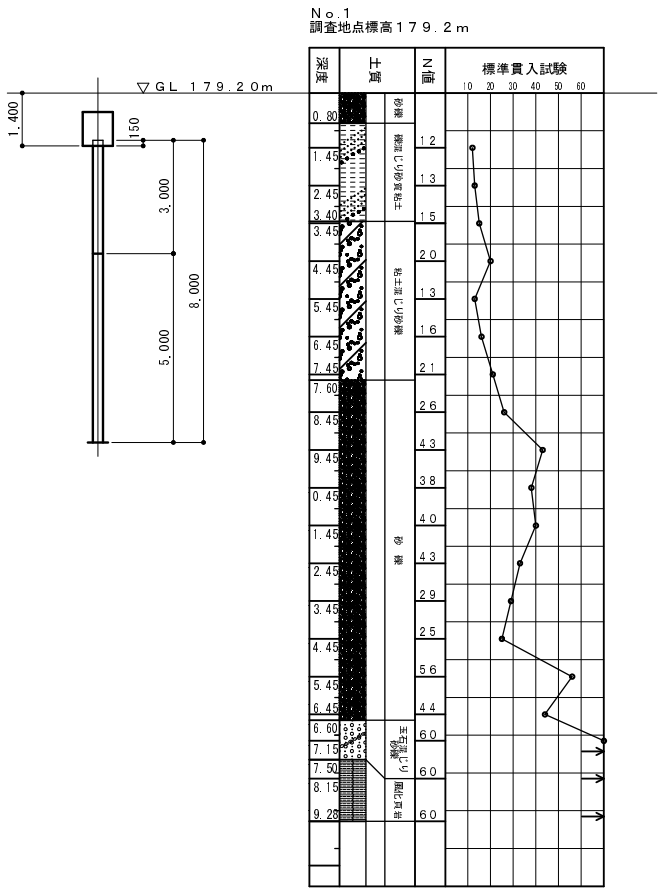
活性炭注入棟 杭図



杭 伏 図 S = 1 / 1 0 0

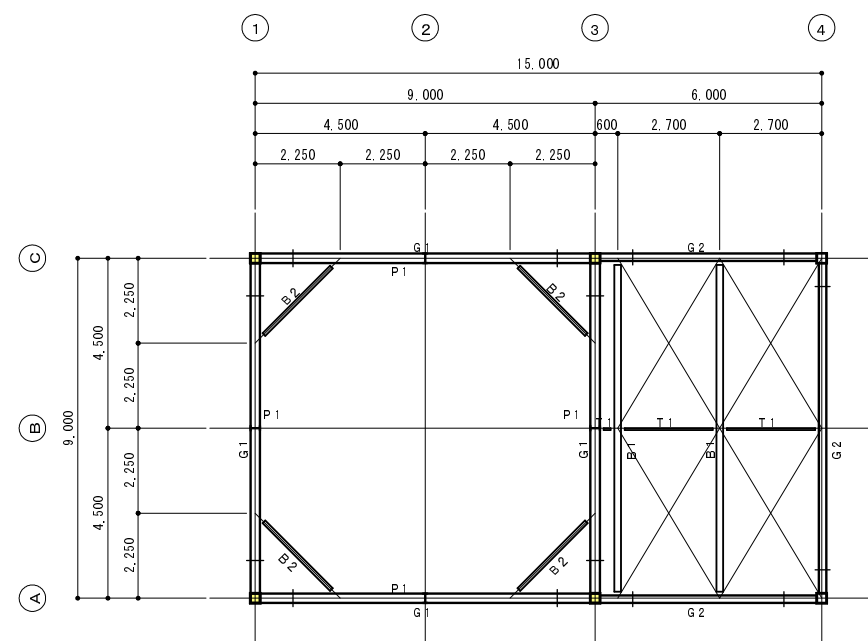
特記なき限り下記による
1. 杭 P L 1

杭リスト				
杭符号		P L 1		
杭種 別	上杭	鋼管杭 S T K 4 9 0 杭固面補強鉄筋 8-D 1 3 L=6 0 0		
	中杭	—		
	下杭	先端羽根付き鋼管杭 S T K 4 9 0		
杭径・肉厚		○ 杭径 φ 2 6 7. 4羽根径 φ 5 3 4. 8 肉厚 9. 3		
杭 長	試験杭	上杭	中杭	下杭
	一般杭	3. 0 m	—	5. 0 m
	合計	—	—	8. 0 m
杭本数	試験杭	— 本		
	一般杭	1 7 本		
	合計	1 7 本		
備 考	工 法	回転圧入鋼管杭工法		
	長期支持力	3 7 4 k N※		
	試験杭	—		
	その他	杭長は現場持ち込み長さを示す		

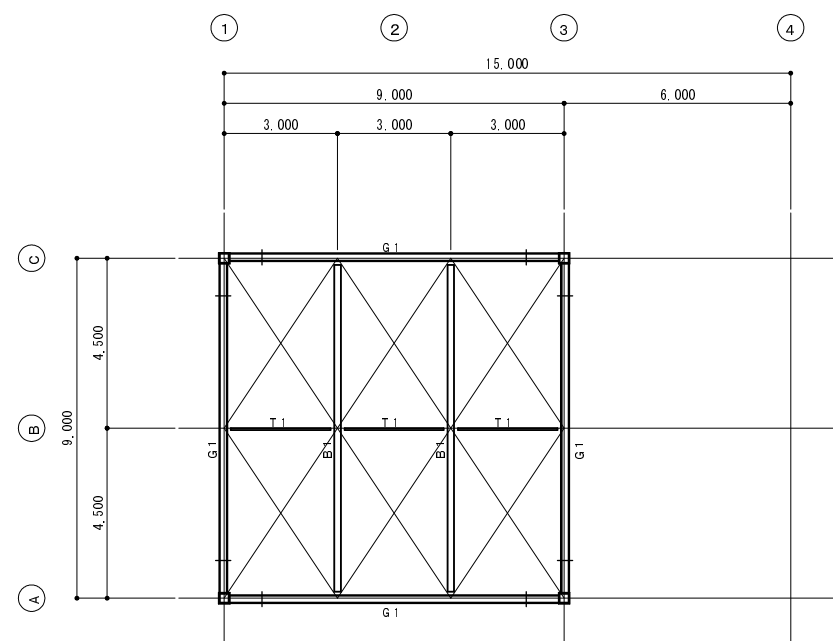


杭断面図 S = 1 / 1 0 0

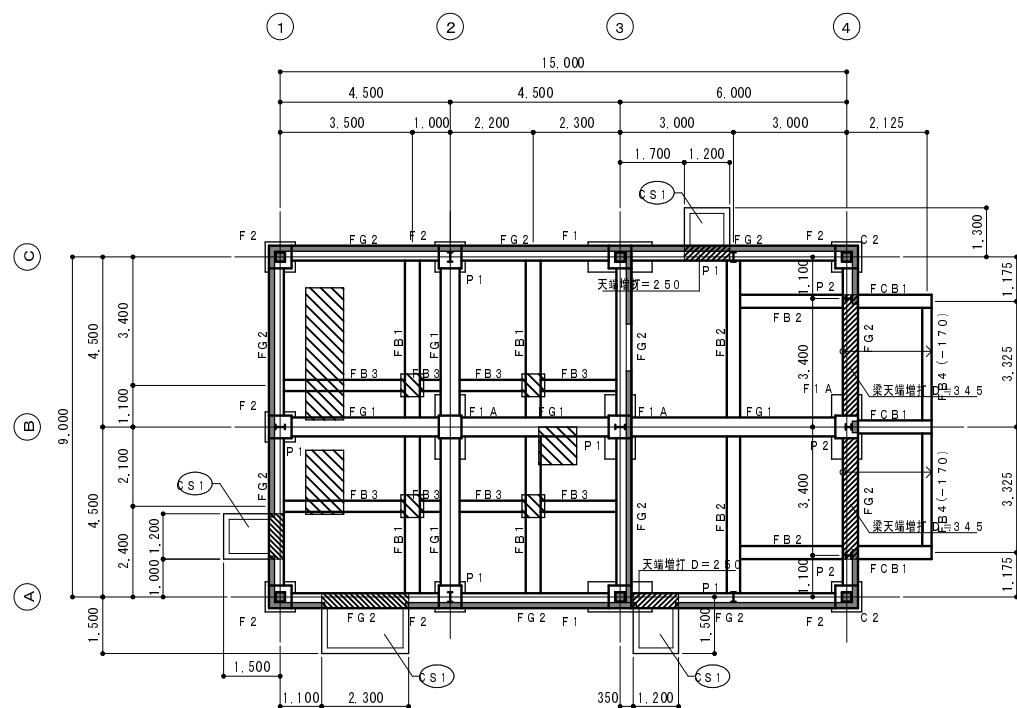
活性炭注入棟 梁伏図 S=1/100



R F 1 特記なき限り下記による
1. 柱 C1
2. 水平ブレース BR1



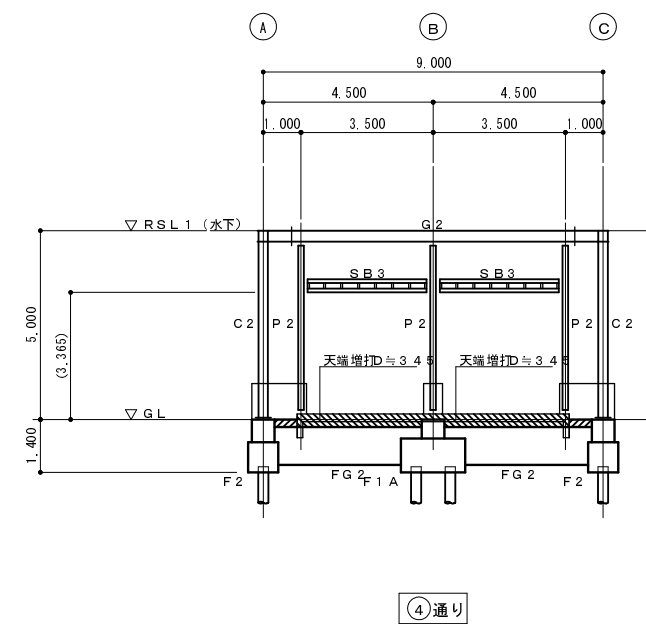
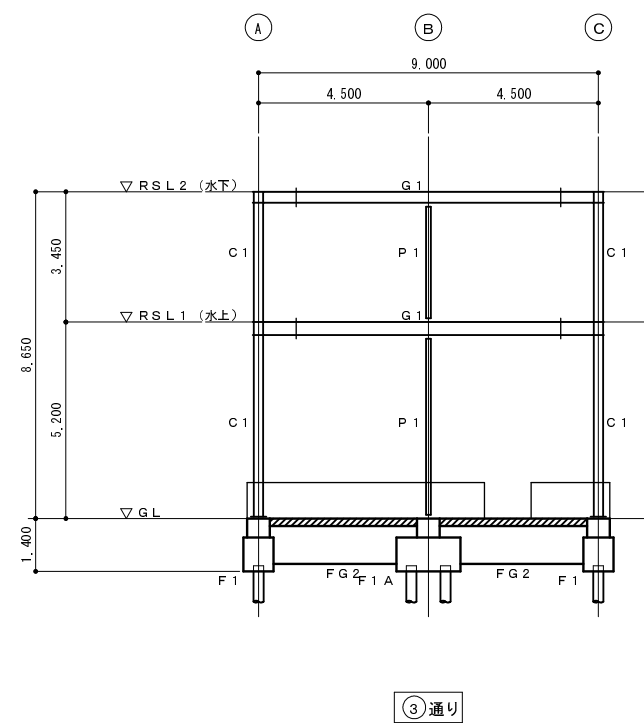
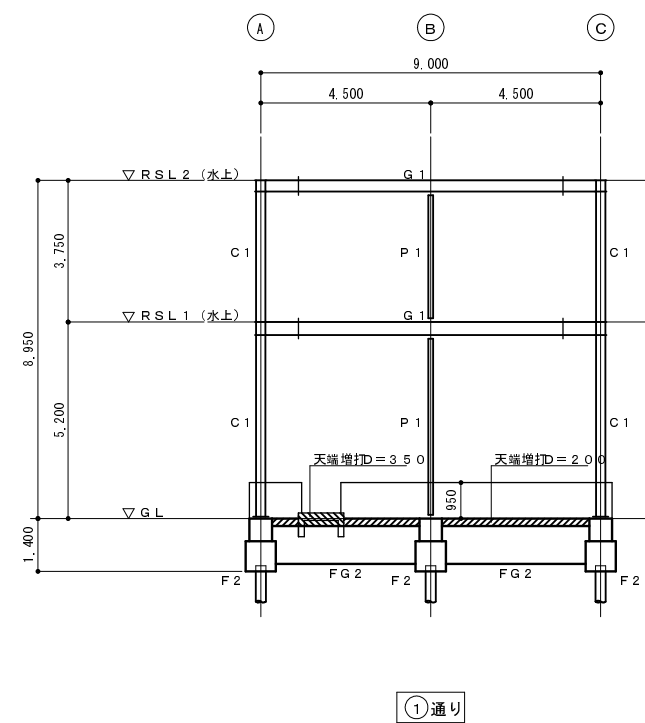
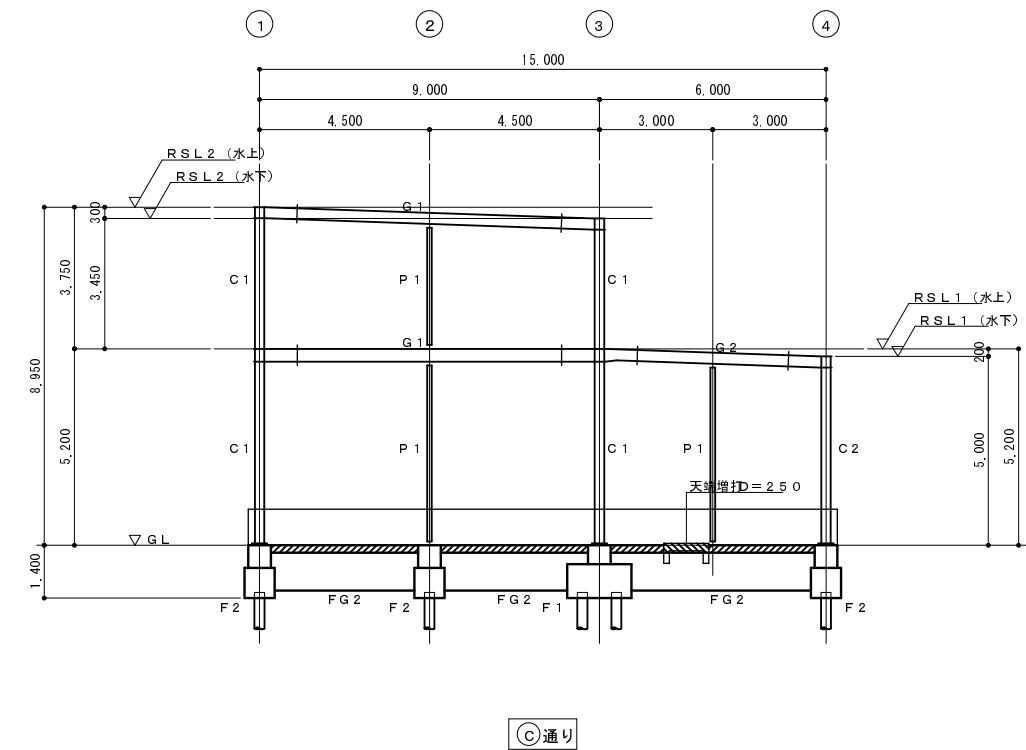
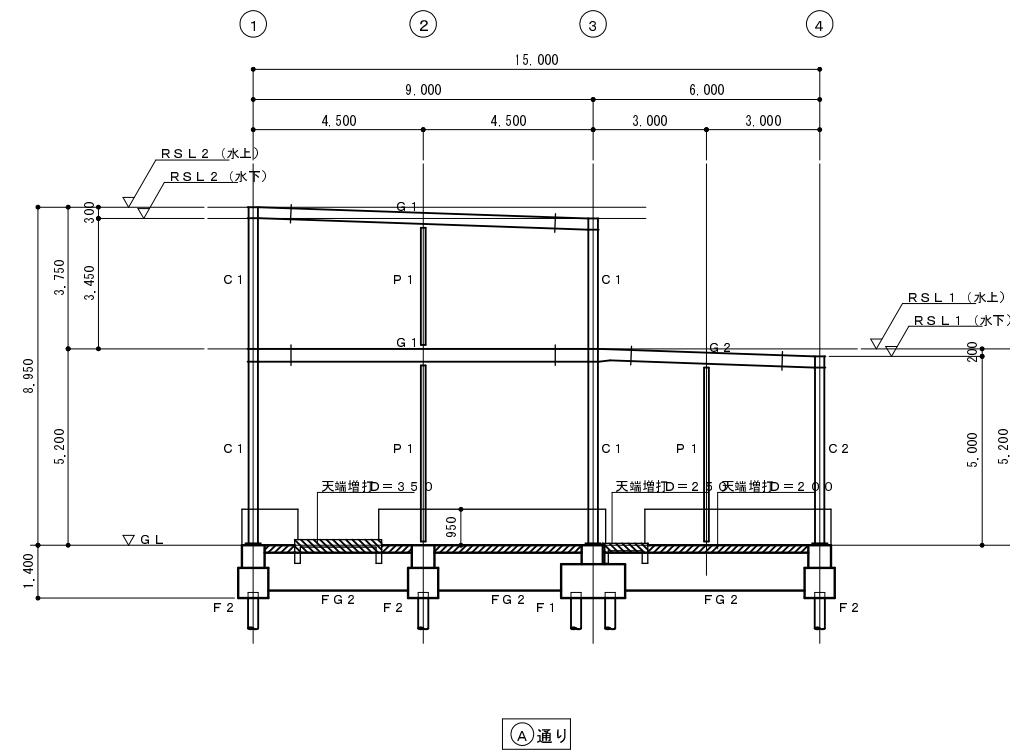
R F 2 特記なき限り下記による
1. 水平ブレース BR1



1 F 特記なき限り下記による
1. 柱 C1
2. 腰壁 W15
3. スラブ S1
スラブ天端高さ (1 S L は G L ± 0 とする)
4. 梁天端高さは 1 S L (G L - 2 0 0 0), その他は G L からの高さを () に示す
天端増打 D = 3 5 0
5. コンクリート機器架台
天端高さは 1 S L + 5 0 0

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図 名	活性炭注入棟 梁伏図			
平成 年 月	尺 度	1/100	審 査	
京 丹 波 町 水 道 課			図 番	S12 / 18

活性炭注入棟 軸組図 S=1/100

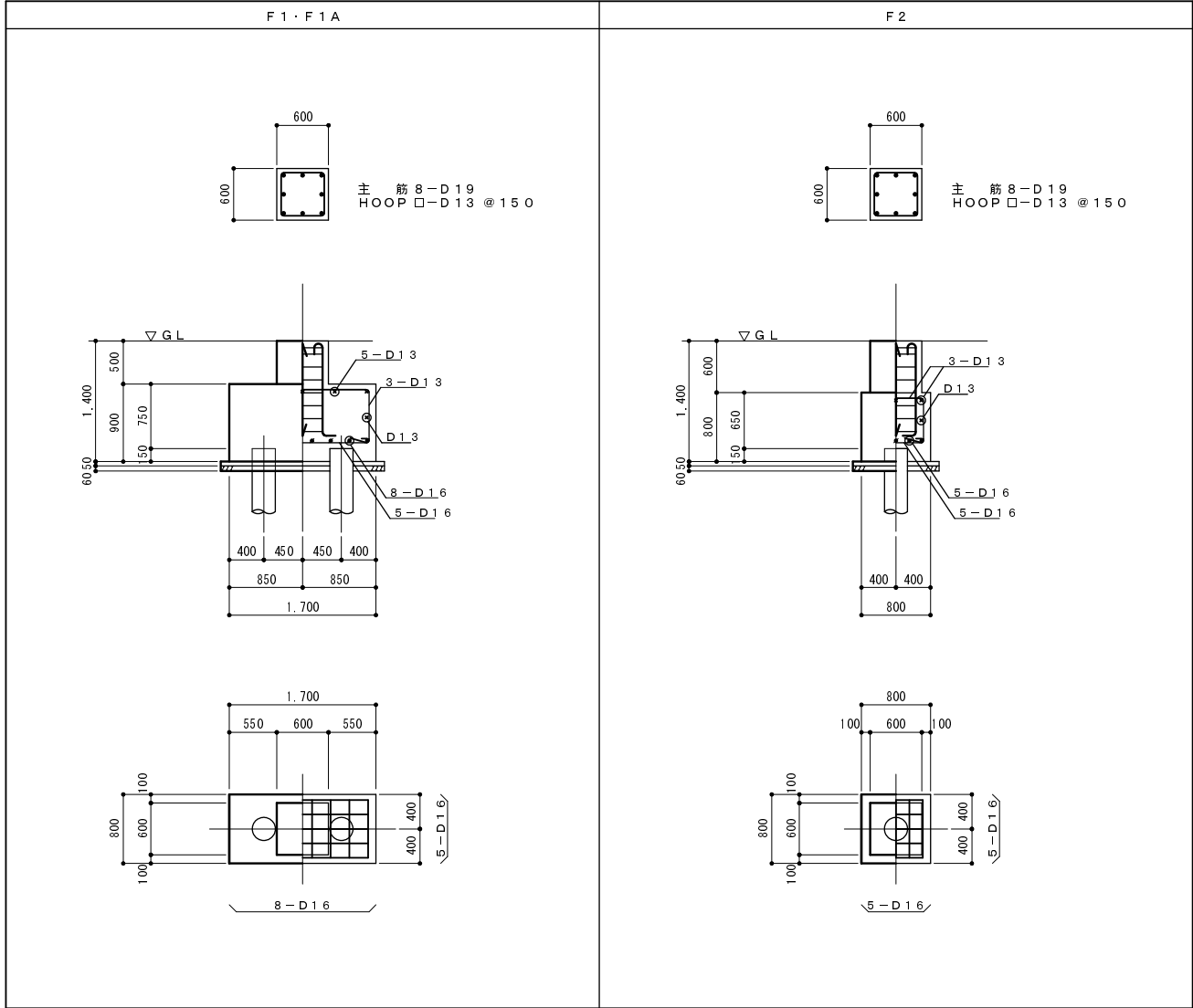


軸組図 S=1/100

特記なき限り下記による
1. 壁 厚 W15
2. 増打 D=200

工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	活性炭注入棟 軸組図				
平成 年 月 日	尺 寸	1/100	番 号		
京丹波町水道課			図 番	S13	18

基礎リスト S=1／40



基礎大梁リスト S=1／40

符号	FG1			FG2		
	外 端	中 央	内 端	外 端	中 央	内 端
断面						
B×D	500×1,000			400×1,000		
上端筋	4-D25	4-D25	6-D25	3-D25	3-D25	5-D25
下端筋	4-D25	6-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25
ST	□-D13 @200			□-D13 @200		
腹筋	4-D10			4-D10		
巾止め筋	D10 @1,000			D10 @1,000		

基礎小梁リスト S=1／40

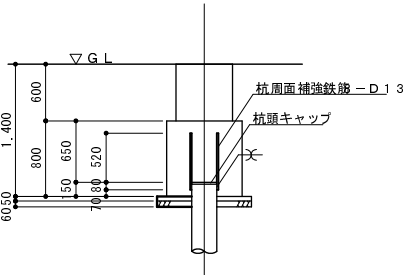
符号	FB1			FB2		FB3	FB4	FCB1	
	外 端	中 央	内 端	外 端・中 央	内 端	全断面	全断面	基 端	先 端・中 央
断面									
B×D	400×800			350×700		300×600	250×500	350×700	
上端筋	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	6-D22	3-D19	2-D16	6-D22	3-D22
下端筋	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	2-D16	3-D22	3-D22
ST	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D10 @200	□-D10 @200	□-D13 @200	
腹筋	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10	
巾止め筋	D10 @1,000			D10 @1,000		D10 @1,000		D10 @1,000	

スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向 又は 主筋		長辺方向 又は 配力筋		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S1	200	上端筋	D13 @200	←	D13 @200	←	
		下端筋	D13 @200	←	D13 @200	←	
CS1	200	上端筋	D10・D13 @100	←	D10 @250	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @250	←	

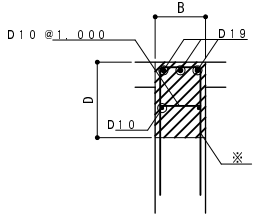
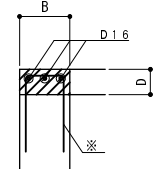
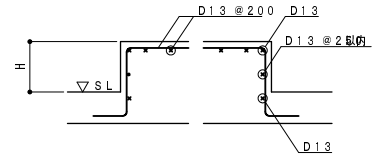
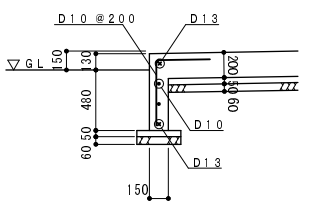
壁リスト S=1／40

符号		W15
縦断面形状		
主筋	縦筋	D13 @150 シングル
	横筋	D10 @150 シングル
巾止め筋		—
備 考		—



杭頭補強鉄筋 S=1／40

各部配筋詳細図 S = 1 / 3 0

梁上端増打補強 300 < D ≤ 600 350 < B ≤ 600 注) 1. ※は S T と同径、同材質、同間隔 	梁上端増打補強 100 < D ≤ 300 300 ≤ B ≤ 500 注) 1. ※は S T と同径、同材質、同間隔 	機器架台 	外部床 端部根入れ 		
--	--	---	--	--	--

鉄骨柱リスト S=1／20

階	符号	C 1	C 2
R F 1	形 状		
	主材	□-250×250×9	
	ダイヤフラム	PL-19×300×300 (SN490C)	
	GPL	-	
	柱脚	-	
1 F	形 状		
	主材	□-250×250×12	□-250×250×9
	ダイヤフラム	PL-19×300×300 (SN490C)	PL-19×300×300 (SN490C)
	GPL	-	-
	柱脚	EB250-4-3④イベース NEO	EB250-4-2④イベース NEO

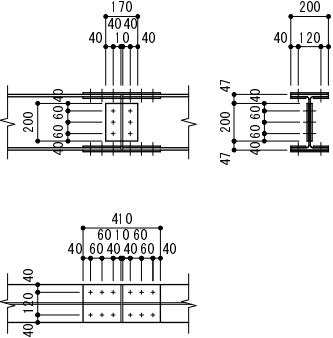
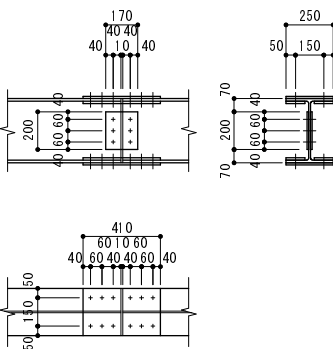
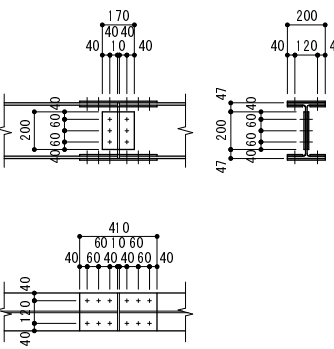
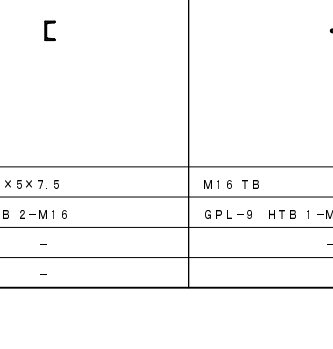
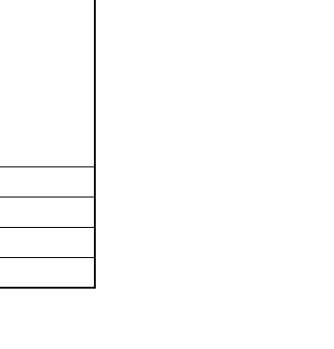
主 材 BCR295

鉄骨大梁リスト S=1／20

階	符号	G 1	G 2
R F 2	位置	全断面	
	形 状		
	主 材	H-294×200×8×12	
	フランジ	PL-9×200×41①PL-9×80×41①HTB (6-M20) ×4	
	ウェブ	2PL-9×170×20③HTB (3-M20) ×2	
R F 1	仕 口	-	
	位置	全断面	全断面
	形 状		
	主 材	H-340×250×9×14	H-294×200×8×12
	フランジ	PL-12×250×41①PL-12×100×41③HTB (6-M22) ×4	PL-9×200×41①PL-9×80×41①HTB (6-M20) ×4
R F 2	ウェブ	2PL-9×170×20③HTB (3-M22) ×2	2PL-9×170×20③HTB (3-M20) ×2
	仕 口	-	-

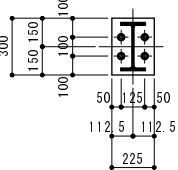
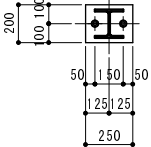
主 材 SN400B
HTB種別 S10T

梁継手リスト S=1／20

階	符 号	G 1	G 2
R F 2	部 材	H-294×200×8×12	
	フランジ	PL-9×200×41①PL-9×80×41①HTB (6-M20) ×4	
	ウ ェ ブ	2PL-9×170×20③HTB (3-M20) ×2	
	継 手		
	部 材	H-340×250×9×14	H-294×200×8×12
R F 1	フランジ	PL-12×250×41①PL-12×100×41③HTB (6-M22) ×4	PL-9×200×41①PL-9×80×41①HTB (6-M20) ×4
	ウ ェ ブ	2PL-9×170×20③HTB (3-M22) ×2	2PL-9×170×20③HTB (3-M20) ×2
	継 手		
	部 材	H-340×250×9×14	H-294×200×8×12
	フランジ	PL-12×250×41①PL-12×100×41③HTB (6-M22) ×4	PL-9×200×41①PL-9×80×41①HTB (6-M20) ×4
R F 2	ウェブ	2PL-9×170×20③HTB (3-M22) ×2	2PL-9×170×20③HTB (3-M20) ×2
	継 手		
	部 材	H-340×250×9×14	H-294×200×8×12
	フランジ	PL-12×250×41①PL-12×100×41③HTB (6-M22) ×4	PL-9×200×41①PL-9×80×41①HTB (6-M20) ×4
	ウェブ	2PL-9×170×20③HTB (3-M22) ×2	2PL-9×170×20③HTB (3-M20) ×2

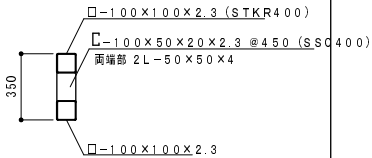
SCSS-H9 ①第1種保耐力接合) に準拠
HTB種別 S10T

鉄骨間柱リスト S=1／20

符号	P 1	P 2
形 状		
主材	H-250×125×6×9	H-150×150×7×10
仕 口	GPL-9 HTB 2-M20	GPL-9 HTB 2-M20
柱脚	BPL-16×225×300	BPL-16×250×200
	A. BOLT 4-M20 (L型)≧800WN	A. BOLT 2-M20 (L型)≧800WN

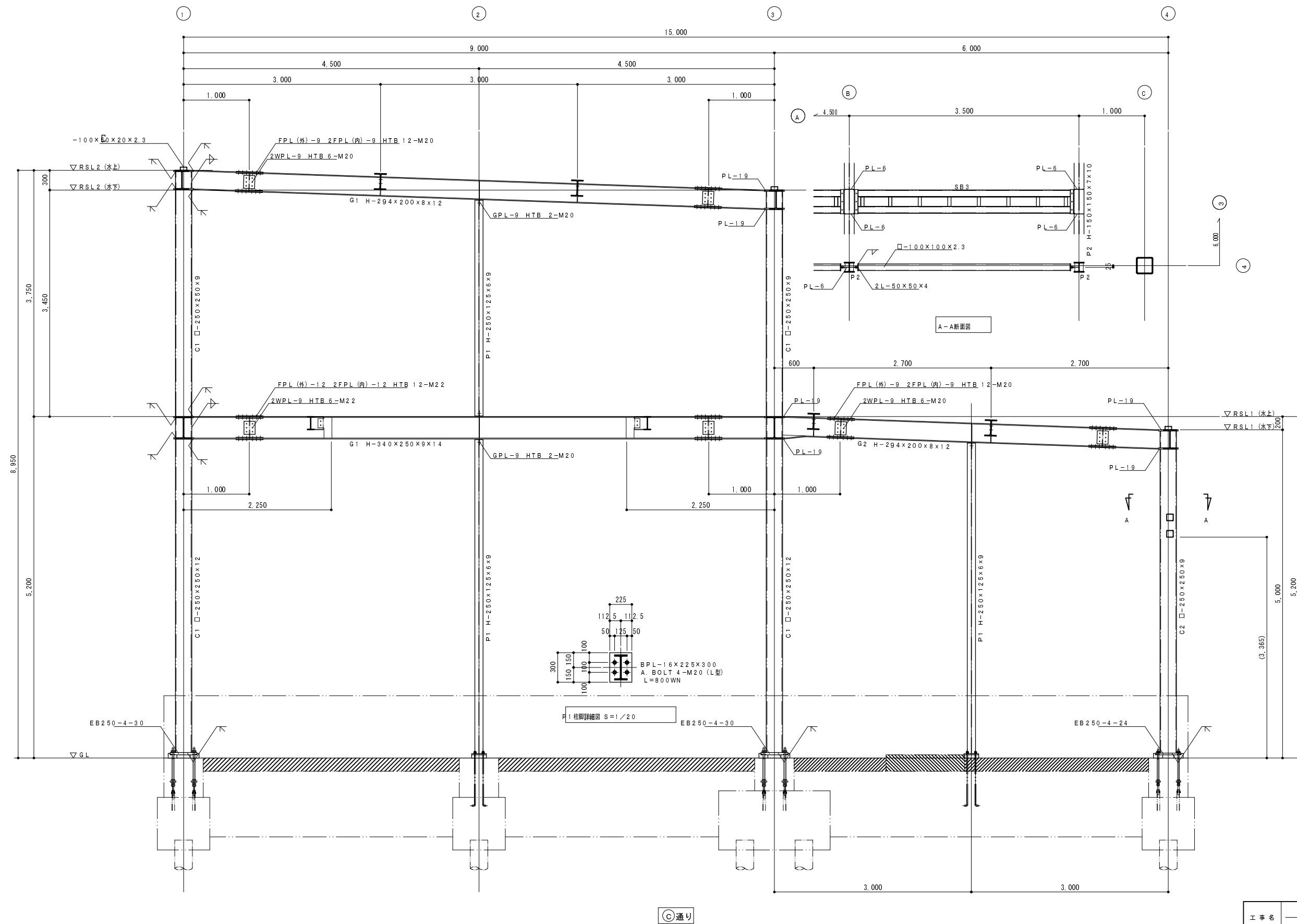
主 材 SS400

鉄骨二次部材リスト S=1／20

符号	B 1	B 2	B 3	T 1	BR 1
断面形状					
主 材	H-244×175×7×11	H-200×100×5.5×8	図示	C-100×50×5×7.5	M16 TB
仕 口	GPL-9 HTB 2-M20	GPL-6 HTB 2-M20	GPL-6 HTB3-M16	GPL-6 HTB 2-M16	GPL-9 HTB 1-M16
継 手	フランジ	-	-	-	-
	ウェブ	-	-	-	-

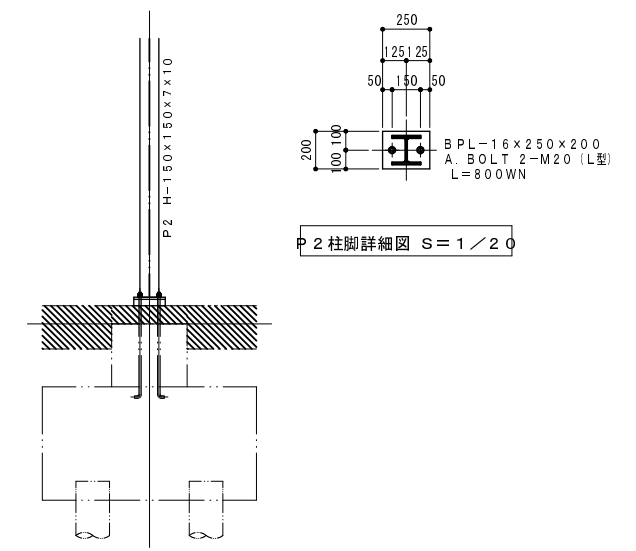
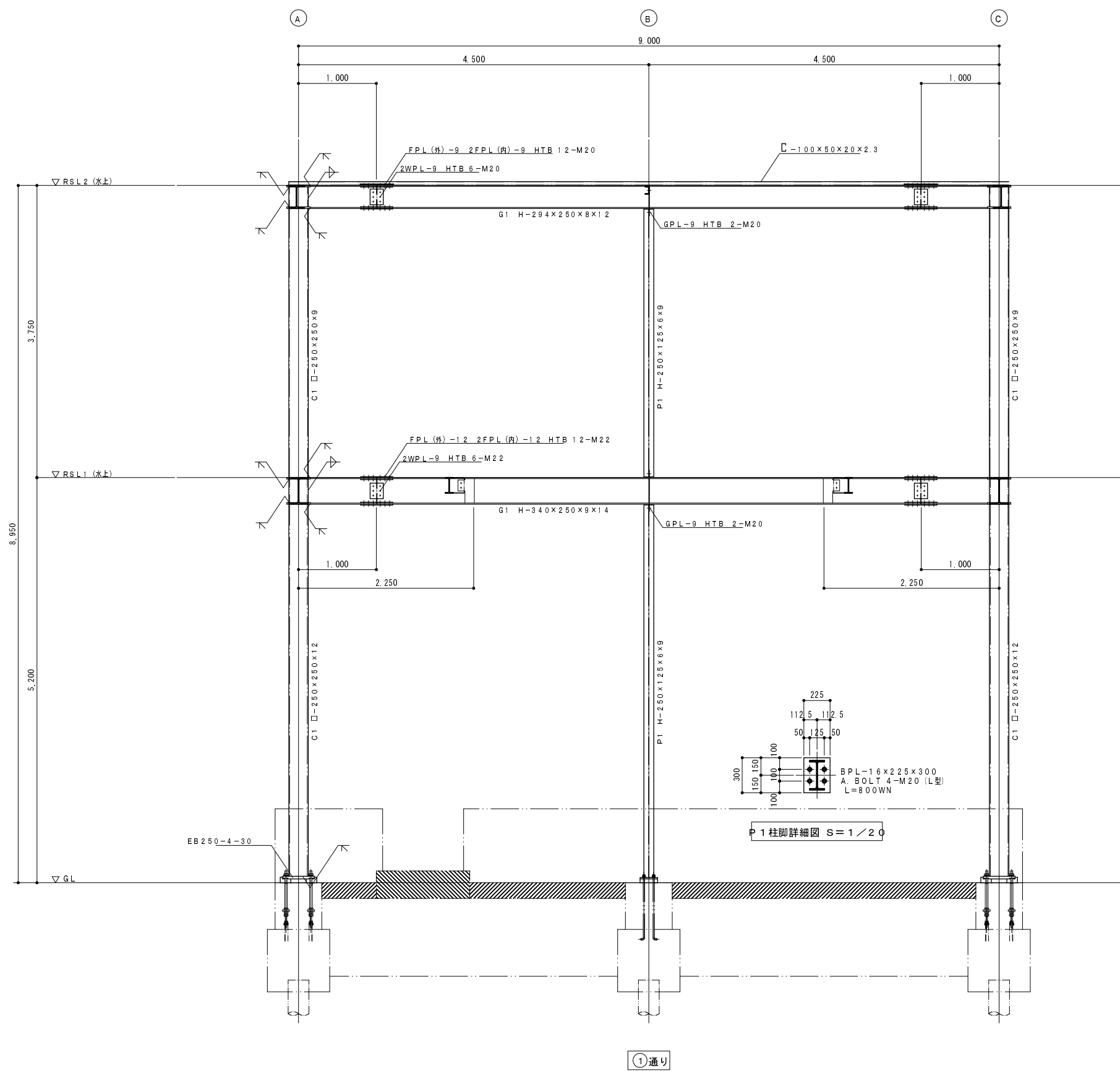
主 材 SS400
HTB種別 S10T

活性炭注入棟 鉄骨架構詳細図 (1) S=1/30



工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図名	活性炭注入棟 鉄骨架構詳細図 (1)			
平成 年 月 日	尺 寸	1/30	番 号	
京丹波町水道課			図 番	S17/18

活性炭注入棟 鉄骨架構詳細図（2） S=1/30

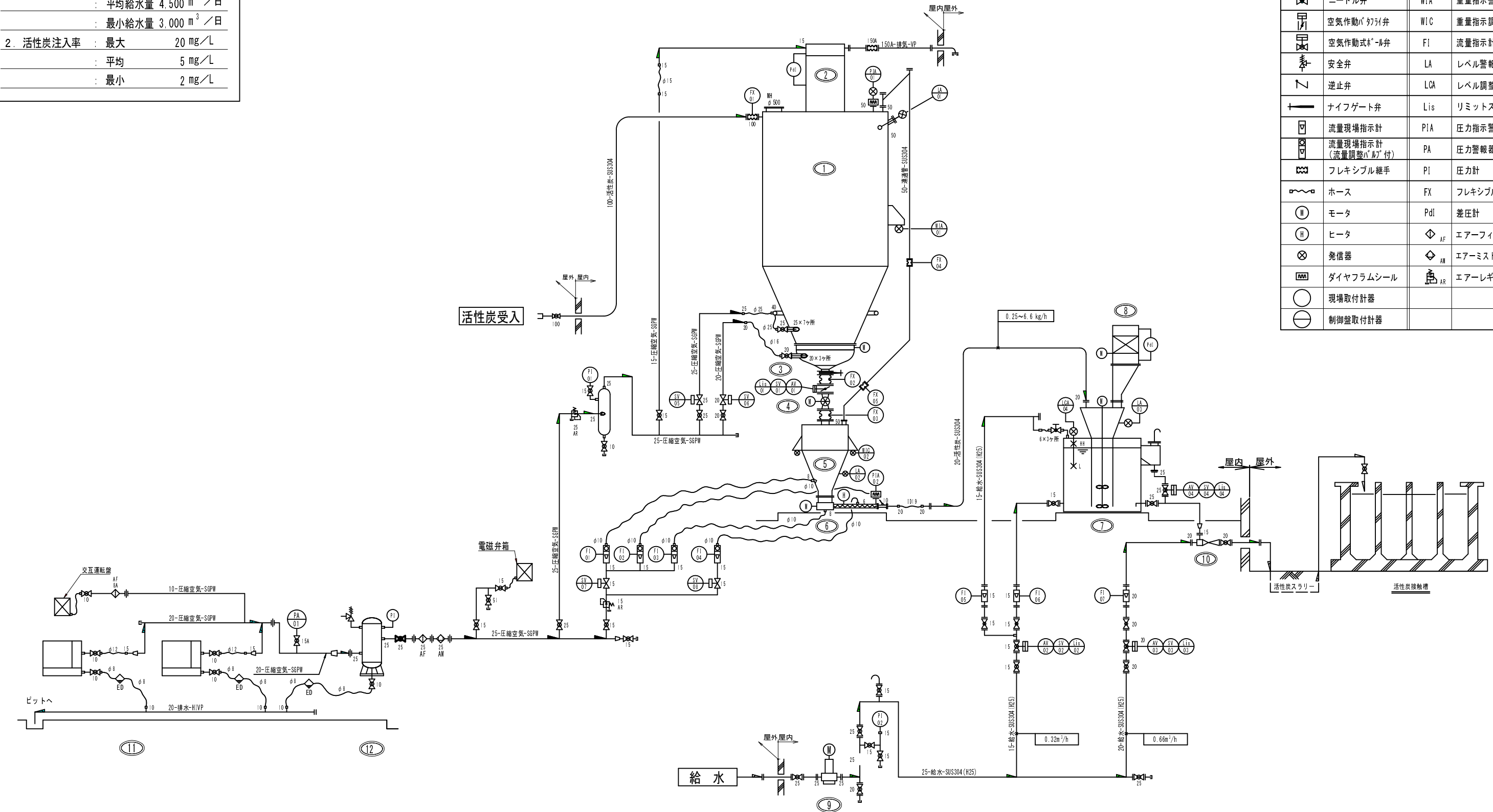


工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図 名	活性炭注入棟 鉄骨架構詳細図（2）									
平成 年 月 日				尺 寸	1/30	番 号				
京 丹 波 町 水 道 課							図 番	S18	18	

基本仕様

1. 処理水量	: 計画浄水量 7,895 m ³ /日
	: 最大給水量 6,000 m ³ /日
	: 平均給水量 4,500 m ³ /日
	: 最小給水量 3,000 m ³ /日
2. 活性炭注入率	: 最大 20 mg/L
	: 平均 5 mg/L
	: 最小 2 mg/L

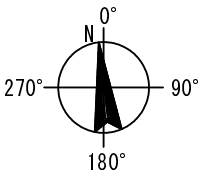
粉末炭貯蔵室 計画フローシート



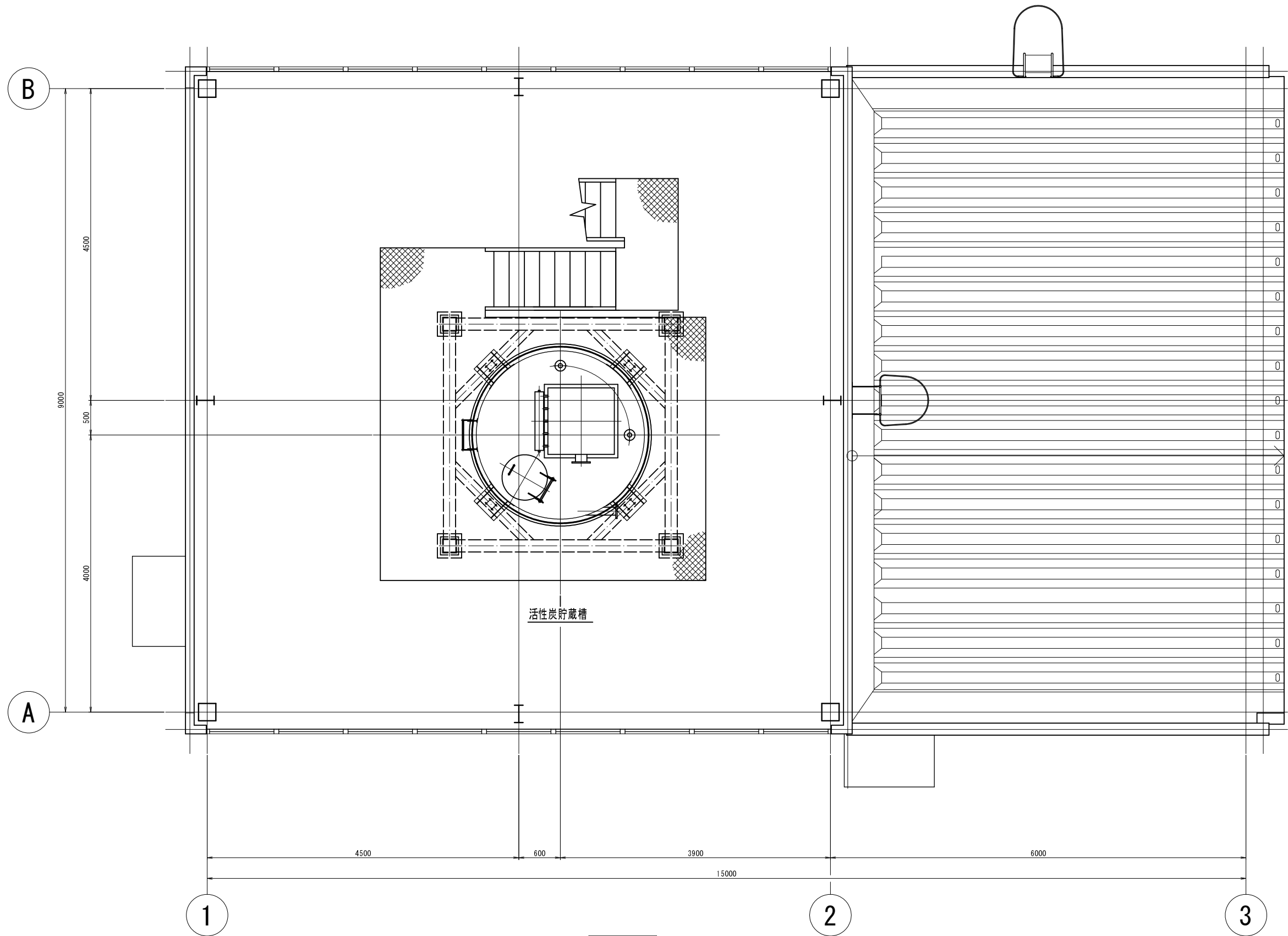
記 号	名 称	記 号	名 称
	ボール弁	AV	自動弁
	グローブ弁	SV	電磁弁
	ニードル弁	WIA	重量指示警報器
	空気作動バルブ	WIC	重量指示調節器
	空気作動式バルブ	FI	流量指示計
	安全弁	LA	レベル警報器
	逆止弁	LCA	レベル調整警報器
	ナイフゲート弁	Lis	リミットスイッチ
	流量現場指示計	PIA	圧力指示警報器
	流量現場指示計 (流量調整バルブ付)	PA	圧力警報器
	フレキシブル継手	PI	圧力計
	ホース	FX	フレキシブルジョイント
	モータ	Pdl	差圧計
	ヒータ	AF	エアフィルタ
	発信器	AM	エアミストセパレータ
	ダイヤフラムシール	AR	エアレギュレータ
	現場取付計器		
	制御盤取付計器		

機器番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
名 称	活性炭貯蔵槽	活性炭貯蔵槽集塵機	振動排出機	活性炭排出機	計量ホッパ	活性炭移送機	急速スリ-形成器	急速スリ-形成器集塵機	給水ポンプ	注入エジェクタ	空気圧縮機	空気槽
型 式	円筒円錐型	パルスエア式バグフィルタ	円筒鏡板式	ロータ回転式	円筒円錐型	一輪偏心ネジ式	円筒型	シェーキング式バグフィルタ	渦巻式	-	オイルフリースクロール式	円筒型密閉槽
容量又は能力	8.9 m ³	20 m ³	-	20 kg/h	0.15m ³	6.6 kg/h	0.2m ³	3.7m ³	16.4L/minx30mH	駆動水量: 0.66m ³ /h	420L/minx0.8MPa	0.15m ³
寸 法	ID2420×2500H	-	ID1200	-	ID600×800H	-	ID600×720H	-	-	-	-	-
材 質	SUS304	接粉部 SUS304	接粉部 SUS304	接粉部 SUS304	SUS304	ロータ: SUS304 ステータ: 合金鋼	SUS304	接粉部 SUS304	SUS304	SUS304	SS400	SS400
電気容量	-	コントローラ: 60W	-	-	-	0.4kW	0.18kW	0.55kW	-	-	3.7+0.25kW	-
数 量	1 槽	1 台	1 台	1 台	1 槽	1 台	1 槽	1 台	1 台	1 台	2 台	1 槽
備 考	ロードセル付	-	-	150A	ロードセル付	保温ヒータ: 20W	内筒 ID 0.2m	-	-	-	除湿機内蔵型	-

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事		
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内		
図 名	粉末炭貯蔵室 計画フローシート		
平成 年 月	尺 度	—	審 査
京丹波町水道課		図 番	M1 / 12

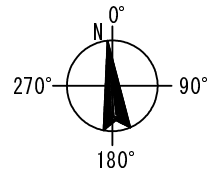


粉末炭貯蔵室 1階上部平面配置図

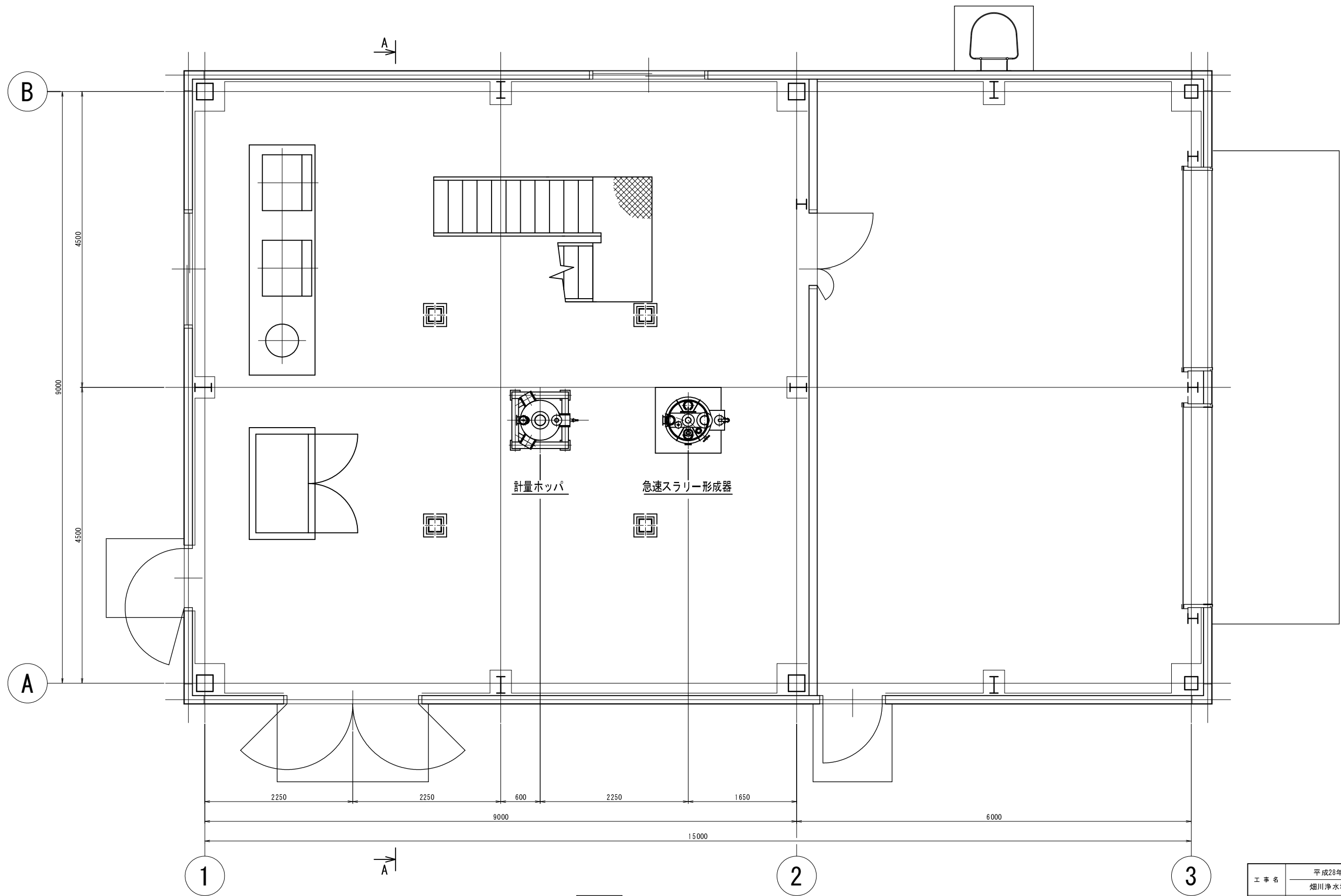


1階上部平面図

工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図名	粉末炭貯蔵室 1階上部平面配置図									
平成	年	月	尺度	1/30	審査					
京丹波町水道課						図番	M2	12		



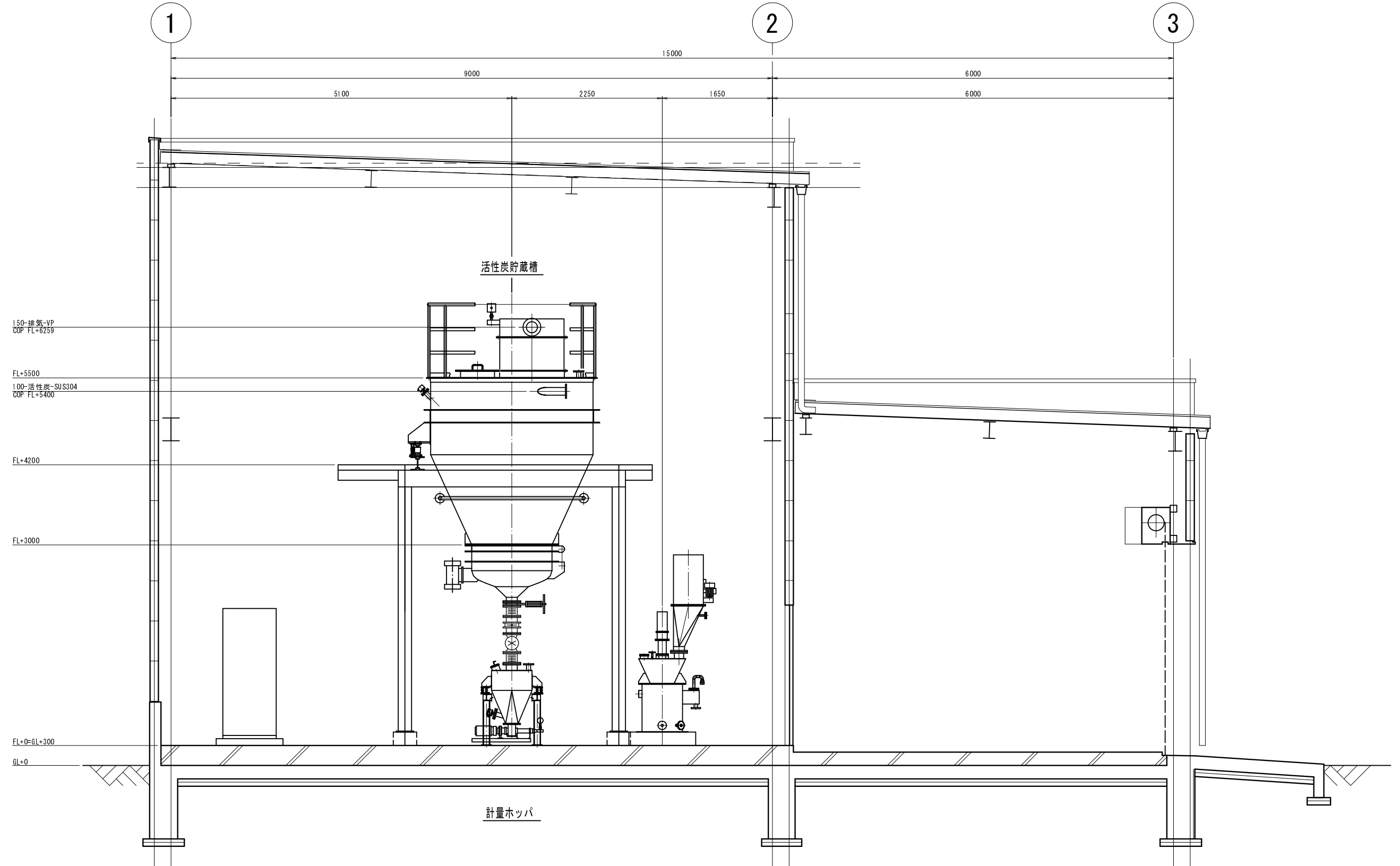
粉末炭貯蔵室 1階平面配置図



1階平面図

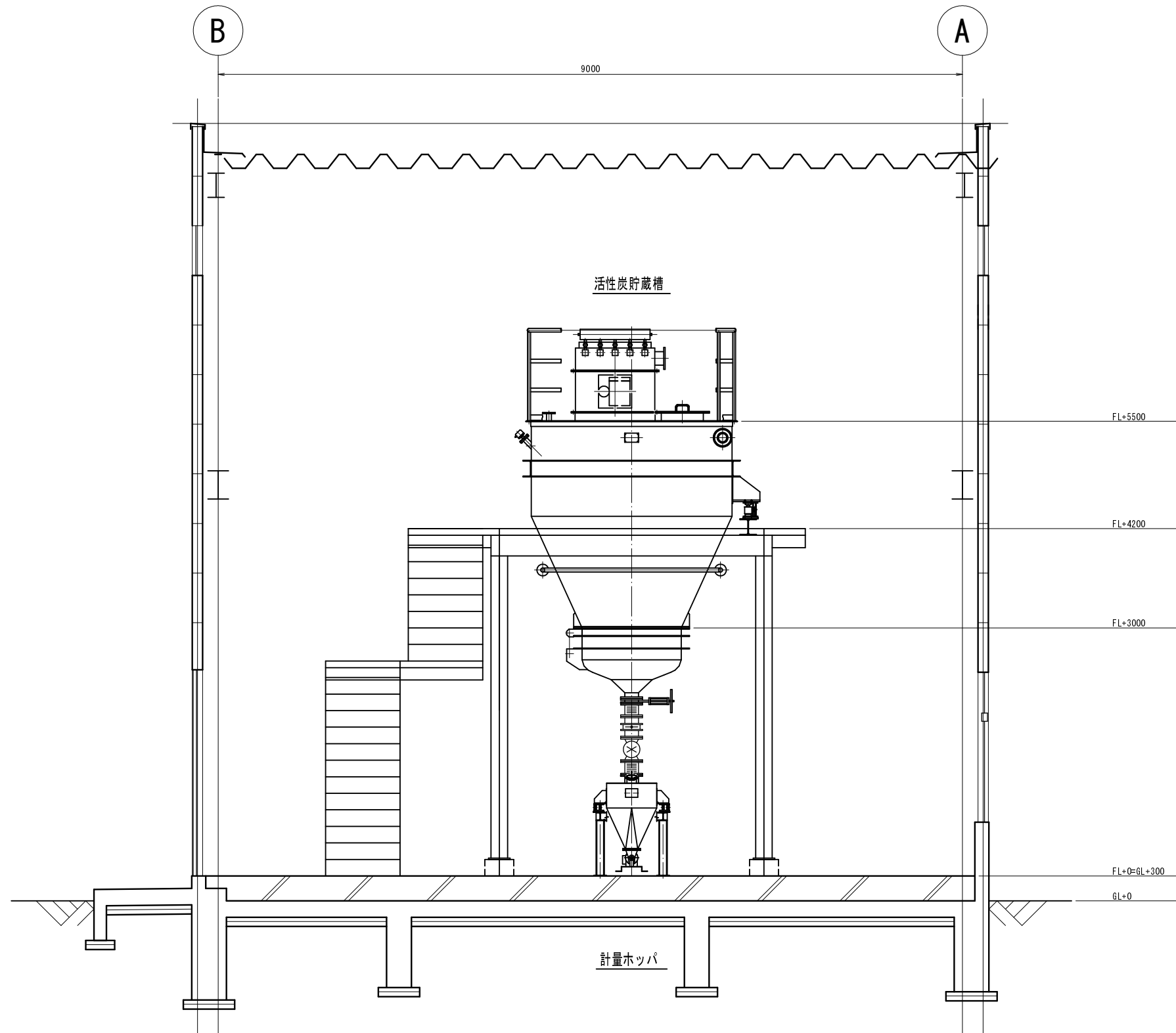
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事					
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内					
図 名	粉末炭貯蔵室 1階平面配置図					
平成	年	月	尺 度	1/30	審 査	
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	M3 / 12

粉末炭貯蔵室 立面配置図



工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業						
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事						
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内						
図 名	粉末炭貯蔵室 立面配置図						
平成	年	月	尺 度	1/30	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	M4	12

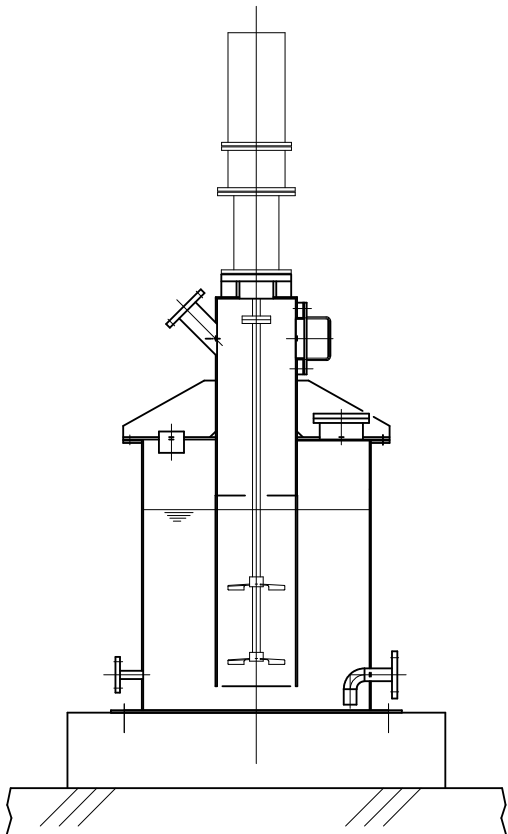
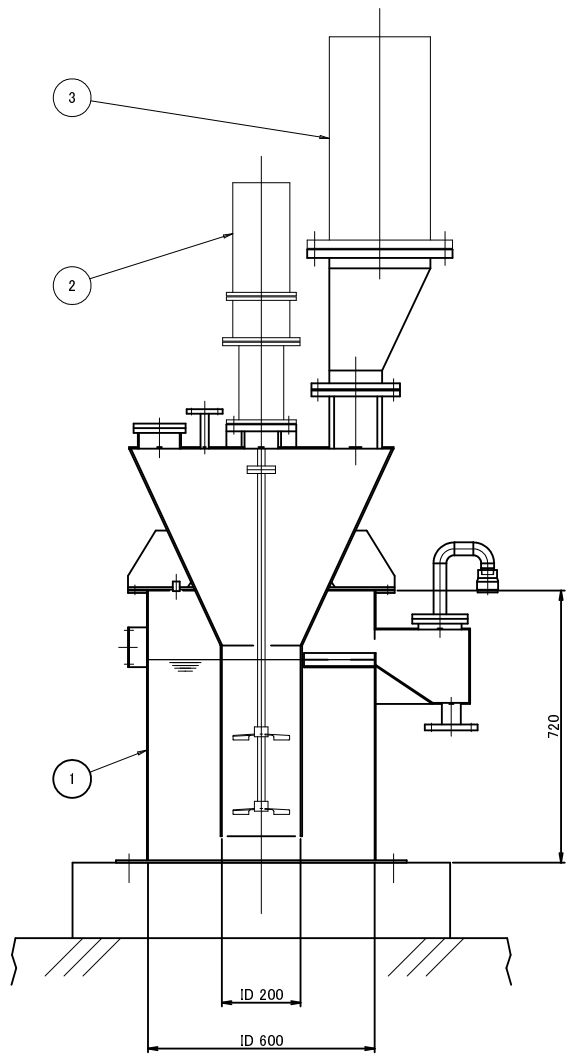
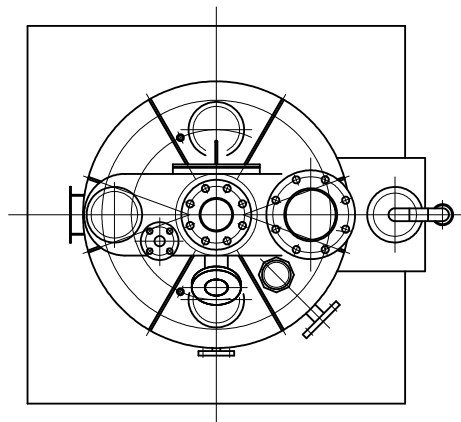
粉末炭貯蔵室 断面配置図



A-A 断面図

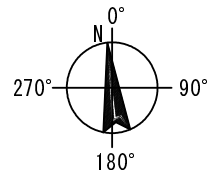
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図 名	粉末炭貯蔵室 断面配置図									
平成	年	月	尺 寸	1/30	審 査					
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	M5	12			

急速スラリー形成器 参考図

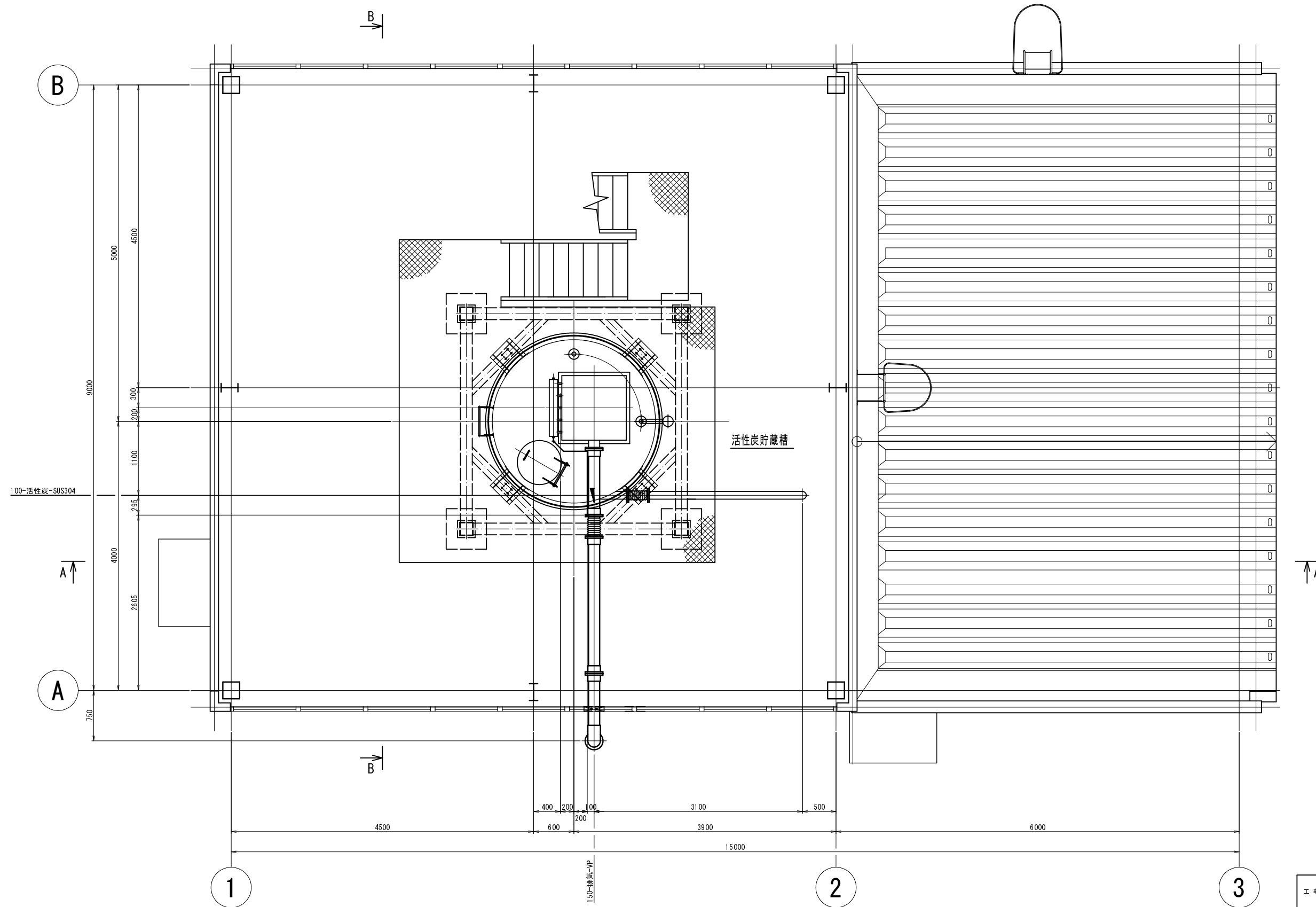


3	1台	急速スラリー形成器集塵機		
2	1台	急速スラリー形成器攪拌機		
1	1式	急速スラリー形成器		
番号	数量	品名	備考	
部品一覧表				

工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図名	急速スラリー形成器 参考図			
平成	年	月	尺度	1/10
京丹波町水道課			審査	
			図番	M6 / 12

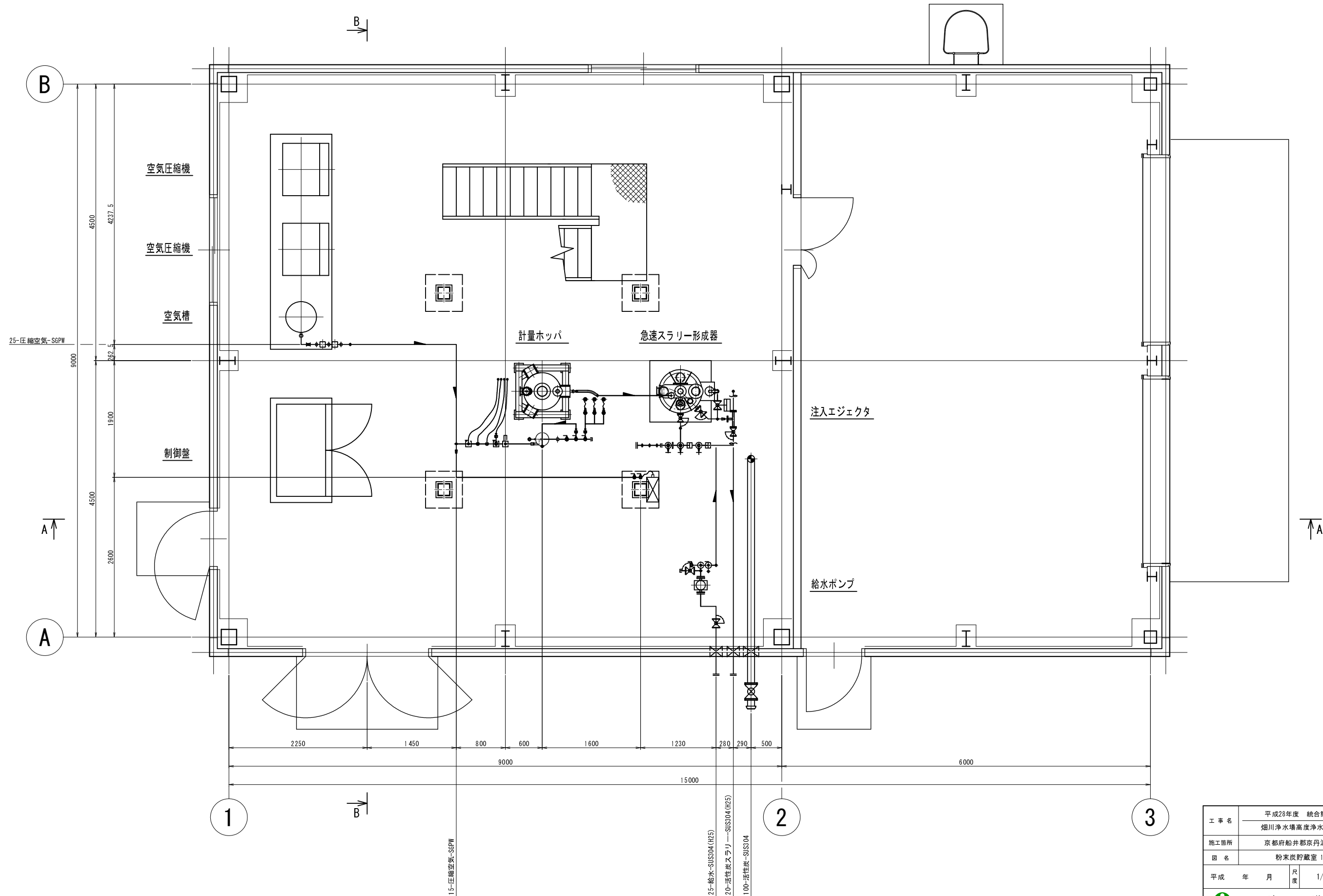
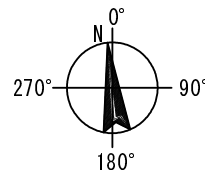


粉末炭貯蔵室 1階上部配管平面図



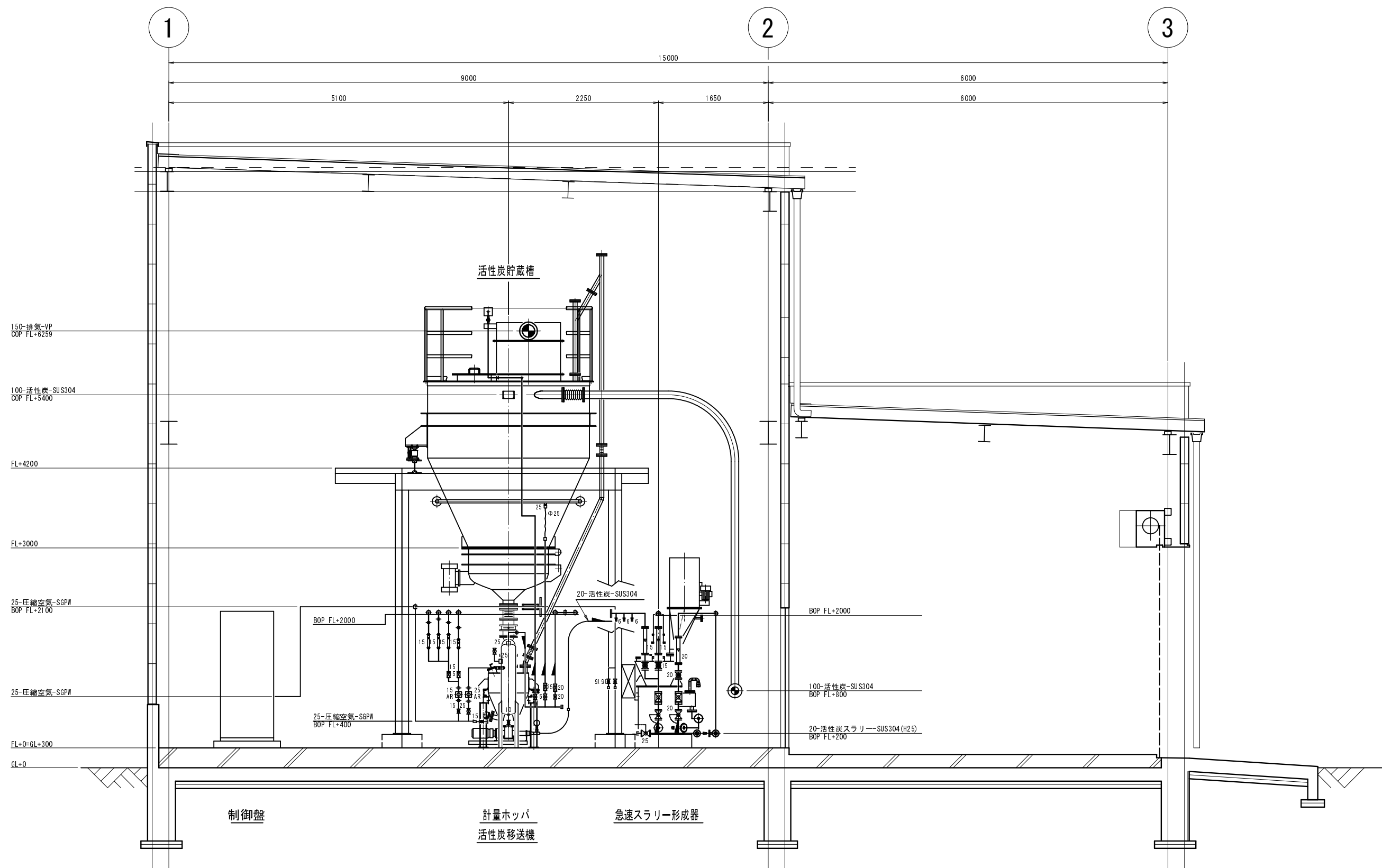
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図名	粉末炭貯蔵室 1階上部配管平面図				
平成	年	月	尺度	1/30	審査
京丹波町水道課			図番	M7	12

粉末炭貯蔵室 1階配管平面図



工 事 名		平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事					
施工箇所		京都府船井郡京丹波町 下山 地内					
図 名		粉末炭貯蔵室 1階配管平面図					
平成	年	月	尺 寸	1/30	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	M8	12

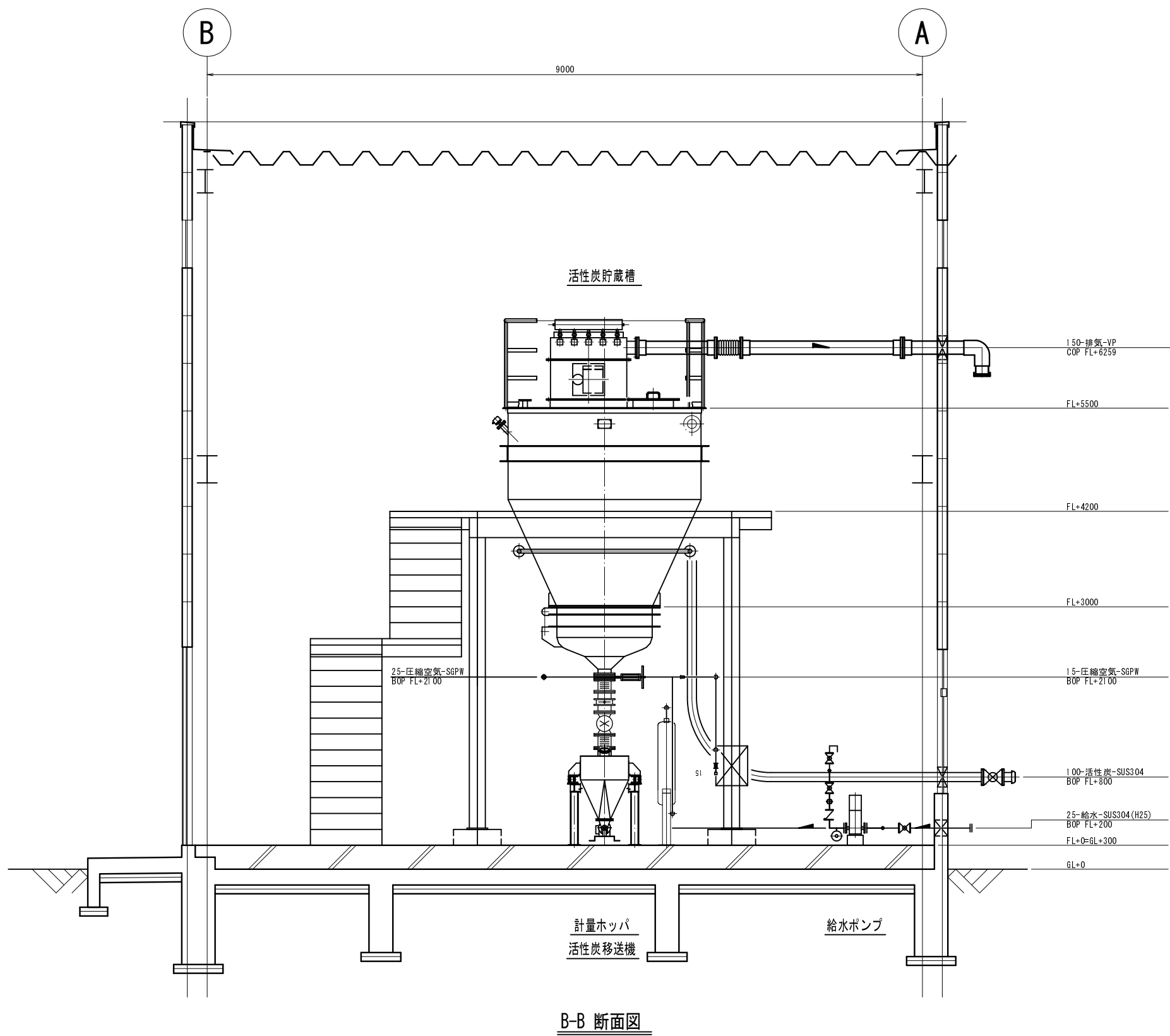
粉末炭貯蔵室 A-A断面図



A-A 断面図

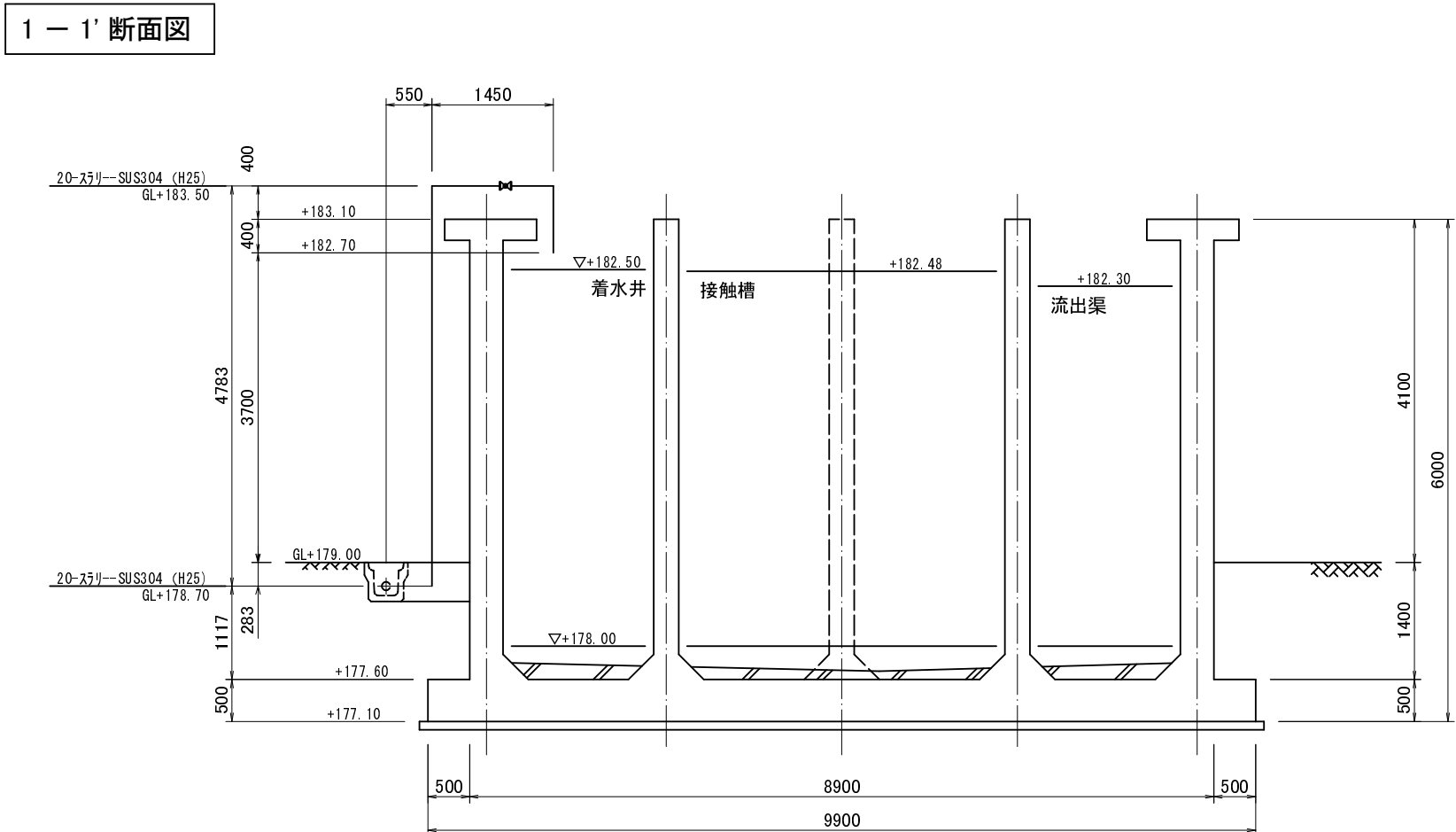
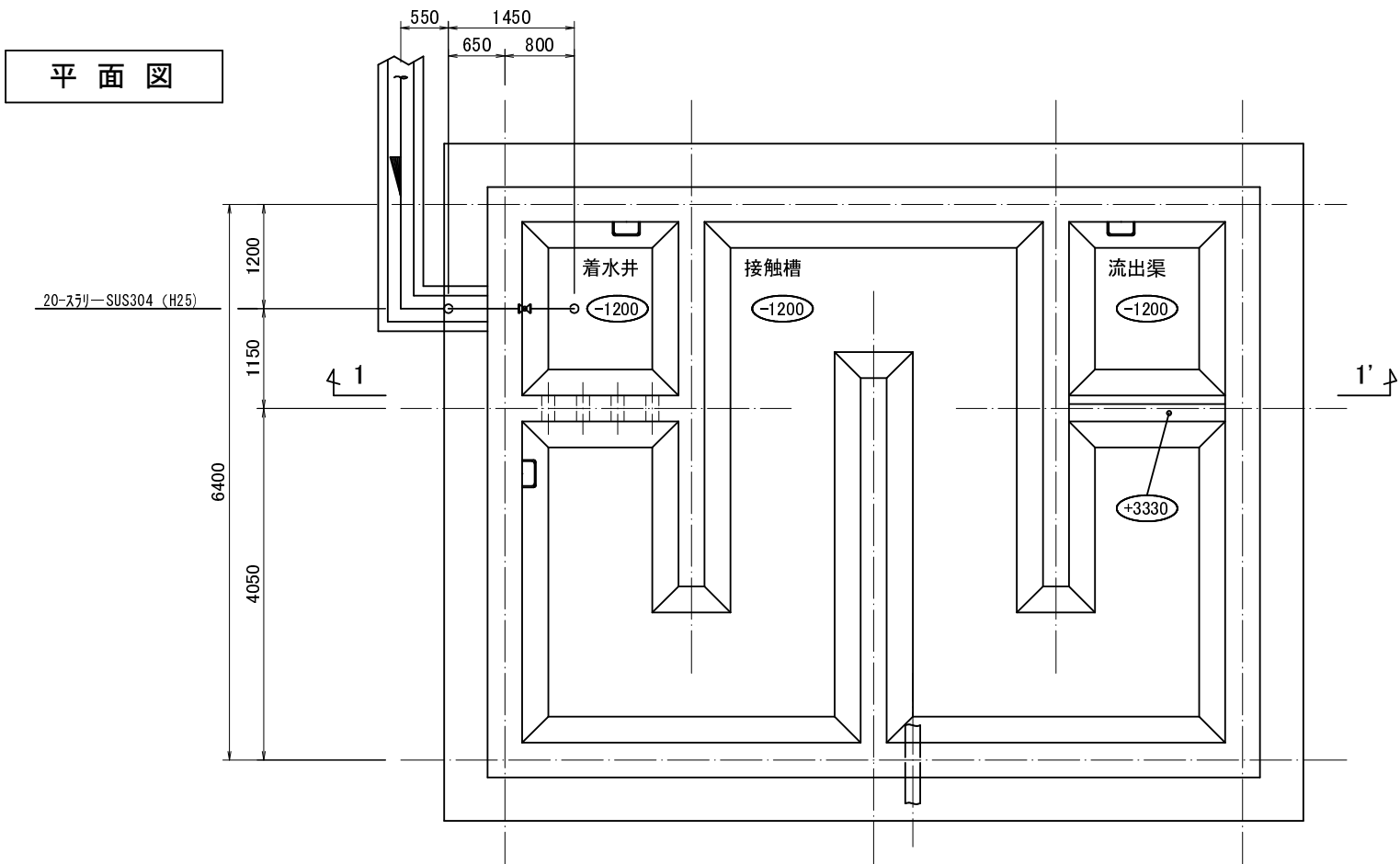
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図 名	粉末炭貯蔵室 A-A断面図									
平成	年	月	尺	1/30	審					
京 丹 波 町 水 道 課					図	M9				12

粉末炭貯蔵室 B-B断面図



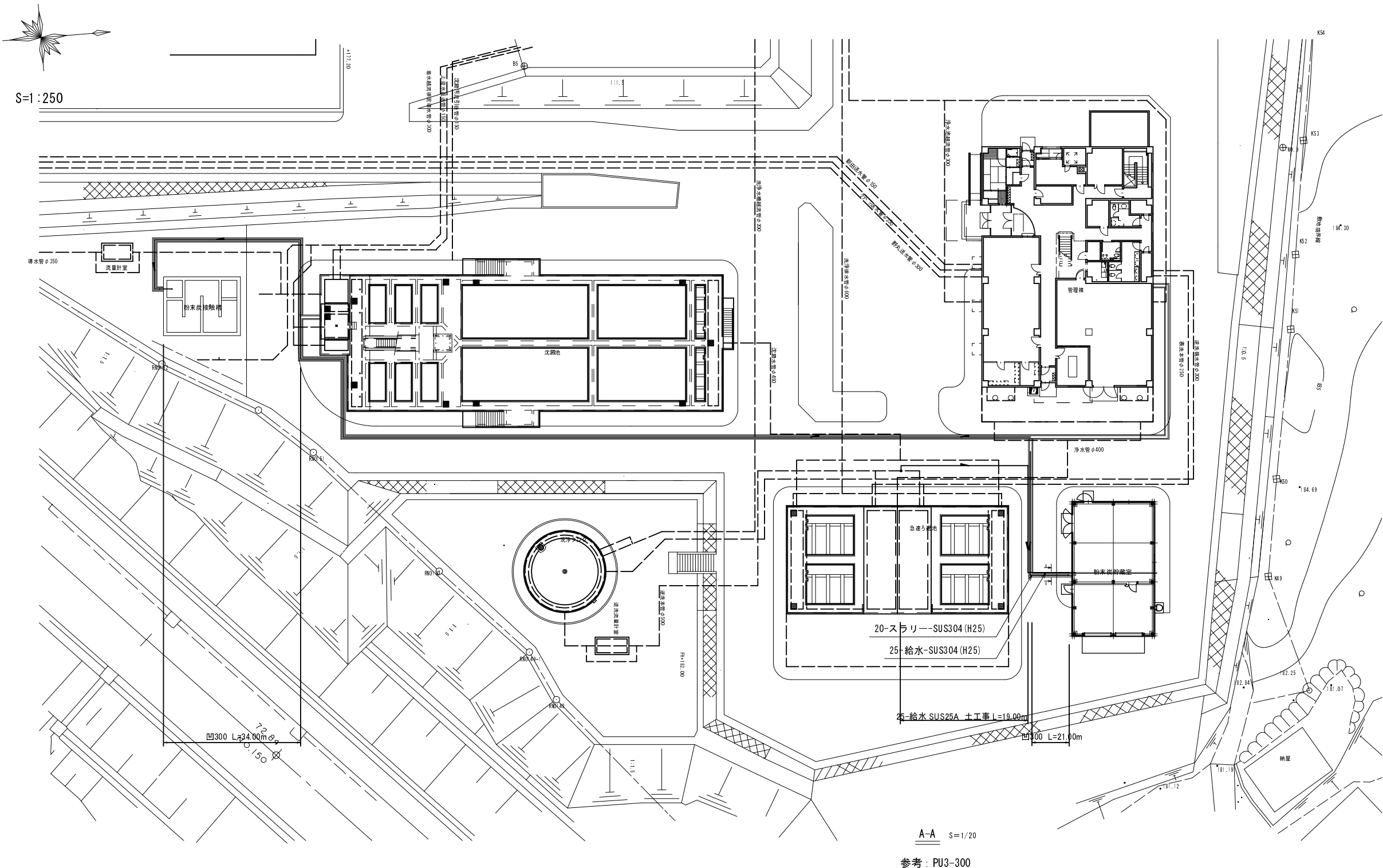
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業						
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事						
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内						
図 名	粉末炭貯蔵室 B-B断面図						
平成	年	月	尺 寸	1/30	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課					図 番	M10	12

粉末炭接触槽注入点配管ルート図

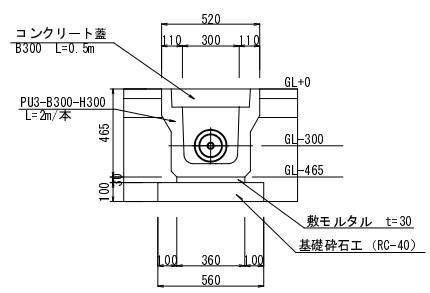


工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図名	粉末炭接触槽注入点配管ルート図									
平成	年	月	尺	1/40	審					
京丹波町水道課					図	M11				12

畑川浄水場一般平面図



A-A S=1/20
参考：PU3-300

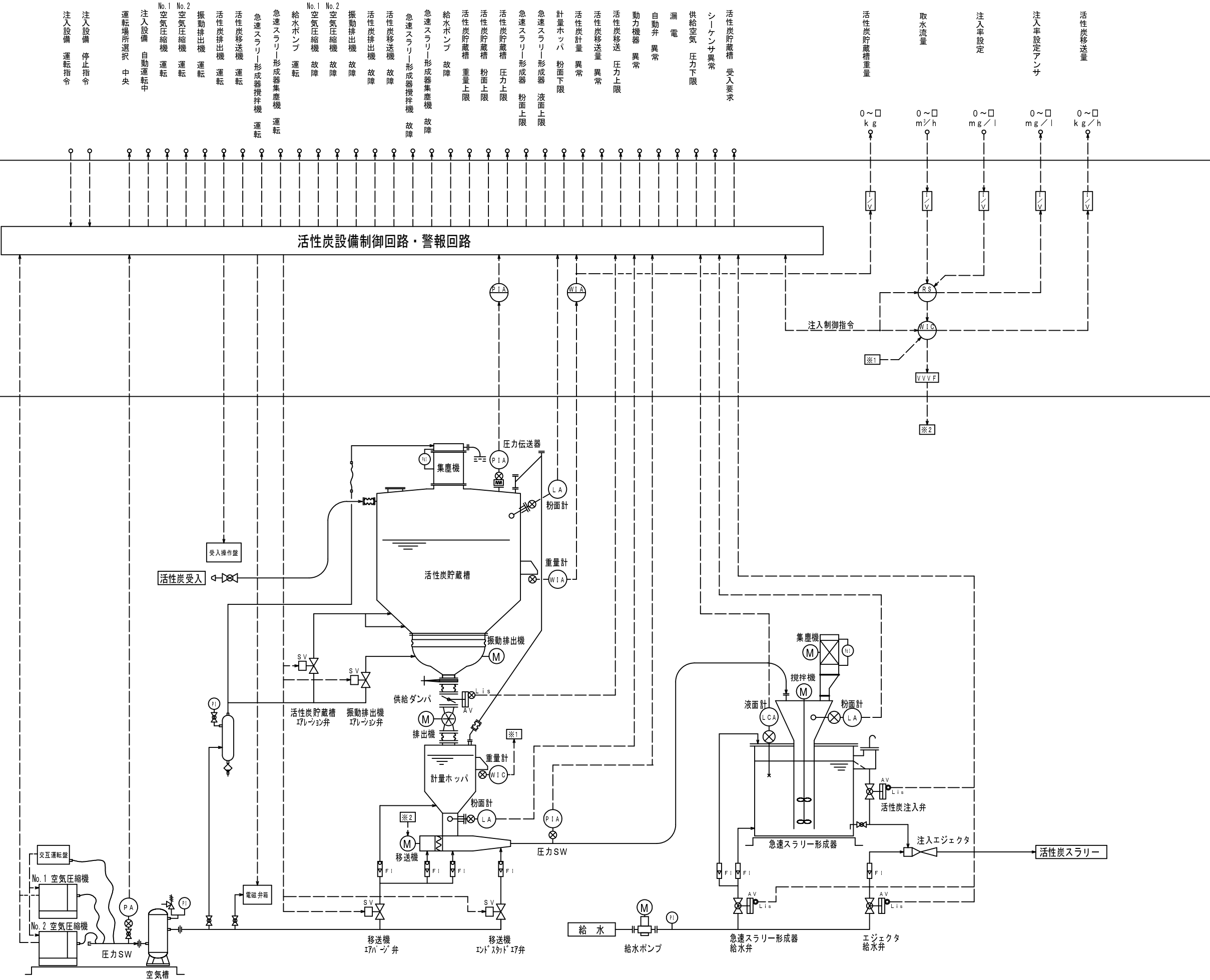


工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業									
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事									
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内									
図名	畑川浄水場一般平面図									
平成	年	月	尺度	1/250	審査					
京丹波町水道課				図番	M12	12				

中央入・出力項目

活性炭設備制御盤

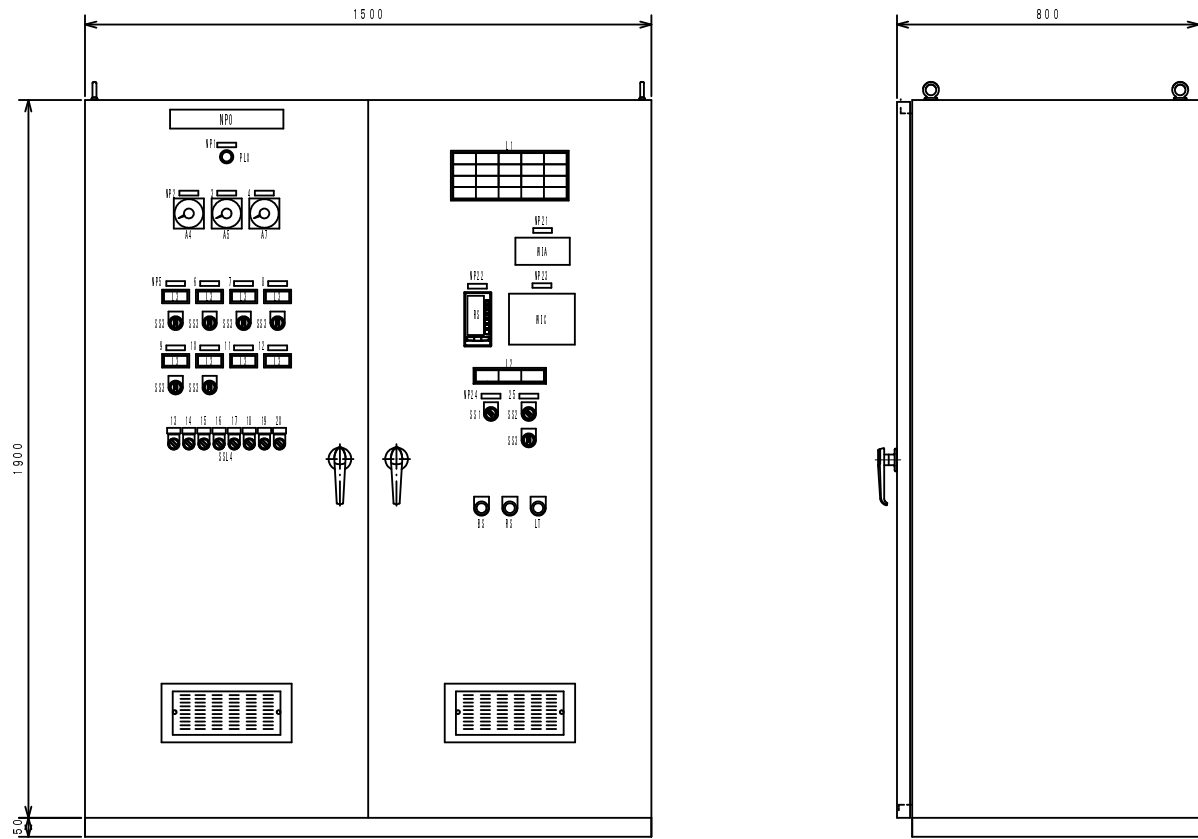
活性炭注入設備



記号	名 称
	流量調節弁
	流量定値制御弁
	空気作動弁
	電磁作動弁（２ポート）
	電磁流量計
	モーター
	伝送器
P A	圧力警報器
P I A	圧力指示警報器
L A	レベル警報器
L C	レベル調節器
L i s	リミットスイッチ
I / V	電流・電圧変換器
V / I	電圧・電流変換器
I / I・V	電流・電圧変換器（２点用）
D	ディストリビュータ
F I	流量指示計
F I Q	流量指示積算計
F r I C	流量指示調節計
R S	流量比率設定器
W I C	重量指示調節計
W I A	重量指示警報計
——	プロセスライン
---	電気信号
—A—A—	計装空気信号
○	現場取付
⊖	制御盤取付

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	計装フローシート				
平成	年	月	日	—	審査
	京 丹 波 町 水 道 課				図書
					ME1 / 6

制御盤外形図・単線結線図



正面図

S=1/10

側面図

L 1 警報表示灯 (橙)

活性炭貯蔵槽重量上限	急速スラリー形成器液面上限	活性炭計量異常	動力機器異常	供給空気圧力下限
活性炭貯蔵槽粉面上限	急速スラリー形成器粉面上限	活性炭移送量異常	自動弁異常	シーケンサ異常
活性炭貯蔵槽圧力上限	計量ホッパー粉面下限	活性炭移送圧力上限	漏電	
活性炭貯蔵槽受入要求				

L 2 状態表示灯 (乳白)

活性炭供給	活性炭注入	活性炭洗浄
-------	-------	-------

L 3 状態表示灯 (緑, 橙, 赤)

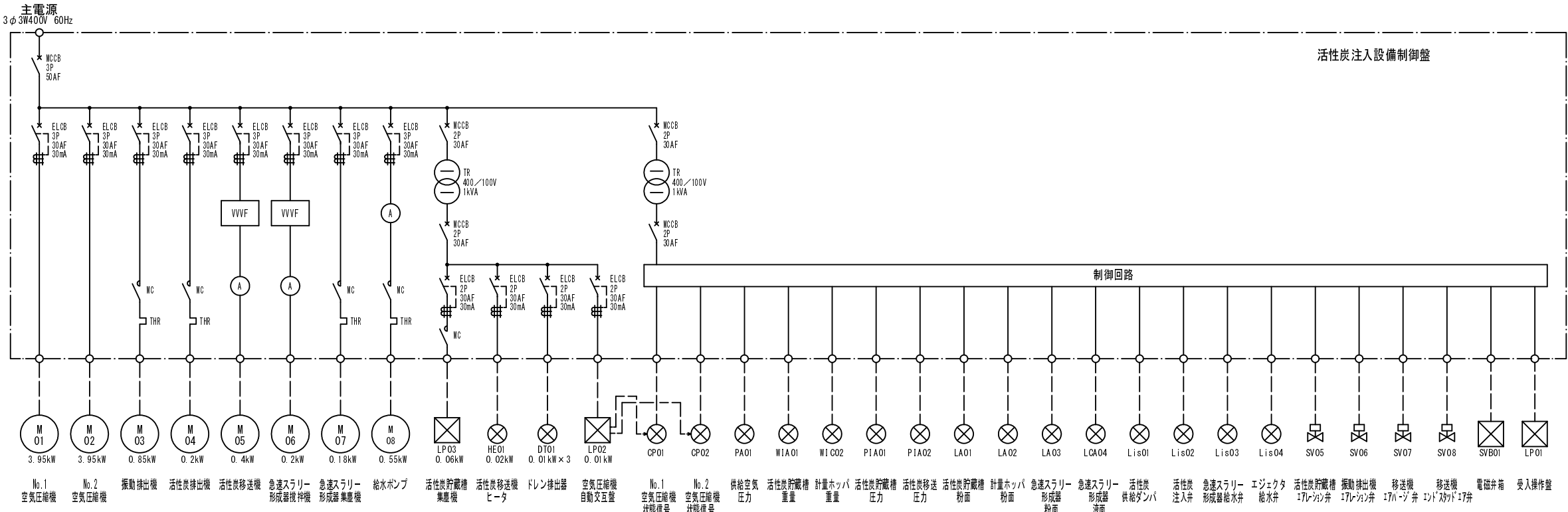
停止	故障	運転
----	----	----

銘板リスト

記号	名 称	備 考
NP0	活性炭注入設備制御盤	
NP1	200V主電源	
NP2	活性炭移送機	
NP3	急速スラリー形成器攪拌機	
NP4	給水ポンプ	
NP5	振動排出機	
NP6	活性炭排出機	
NP7	活性炭移送機	
NP8	急速スラリー形成器攪拌機	
NP9	急速スラリー形成器集塵機	
NP10	給水ポンプ	
NP11	No.1空気圧縮機	
NP12	No.2空気圧縮機	
NP13	活性炭供給ダンパ	
NP14	活性炭注入弁	
NP15	急速スラリー形成器給水弁	
NP16	エジェクタ給水弁	
NP17	活性炭貯蔵槽エアレーション弁	
NP18	振動排出機エアレーション弁	
NP19	移送機エアバージ弁	
NP20	移送機エンドスタッドエア弁	
NP21	活性炭貯蔵槽重量指示計	
NP22	活性炭注入量設定器	
NP23	活性炭注入量調節計	
NP24	運転場所選択	
NP25	運転操作	

凡例

記号	名 称	備 考
SS1	切換スイッチ (現場-中央)	
SS2	切換スイッチ (手動-切-自動)	
SS3	切換スイッチ (停止- ー運転)	
SSL4	切換スイッチ (閉-開)	照光式
BS	押釦スイッチ (ブザーストップ)	
RS	押釦スイッチ (警報リセット)	
LT	押釦スイッチ (ランプテスト)	



工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内
図 名	制御盤外形図・単線結線図
平成 年 月 尺 寸	1/10 審 査
京 丹 波 町 水 道 課	図 番 ME2/6

配線リスト

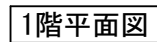
動力配線一覽

[illegible]

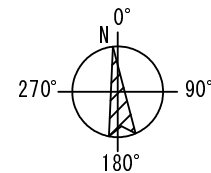
制御・計装配線一覧

No	配 線 区 間		ケーブルサイズ	電線管	備 考
	自	至			
1	活性炭注入設備制御盤 <				

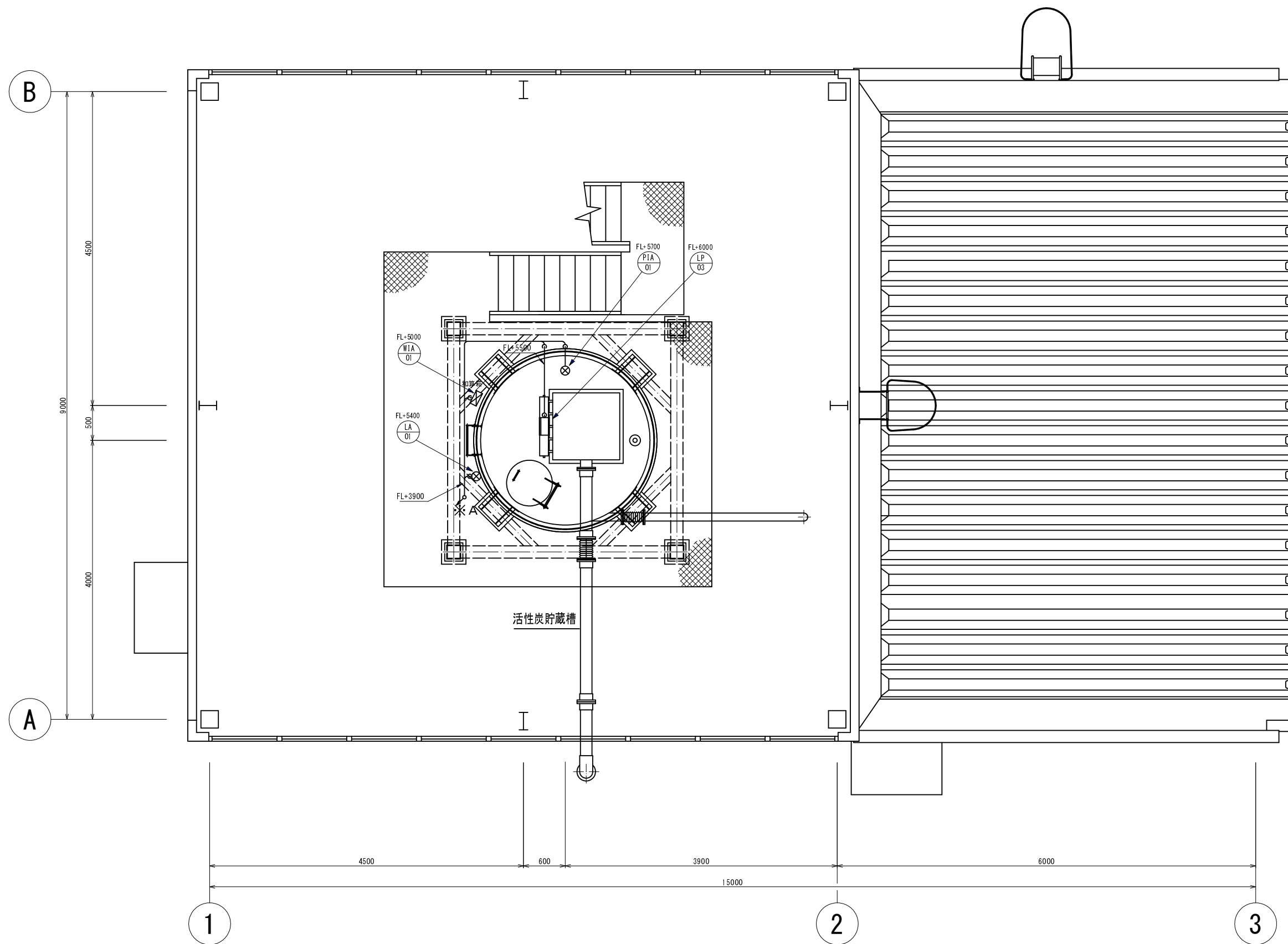
工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水施設増設工事						
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内						
図 名	配線リスト						
平 成	年	月	尺 度	—	番 査		
 京 丹 波 町 水 道 課					図 番	ME3 / 6	



工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業						
	畑川浄水場高高度浄水処理施設築造工事						
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内						
図 名	配置配線図 (1)						
平成	年	月	日	1/30	審査		
 京 丹 波 町 水 道 課					図番	ME 4 / 6	



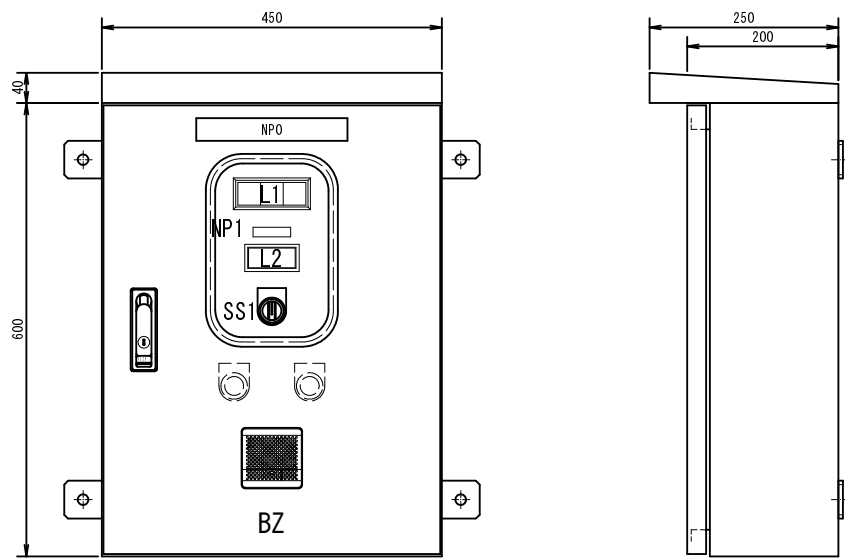
配置配線図(2)



1階上部平面図

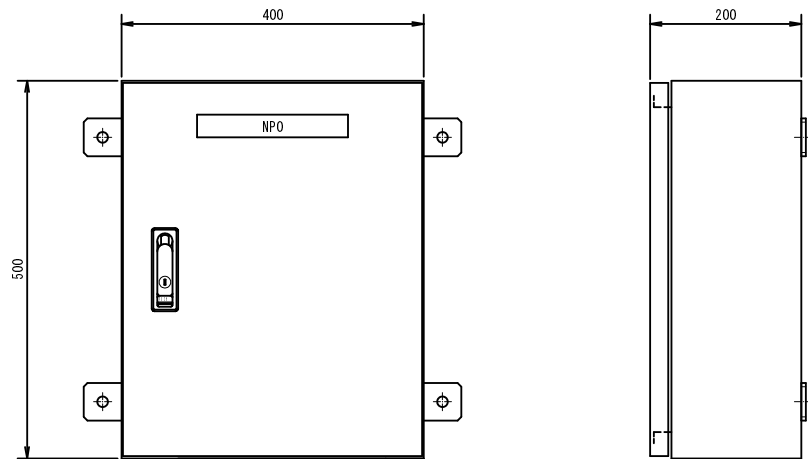
工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事					
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内					
図名	配置配線図(2)					
平成	年	月	尺度	1/30	審査	
京丹波町水道課					図番	ME5/6

受入操作盤・電磁弁箱外形図



正面図
S = 1 / 5

側面図



正面図
S = 1 / 5

側面図

L 1 警報表示灯 (橙)

活性炭貯蔵槽 重量上限	活性炭貯蔵槽 粉面上限	活性炭貯蔵槽 圧力上限
----------------	----------------	----------------

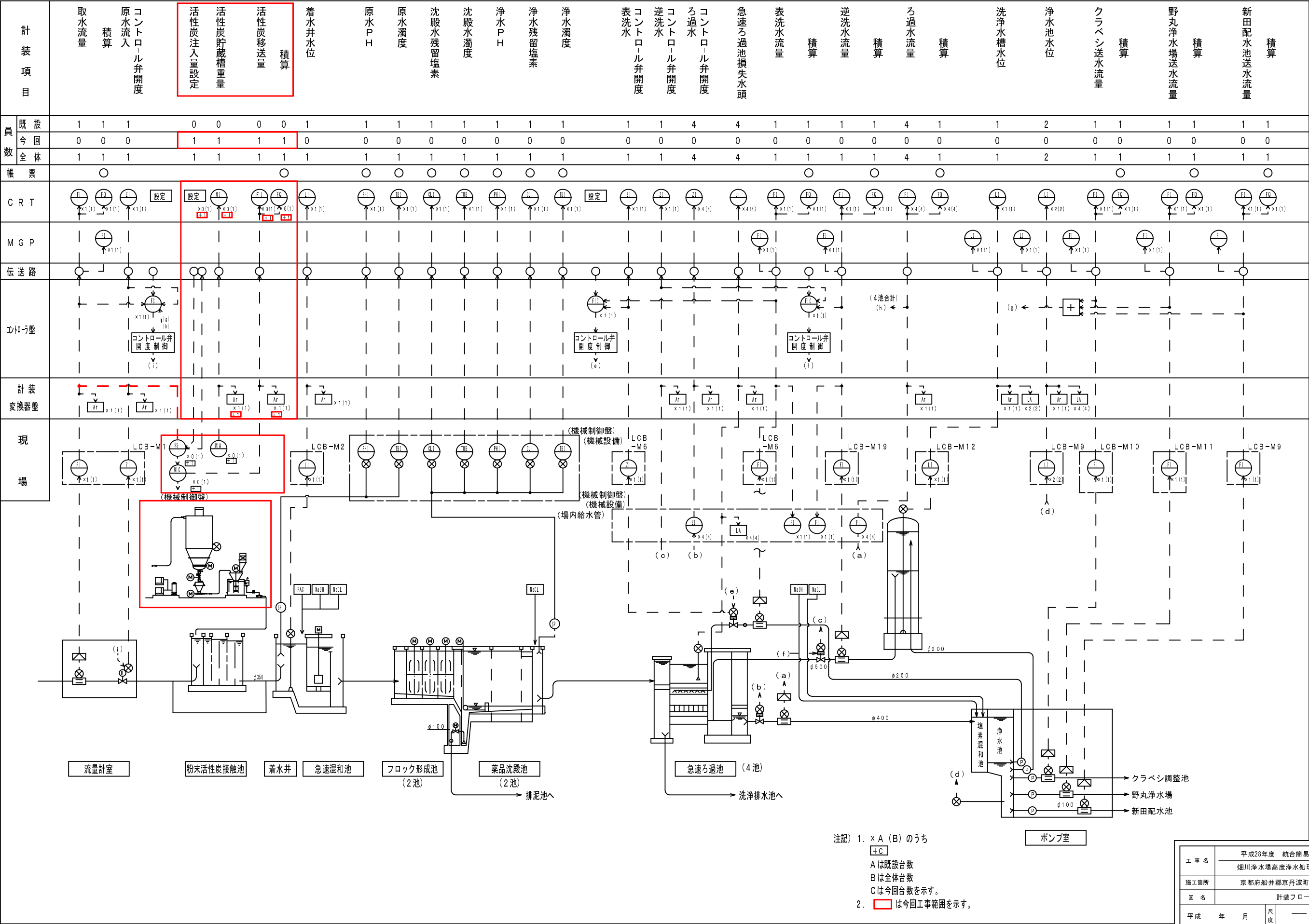
L 2 状態表示灯 (緑・橙・赤)

停止	故障	運転
----	----	----

記号	名 称	備 考
NP0	受入操作盤	
NP1	活性炭貯蔵槽集塵機	
SS1	停止 — — 運転	
BS	押釦スイッチ (プザーストップ)	
LT	押釦スイッチ (ランプテスト)	
盤記号	L P O 1	
面 数	1 面	
型 式	屋外防水壁掛形	

記号	名 称	備 考
NP0	電磁弁箱	
盤記号	S V B O 1	
面 数	1 面	
型 式	屋内閉鎖壁掛形	

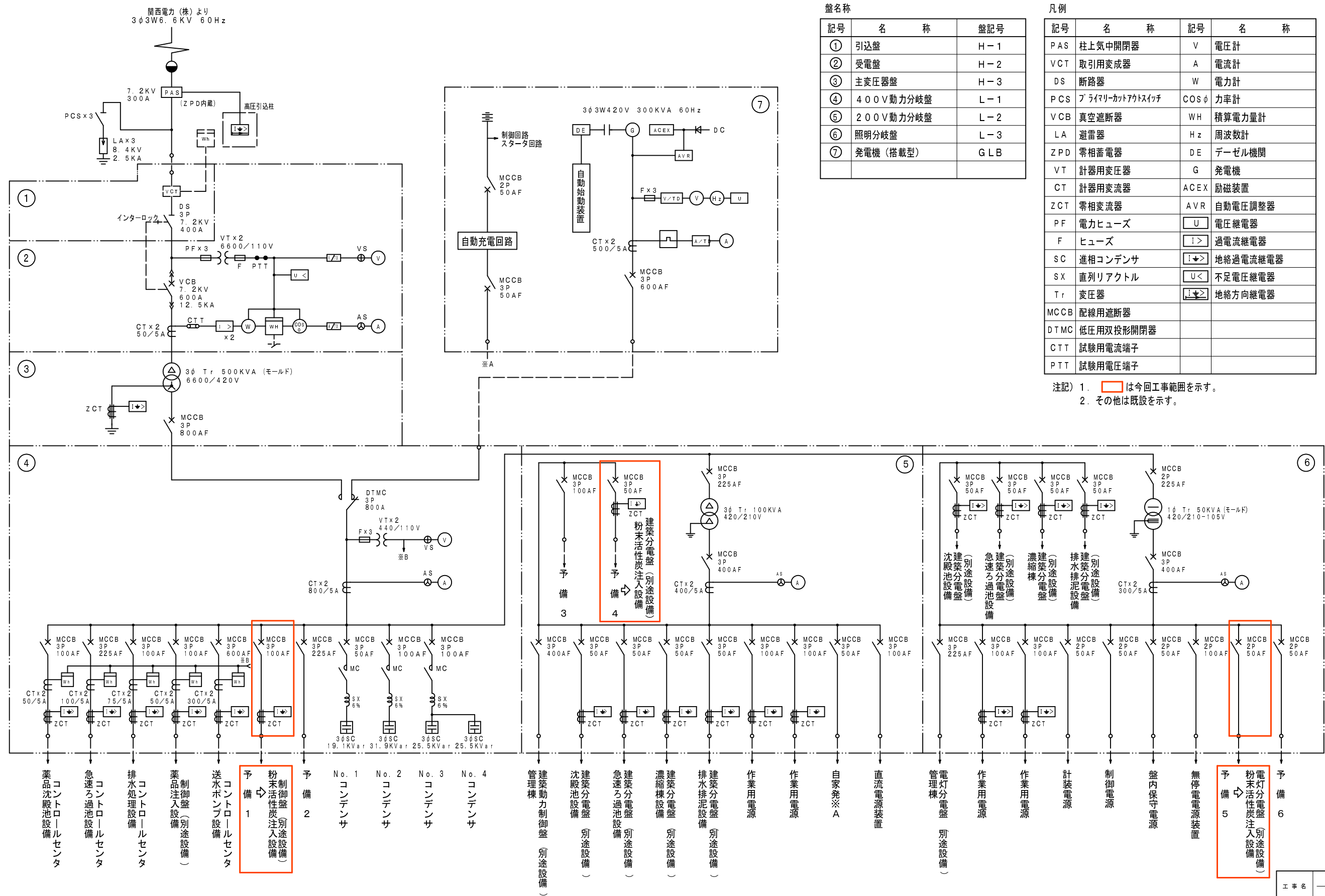
計装フロー図



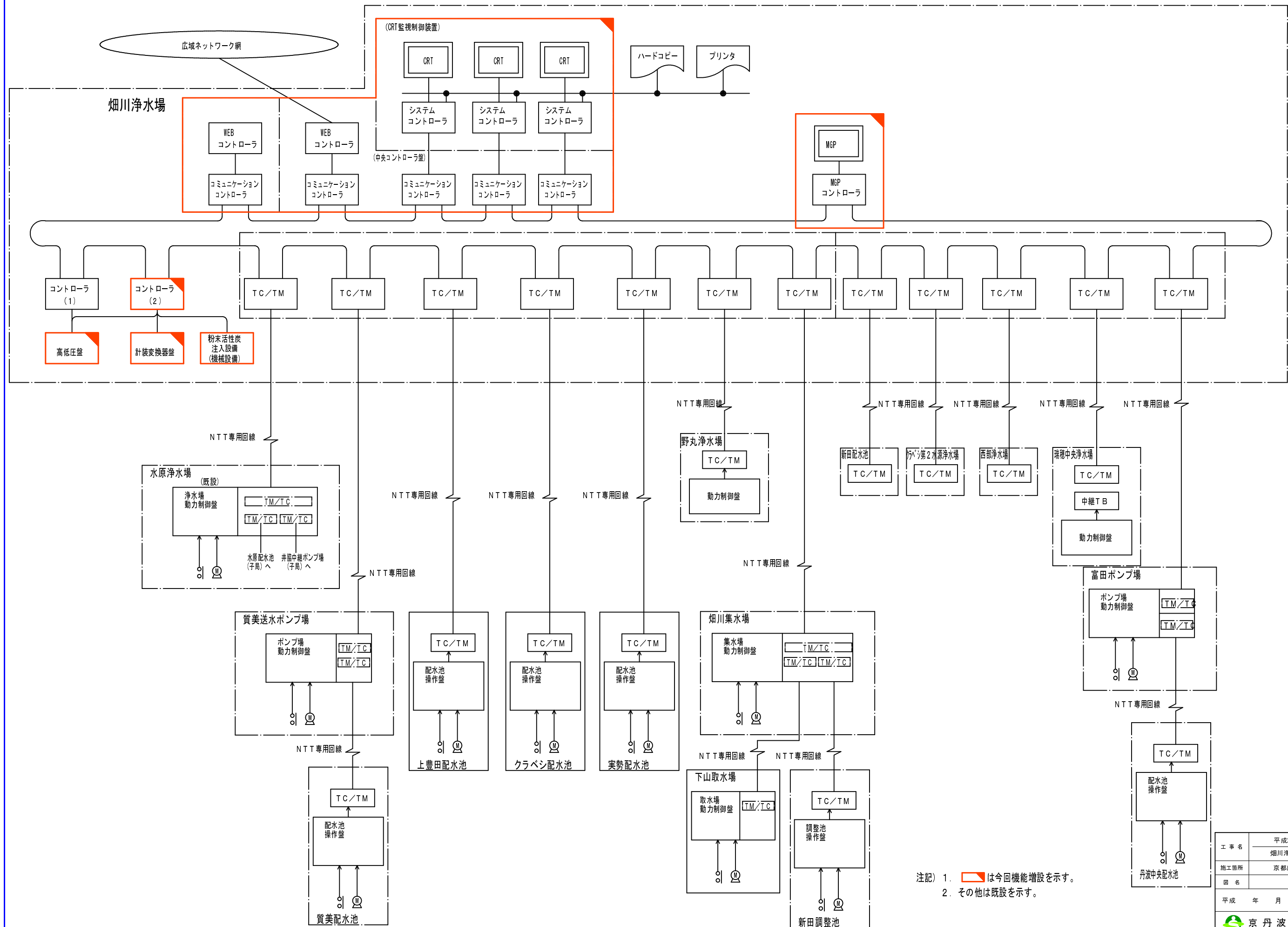
注記) 1. x A (B) のうち
+C
A は既設台数
B は全体台数
C は今回台数を示す。
2. 今回工事範囲を示す。

工事名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内
図名	計装フロー図
平成 年 月 尺度	—
審査	—
京丹波町水道課	—
図番	E1 / 5

単線結線図



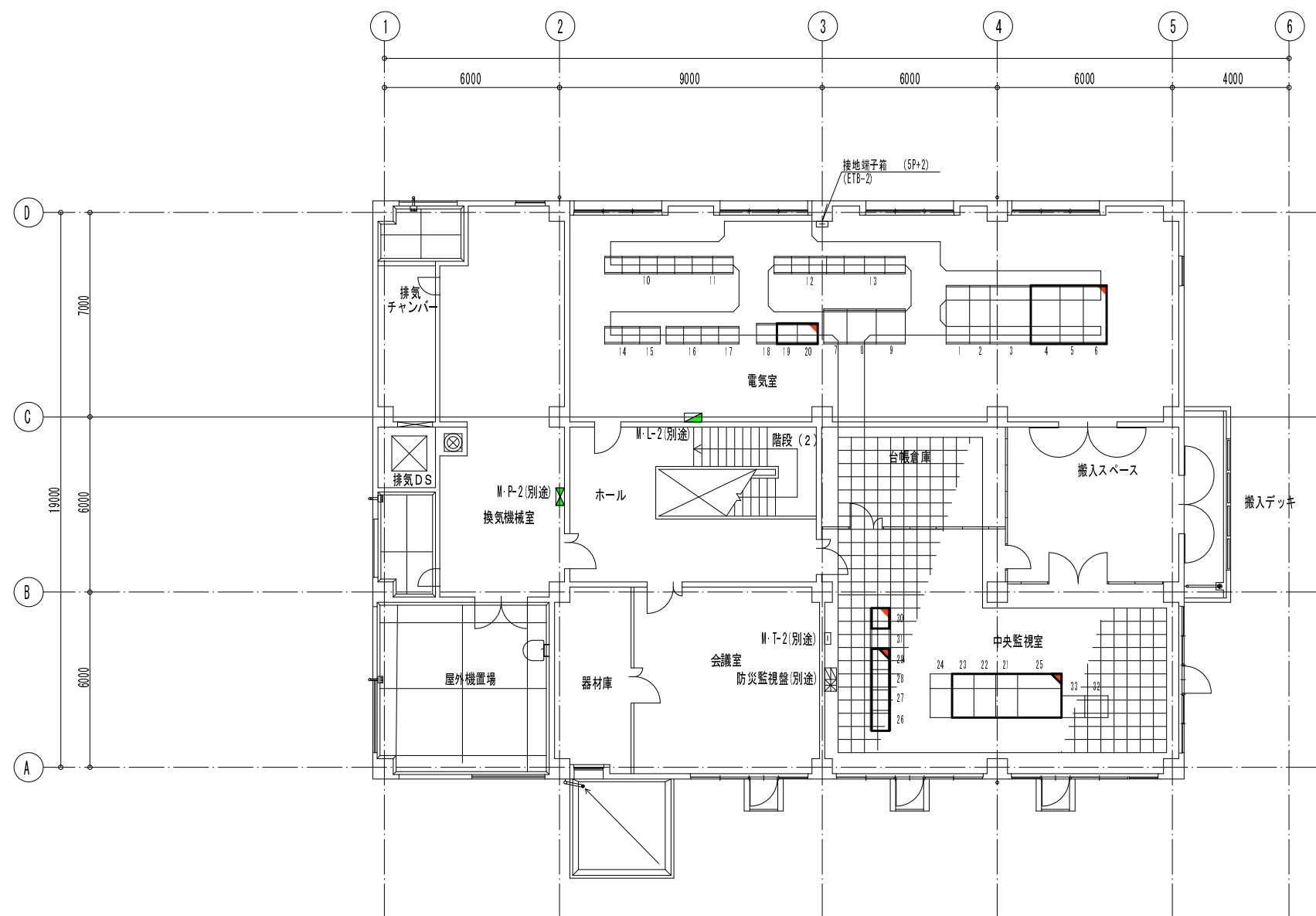
システム構成図



注記) 1.  は今回機能増設を示す。
2. その他は既設を示す。

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業 畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	システム構成図				
平成 年 月	尺 度	—	審 査		
	京 丹 波 町 水 道 課			図 番	E3 5

畑川浄水場管理棟 2 階平面図 S=1/100

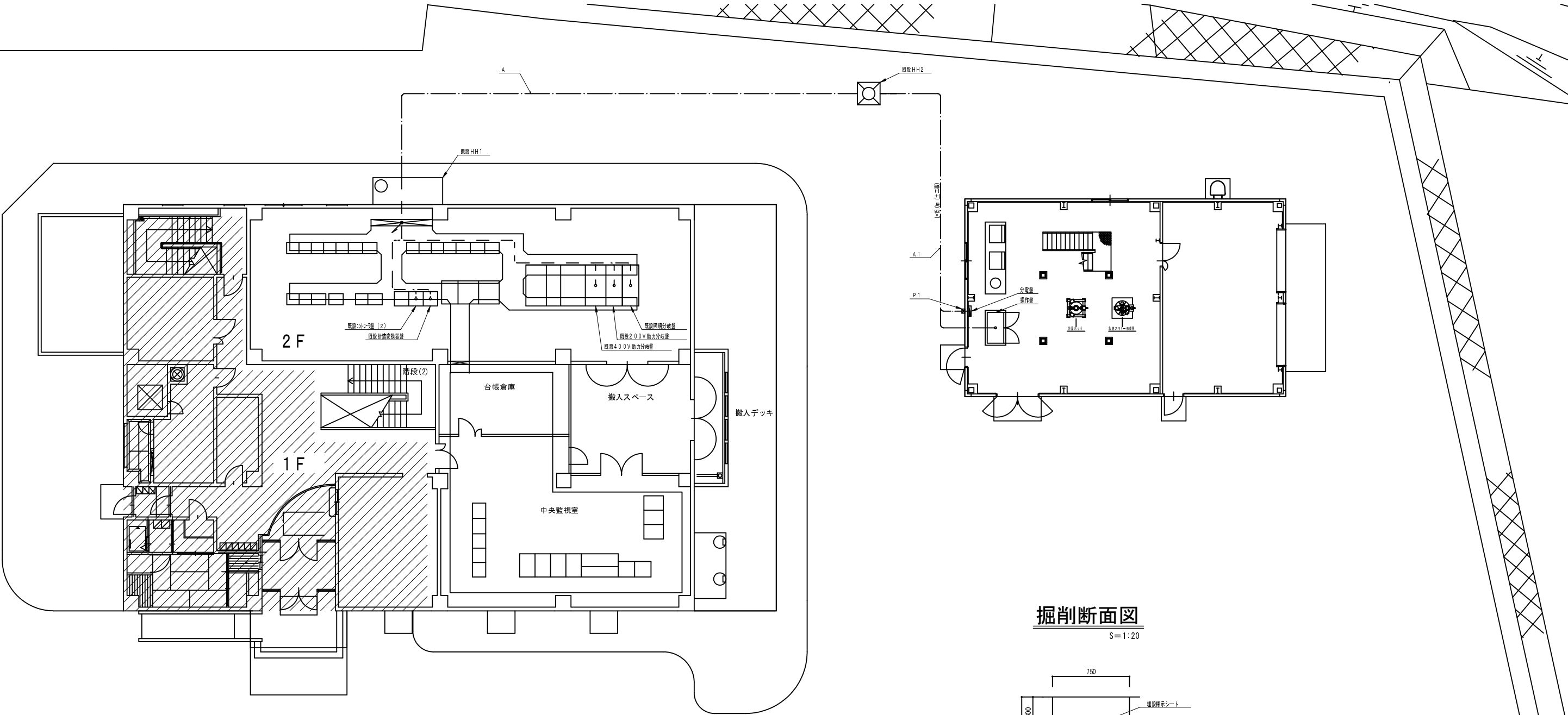


番号	記号	名称	備考
1	H-1	引込壁	既設
2	H-2	受電壁	〃
3	H-3	主変圧器壁	〃
4	L-1	40V 動力分岐壁	機能増設
5	L-2	200V 動力分岐壁	〃
6	L-3	照明分岐壁	〃
7	D-1	蓄電池壁	既設
8	D-2	直流電源壁	〃
9	UPS-1	インバータ壁	〃
10	CC-01	薬品沈殿池設備コントロールセンタ	〃
11	RY-01	薬品沈殿池設備補助継電器壁	〃
12	CC-02	急速ろ過池設備コントロールセンタ	〃
13	RY-02	急速ろ過池設備補助継電器壁	〃
14	CC-03	排水処理設備コントロールセンタ	〃
15	RY-03	排水処理設備補助継電器壁	〃
16	CC-04	送水ポンプ設備コントロールセンタ	〃
17	RY-04	送水ポンプ設備補助継電器壁	〃
18	SQC-1	コントローラ (1) 壁	〃
19	SQC-2	コントローラ (2) 壁	機能増設
20	KP-1	計装変換器壁	〃
21	CRT-1	CRT (1) 卓	〃
22	CRT-2	CRT (2) 卓	〃
23	CRT-3	CRT (3) 卓	〃
24	H C	ハードコピー	既設
25	MGP-1	MGP卓	機能増設
26	COT-1	ログコントロール壁	〃
27	COT-2	システムコントローラ (1) 壁	〃
28	COT-3	システムコントローラ (2) 壁	〃
29	COT-4	MGPコントロール壁	〃
30	COT-5	入出力壁	〃
31	TM/T C-1	遠方監視装置壁 (親局)	既設
32	LT-1	ロギングタイプライタ	〃
33	AT-1	アナウンスメントタイプライタ	〃

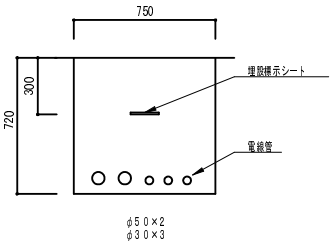
注 記
は今回工事範囲を示す。
は機能増設範囲を示す。

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業			
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事			
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内			
図 名	畑川浄水場管理棟2階平面図			
平成 年 月 日	1/100	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課		図 番	E4	5

畑川浄水場場内配線図 S=1/100



掘削断面図
S=1:20



ケーブル表					
自		至	ケーブル		電線管 (埋設)
A	電盤 HH2		電盤照機分岐線	EM-CE 38sq-2C	(電線電線管)
			電盤400V動力分岐線	EM-CE 5.5sq-3C E5.5sq	(電線電線管)
			電盤200V動力分岐線	EM-CE 3.5sq-3C E5.5sq	(電線電線管)
			電盤200V照明分岐線	EM-CEE 1.25sq-20CX2	(電線電線管)
			電盤計装室照明線	EM-CEE 1.25sq-15C	(電線電線管)
A1		P1	分電盤	EM-CE 38sq-2C	(PE 42)
				EM-CE 3.5sq-3C E5.5sq	(PE 28)
			操作盤	EM-CE 5.5sq-3C E5.5sq	(電線電線管)
				EM-CEE 1.25sq-20CX2	(PEP 50)
				EM-CEE 1.25sq-15C	(電線電線管)

P.B1
P.BOX 200X200X150 WP SUS

工 事 名	平成28年度 統合簡易水道整備事業				
	畑川浄水場高度浄水処理施設築造工事				
施工箇所	京都府船井郡京丹波町 下山 地内				
図 名	畑川浄水場場内配線図				
平成 年 月	尺 度	1/100	審 査		
京 丹 波 町 水 道 課			図 番	E5	5